

高津区区民生活に関わる ニーズ調査

報告書



2010（平成22）年3月

高 津 区

はじめに

少子高齢化の急速な進展や低経済成長への移行など、大きな社会の転換期を迎え、市民のライフスタイルが多様化しています。それに伴い、行政には、地域の視点や様々な価値観に基づく公共サービスの提供が求められており、特に区役所には、日常的なまちづくりの課題を的確に把握し、地域で解決する役割が求められています。

高津区においても、マンション建設に伴う人口急増、放置自転車、防犯、子育て支援など様々な課題がありますが、これらの課題を解決するためには、区民の視点・感覚を踏まえて区政を進めていくことが大切と考えています。

高津区では、区政の主役である区民一人ひとりが個人や地域で抱える課題について、どのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声を最大限に反映できる施策のあり方や解決手法を検討し、選択する際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を2006（平成18）年度に続き今年度も実施しました。

今回の調査では、前回調査した「区役所業務に対する要望と評価」、「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」に加えて、特定のテーマに関する調査として区民会議で審議されている「地域防災について」を調査項目として取り上げています。

これらの調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしていきたいと考えております。

目 次

調査概要	3
調査回答者の属性	7
調査結果	
1. 区の施策について	13
(1) 区役所業務の評価	13
(2) 区役所業務への要望	17
(3) 放置自転車対策	21
(4) 街頭犯罪防止対策	24
(5) 地震や風水害対策	27
(6) 健康推進	30
(7) 高齢者支援	33
(8) 子育て支援	36
(9) 地域住民のつながりを深める手法	39
(10) 市民活動支援	42
(11) 区の情報提供	45
(12) 区民の要望収集	48
(13) 花と緑のまちづくり推進	50
(14) 区の文化の振興	53
(15) 「音楽のまち」推進	56
(16) 区のイメージアップ	59
(17) 区役所の窓口サービス向上	62
(18) まちの課題・問題点	65

2 . 区の事業について	70
(1) 各事業への評価・認知・閲覧度	70
(2) 各事業への評価・参加度	71
(3) 各事業の評価	72
「エコシティたかつ」推進事業	72
高津大山街道周辺整備活性化事業	73
「たちばな農のあるまちづくり」推進事業	74
たかつ区健康福祉まつり	75
高津区保健福祉センターだより	76
高津公園体操推進事業	78
高津区医療機関マップ	79
子ども子育て情報発信事業	81
子育て情報紙発行事業	83
高津区「音楽のまち」推進事業	84
高津区わくわくフェスティバル	85
体育・スポーツイベント	86
高津区子どもフェア	87
高津地区親子運動会事業	88
橘ふるさと祭り 子どもイベント	89
橘地区親子運動会事業	90
高津区文化振興事業	91
高津区まちづくり推進事業	92
高津区総合ガイドマップ作成事業	93
高津区区民会議	94
3 . 地域防災について	95
(1) 大規模地震発生時の「不安度」	95
(2) 大規模地震発生時の「不安内容」	99
(3) 大規模地震発生後に「頼る人」	103
(4) 町内会・自治会主催の防災訓練参加有無	107
(5) 町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由	111
(6) 防災力を高めるために必要なこと	116
使用した調査票	124

. 調 査 概 要

調査概要

1. 調査の目的

高津区が執行する事業について、区民ニーズを的確に把握し、効率的、効果的に執行するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業をどのように評価しているのか」、また、特定のテーマに関する区民意識について、アンケート調査を実施する。

2. 調査の方法

- (1) 調査の地域・・・川崎市高津区全域
- (2) 調査の対象者・・・川崎市高津区在住の満20歳以上の男女個人（外国人含む）
- (3) 標本の抽出・・・平成21年4月現在の住民基本台帳及び外国人登録原票に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 標本数・・・917 サンプル
- (5) 調査方法・・・郵送配布郵送回収法
- (6) 調査期間・・・平成21年8月31日（月）～9月18日（金）
- (7) 調査委託機関・・・株式会社 総合企画

3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区事業の認知度と評価
- (5) 地域防災について

4. 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプル誤差）は、概ね下表のとおりである。標本誤差は次の式により得られる。標本誤差の幅は 比率算出の基数（n）及び 回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答の比率

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
917	± 2.8	± 3.7	± 4.3	± 4.6	± 4.7
750	± 3.1	± 4.1	± 4.7	± 5.1	± 5.2
700	± 3.2	± 4.3	± 4.9	± 5.2	± 5.3
500	± 3.8	± 5.1	± 5.8	± 6.2	± 6.3
300	± 4.9	± 6.5	± 7.5	± 8.0	± 8.2
100	± 8.5	± 11.3	± 13.0	± 13.9	± 14.1

(注) 1. 上表は $\frac{N-n}{N-1}$ 1として算出した。

2. この表は、ある設問の回答者数が917人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.6%以内ということを表す。

5. 回収状況

町名	20歳以上人口 (構成比)	標本数	有効回収数 (構成比)	有効回収率	
高津地区	宇奈根	895 (0.5%)	10	5 (0.5%)	50.0%
	梶ヶ谷	8,227 (4.7%)	96	48 (5.2%)	50.0%
	上作延	8,535 (4.9%)	98	53 (5.8%)	54.1%
	北見方	6,591 (3.8%)	77	36 (3.9%)	46.8%
	久地	9,597 (5.5%)	111	42 (4.6%)	37.8%
	坂戸	6,983 (4.0%)	80	33 (3.6%)	41.3%
	下作延	17,074 (9.8%)	193	84 (9.2%)	43.5%
	下野毛	2,955 (1.7%)	34	13 (1.4%)	38.2%
	諏訪	5,355 (3.1%)	61	26 (2.8%)	42.6%
	瀬田	757 (0.4%)	8	4 (0.4%)	50.0%
	久本	9,979 (5.8%)	115	58 (6.3%)	50.4%
	二子	10,704 (6.2%)	123	41 (4.5%)	33.3%
	溝口	12,231 (7.1%)	141	72 (7.9%)	51.1%
	向ヶ丘	1,876 (1.1%)	21	7 (0.8%)	33.3%
高津地区・計	101,759 (58.7%)	1168	522 (56.9%)	44.7%	
橘地区	明津	2,585 (1.5%)	29	13 (1.4%)	44.8%
	蟹ヶ谷	6,078 (3.5%)	71	29 (3.2%)	40.8%
	子母口・ 子母口富士見台	7,270 (4.2%)	84	37 (4.0%)	44.0%
	新作	11,852 (6.8%)	137	63 (6.9%)	46.0%
	未長	15,028 (8.7%)	179	86 (9.4%)	48.0%
	千年	10,324 (6.0%)	120	53 (5.8%)	44.2%
	千年新町	2,553 (1.5%)	27	16 (1.7%)	59.3%
	野川	3,743 (2.2%)	43	21 (2.3%)	48.8%
	久末	12,297 (7.1%)	142	59 (6.4%)	41.5%
橘地区・計	71,730 (41.3%)	832	377 (41.1%)	45.3%	
			18 (2.0%)		
全体・計	173,489 100.0%	2000	917 (100.0%)	45.9%	

20歳以上人口は、平成21年3月末の住民基本台帳及び外国人登録原票による

6. 図表の見方

- (1) 表中のnは回答者総数のことである。いくつでも（複数回答）などの場合は回答が2つ以上ありうる。したがって、合計比は100%をこえる。
- (2) 百分比はNを100%として算出し、図表中では原則として単純集計については小数点第2位を四捨五入して第1位まで、その他のクロス集計については小数第1位を四捨五入して整数としたものを使用した。このため、百分比の合計が100%に満たない、又は上回る場合がある。

7. 数の表現

全体 = 調査対象者数

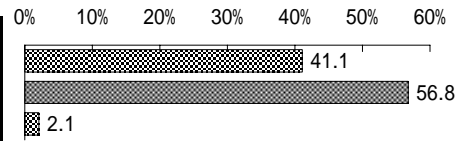
n = 質問ごとの回答者数

. 調査回答者の属性

調査回答者の属性

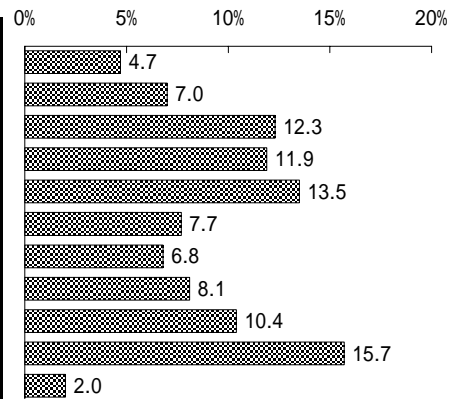
(1) 性別【F1】

	n	構成比
1 男性	377	41.1%
2 女性	521	56.8%
(無回答)	19	2.1%
全体	917	100.0%



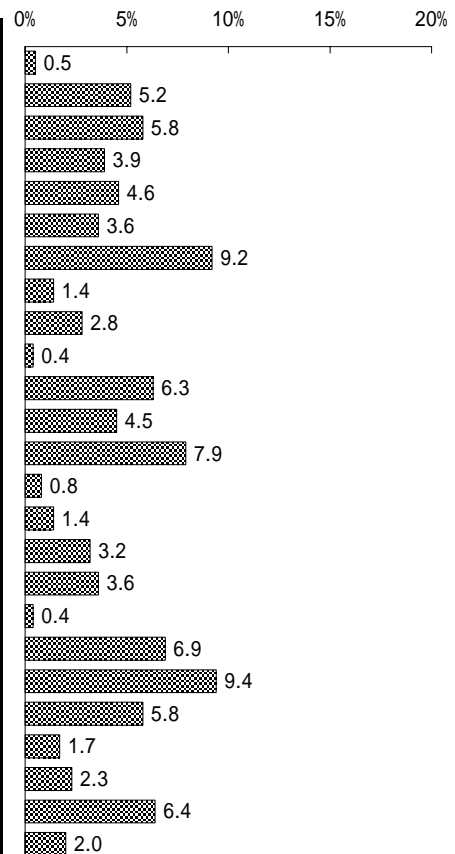
(2) 年齢【F2】

	n	構成比
1 20～24歳	43	4.7%
2 25～29歳	64	7.0%
3 30～34歳	113	12.3%
4 35～39歳	109	11.9%
5 40～44歳	124	13.5%
6 45～49歳	71	7.7%
7 50～54歳	62	6.8%
8 55～59歳	74	8.1%
9 60～64歳	95	10.4%
10 65歳以上	144	15.7%
(無回答)	18	2.0%
全体	917	100.0%



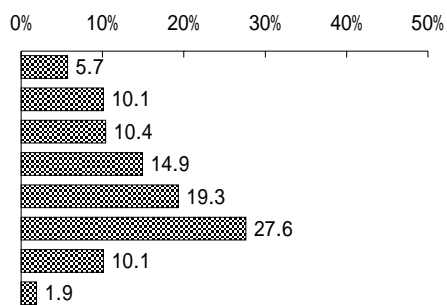
(3) 居住地【F3】

	n	構成比
1 宇奈根	5	0.5%
2 梶ヶ谷	48	5.2%
3 上作延	53	5.8%
4 北見方	36	3.9%
5 久地	42	4.6%
6 坂戸	33	3.6%
7 下作延	84	9.2%
8 下野毛	13	1.4%
9 諏訪	26	2.8%
10 瀬田	4	0.4%
11 久本	58	6.3%
12 二子	41	4.5%
13 溝口	72	7.9%
14 向ヶ丘	7	0.8%
15 明津	13	1.4%
16 蟹ヶ谷	29	3.2%
17 子母口	33	3.6%
18 子母口富士見台	4	0.4%
19 新作	63	6.9%
20 末永	86	9.4%
21 千年	53	5.8%
22 千年新町	16	1.7%
23 野川	21	2.3%
24 久末	59	6.4%
(無回答)	18	2.0%
全体	917	100.0%



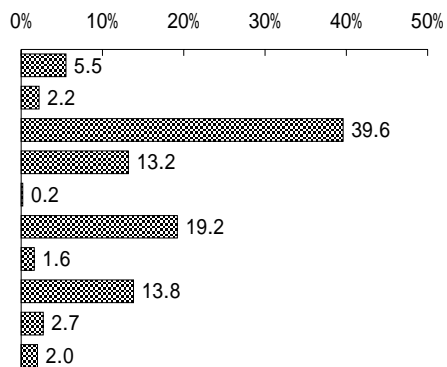
(4) 居住年数【F4】

	n	構成比
1 1年未満	52	5.7%
2 1年～3年未満	93	10.1%
3 3年～5年未満	95	10.4%
4 5年～10年未満	137	14.9%
5 10年～20年未満	177	19.3%
6 20年以上	253	27.6%
7 生まれてからずっと住んでいる (無回答)	93 17	10.1% 1.9%
全 体	917	100.0%



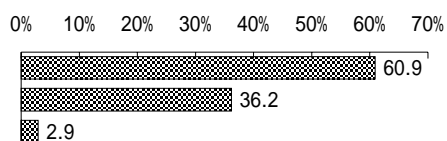
(5) 職業【F5】

	n	構成比
1 自営業主	50	5.5%
2 家族従業(家事手伝い)	20	2.2%
3 勤め(全日)	363	39.6%
4 勤め(パートタイム)	121	13.2%
5 内職	2	0.2%
6 主婦(仕事はしていない)	176	19.2%
7 学生	15	1.6%
8 無職	127	13.8%
9 その他 (無回答)	25 18	2.7% 2.0%
全 体	917	100.0%



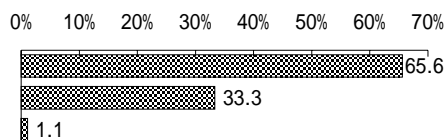
(6) 町内会・自治会加入【F6】

	n	構成比
1 はい(加入している)	558	60.9%
2 いいえ(加入していない) (無回答)	332 27	36.2% 2.9%
全 体	917	100.0%



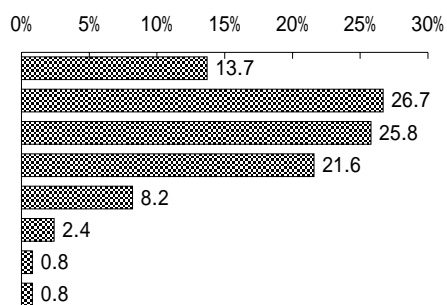
(7) インターネット利用【F7】

	n	構成比
1 はい(利用している)	602	65.6%
2 いいえ(利用していない) (無回答)	305 10	33.3% 1.1%
全 体	917	100.0%



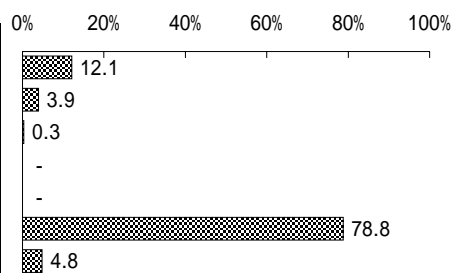
(8) 家族構成【F8】

	n	構成比
1 1人	126	13.7%
2 2人	245	26.7%
3 3人	237	25.8%
4 4人	198	21.6%
5 5人	75	8.2%
6 6人	22	2.4%
7 7人以上 (無回答)	7 7	0.8% 0.8%
全 体	917	100.0%



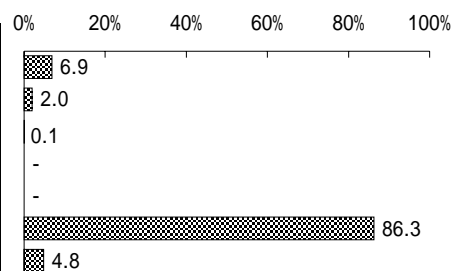
(9) 家族構成 (未就学児) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	111	12.1%
2 2人	36	3.9%
3 3人	3	0.3%
4 4人	-	0.0%
5 5人以上	-	0.0%
6 いない	723	78.8%
7 無回答	44	4.8%
全 体	917	100.0%



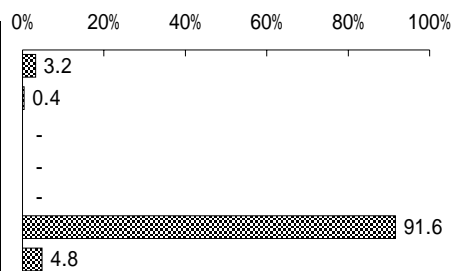
(10) 家族構成 (小学生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	63	6.9%
2 2人	18	2.0%
3 3人	1	0.1%
4 4人	-	0.0%
5 5人以上	-	0.0%
6 いない	791	86.3%
7 無回答	44	4.8%
全 体	917	100.0%



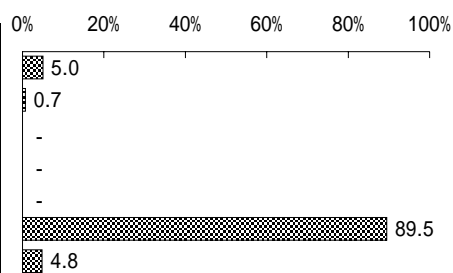
(11) 家族構成 (中学生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	29	3.2%
2 2人	4	0.4%
3 3人	-	0.0%
4 4人	-	0.0%
5 5人以上	-	0.0%
6 いない	840	91.6%
7 無回答	44	4.8%
全 体	917	100.0%



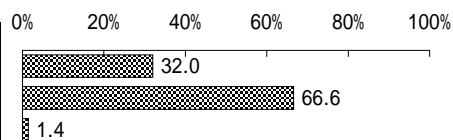
(12) 家族構成 (高校生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	46	5.0%
2 2人	6	0.7%
3 3人	-	0.0%
4 4人	-	0.0%
5 5人以上	-	0.0%
6 いない	821	89.5%
7 無回答	44	4.8%
全 体	917	100.0%



(13) 65歳以上の方との同居 【 F 10 】

	n	構成比
1 いる	293	32.0%
2 いない	611	66.6%
(無回答)	13	1.4%
全 体	917	100.0%



. 調 査 結 果

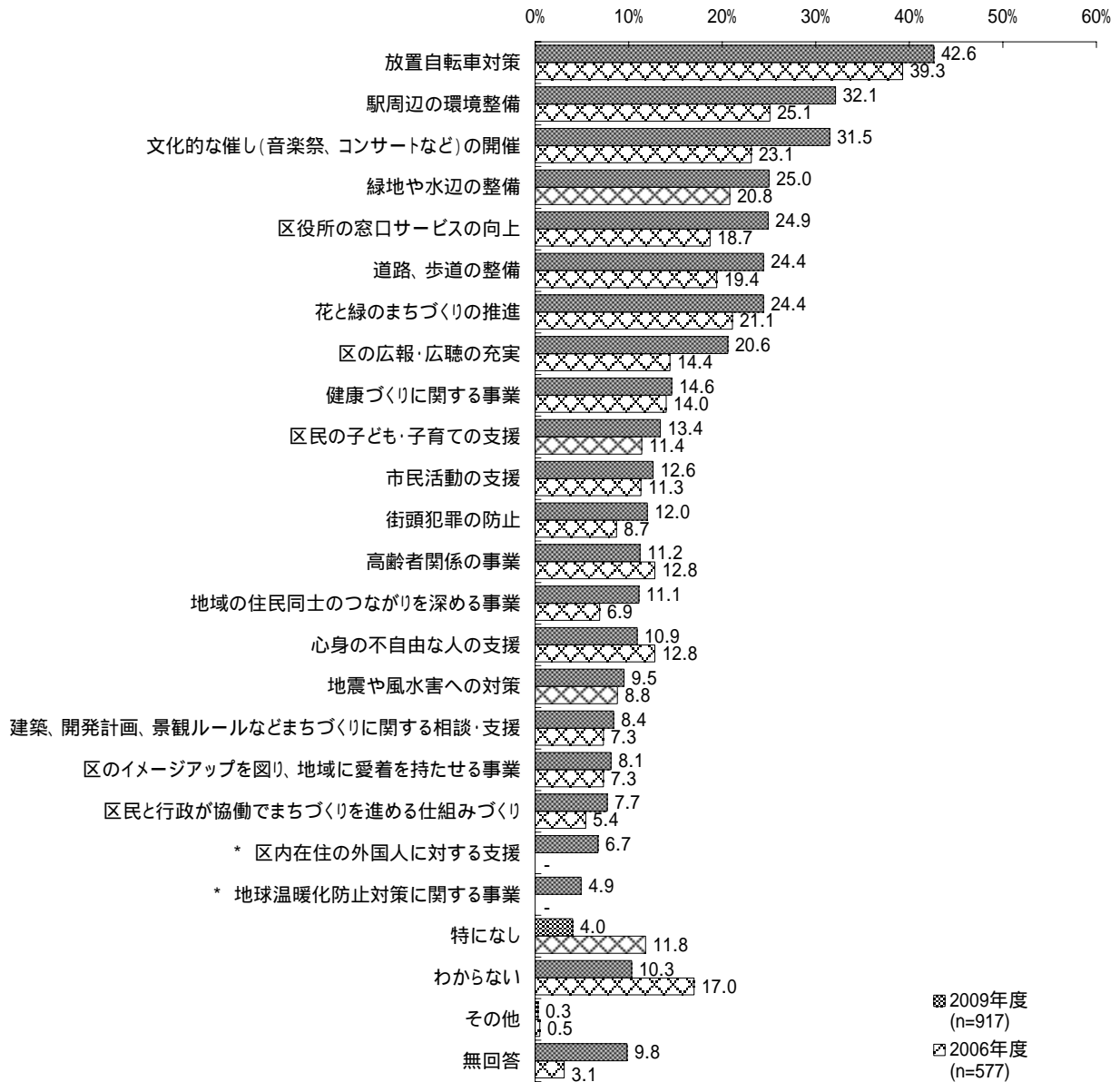
調査結果

1. 区の施策について

(1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。
次の1～24のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

図 1 - 1

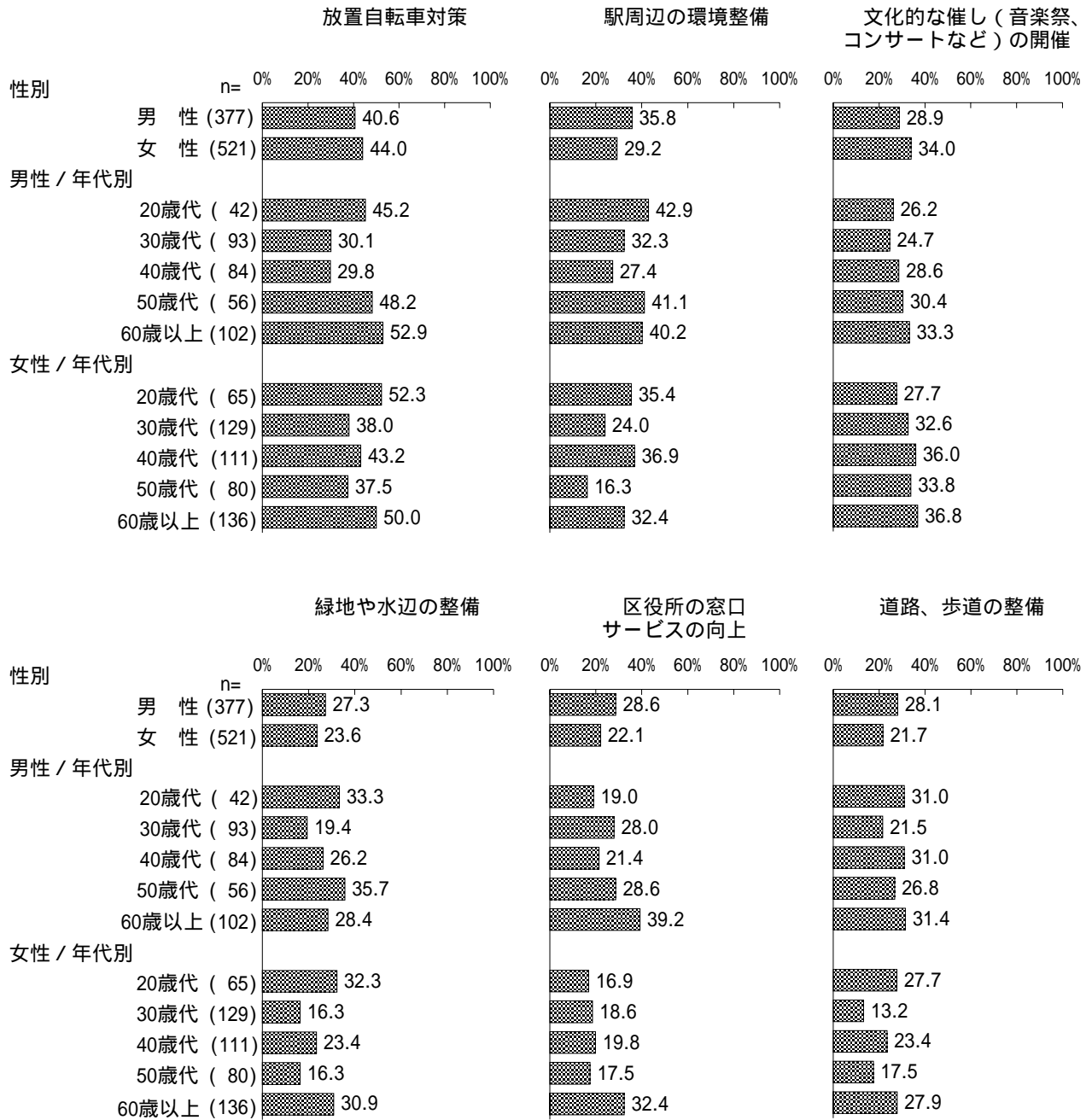


* 「区内在住の外国人に対する支援」と「地球温暖化防止対策に関する事業」は2009年度から実施

区役所業務の評価については、「放置自転車対策」(42.6%)が最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(32.1%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(31.5%)と続いている。

2006年度と比較すると、上位3項目においては順位の変動はなく、「区役所の窓口サービスの向上」においては7位から5位へと順位が上がっている。

図 1 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



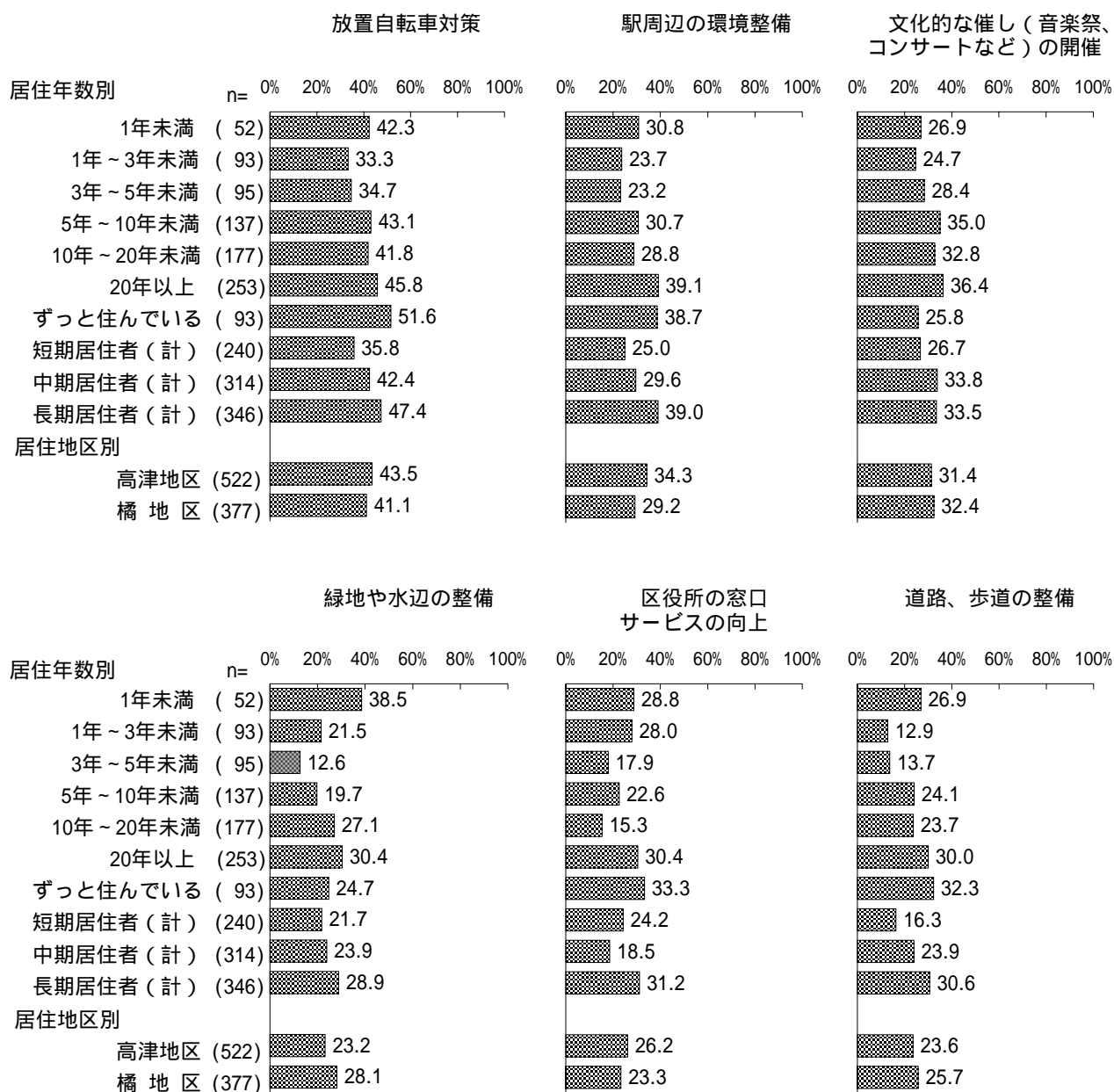
性別で見ると、「放置自転車対策」と「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」においては女性の方が男性よりも高くなっており、「駅周辺の環境整備」「緑地や水辺の整備」「区役所の窓口サービスの向上」「道路、歩道の整備」では男性の方が女性よりも高くなっている。

性・年代別で見ると、「放置自転車対策」では男性の『30歳代』と『40歳代』が他の年代と比較して低くなっている。

「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」では、男女ともに年齢が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がある。

「区役所の窓口サービスの向上」では男性の方が女性よりも6.5ポイント高く、男女ともに『60歳以上』で他の年齢よりも高くなっている。

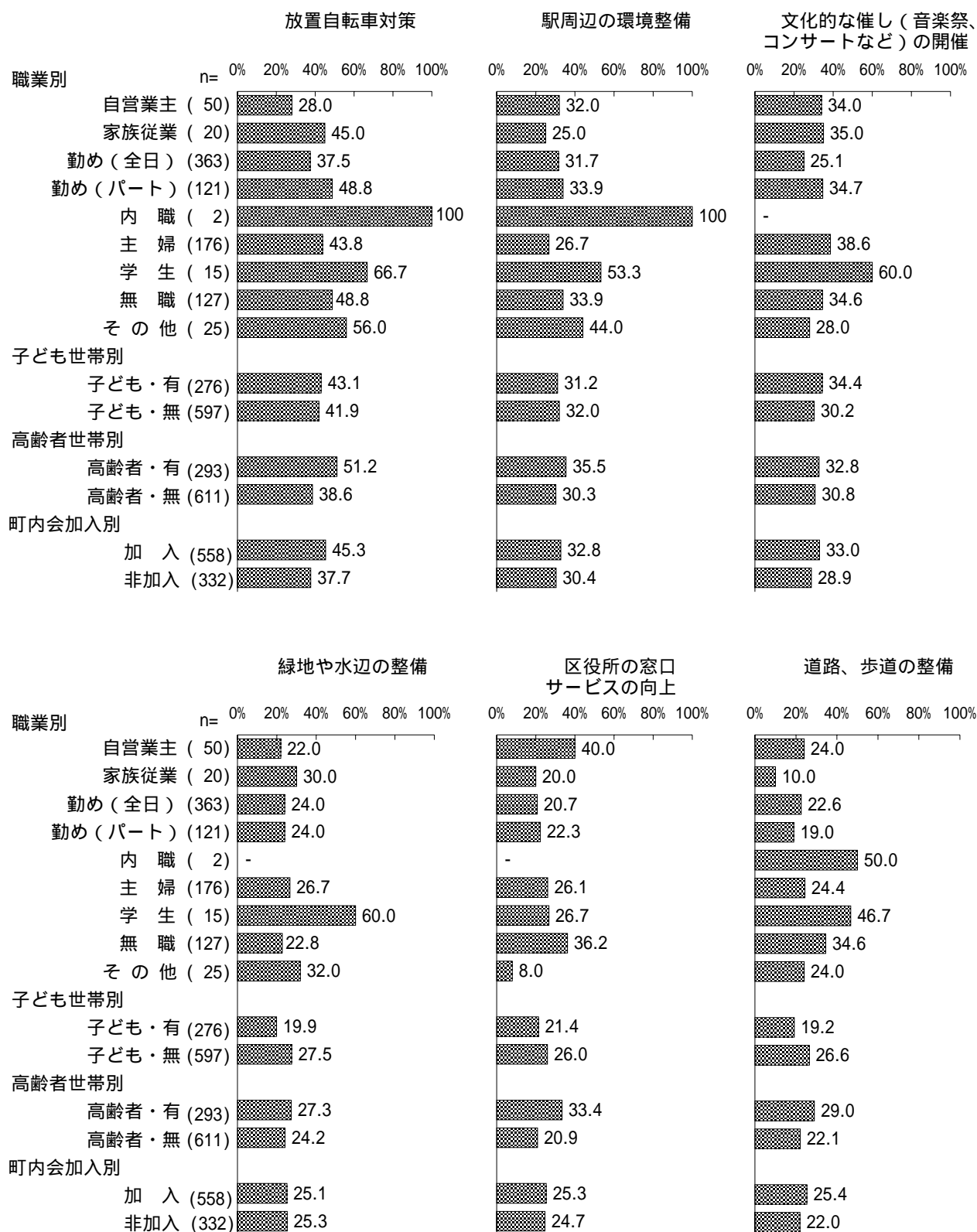
図 1 - 3 居住年数別 / 居住地区別 (上位6項目)



居住年数別では、「文化的な催し (音楽祭、コンサートなど) の開催」と「区役所の窓口サービスの向上」を除く他の4項目で、『居住年数』が上がるにつれて評価の割合も大きくなっている。

居住地区別では、「緑地や水辺の整備」で『橘地区』が『高津地区』よりも4.9ポイント上回っている。

図 1 - 4 職業別 / 子ども世帯別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別 (上位6項目)



子ども世帯別では、「緑地や水辺の整備」「区役所の窓口サービスの向上」「道路、歩道の整備」で、『子ども・無』の方が『子ども・有』よりも高くなっている。

高齢者世帯別では、6項目全てにおいて『高齢者・有』が『高齢者・無』を上回っており、なかでも「放置自転車対策」では12.6ポイント、「区役所の窓口サービスの向上」では12.5ポイント上回っている。

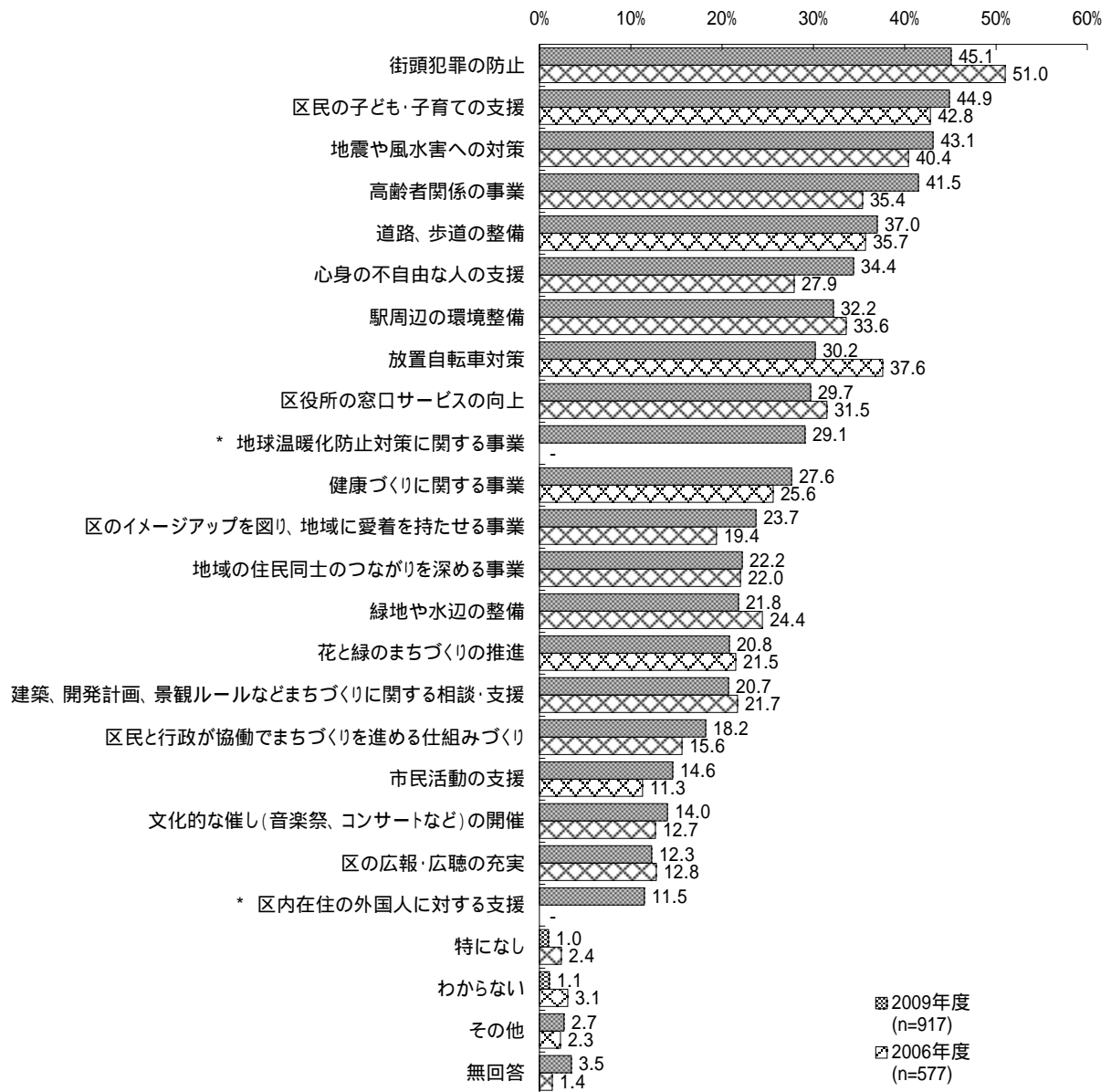
町内会加入別では、「放置自転車対策」で『加入者』が『非加入者』よりも7.6ポイント上回っている。

(2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。

次の1～24のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

図 2 - 1

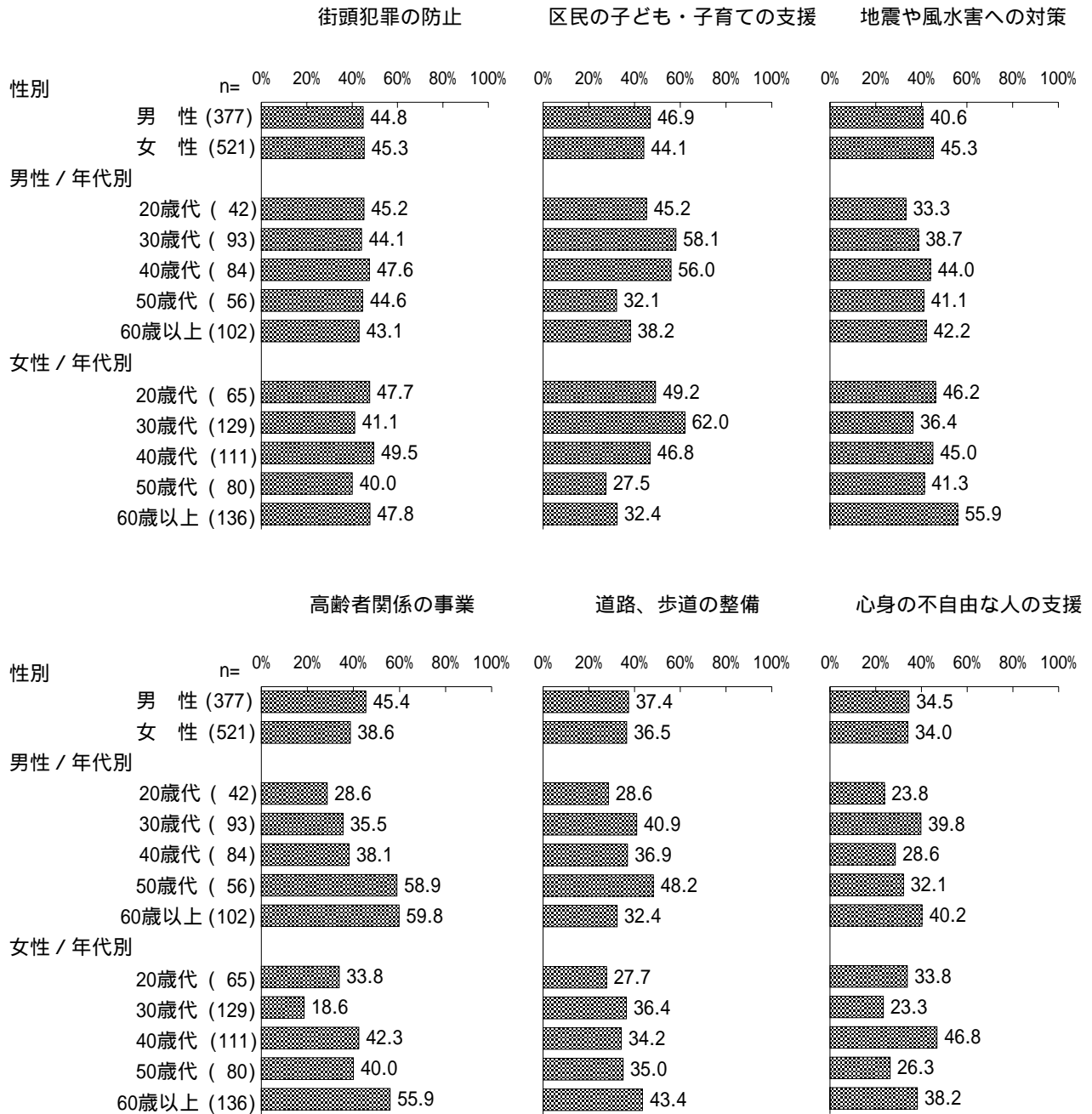


* 「区内在住の外国人に対する支援」と「地球温暖化防止対策に関する事業」は2009年度から実施

区役所への要望については、「街頭犯罪の防止」(45.1%)が最も高く、「区民の子ども・子育ての支援」(44.9%)、「地震や風水害への対策」(43.1%)と続いている。

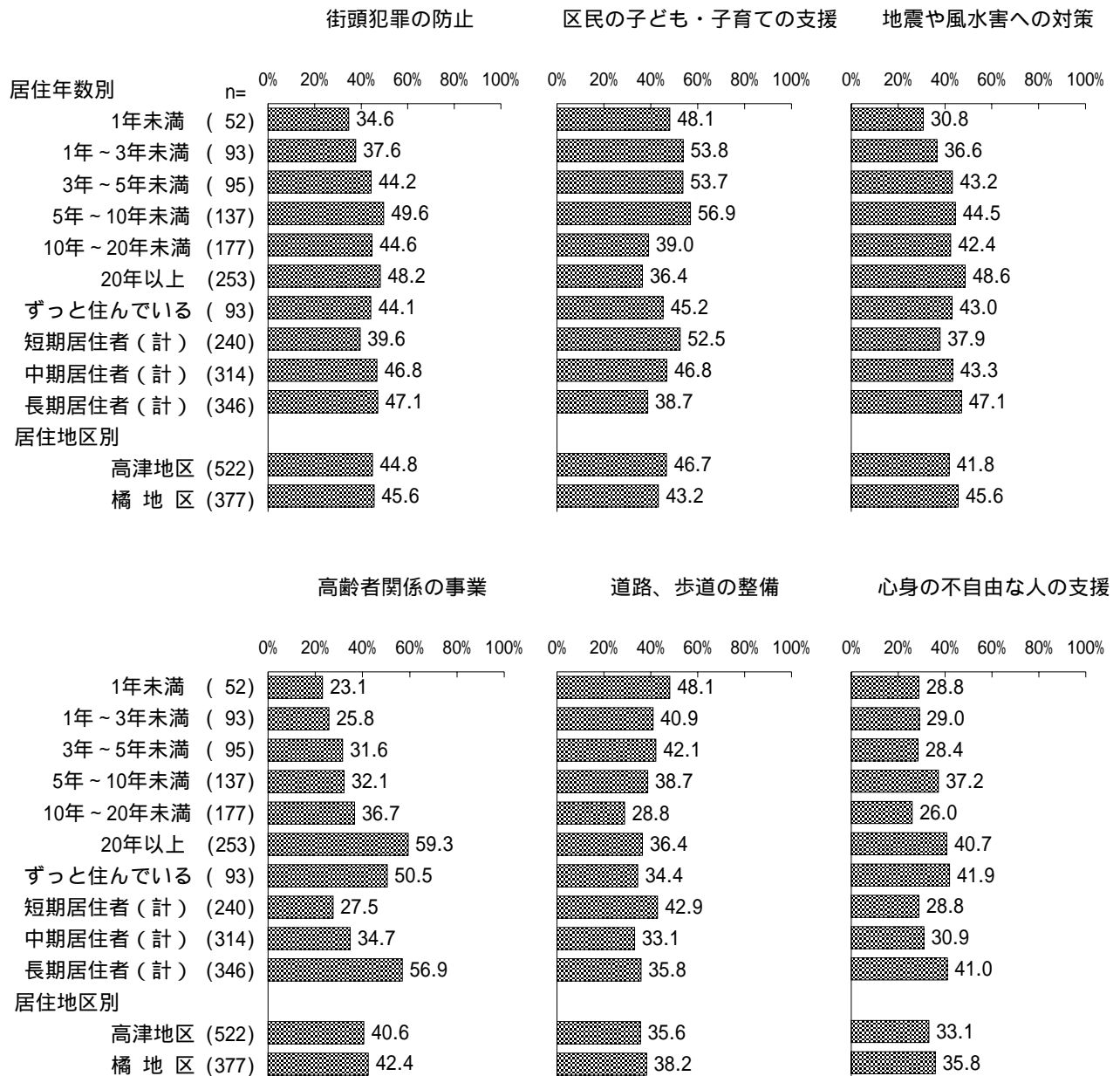
2006年度と比較すると、上位3項目に関しては順位の変動はなく、「高齢者関係の事業」が6位から4位へ、「心身の不自由な人の支援」が9位から6位へ順位が上がっている。

図 2 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



性・年代別では、「区民の子ども・子育ての支援」で男性『30歳代』(58.1%)、『40歳代』(56.0%)と女性『30歳代』(62.0%)が他の年代よりも高くなっている。「高齢者関係の事業」では男性の方が女性よりも6.8ポイント高く、男女ともに年齢が上がるにつれて要望の割合も大きくなる傾向がある。

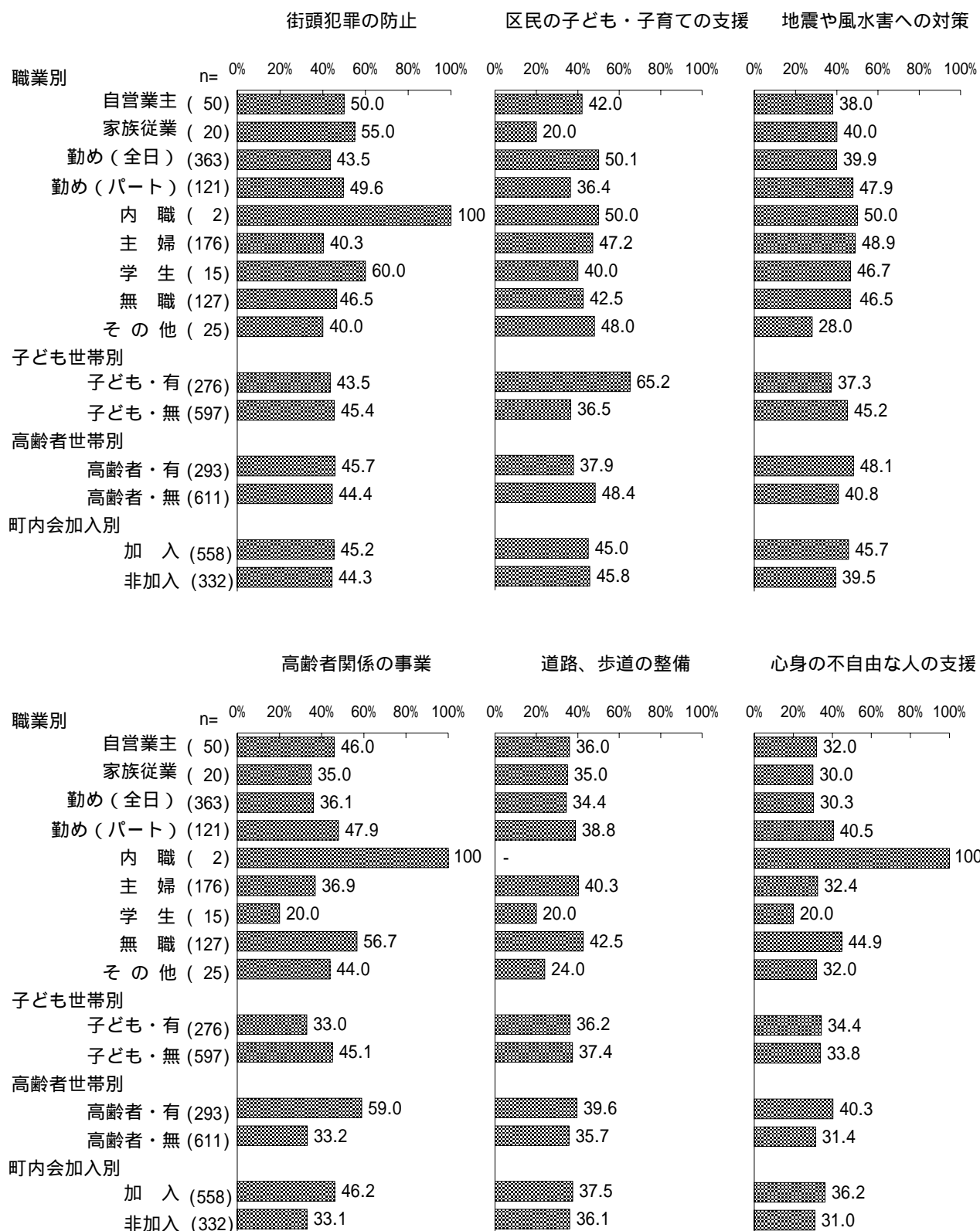
図 2 - 3 居住年数別 / 居住地区別 (上位6項目)



居住年数別では、「区民の子ども・子育ての支援」で10年未満の居住者は要望の割合が大きい傾向がある。

「地震や風水害への対策」「高齢者関係の事業」「心身の不自由な人の支援」では、居住年数が上がるにつれて割合が大きくなっている。

図 2 - 4 職業別 / 子ども世帯別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別 (上位6項目)



子ども世帯別では、「区民の子ども・子育ての支援」で『子ども・有』が28.7ポイント『子ども・無』を上回っている。「高齢者関係の事業」では12.1ポイント、「地震や風水害への対策」で7.9ポイント『子ども・無』が『子ども・有』を上回っている。

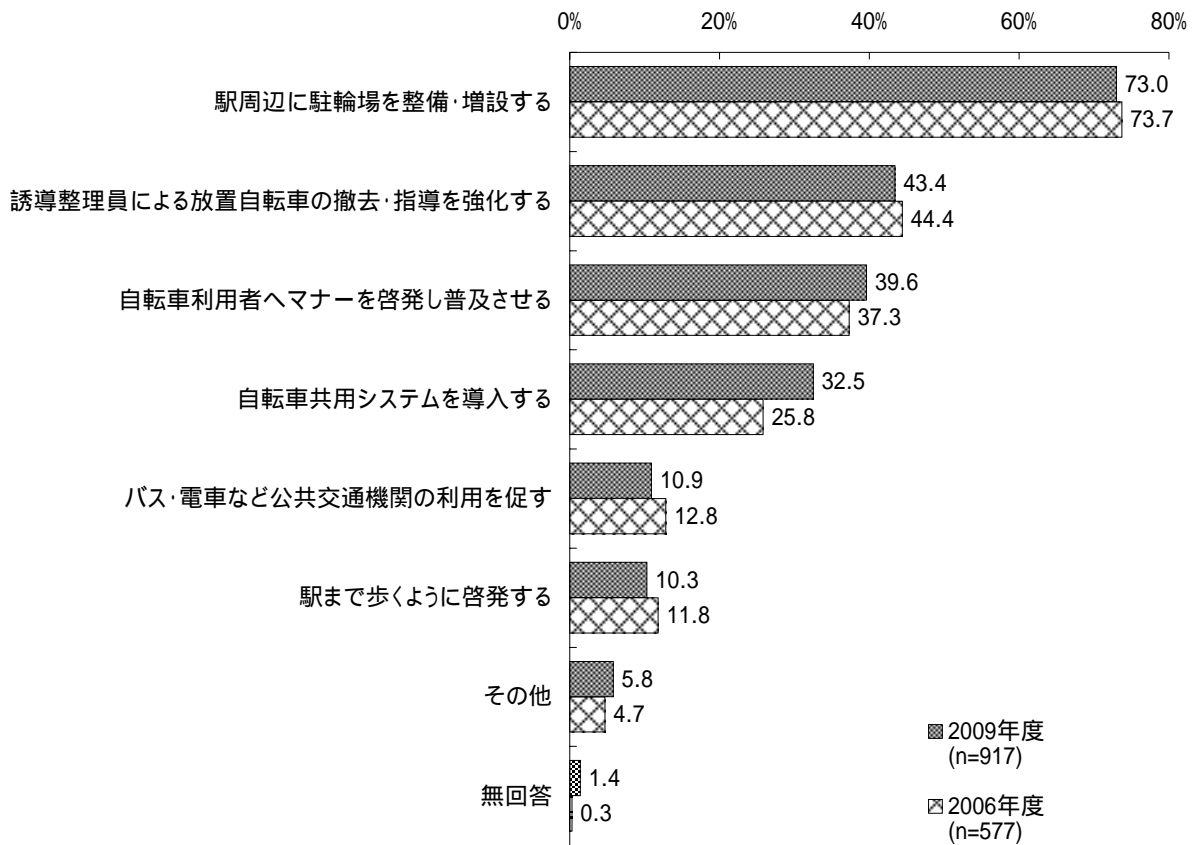
高齢者世帯別では、「高齢者関係の事業」で25.8ポイント、「心身の不自由な人の支援」で8.9ポイント、「地震や風水害への対策」で7.3ポイント『高齢者・有』が『高齢者・無』を上回っている。

町内会加入別では、「高齢者関係の事業」で『加入』が『非加入』よりも13.1ポイント高い。

(3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

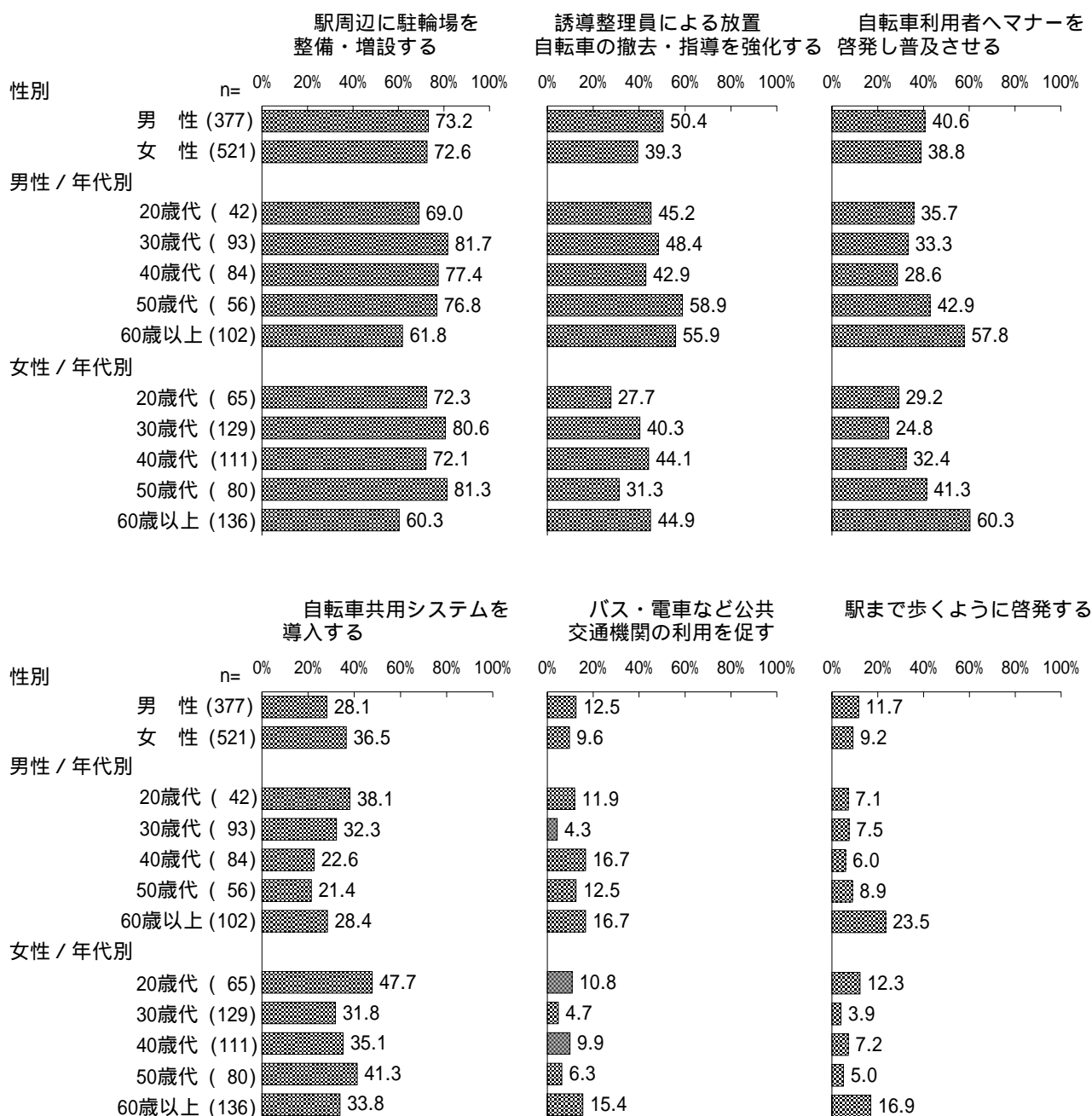
図 3 - 1



放置自転車対策については、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(73.0%)が最も高く、「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」(43.4%)、「自転車利用者へマナーを啓発し普及させる」(39.6%)、「自転車共用システムを導入する」(32.5%)、「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」(10.9%)、「駅まで歩くように啓発する」(10.3%)の順となっている。

2006年度と比較すると順位の変動はないが、「自転車共用システムを導入する」では25.8%から32.5%と6.7ポイント高くなっている。

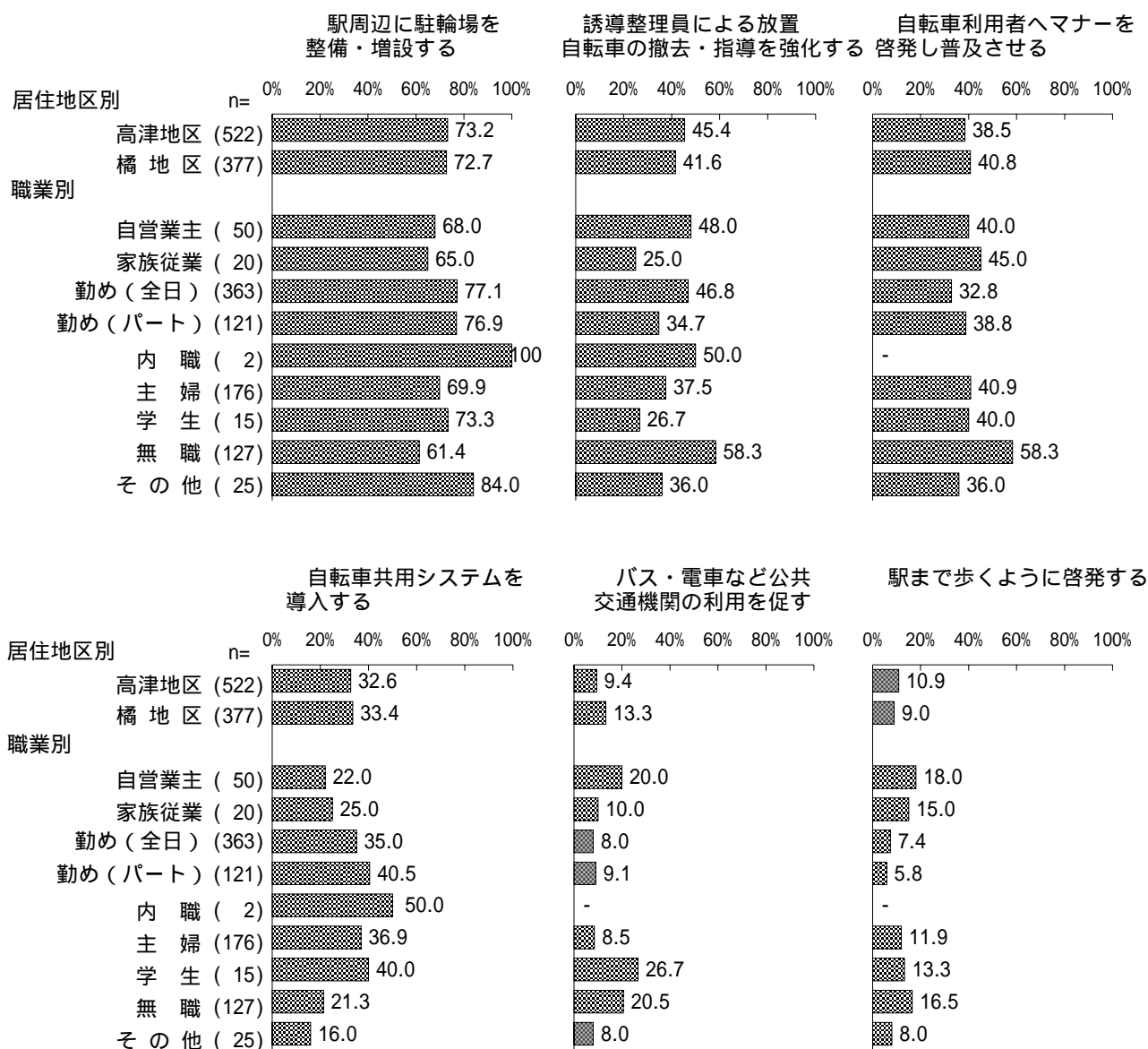
図 3 - 2 性別 / 性年代別



性別では、「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」で『男性』の方が『女性』よりも11.1ポイント上回っている。「自転車共用システムを導入する」では『女性』の方が『男性』よりも8.4ポイント上回っている。

性・年代別では、「自転車利用者へマナーを啓発し普及させる」で、女性は年代が上がるにつれて割合が大きくなる傾向がある。「自転車共用システムを導入する」では、男女とも『20歳代』が高く、女性においては『50歳代』も41.3%と40%を超えて高くなっている。「駅まで歩くように啓発する」では、男女とも『60歳以上』で15%を超えて他の年代と比較して高くなっており、なかでも男性『60歳以上』は23.5%と最も高くなっている。

図 3 - 3 居住地区別 / 職業別



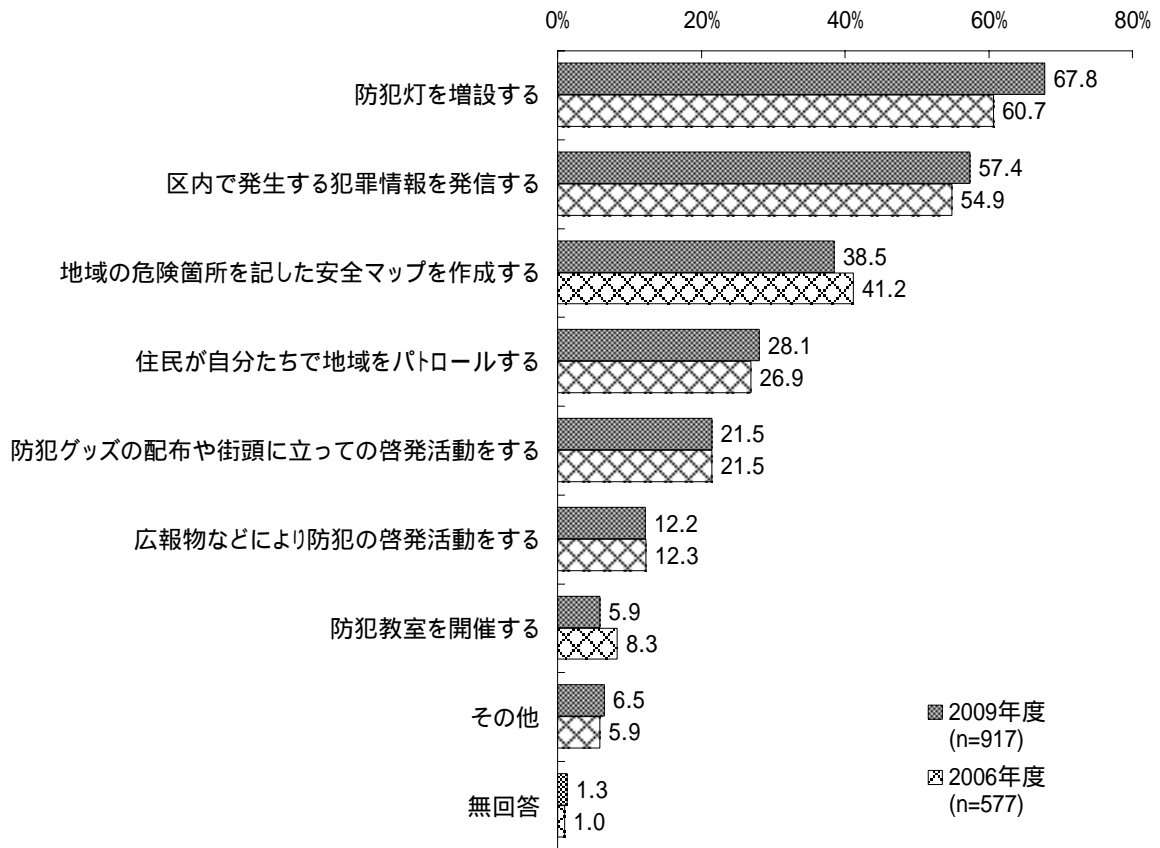
居住地区別では、「バス・電車など公共交通機関の利用を促す」で『橋地区』が『高津地区』よりも3.9ポイント上回っており、「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」では『高津地区』が『橋地区』よりも3.8ポイント上回っている。

職業別では、「自転車利用者へマナーを啓発し普及させる」で『無職』が58.3%と50%を超えて、他の職業と比較して最も高くなっている。

(4) 街頭犯罪防止対策

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

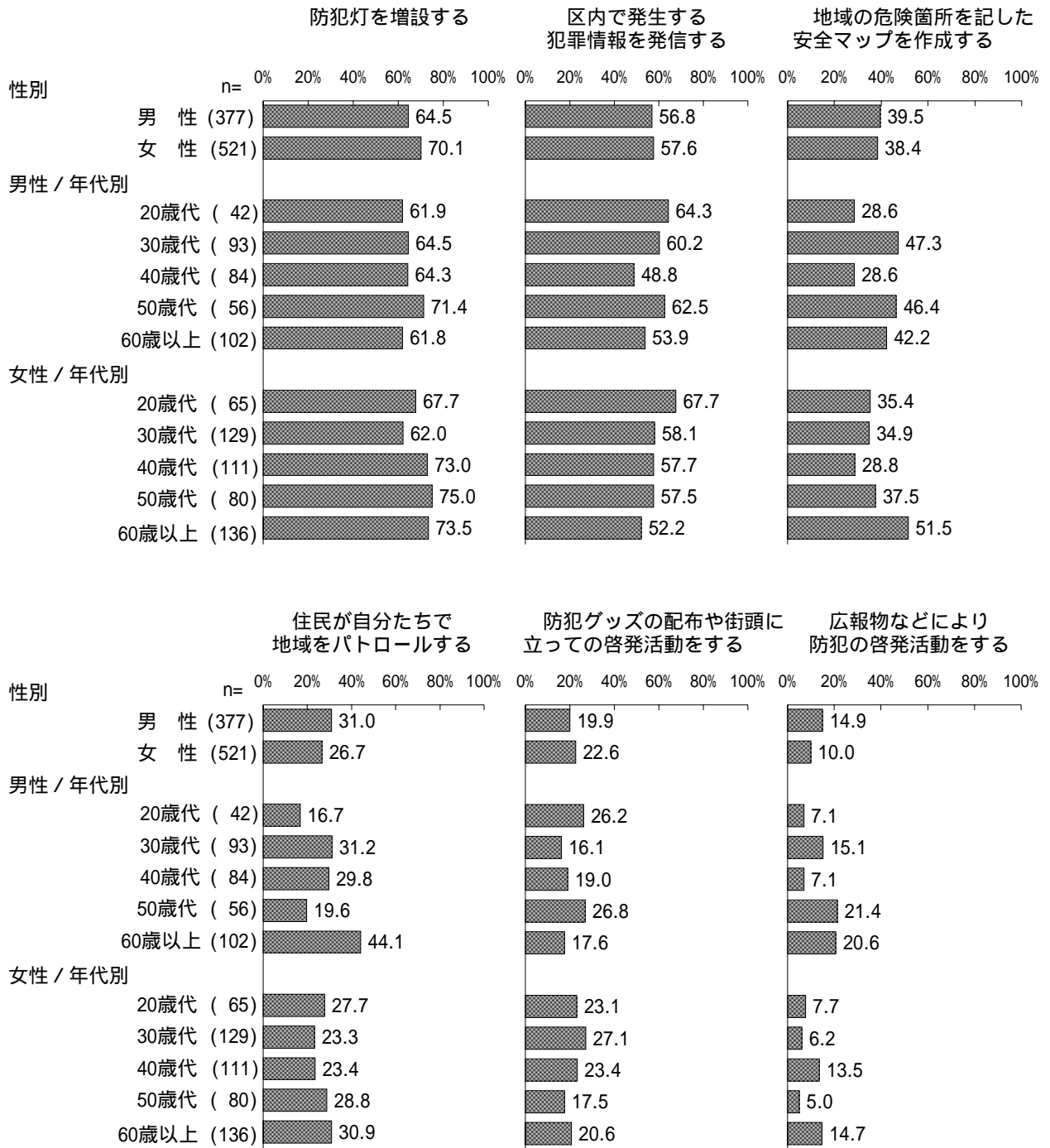
図 4 - 1



街頭犯罪防止対策については、「防犯灯を増設する」(67.8%)が最も高く、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(57.4%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(38.5%)、「住民が自分たちで地域をパトロールする」(28.1%)、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」(21.5%)、「広報物などにより防犯の啓発活動をする」(12.2%)、「防犯教室を開催する」(5.9%)の順となっている。

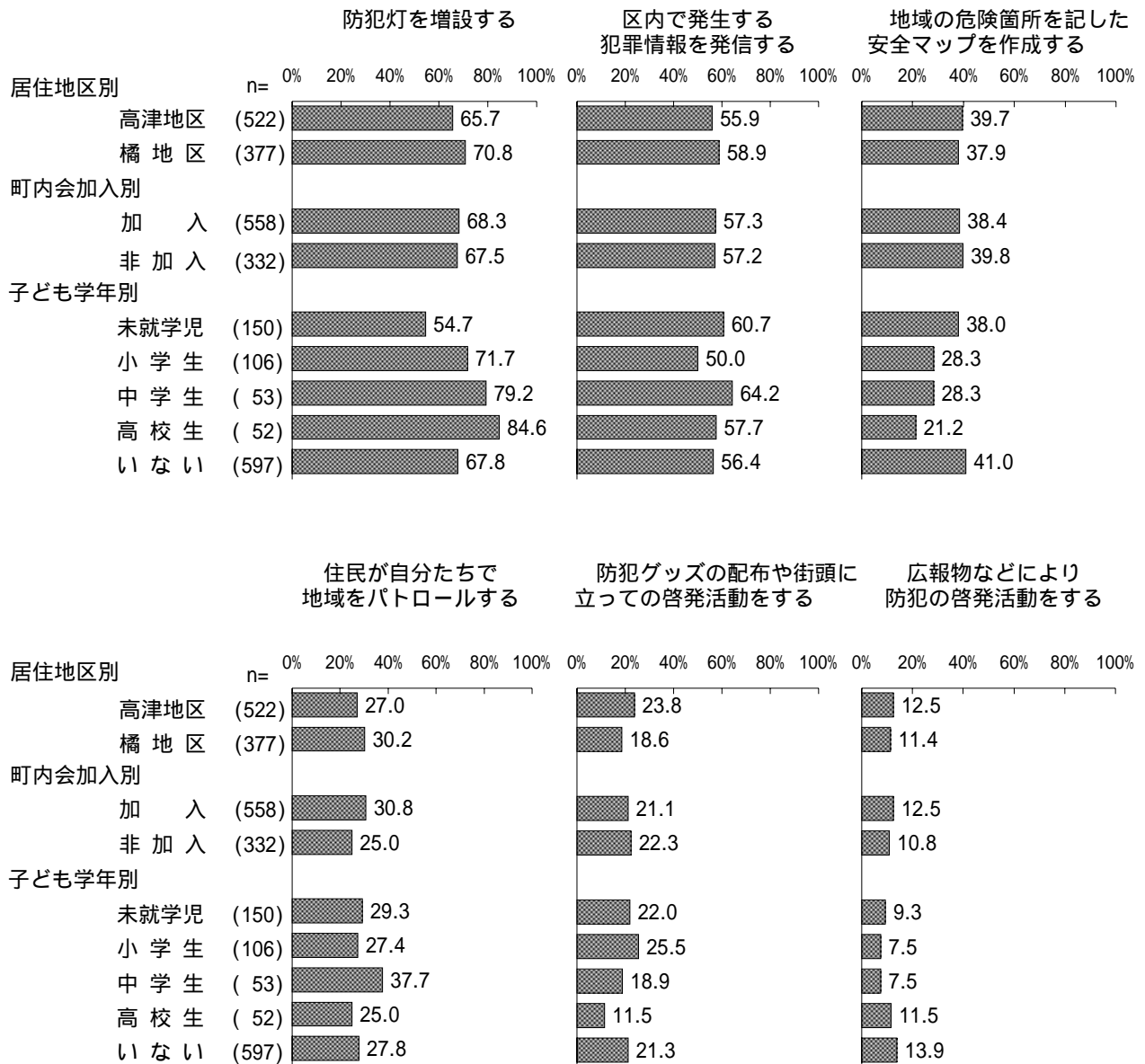
2006年度と比較すると、「防犯灯を増設する」で7.1ポイント上昇している以外は特に大きな変化はない。

図 4 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)



性・年代別では、「防犯灯を増設する」で『女性』が『男性』よりも5.6ポイント高く、年代別では男性の『50歳代』と女性の『40歳代』『50歳代』『60歳以上』で70%を超えて他の年代と比較して高くなっている。「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」では女性の『60歳以上』が51.5%と50%を超えて高くなっている。「住民が自分たちで地域をパトロールする」では、男性の『60歳以上』が44.1%と他の年代と比較して高くなっている。「広報物などにより防犯の啓発活動をする」では、男性の『50歳代』と『60歳以上』が20%に達し他の年代と比較して高い。

図 4 - 3 居住地区別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 (上位 6 項目)



居住地区別では、「防犯灯を増設する」で5.1ポイント、「住民が自分たちで地域をパトロールする」で3.2ポイント、「区内で発生する犯罪情報を発信する」で3.0ポイント『橘地区』が『高津地区』よりも上回っている。対して「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」では『高津地区』が『橘地区』よりも5.2ポイント上回っている。

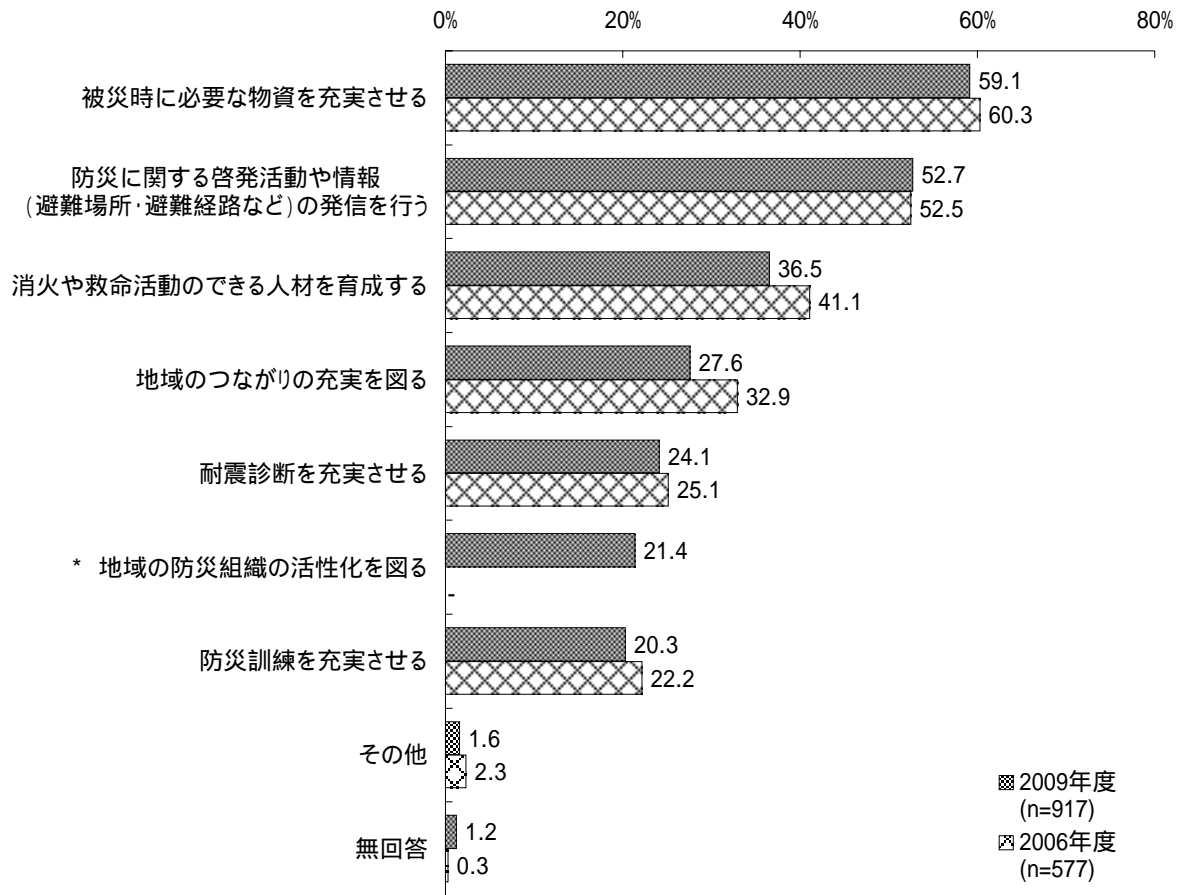
町内会加入別で見ると、「住民が自分たちで地域をパトロールする」では、『加入』が『非加入』よりも5.8ポイント上回っている以外は特に大きな差は見受けられない。

子ども学年別では、「防犯灯を増設する」で子どもの学年が上がるにつれて割合が大きくなっており、『小学生』『中学生』『高校生』が70%を超えて高く、なかでも『高校生』は84.6%と最も高くなっている。「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」では、『いない』が41.0%で最も高く、『未就学児』が38.0%とそれに続き、子どもの学年が上がるにつれて割合が小さくなる傾向がある。

(5) 地震や風水害対策

問5 地震や風水害への対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

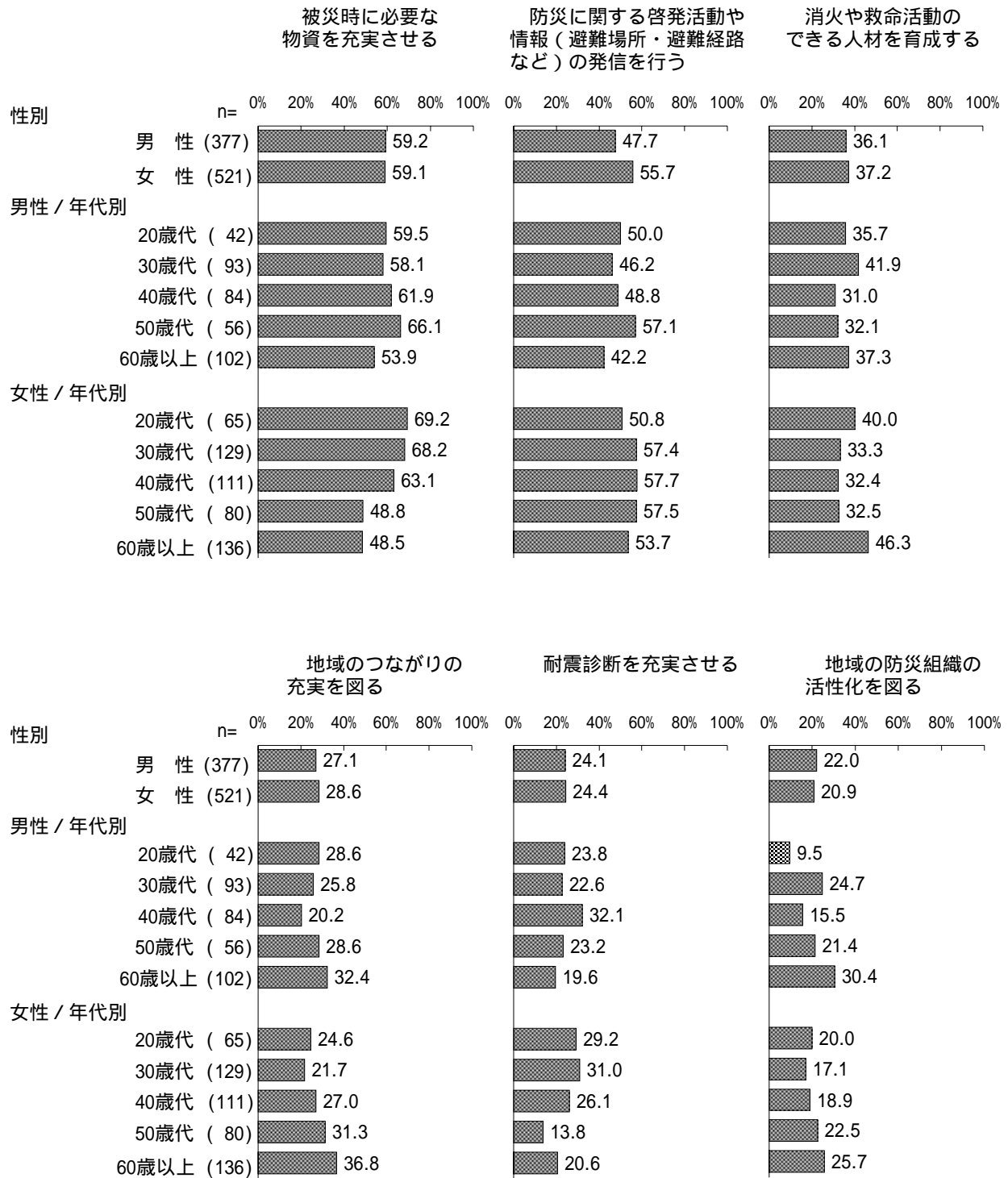
図 5 - 1



* 「地域の防災組織の活性化を図る」は2009年度から実施

地震や風水害対策では、「被災時に必要な物資を充実させる」(59.1%)が最も高く、「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」(52.7%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(36.5%)、「地域のつながりの充実を図る」(27.6%)、「耐震診断を充実させる」(24.1%)、「地域の防災組織の活性化を図る」(21.4%)、「防災訓練を充実させる」(20.3%)の順となっている。

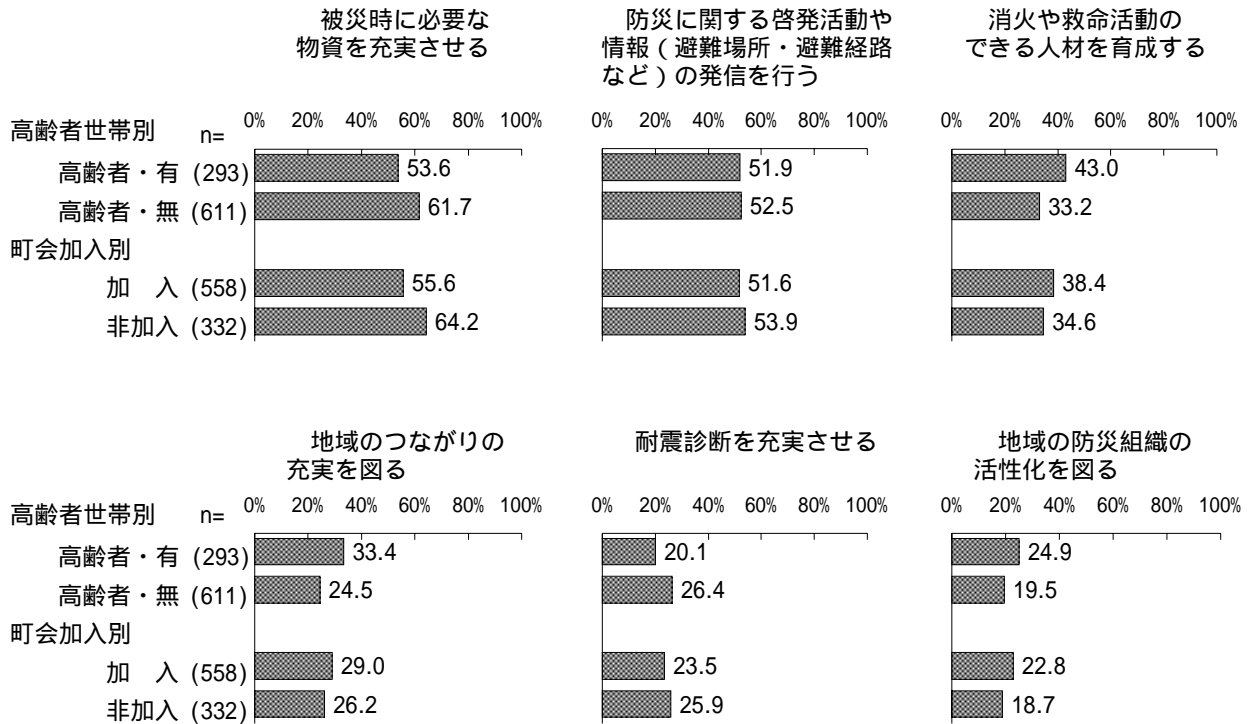
図 5 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



性別では、「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」で『女性』が『男性』よりも8.0ポイント上回っている。その他の項目においては男女間に差は見受けられない。

性・年代別でみると、「被災時に必要な物資を充実させる」で女性の『20歳代』が69.2%と高く、『30歳代』が68.2%と続き、女性においては年代が上がるにつれて割合が小さくなる傾向がある。「防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う」では、女性の全ての年代が50%を超えて高く、なかでも『40歳代』(57.7%)、『50歳代』(57.5%)、『30歳代』(57.4%)が57%に達し高くなっている。「地域のつながりの充実を図る」では、女性の『60歳以上』が36.8%と最も高く、女性においては年代が上がるにつれて割合も大きくなる傾向がある。

図 5 - 3 高齢者世帯別 / 町会加入別 (上位6項目)



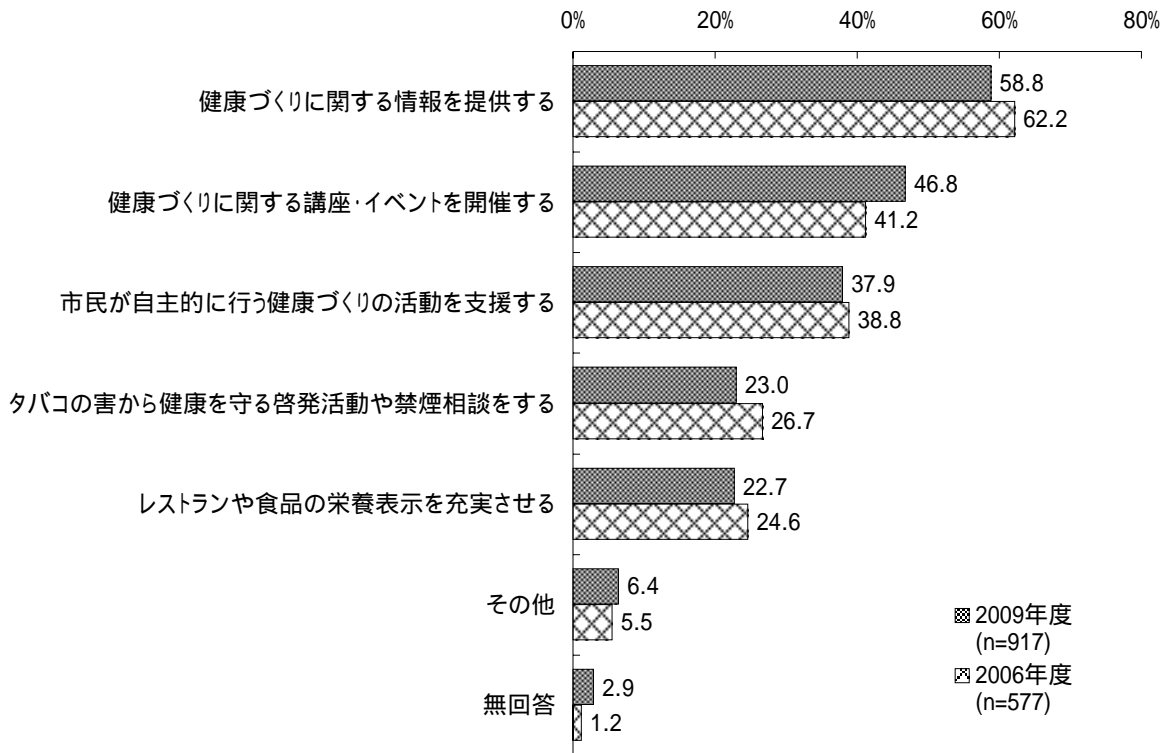
高齢者世帯別でみると、「消火や救命活動のできる人材を育成する」で9.8ポイント、「地域のつながりの充実を図る」で8.9ポイント、「地域の防災組織の活性化を図る」で5.4ポイント『高齢者・有』が『高齢者・無』を上回っている。一方、「被災時に必要な物資を充実させる」では8.1ポイント、「耐震診断を充実させる」では6.3ポイント『高齢者・無』が『高齢者・有』よりも高くなっている。

町内会加入別でみると、「被災時に必要な物資を充実させる」で『非加入』が『加入』を8.6ポイント上回っている。「地域の防災組織の活性化を図る」では『加入』の方が『非加入』よりも4.1ポイント上回っている。

(6) 健康推進

問6 区民の健康づくりを推進していくためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

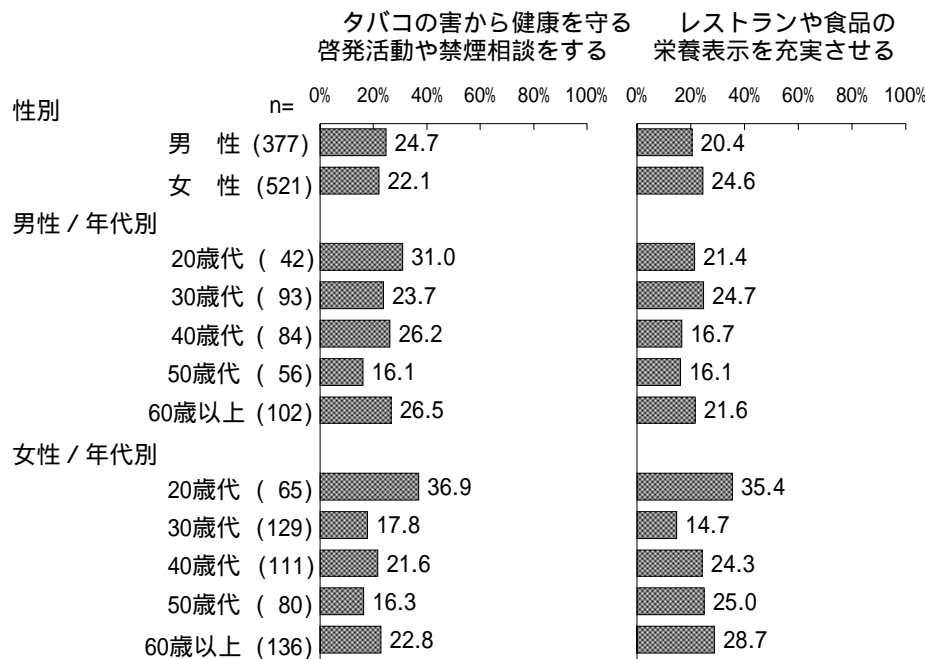
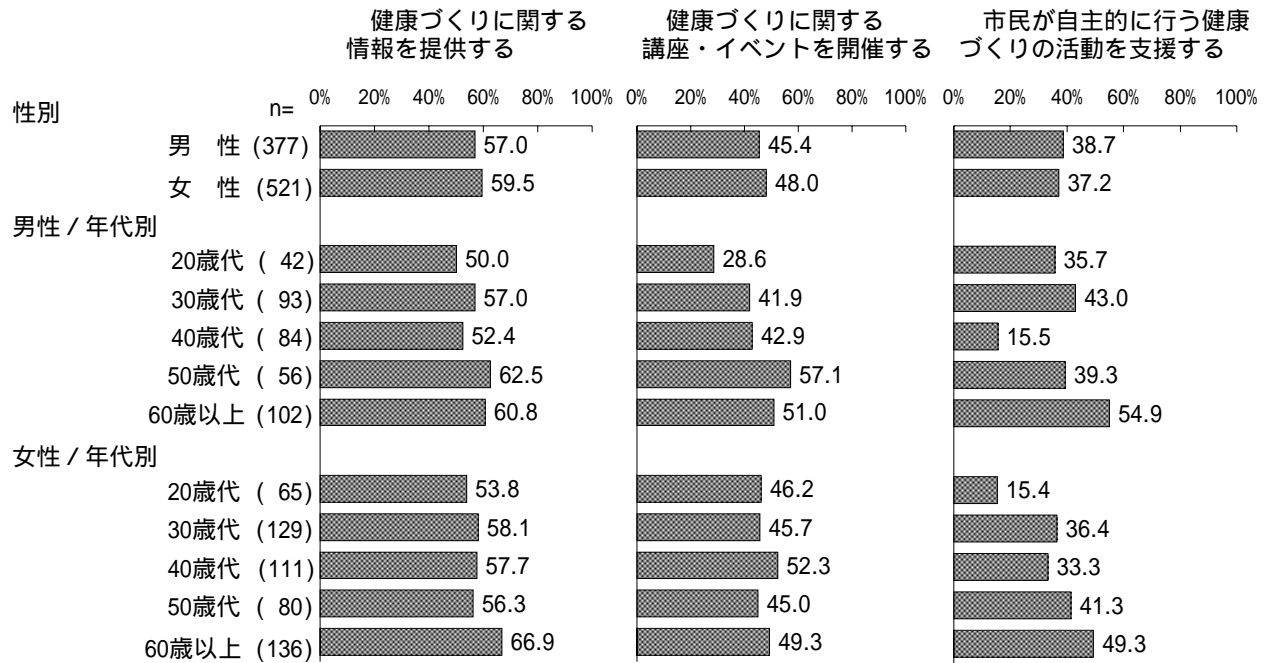
図 6 - 1



健康推進については、「健康づくりに関する情報を提供する」が58.8%と最も高く、次いで「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(46.8%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(37.9%)、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」(23.0%)、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」(22.7%)の順で続いている。

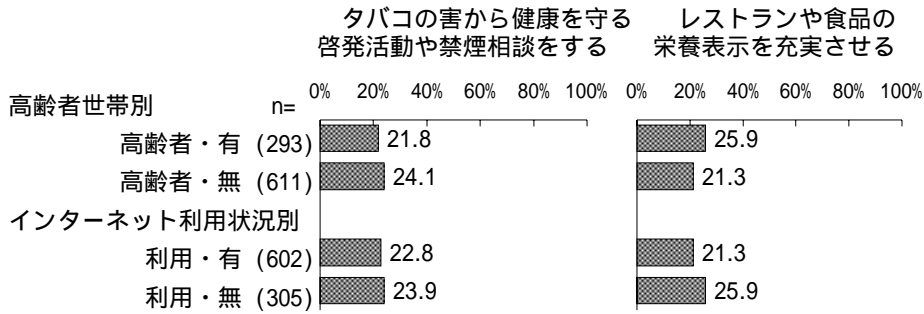
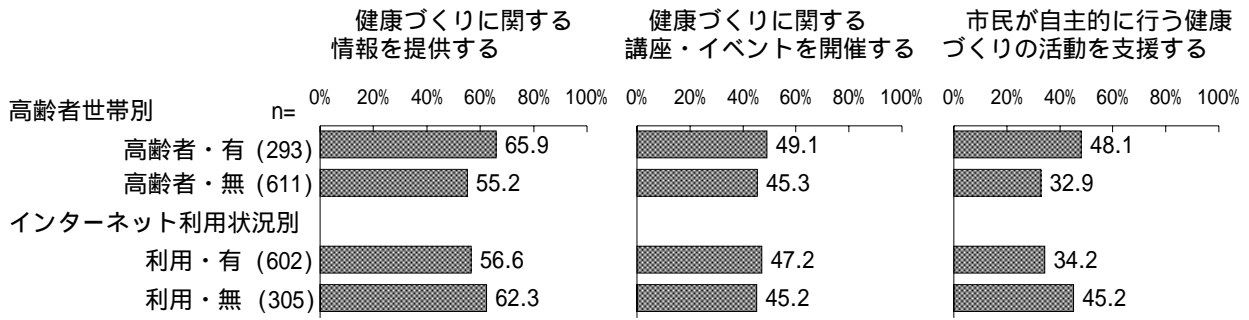
2006年度と比較すると、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」では5.6ポイント増加、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」で3.7ポイント減少、「健康づくりに関する情報を提供する」で3.4ポイント減少している。

図 6 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別では、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」で男性の『60歳以上』が54.9%と50%を超えて他の年代と比較して最も高く、女性においては年代が上がるにつれて割合も大きくなる傾向がある。「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」では、男女とも『20歳代』が30%を超えて他の年代と比較して高く、なかでも女性の『20歳代』が36.9%と最も高くなっている。「レストランや食品の栄養表示を充実させる」では女性の『20歳代』が35.4%と最も高くなっている。

図6 - 3 高齢者世帯別 / インターネット利用状況別



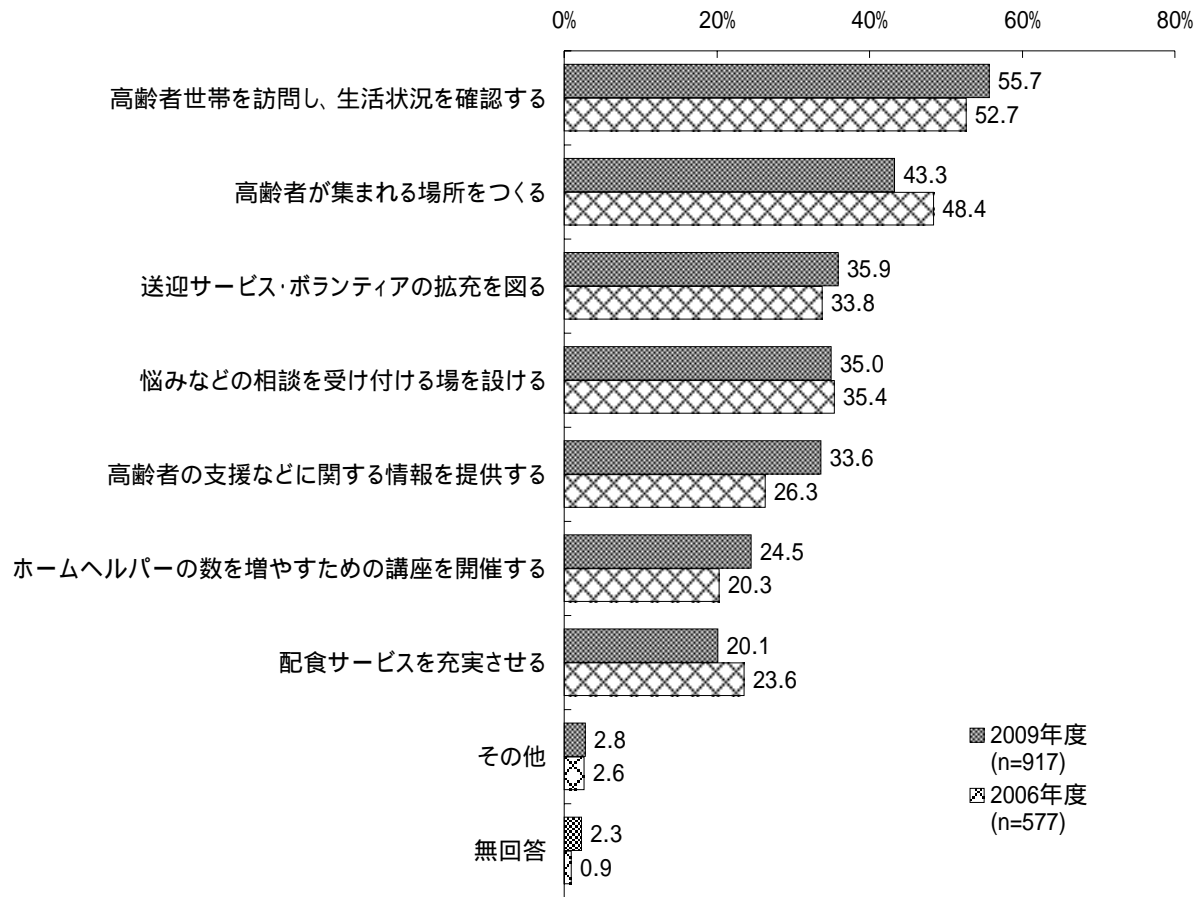
高齢者世帯別では、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」で15.2ポイント、「健康づくりに関する情報を提供する」では10.7ポイント、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」では4.6ポイント『高年齢者・有』の方が『高年齢者・無』よりも高くなっている。

インターネット利用状況別では、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」で11.0ポイント、「健康づくりに関する情報を提供する」で5.7ポイント、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」で4.6ポイント『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。

(7) 高齢者支援

問7 高齢者を支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

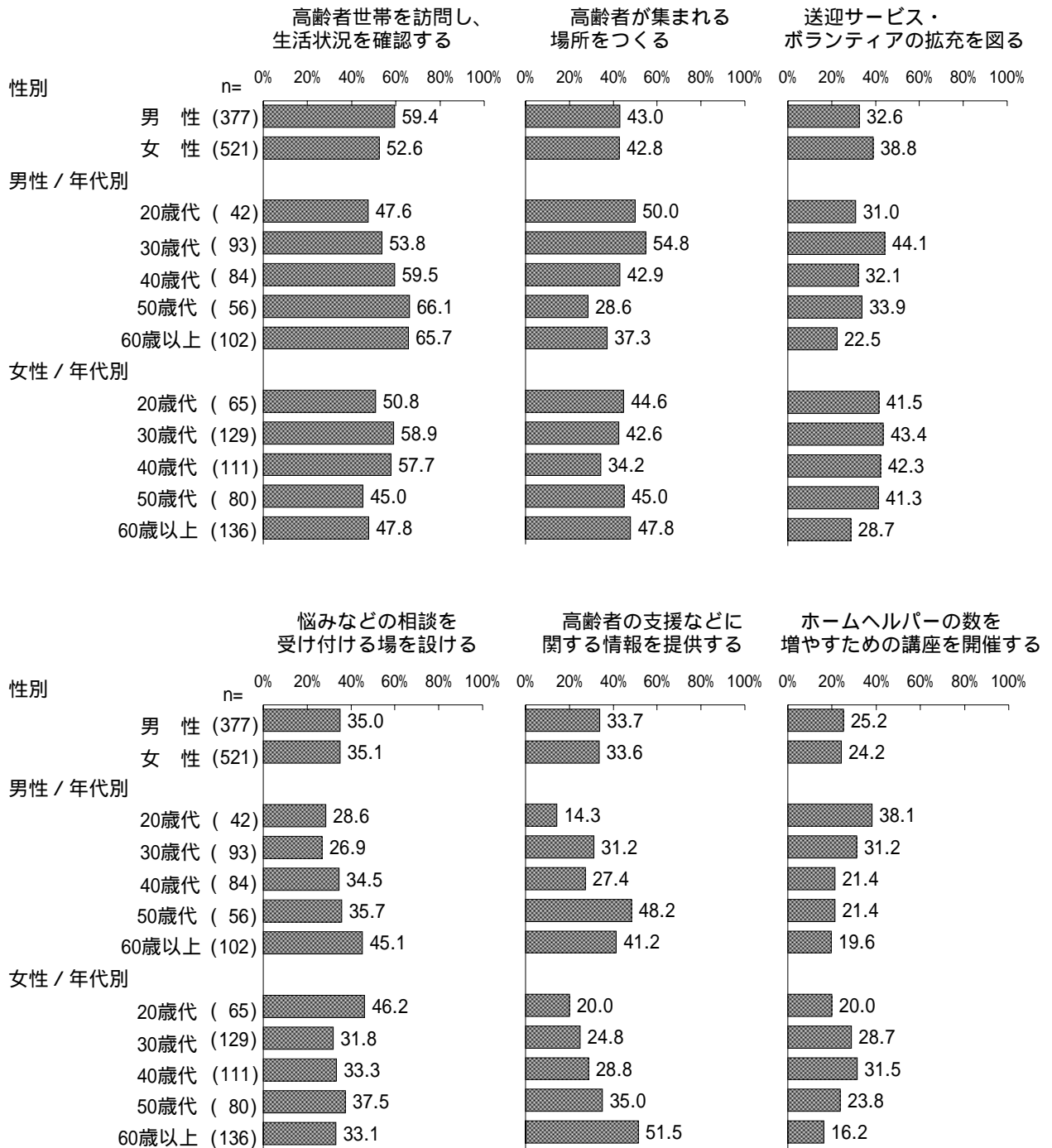
図 7 - 1



高齢者支援については、「高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する」(55.7%)が最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(43.3%)、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」(35.9%)、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」(35.0%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(33.6%)、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」(24.5%)、「配食サービスを充実させる」(20.1%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」で7.3ポイント、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」で4.2ポイント増加している。「高齢者が集まれる場所をつくる」では5.1ポイント、「配食サービスを充実させる」で3.5ポイント減少している。

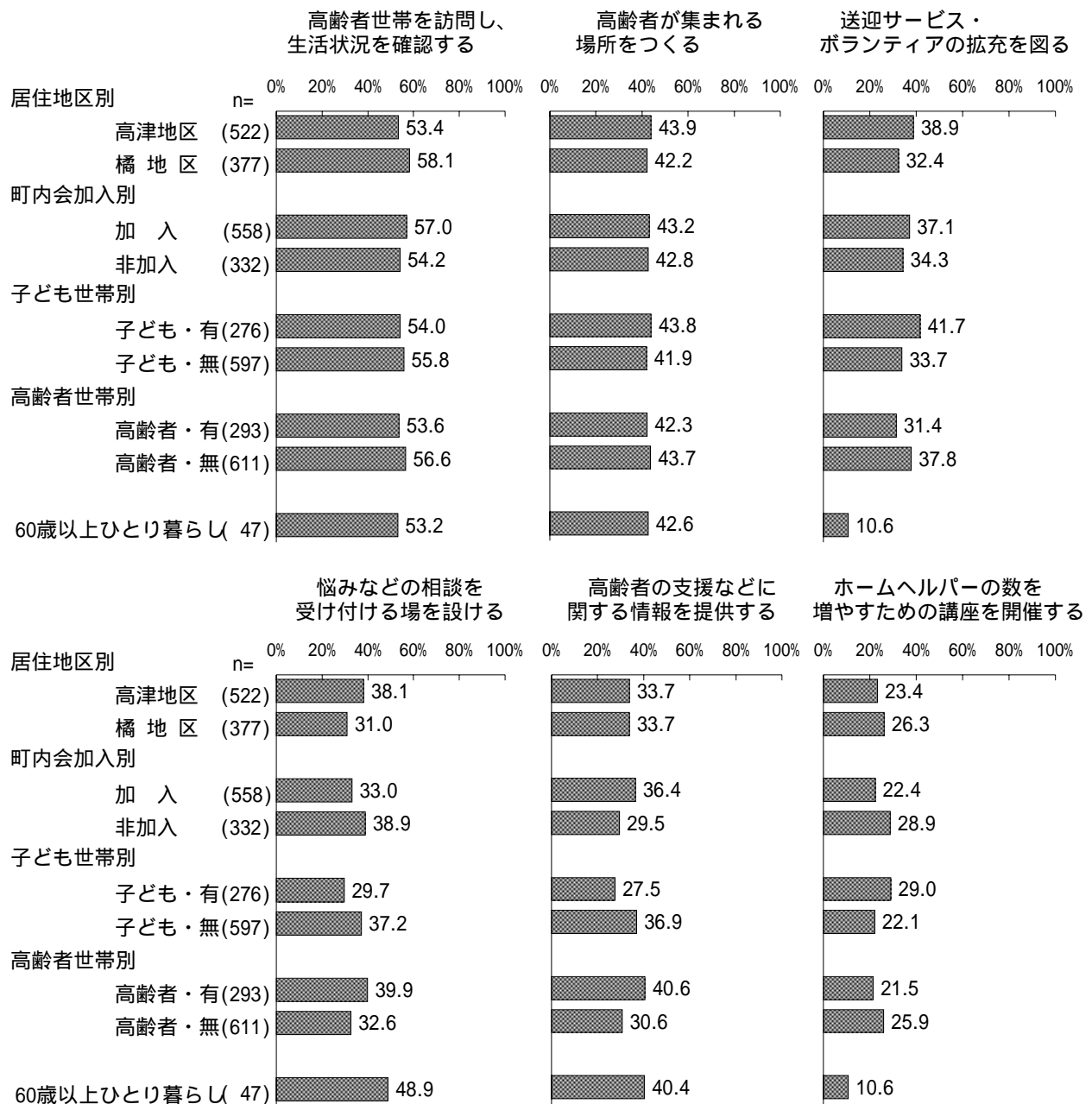
図 7 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



性別では、「高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する」で『男性』の方が『女性』よりも6.8ポイント高く、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」では『女性』の方が『男性』よりも6.2ポイント高くなっている。

性・年代別をみると、「高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する」では、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、『50歳代』（66.1%）と『60歳以上』（65.7%）は65%に達し他の年代と比較して高くなっている。「高齢者が集まれる場所をつくる」では、男性の『30歳代』（54.8%）と『20歳代』（50.0%）が50%に達し高くなっている。「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」では、女性の『20歳代』（46.2%）と男性の『60歳以上』（45.1%）が他の年代と比較して高い。また、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がある。「高齢者の支援などに関する情報を提供する」では、女性の『60歳以上』が51.5%と最も高く、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」では、男性の『20歳代』が38.1%と最も高く、男性は年代が上がるにつれて割合が小さくなる傾向がある。

図 7 - 3 居住地区 / 町会加入別 / 子ども世帯別 / 高齢者世帯別
(上位6項目)



居住地区別をみると、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」で7.1ポイント、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」では6.5ポイント『高津地区』が『橋地区』を上回っている。

町内会加入別では、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」で『加入』の方が『非加入』よりも6.9ポイント高く、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」で6.5ポイント、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」で5.9ポイント『非加入』の方が『加入』よりも高くなっている。

子ども世帯別では、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」で8.0ポイント、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」で6.9ポイント『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも高く、対して、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」では9.4ポイント、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」では7.5ポイント『子ども・無』の方が『子ども・有』よりも高くなっている。

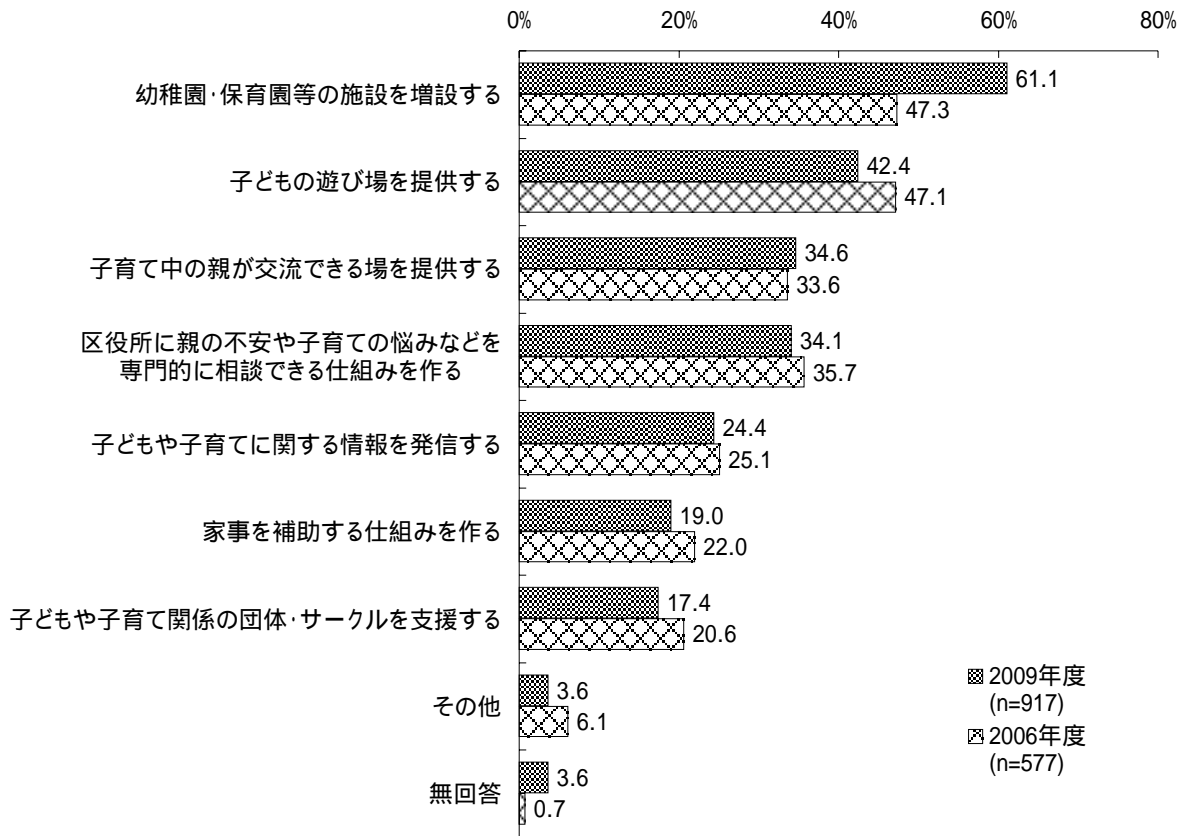
高齢者別では、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」で10.0ポイント、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」では7.3ポイント『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

60歳以上ひとり暮らし別では、「高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する」が53.2%と最も高く、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」(48.9%)、「高齢者が集まれる場所をつくる」(42.6%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(40.4%)の順で続いている。

(8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

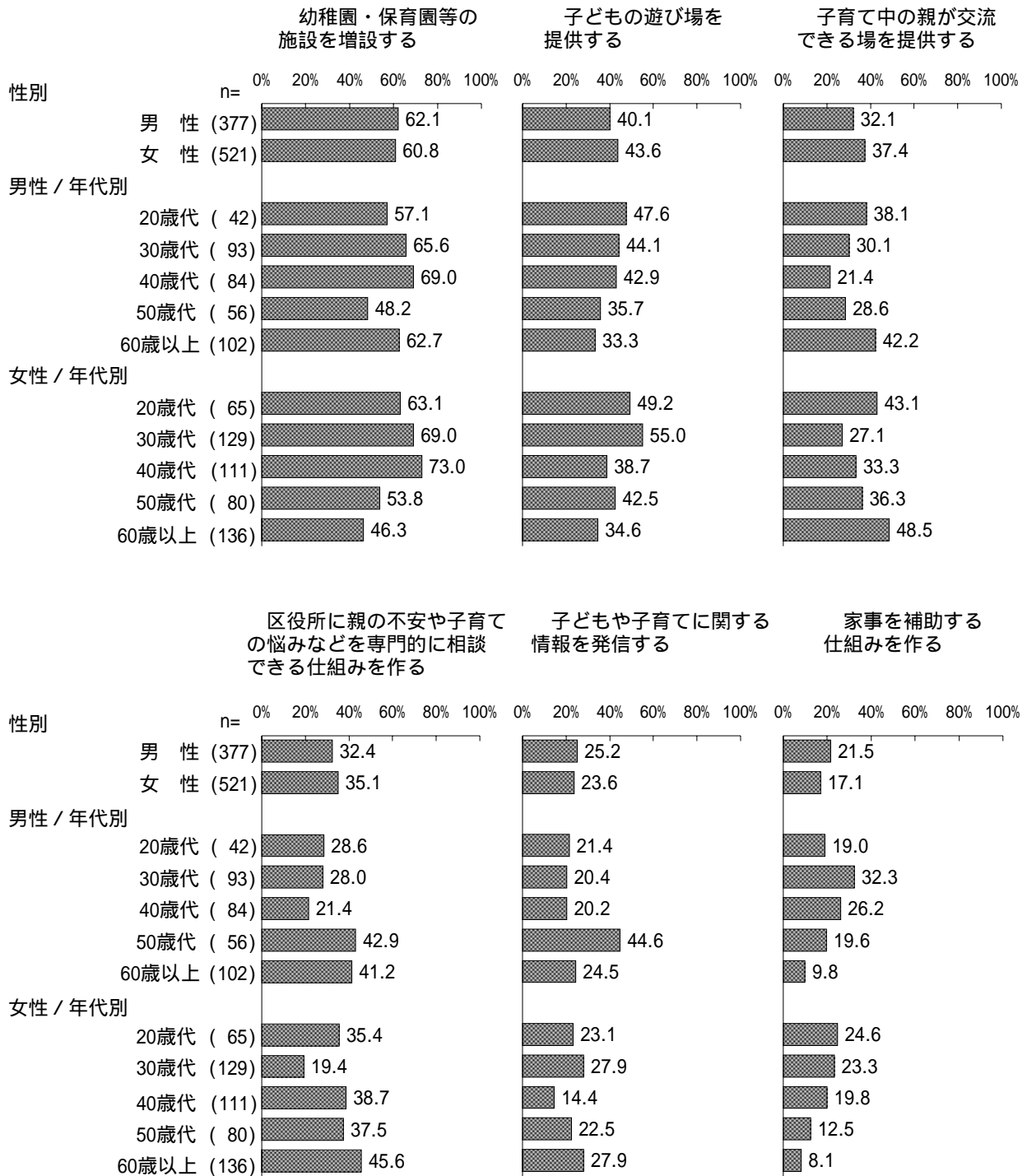
図 8 - 1



子育て支援については、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」が61.1%と最も高く、次いで「子どもの遊び場を提供する」(42.4%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(34.6%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(34.1%)、「子どもや子育てに関する情報を発信する」(24.4%)、「家事を補助する仕組みを作る」(19.0%)、「子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する」(17.4%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」で13.8ポイント増加している。「子どもの遊び場を提供する」では4.7ポイント、「子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する」で3.2ポイント2006年度より減少している。

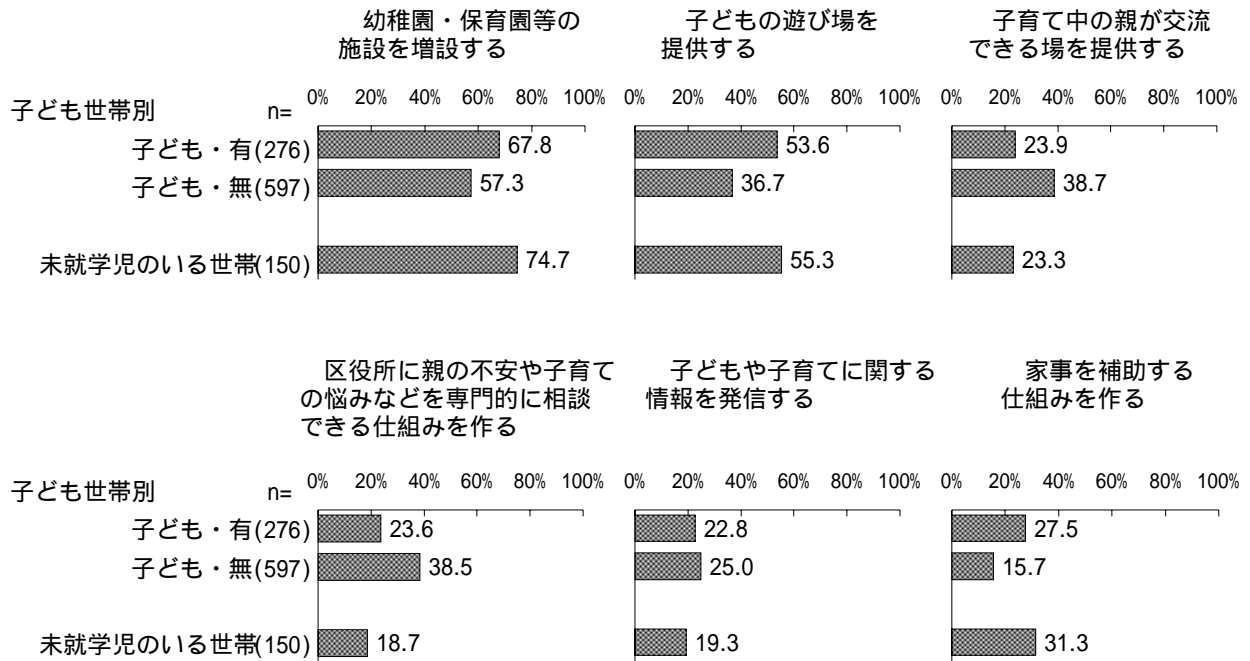
図 8 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



性別では、「子育て中の親が交流できる場を提供する」で5.3ポイント、「子どもの遊び場を提供する」で3.5ポイント『女性』の方が『男性』よりも高く、「家事を補助する仕組みを作る」では『男性』の方が『女性』よりも4.4ポイント高くなっている。

性・年代別では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」で男女ともに『20歳代』から『40歳代』で割合が大きく、なかでも女性『40歳代』が73.0%と最も高くなっている。「子どもの遊び場を提供する」では、男性は年齢が上がるにつれて割合が小さくなっている。女性は『30歳代』（55.0%）と『20歳代』（49.2%）が他の年齢層と比較して高くなっている。「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」では、女性『60歳以上』（45.6%）が最も高く、男性『50歳代』（42.9%）と『60歳以上』（41.2%）が続いている。「子どもや子育てに関する情報を発信する」では、男性『50歳代』が44.6%と最も高い。「家事を補助する仕組みを作る」では男女ともに年齢が上がるにつれて割合が小さくなる傾向がある。

図 8 - 3 子ども世帯別（上位6項目）



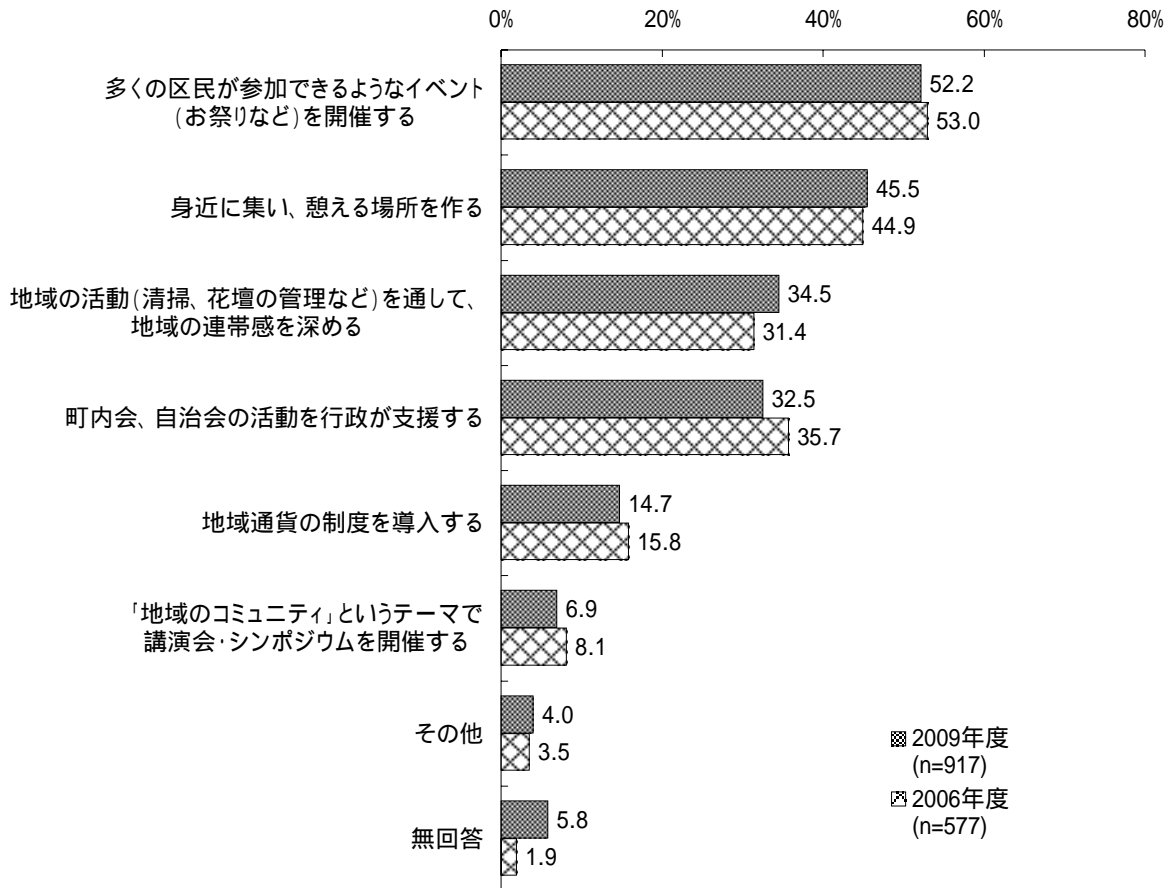
子ども世帯別では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」、「子どもの遊び場を提供する」、「家事を補助する仕組みを作る」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも高くなっている。

未就学児のいる世帯では、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」が74.7%と最も高く、「子どもの遊び場を提供する」（55.3%）、「家事を補助する仕組みを作る」（31.3%）と続いている。

(9) 地域住民のつながりを深める手法

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

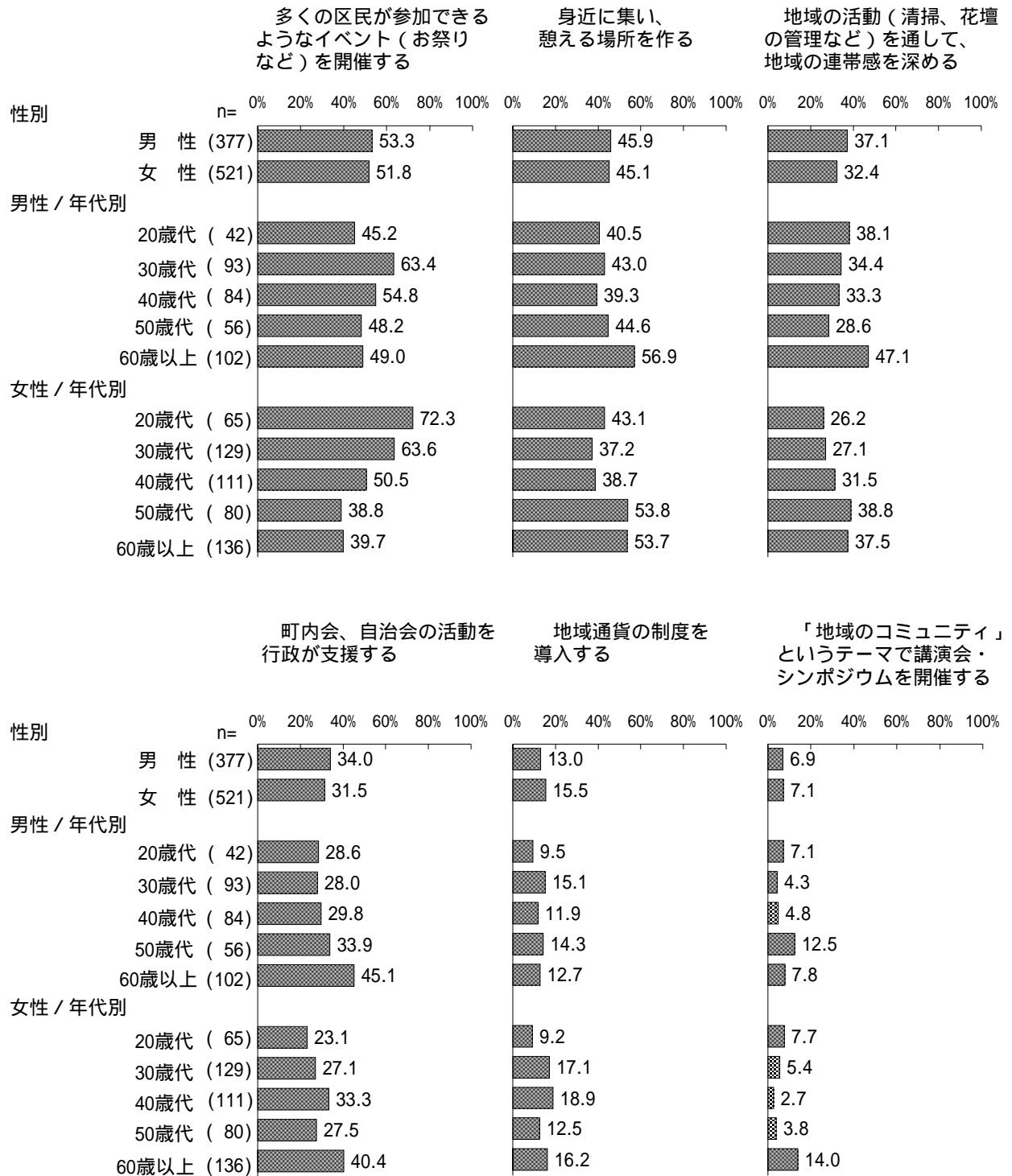
図 9 - 1



地域住民のつながりを深める手法では、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」が52.2%と最も高い。次いで、「身近に集い、憩える場所を作る」（45.5%）、「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」（34.5%）、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」（32.5%）、「地域通貨の制度を導入する」（14.7%）、「『地域のコミュニティ』というテーマで講演会・シンポジウムを開催する」（6.9%）の順となっている。

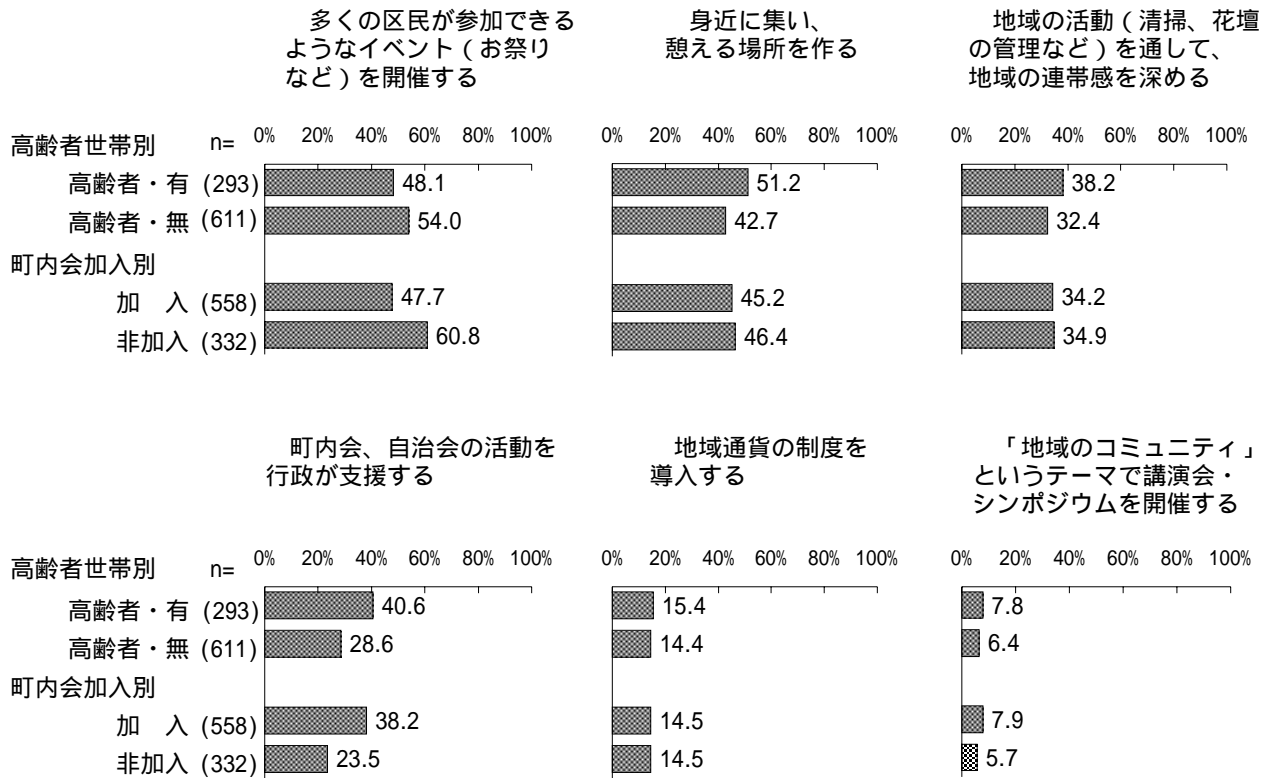
2006年度と比較して、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」で3.2ポイント減少し、「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」では3.1ポイント増加している。その他では特に大きな変化はない。

図 9 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別では、「多くの区民が参加できるようなイベント（お祭りなど）を開催する」で女性の『20歳代』が72.3%と最も高く、女性においては、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がある。「身近に集い、憩える場所を作る」では、男性の『60歳以上』と女性の『50歳代』、『60歳以上』で50%を超えて他の年代と比較して高くなっている。「地域の活動（清掃、花壇の管理など）を通して、地域の連帯感を深める」では、男性の『60歳以上』が47.1%と他の年代と比較して高く、女性では年代が上がるにつれて割合が上昇する傾向がある。「町内会、自治会の活動を行政が支援する」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、男女とも『60歳以上』で40%に達し、なかでも男性は45.1%と最も高くなっている。

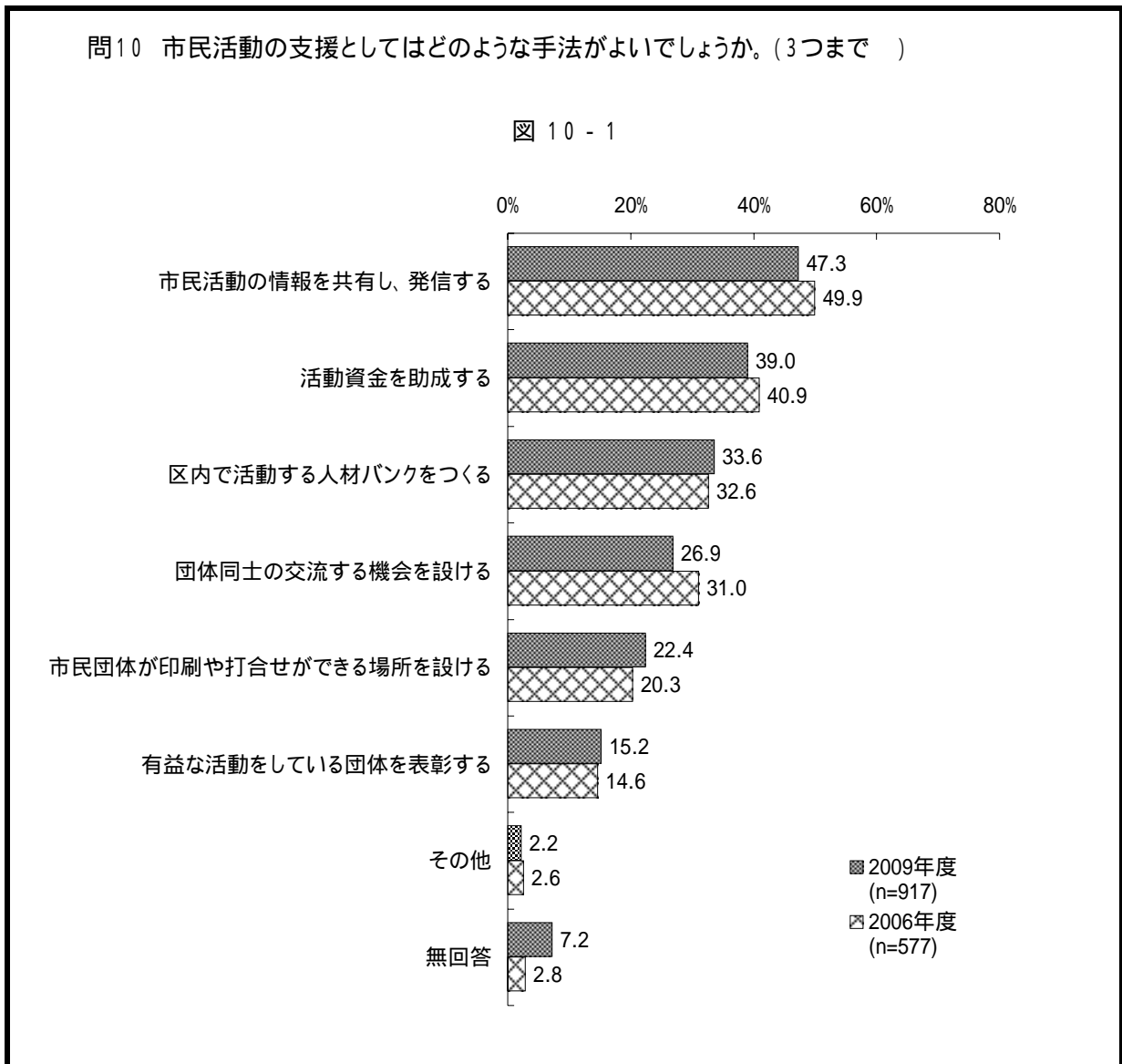
図 9 - 3 高齢者世帯別 / 町内会加入別



高齢者世帯別では、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」で12.0ポイント、「身近に集い、憩える場所を作る」で8.5ポイント、「地域の活動(清掃、花壇の管理など)を通して、地域の連帯感を深める」で5.8ポイント『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」では『高齢者・無』の方が『高齢者・有』よりも5.9ポイント高くなっている。

町内会加入別では、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」で『加入』が14.7ポイント『非加入』よりも高く、「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」では『非加入』の方が『加入』よりも13.1ポイント高くなっている。

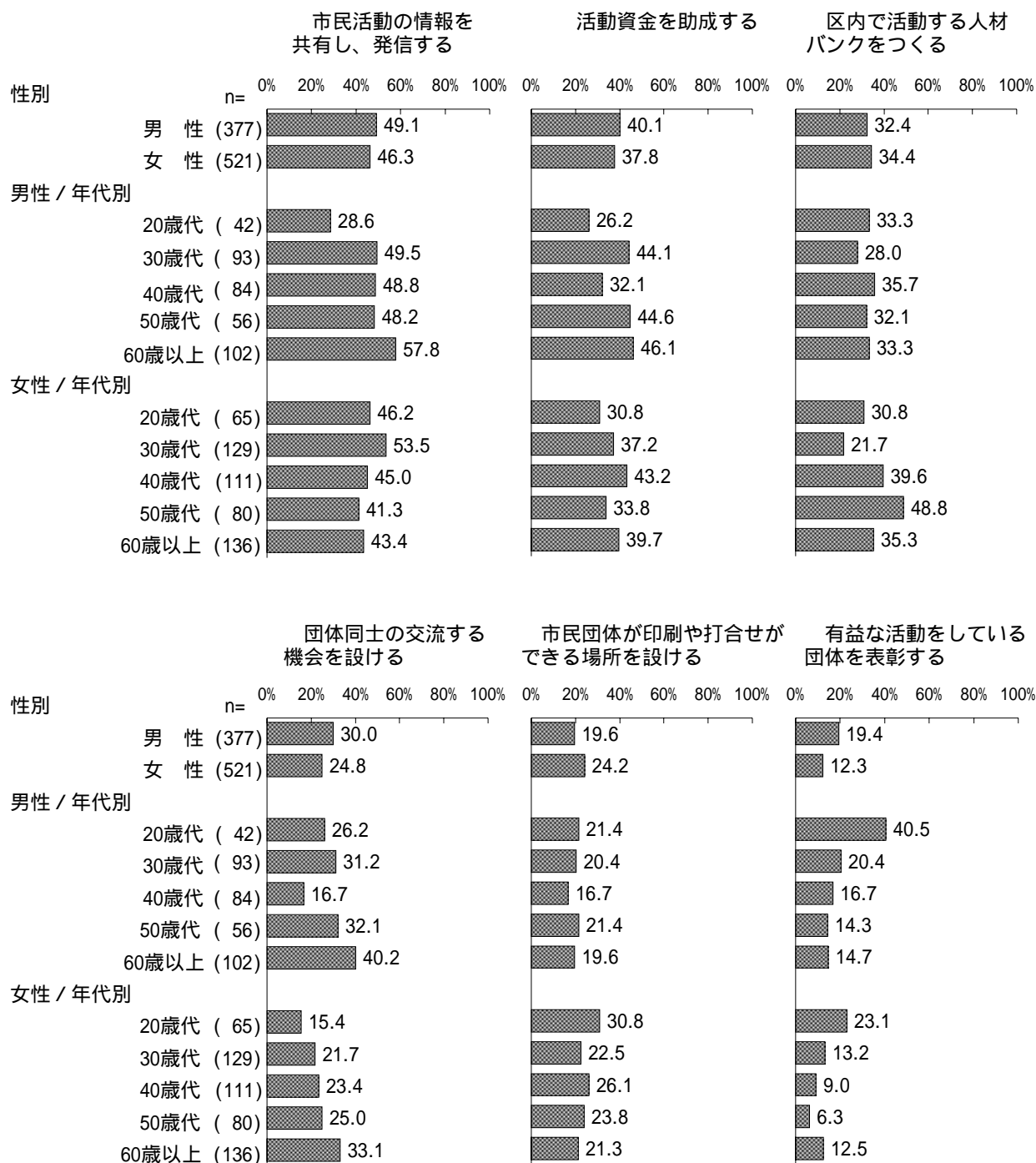
(10) 市民活動支援



市民活動支援については、「市民活動の情報を共有し、発信する」が47.3%と最も高く、次いで、「活動資金を助成する」(39.0%)、「区内で活動する人材バンクをつくる」(33.6%)、「団体同士の交流する機会を設ける」(26.9%)、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」(22.4%)、「有益な活動をしている団体を表彰する」(15.2%)の順となっている。

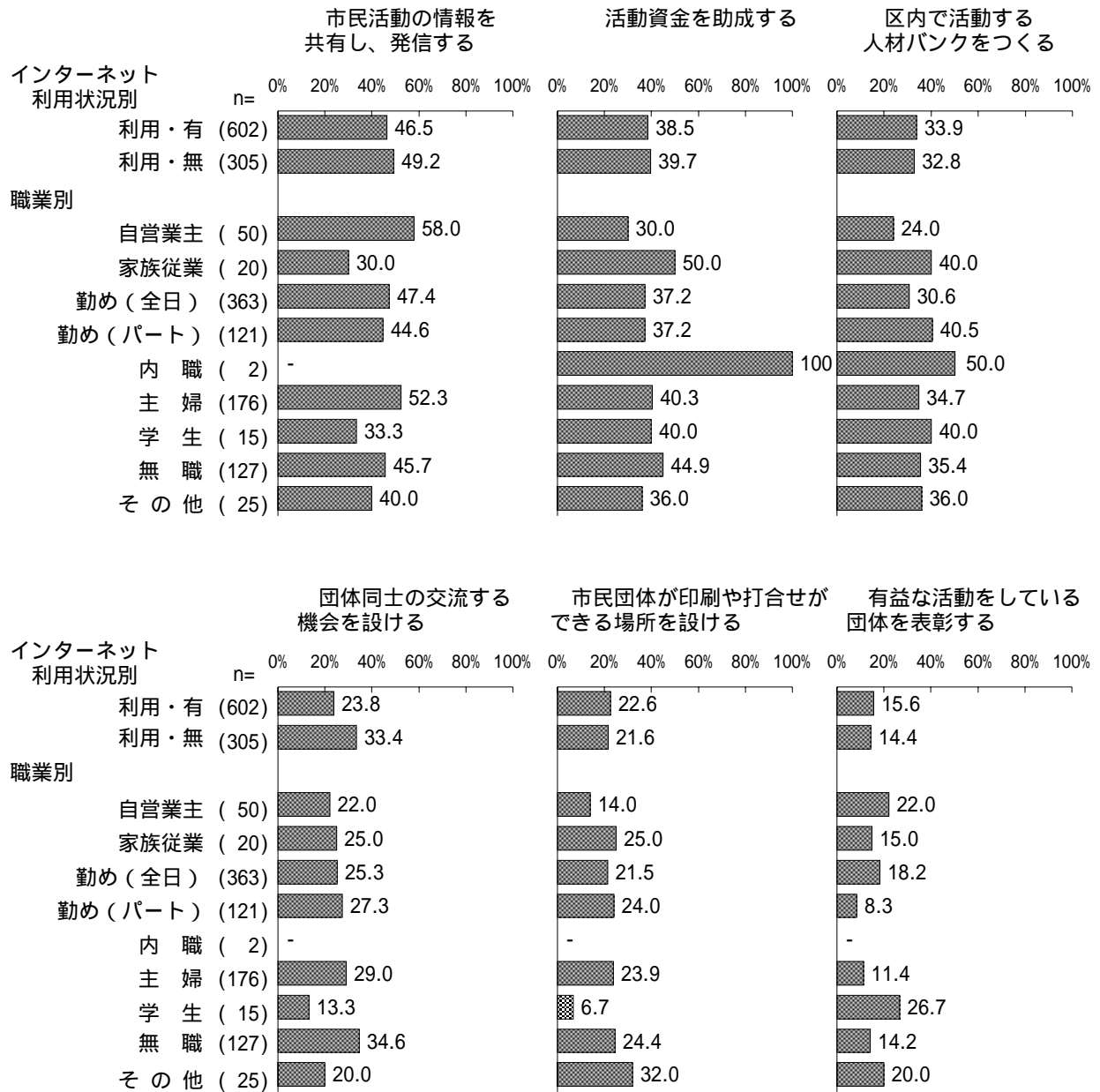
2006年度と比較して、「団体同士の交流する機会を設ける」で4.1ポイント減少した他は特に大きな変化はない。

図 10 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「市民活動の情報を共有し、発信する」で男性の『60歳以上』（57.8%）と女性の『30歳代』（53.5%）で50%を超えて、他の年代と比較して高い。「団体同士の交流する機会を設ける」では、男性の『60歳以上』が40.2%と最も高く、女性においては、年代が上がるにつれて割合も高くなっている。「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」では、女性の『20歳代』が30.8%と他の年代と比較して高く、女性においては年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がある。「有益な活動をしている団体を表彰する」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向があり、男性の『20歳代』が40.5%と他の年代と比較して高くなっている。

図 10 - 3 インターネット利用状況別 / 職業別



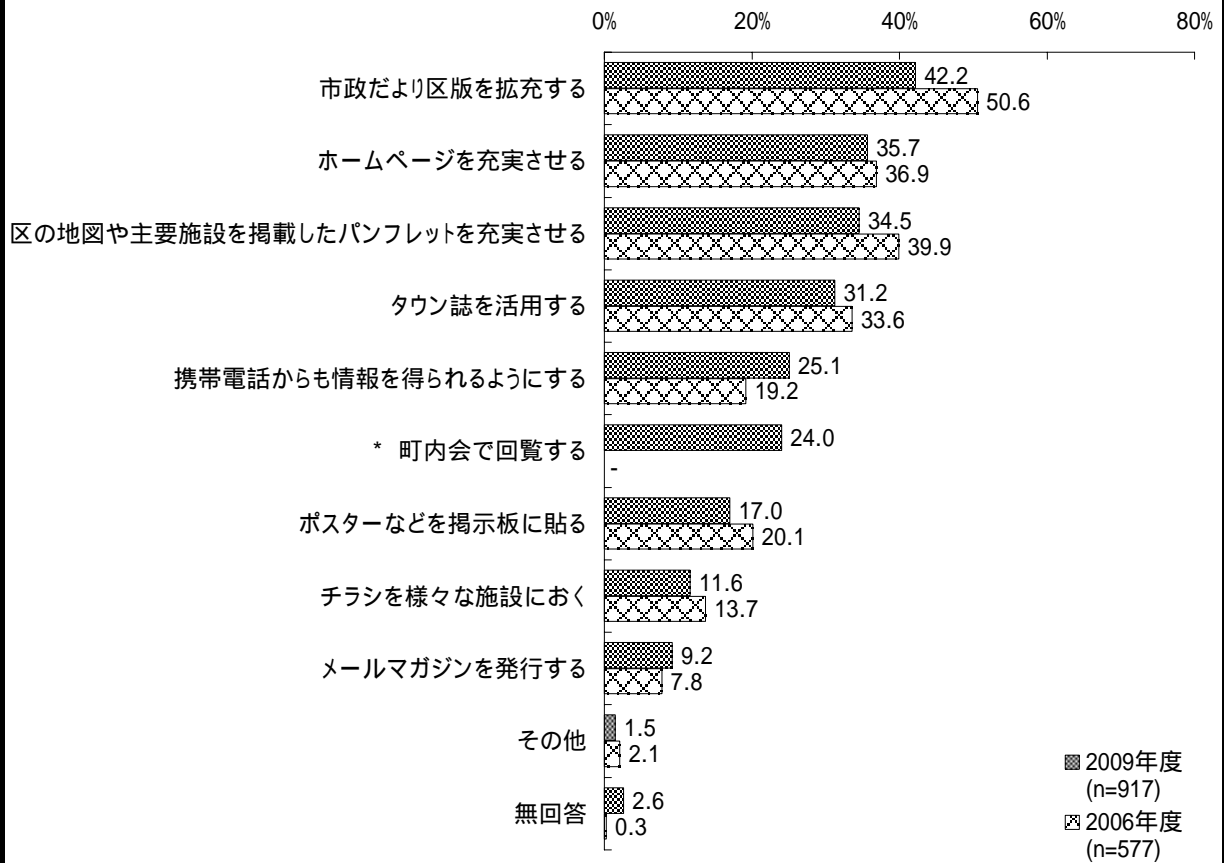
インターネット利用状況別では、「団体同士の交流する機会を設ける」で『利用・無』の方が『利用・有』よりも9.6ポイント高い他は特に大きな差はない。

職業別では、「市民活動の情報を共有し、発信する」で『自営業主』（58.0%）と『主婦』（52.3%）が50%を超え、他の職業と比較して高くなっている。

(1 1) 区の情報提供

問11 区の情報を提供するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 11 - 1

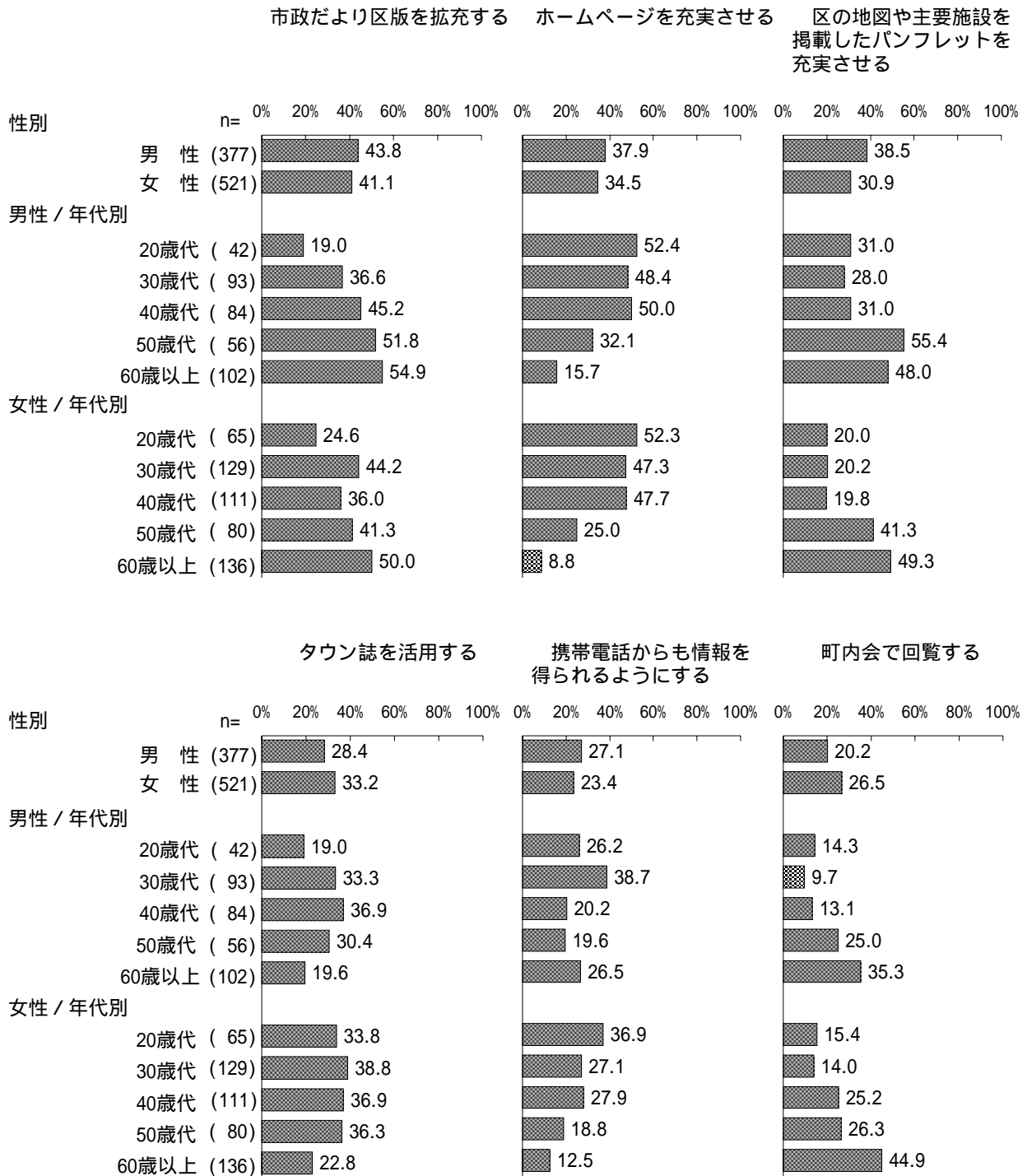


* 「町内会で回覧する」は2009年度から実施

区の情報提供については、「市政だより区版を拡充する」が42.2%で最も高かった。次いで「ホームページを充実させる」(35.7%)、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(34.5%)、「タウン誌を活用する」(31.2%)、「携帯電話からも情報を得られるようにする」(25.1%)、「町内会で回覧する」(24.0%)、「ポスターなどを掲示板に貼る」(17.0%)、「チラシを様々な施設におく」(11.6%)、「メールマガジンを発行する」(9.2%)の順となっている。

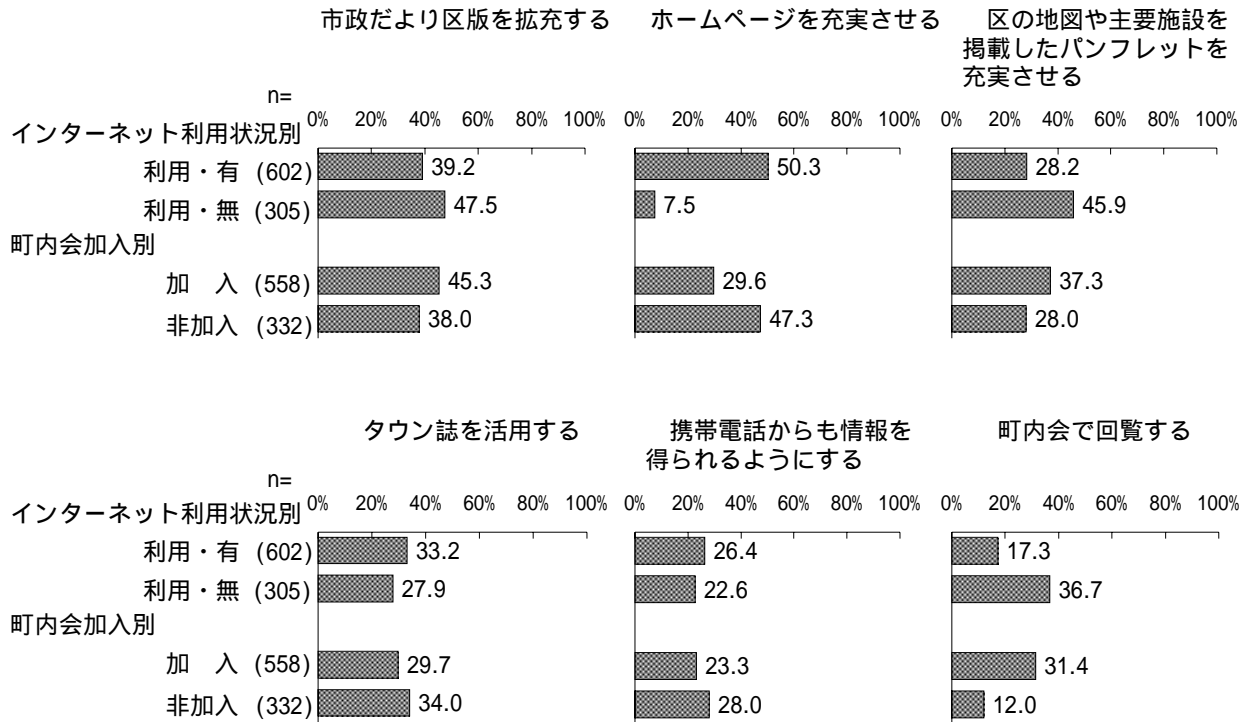
2006年度と比較すると、「ホームページを充実させる」と「携帯電話からも情報を得られるようにする」では順位が上がっているが、その他の項目に関しては大きな順位の変動は見受けられない。

図 11 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



性・年代別をみると、「市政だより区版を拡充する」では男女ともに年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、男性の『50歳代』（51.8%）、『60歳以上』（54.9%）と女性の『60歳以上』（50.0%）で50%に達し高くなっている。「ホームページを充実させる」では、『男性』の方が『女性』よりも3.4ポイント高く、性・年代別では男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向があり、男女とも『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』は50%前後に達し高くなっている。「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」では、『男性』の方が『女性』よりも7.6ポイント高く、性・年代別では男女ともに『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』が低く、『50歳代』、『60歳以上』が40%を超えて高くなっている。なかでも男性の『50歳代』は55.4%と最も高い。「携帯電話からも情報を得られるようにする」では、女性は年代が上がるにつれて割合が下がる傾向がある。「町内会で回覧する」をみると、性別では『女性』の方が『男性』よりも6.3ポイント高く、性・年代別では男女ともに年代が上がるにつれて割合も高くなる傾向があり、女性の『60歳以上』が44.9%と最も高くなっている。

図 11 - 3 インターネット利用状況別 / 町内会加入別(上位6項目)



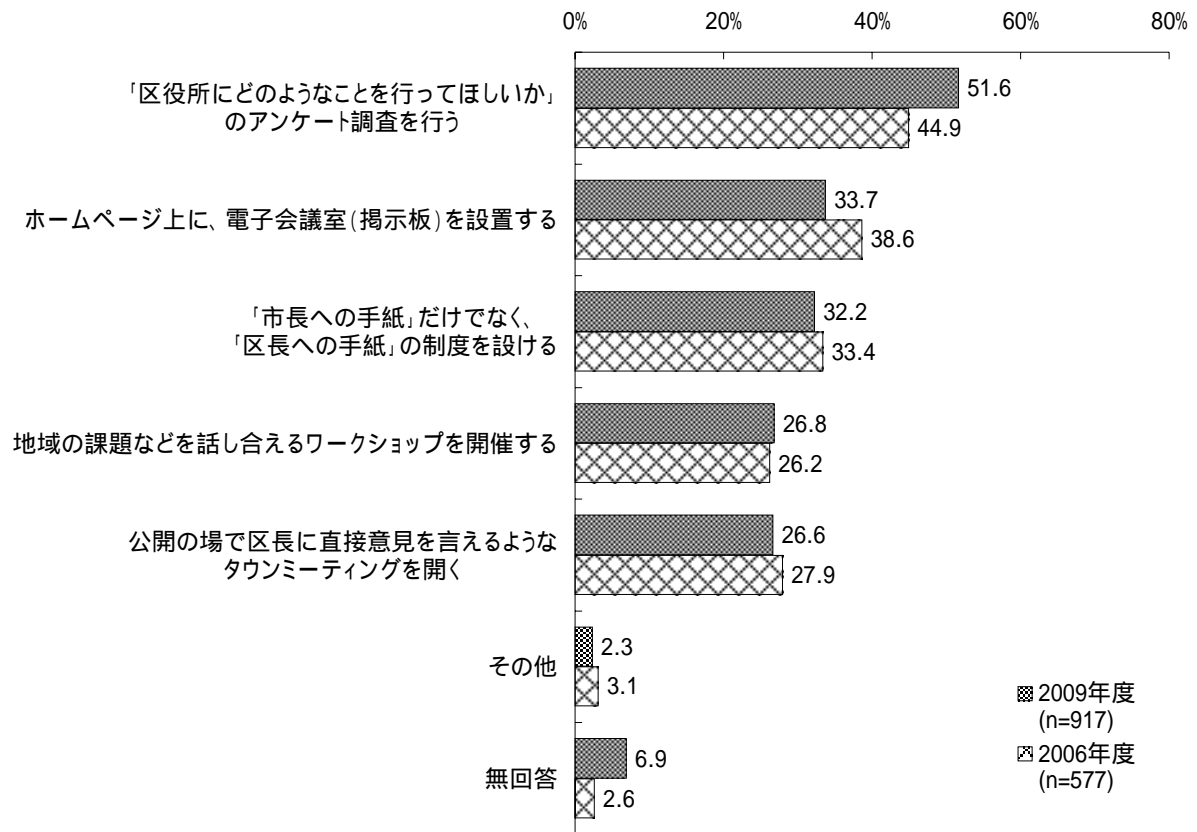
インターネット利用状況別では、「ホームページを充実させる」で『利用・有』が50%に達し高く、「町内会で回覧する」、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」、「市政だより区版を拡充する」では、『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。

町内会加入別では、「町内会で回覧する」、「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」、「市政だより区版を拡充する」でそれぞれ19.4ポイント、9.3ポイント、7.3ポイント『加入』が『非加入』よりも高い。一方、「ホームページを充実させる」、「携帯電話からも情報を得られるようにする」、「タウン誌を活用する」でそれぞれ17.7ポイント、4.7ポイント、4.3ポイント『非加入』が『加入』よりも高くなっている。

(1 2) 区民の要望収集

問12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

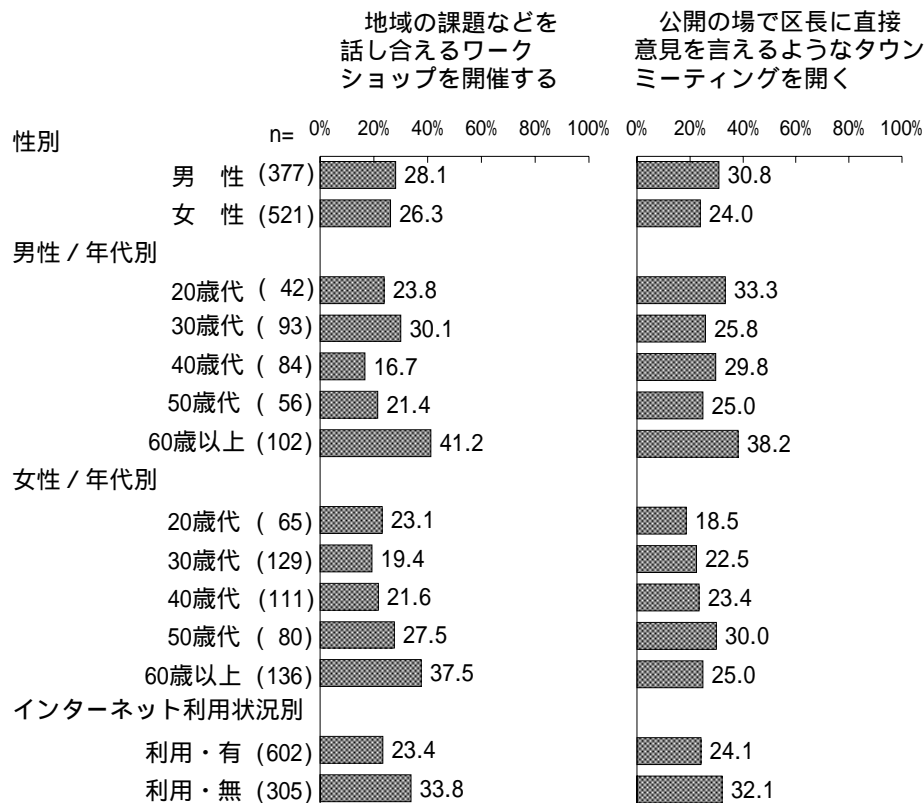
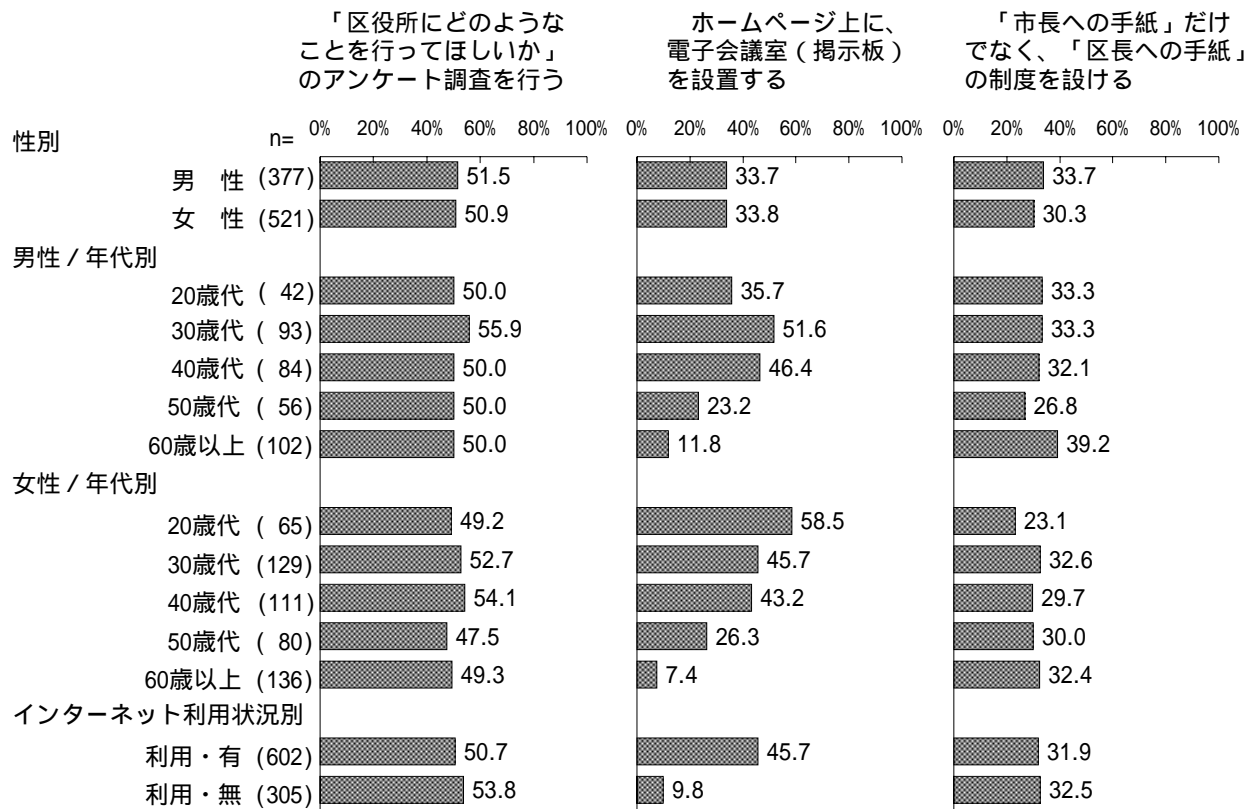
図 12 - 1



区民の要望収集については、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」が51.6%と最も高くなっている。次いで、「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する(33.7%)」、「『市長への手紙』だけでなく、『区長への手紙』の制度を設ける」(32.2%)、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」(26.8%)、「公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く」(26.6%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」で6.7ポイント増加し、「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する」では4.9ポイント減少している。順位の変動に関しては「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」の順位が1つ上がり、「公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く」が1つ下がったほかは、3年前と比較して順位の変動はない。

図 12 - 2 性別 / 性年代別 / インターネット利用状況



性・年代別をみると、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」で男女とも年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向があり、なかでも女性の『20歳代』が58.5%と最も高くなっている。

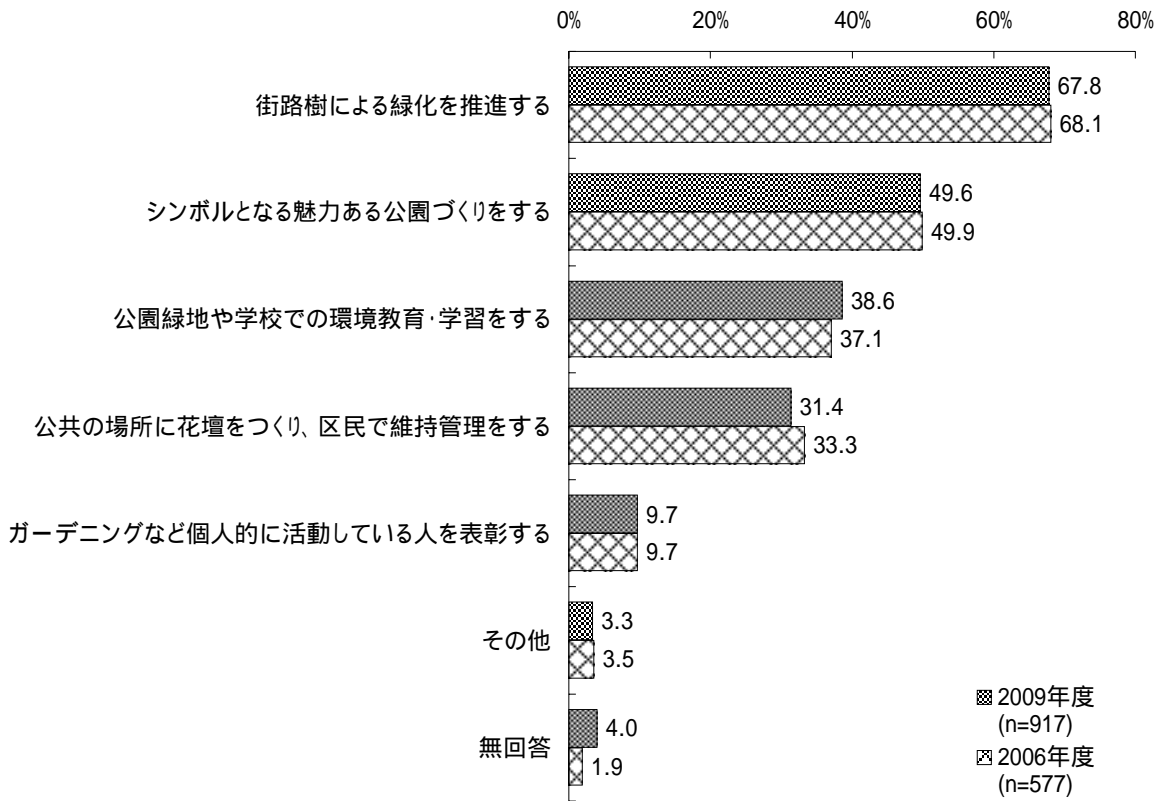
「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」では、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、男性の『60歳以上』が41.2%と最も高かった。

インターネット利用状況別では、「ホームページ上に、電子会議室（掲示板）を設置する」で『利用・有』が『利用・無』よりも35.9ポイント高くなっている。「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」では10.4ポイント、「公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く」では8.0ポイント『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。

(13) 花と緑のまちづくり推進

問13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで)

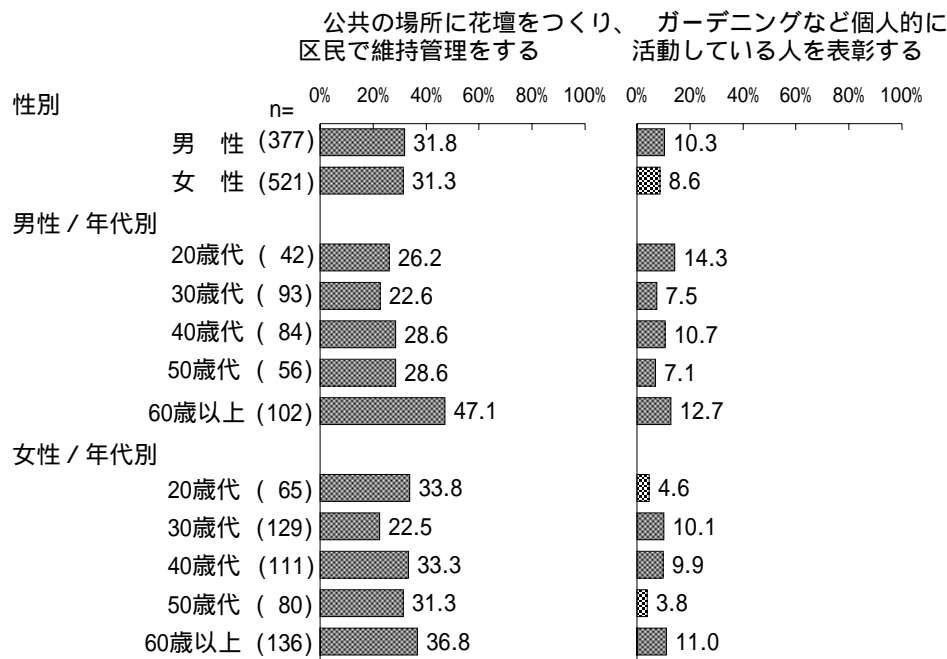
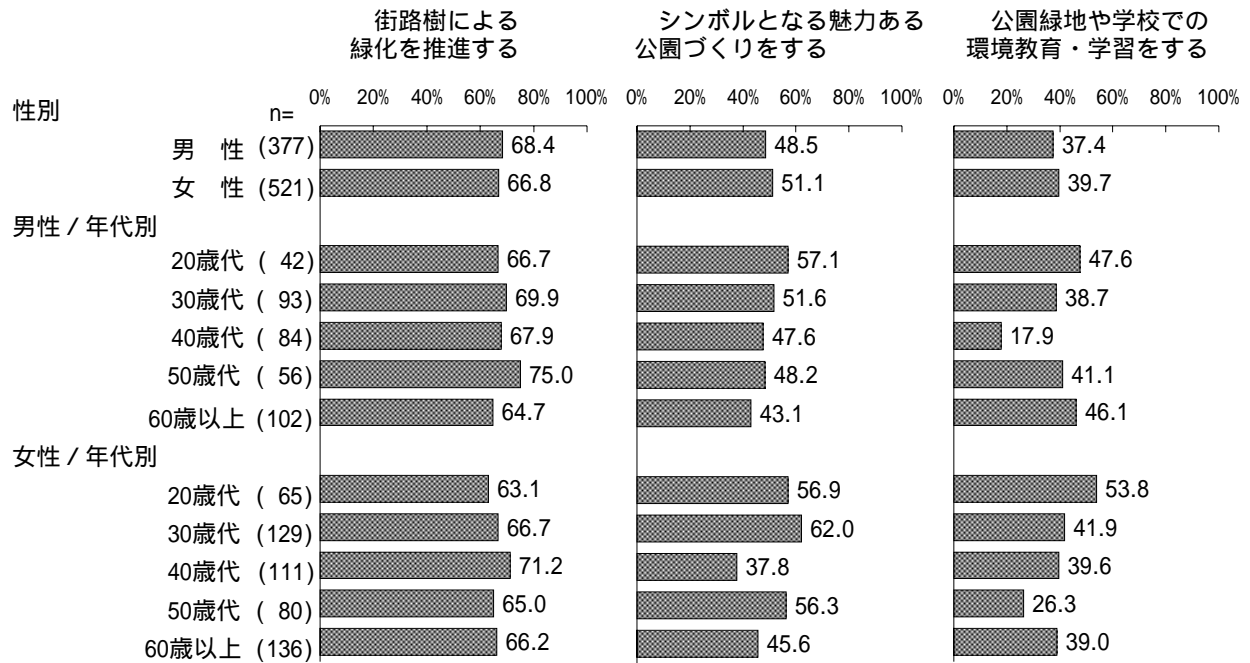
図 13 - 1



花と緑のまちづくり推進については、「街路樹による緑化を推進する」が67.8%で最も高い。次いで、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(49.6%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(38.6%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(31.4%)、「ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する」(9.7%)の順となっている。

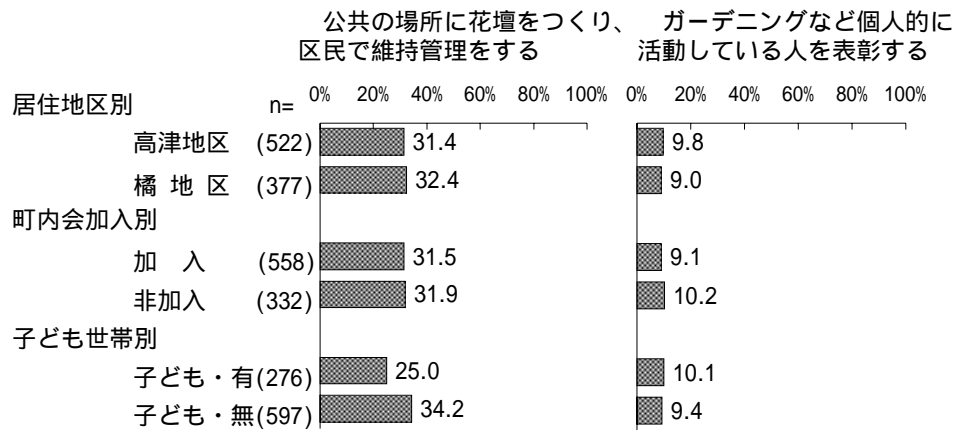
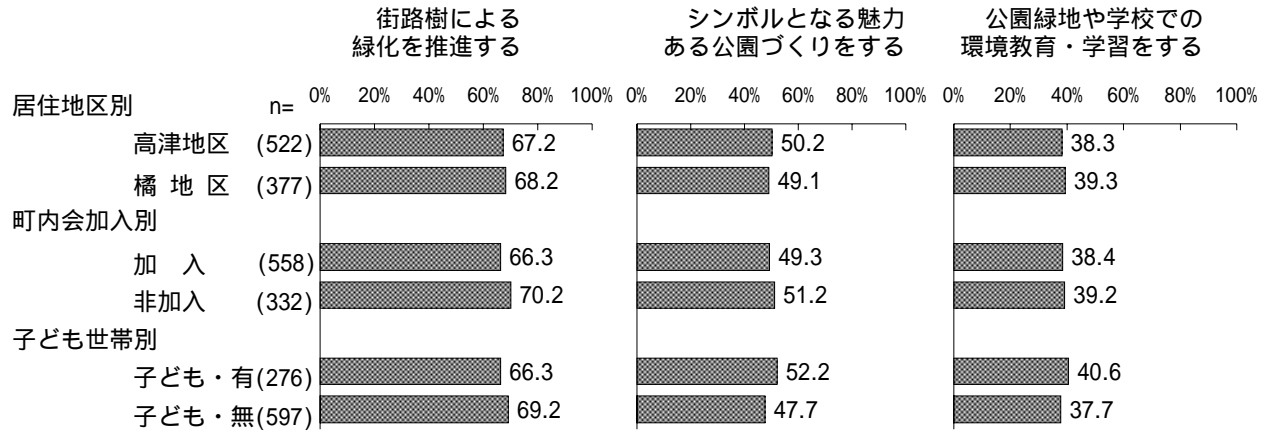
2006年度と比較して、特に大きな変化はない。

図 13 - 2 性別 / 性年代別



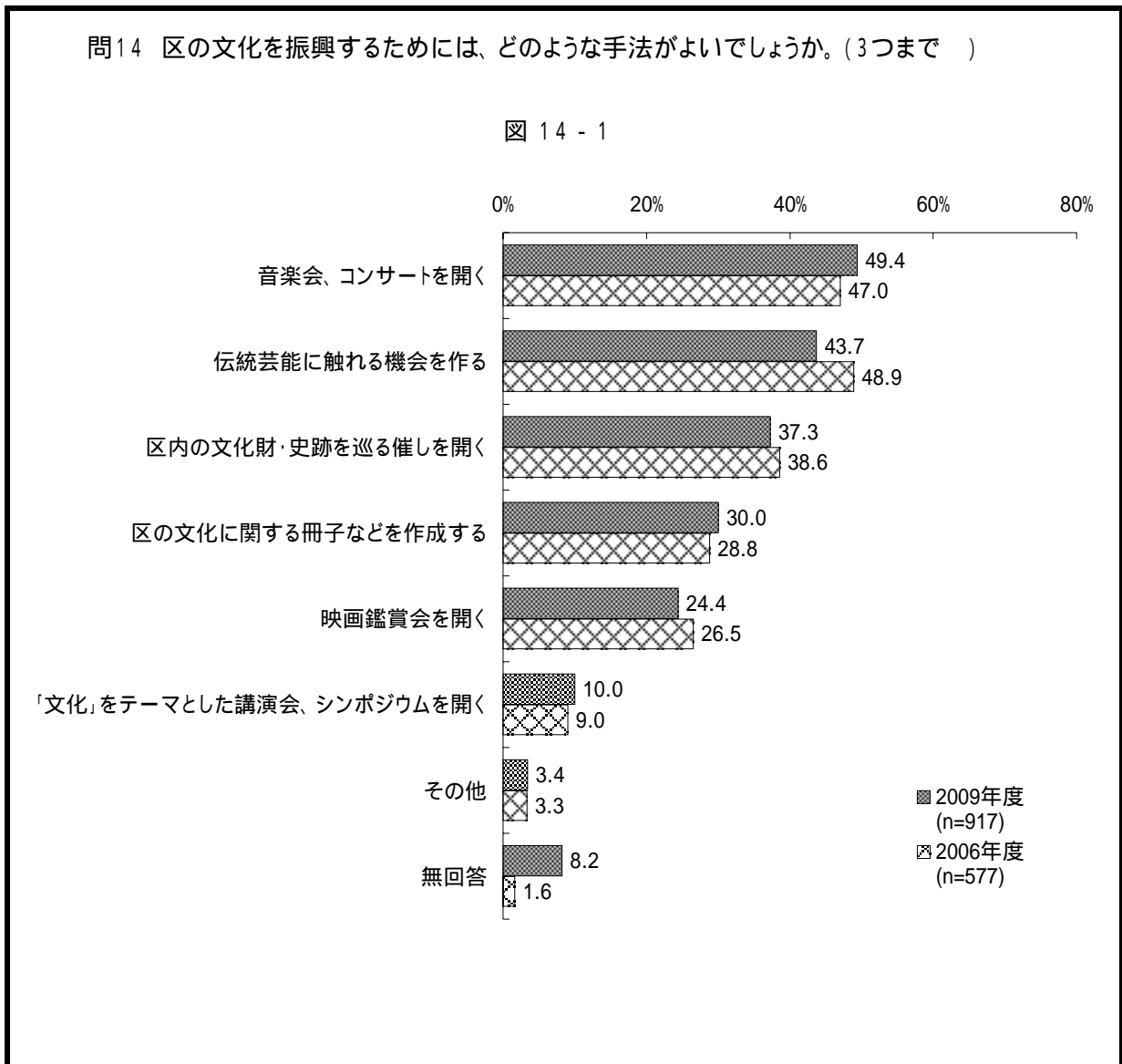
性・年代別をみると、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」では、女性は年代が上がるにつれて割合が小さくなる傾向があり、女性の『20歳代』が53.8%と最も高くなっている。「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」では男性の『60歳以上』が47.1%と他の年代と比較して高くなっている。

図 13 - 3 居住地域別 / 町会加入別 / 子ども世帯別



子ども世帯別では、「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」で『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも4.5ポイント高く、対して、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」では『子ども・無』の方が『子ども・有』よりも9.2ポイント高くなっている。

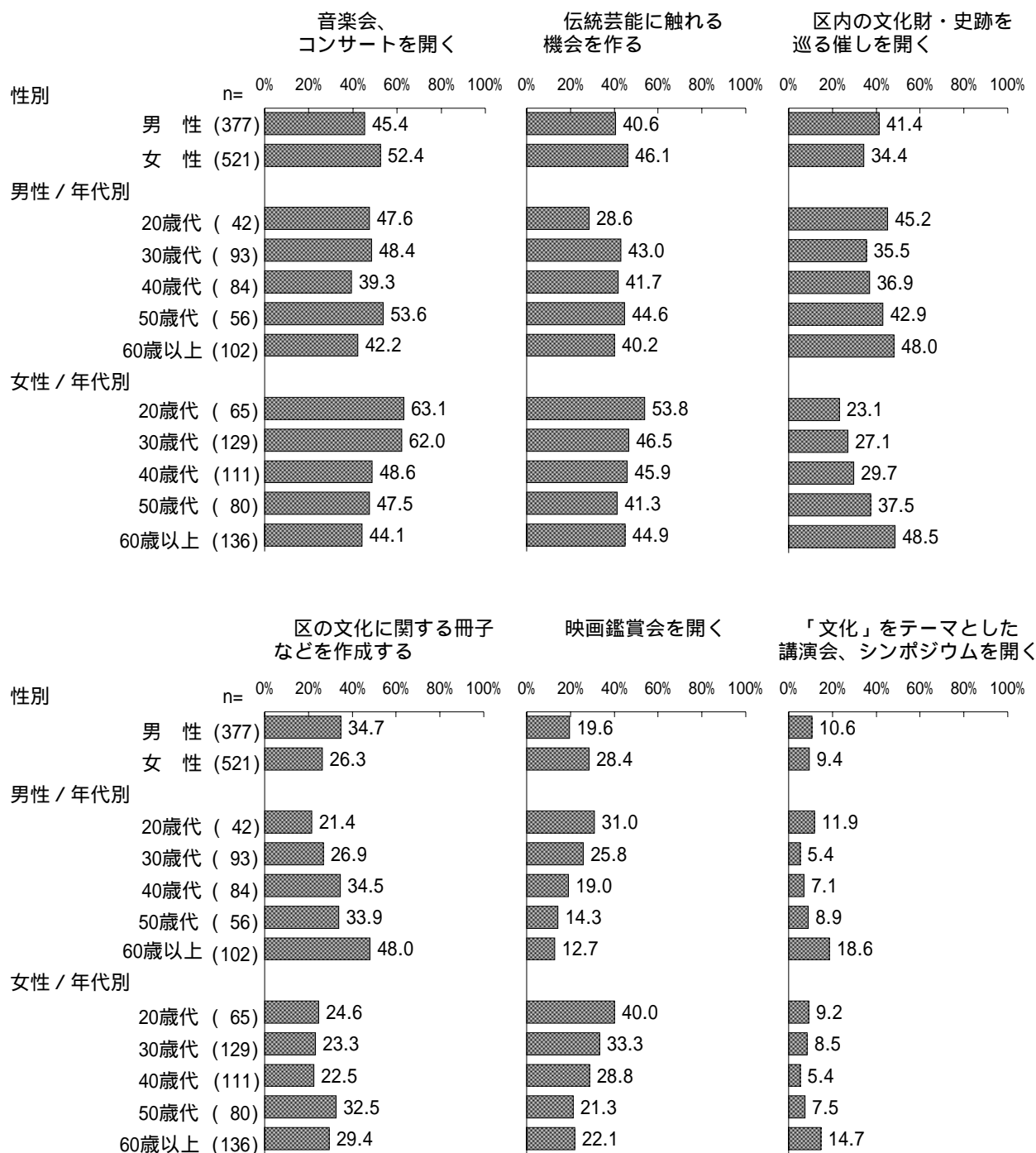
(14) 区の文化の振興



区の文化の振興については、「音楽会、コンサートを開く」が49.4%、次いで、「伝統芸能に触れる機会を作る」(43.7%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(37.3%)、「区の文化に関する冊子などを作成する」(30.0%)、「映画鑑賞会を開く」(24.4%)、「『文化』をテーマとした講演会、シンポジウムを開く」(10.0%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「伝統芸能に触れる機会を作る」では5.2ポイント減少し、順位が1つ下がったほかは特に大きな変化はない。

図 14 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「音楽会、コンサートを開く」では『女性』の方が『男性』よりも7.0ポイント高く、特に女性の『20歳代』（63.1%）と『30歳代』（62.0%）で60%を超えて他の年代と比較して高くなっている。

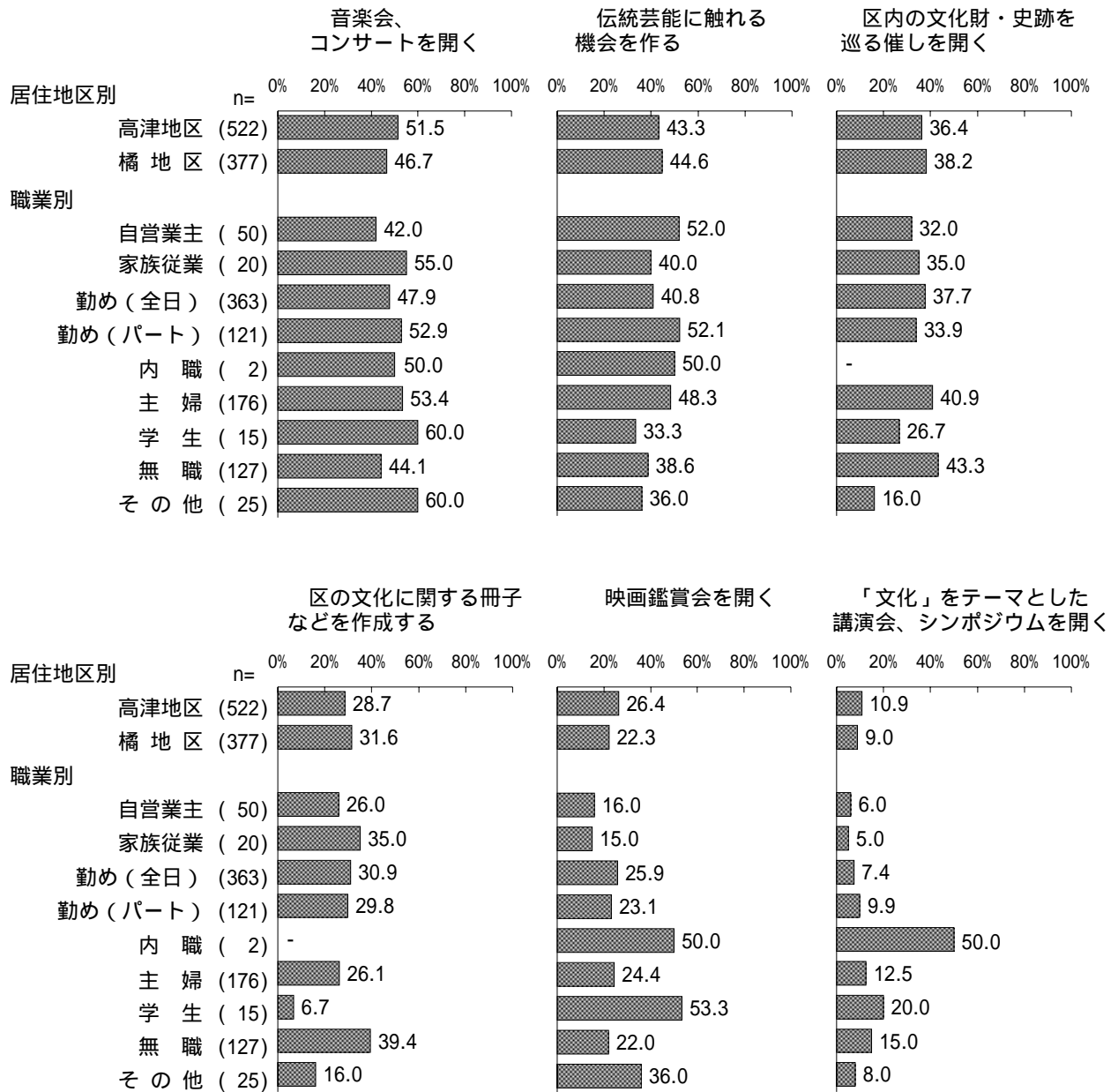
「伝統芸能に触れる機会を作る」では、『女性』の方が『男性』よりも5.5ポイント高く、女性の『20歳代』が53.8%と最も高くなっている。

「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」では『男性』の方が『女性』よりも7.0ポイント高く、女性においては年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

「区の文化に関する冊子などを作成する」では『男性』の方が『女性』よりも8.4ポイント高く、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

「映画鑑賞会を開く」では『女性』の方が『男性』よりも8.8ポイント高く、男女ともに年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向があり、女性の『20歳代』が40.0%と最も高くなっている。

図 14 - 3 居住地区別 / 職業別



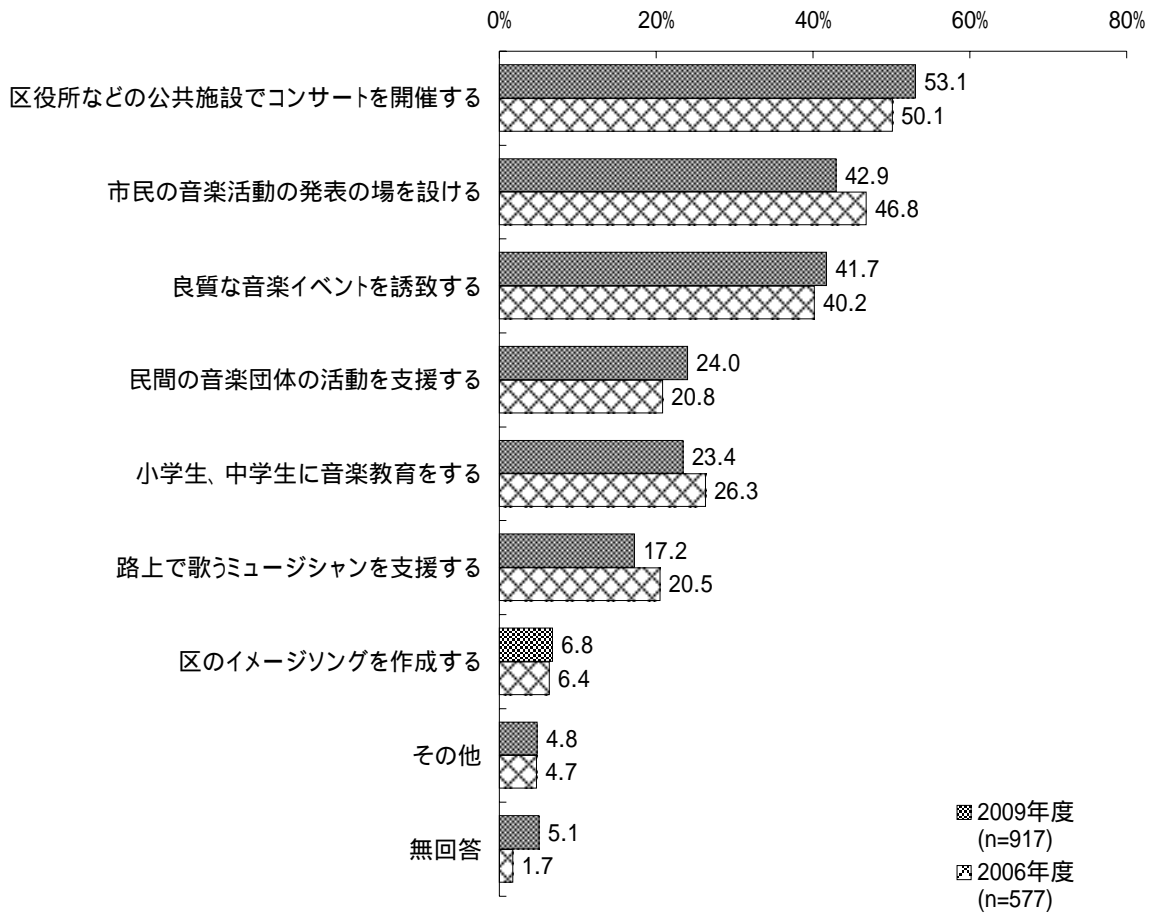
居住地区別では、「音乐会、コンサートを開く」で4.8ポイント、「映画鑑賞会を開く」で4.1ポイント『高津地区』の方が『橘地区』よりも高くなっている。

職業別では、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」で『無職』（43.3%）と『主婦』（40.9%）が他の職業と比較して高くなっている。

(15) 「音楽のまち」推進

問15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

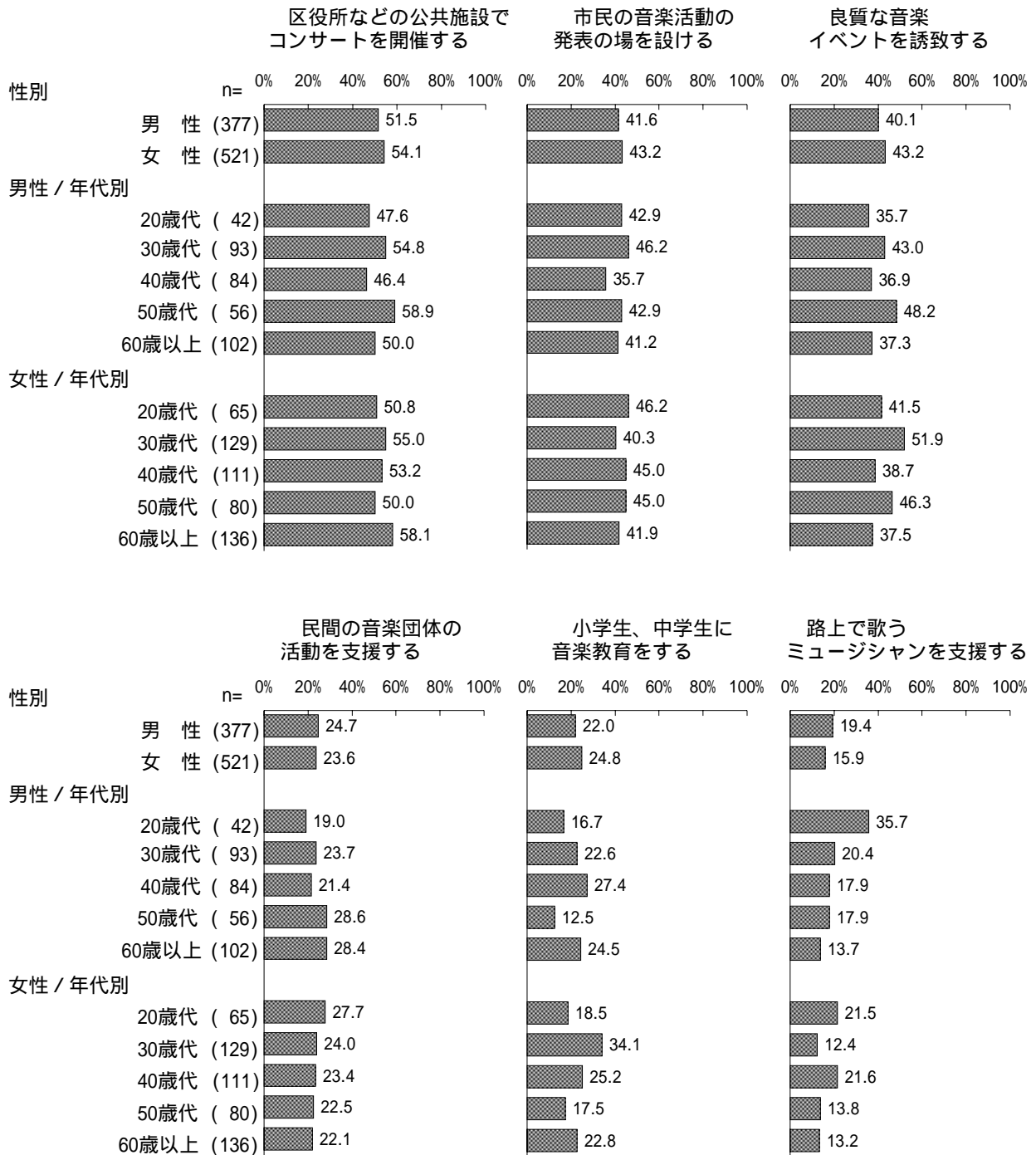
図 15 - 1



「音楽のまち」推進については、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」が53.1%と最も高く、次いで、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(42.9%)、「良質な音楽イベントを誘致する」(41.7%)、「民間の音楽団体の活動を支援する」(24.0%)、「小学生、中学生に音楽教育をする」(23.4%)、「路上で歌うミュージシャンを支援する」(17.2%)、「区のイメージソングを作成する」(6.8%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」で3.9ポイント減少し、「民間の音楽団体の活動を支援する」では3.2ポイント増加している。

図 15 - 2 性別 / 性年代別 (上位6項目)



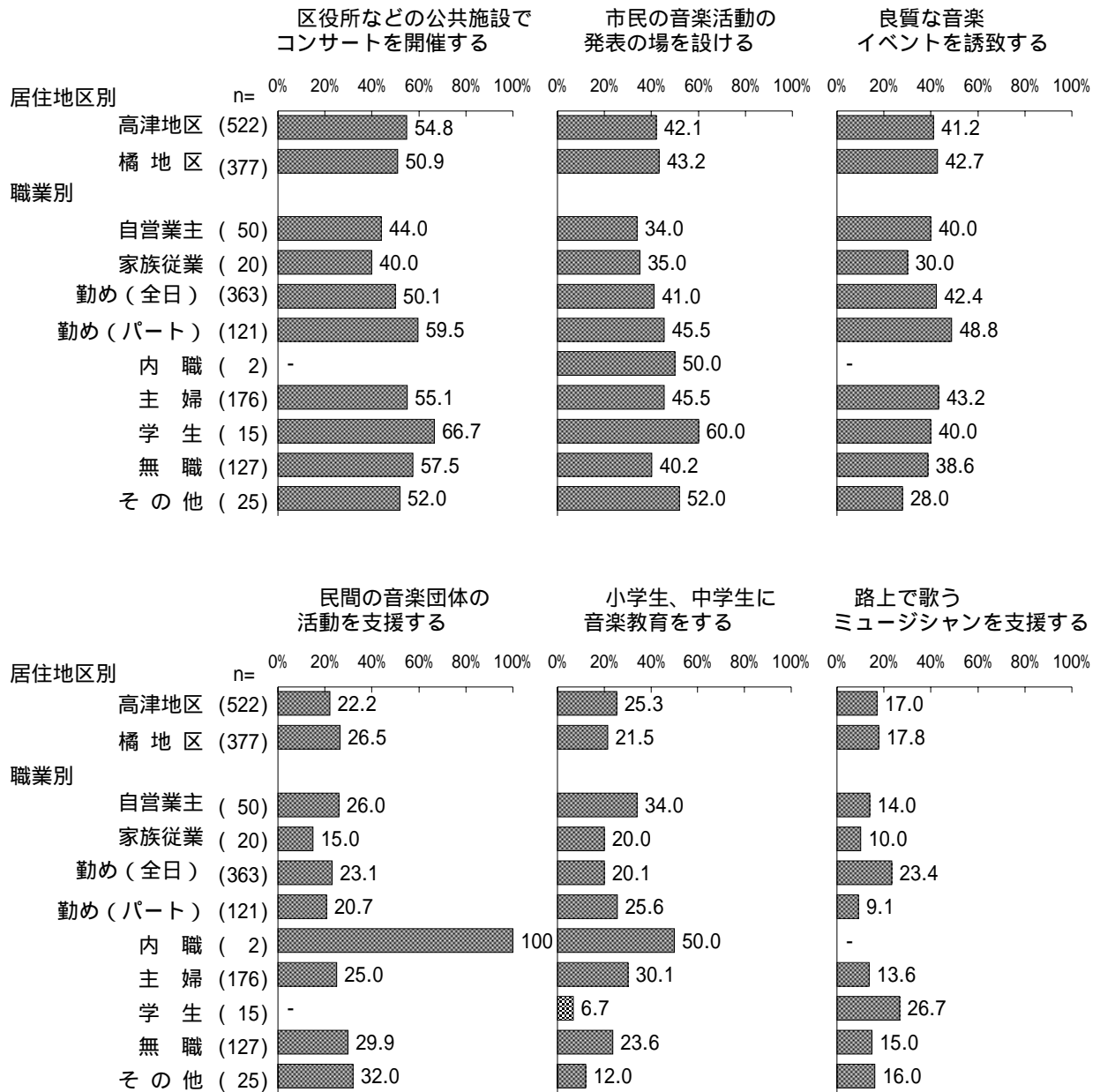
性・年代別では、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」で男性の『50歳代』と女性の『60歳以上』が58%に達し高くなっている。

「良質な音楽イベントを誘致する」では、男女ともに『30歳代』と『50歳代』が高く、なかでも女性の『30歳代』が51.9%と最も高くなっている。

「民間の音楽団体の活動を支援する」では、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があるのに対して、女性は年代が上がるにつれて割合が下がる傾向がある。

「路上で歌うミュージシャンを支援する」では、『男性』の方が『女性』よりも3.5ポイント高く、男性の『20歳代』が35.7%と他の年代と比較して最も高い。また、男性は年代が上がるにつれて割合も低くなる傾向がある。

図 15 - 3 居住地区別 / 職業別 (上位6項目)

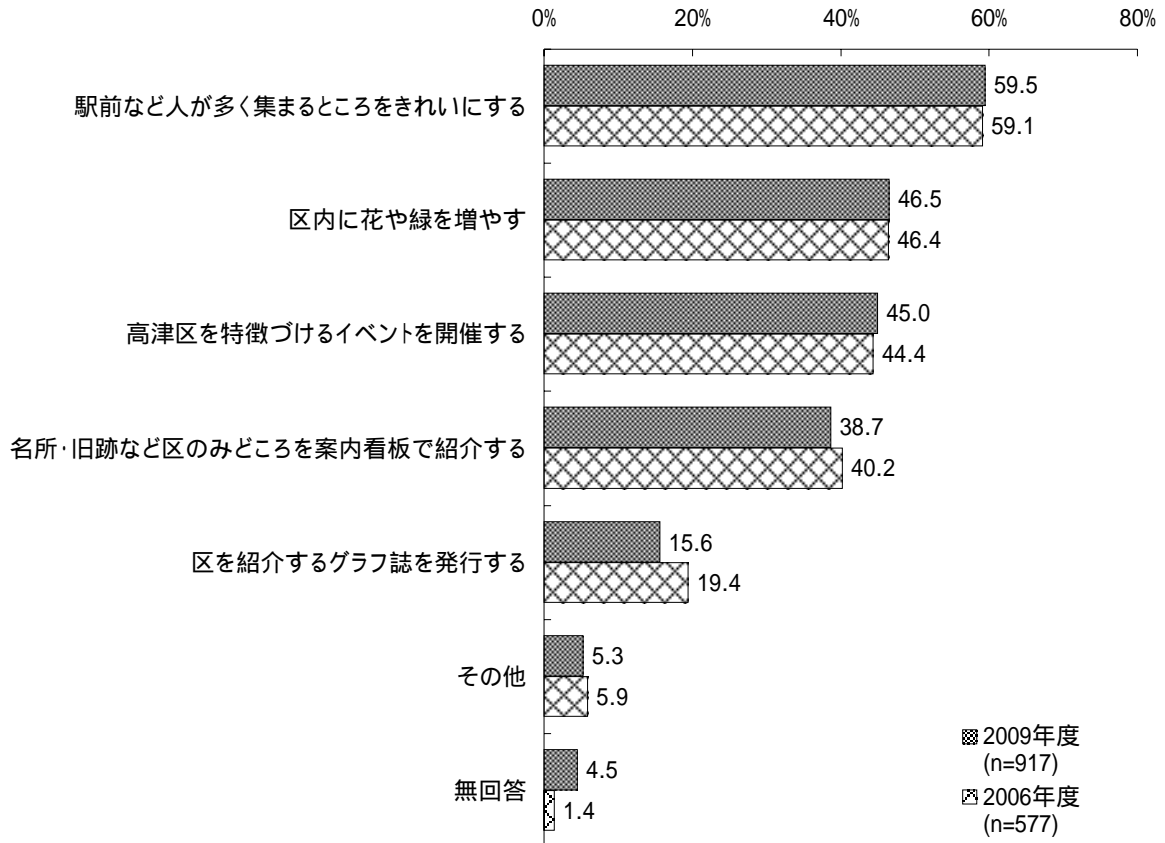


居住地区別をみると、「民間の音楽団体の活動を支援する」では『橘地区』が『高津地区』よりも4.3ポイント高く、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも3.9ポイント、「小学生、中学生に音楽教育をする」で3.8ポイント高くなっている。

(16) 区のイメージアップ

問16 区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

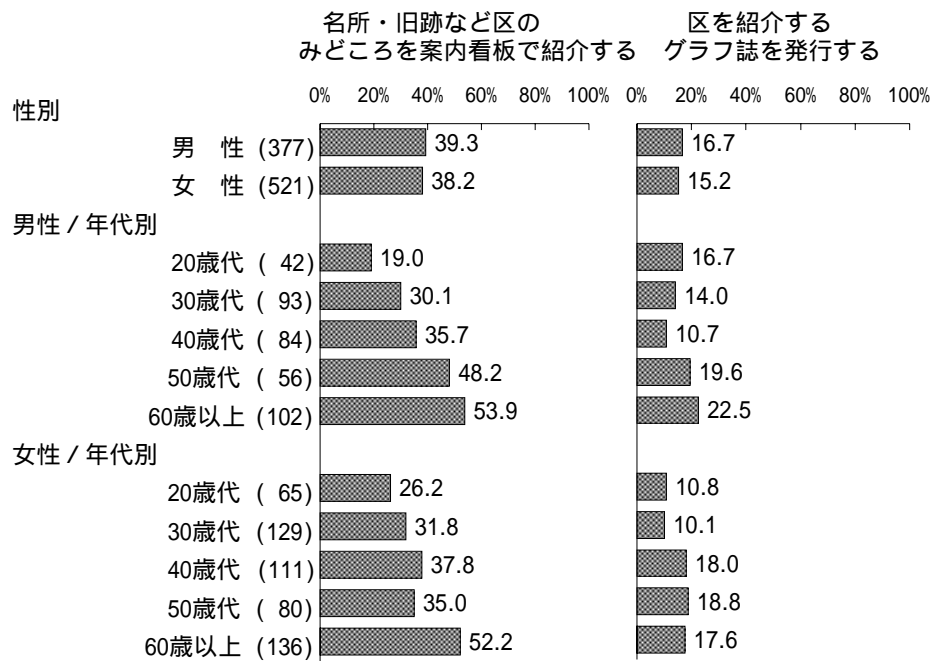
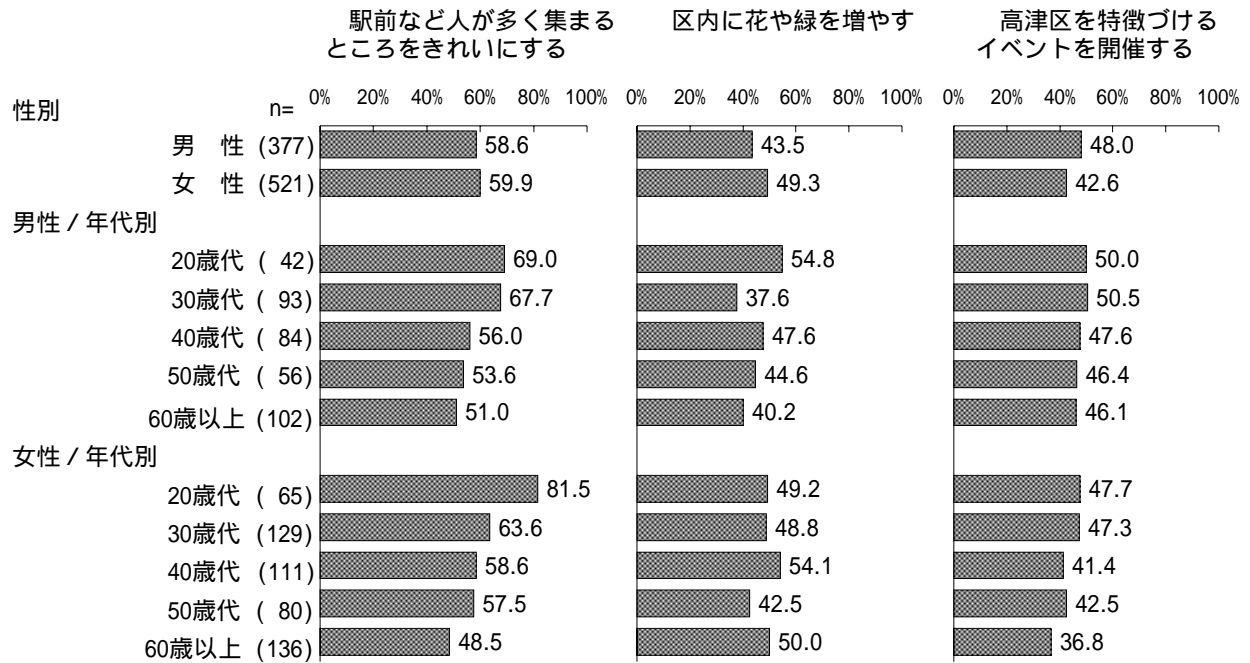
図 16 - 1



区のイメージアップについて尋ねたところ、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」が59.5%と最も高く、次いで、「区内に花や緑を増やす」(46.5%)、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(45.0%)、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」(38.7%)、「区を紹介するグラフ誌を発行する」(15.6%)の順となっている。

2006年度と比較して、特に大きな変化はない。

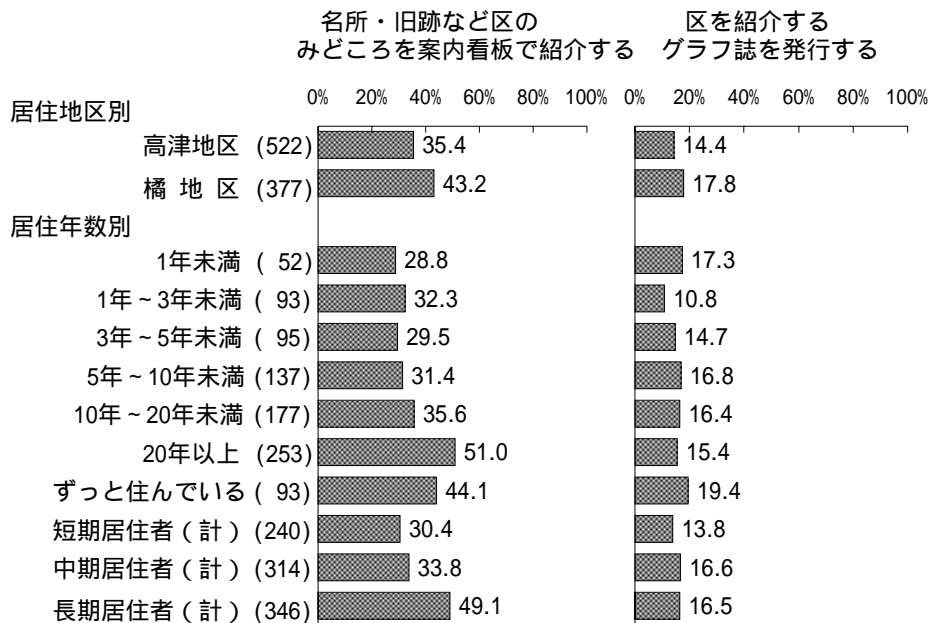
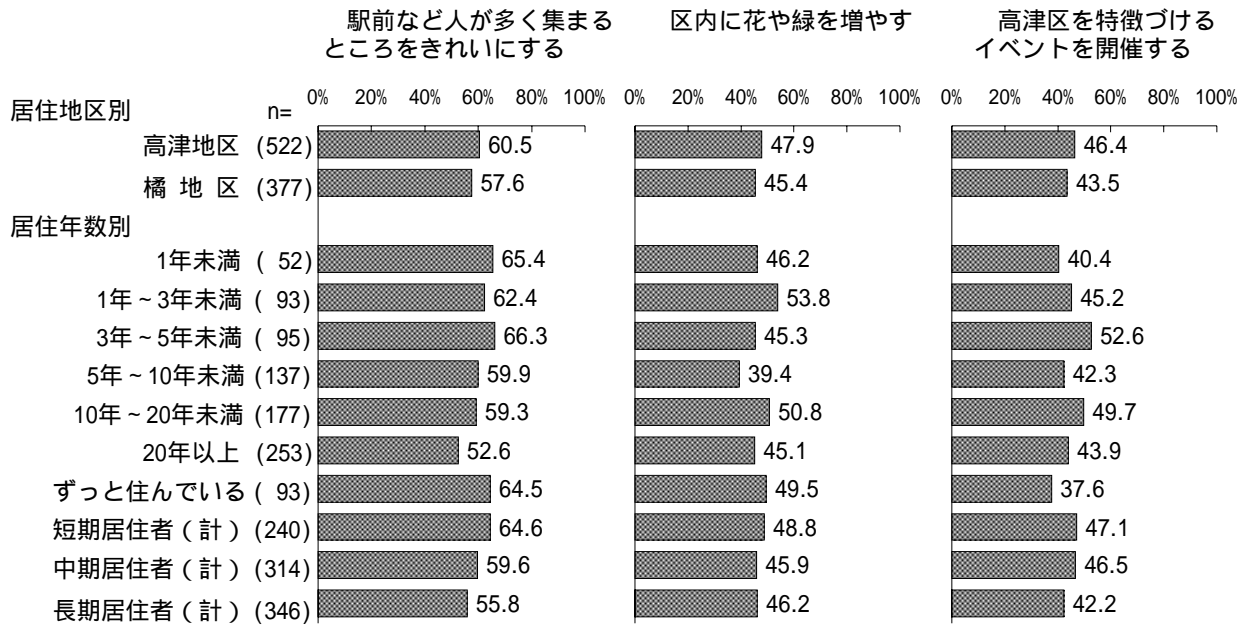
図 16 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」では、男女ともに年代が下がるにつれて割合が高くなっており、女性の『20歳代』が81.5%と他の年代と比較して高くなっている。

「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、男性の『60歳以上』（53.9%）と女性の『60歳以上』（52.2%）が50%を超えて高くなっている。

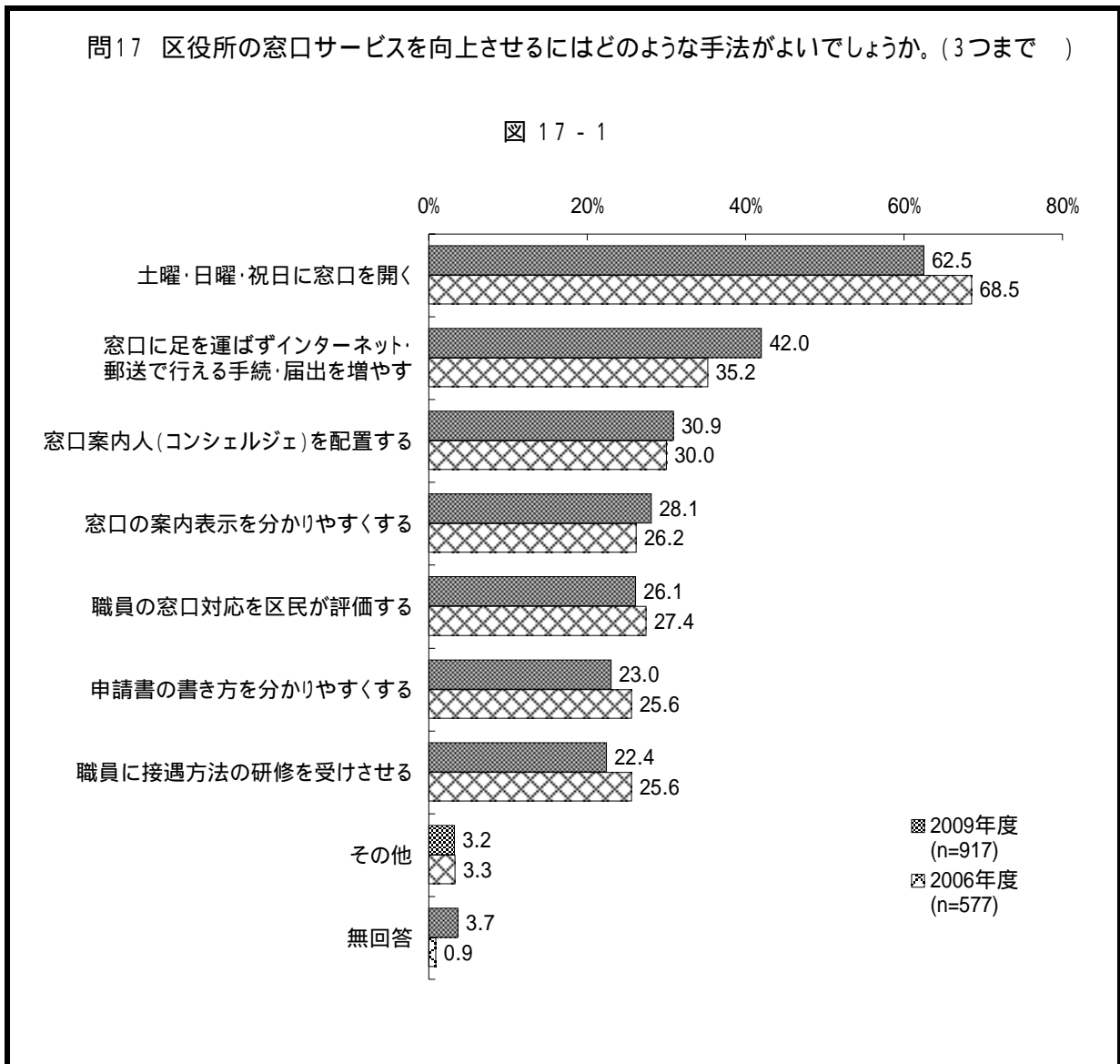
図 16 - 3 居住地区別 / 居住年数別



居住地区別では「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」で『橋地区』の方が『高津地区』よりも7.8ポイント高い。

居住年数別では、「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」で居住年数が長くなるにつれて小さくなる傾向がある。一方、「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」では、居住年数が長くなるにつれて大きくなる傾向がある。

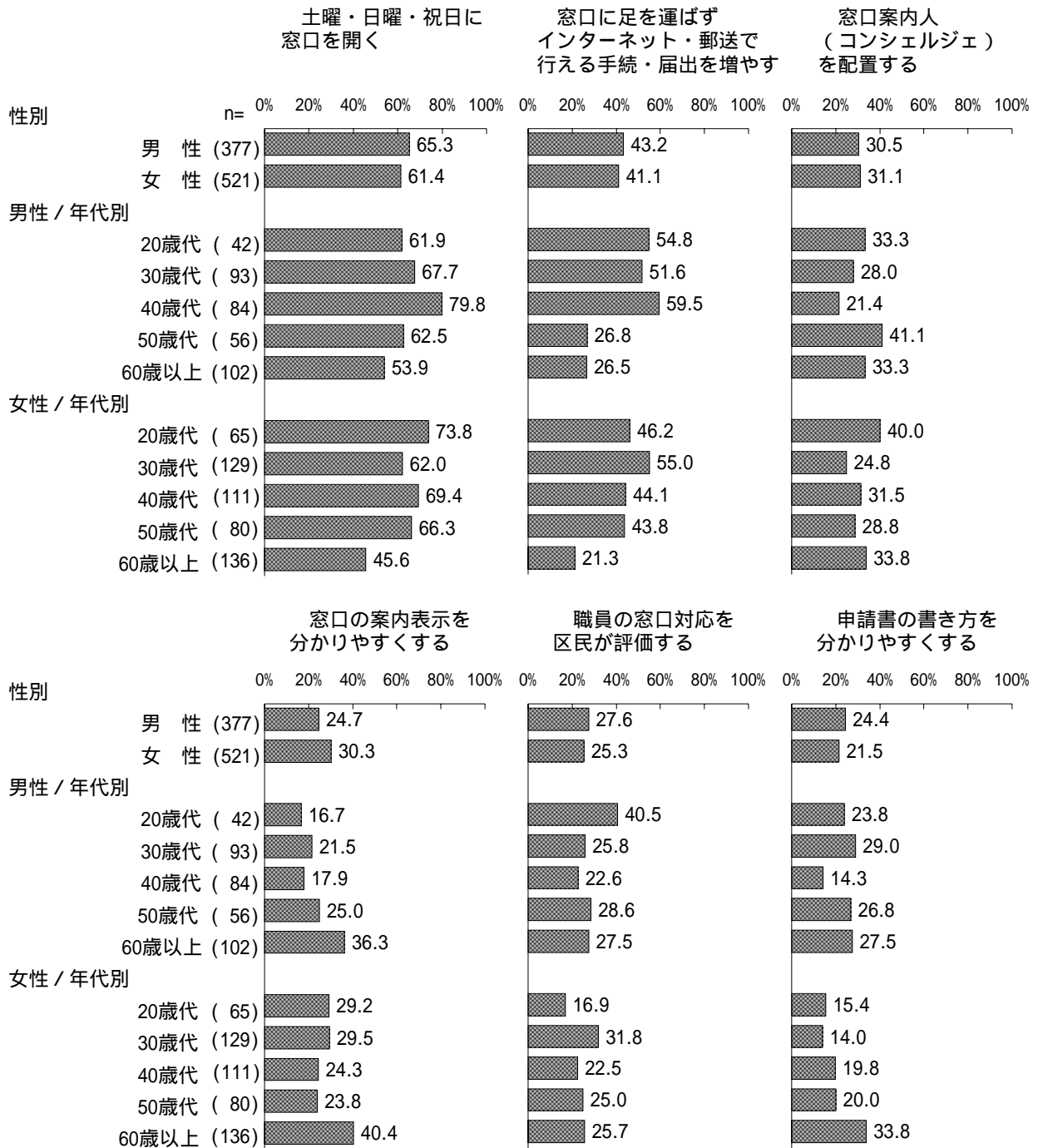
(17) 区役所の窓口サービス向上



区役所の窓口サービス向上については、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」が62.5%と最も高くなっている。次いで、「窓口に足を運ばずインターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(42.0%)、「窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する」(30.9%)、「窓口の案内表示を分かりやすくする」(28.1%)、「職員の窓口対応を区民が評価する」(26.1%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(23.0%)、「職員に接遇方法の研修を受けさせる」(22.4%)の順となっている。

2006年度と比較すると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」で6.0ポイント減少し、「窓口に足を運ばずインターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」で6.8ポイント増加している。

図 17 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)



性・年代別をみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」では『男性』の方が『女性』よりも3.9ポイント高く、男性の『40歳代』が79.8%と最も高く、女性の『20歳代』が73.8%と続いている。

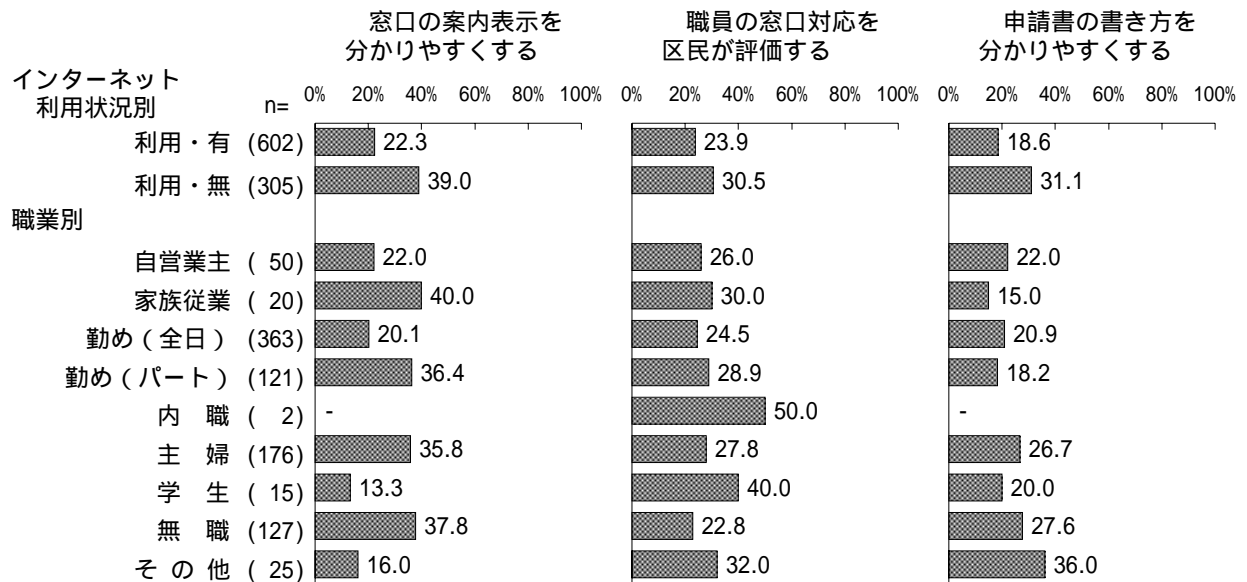
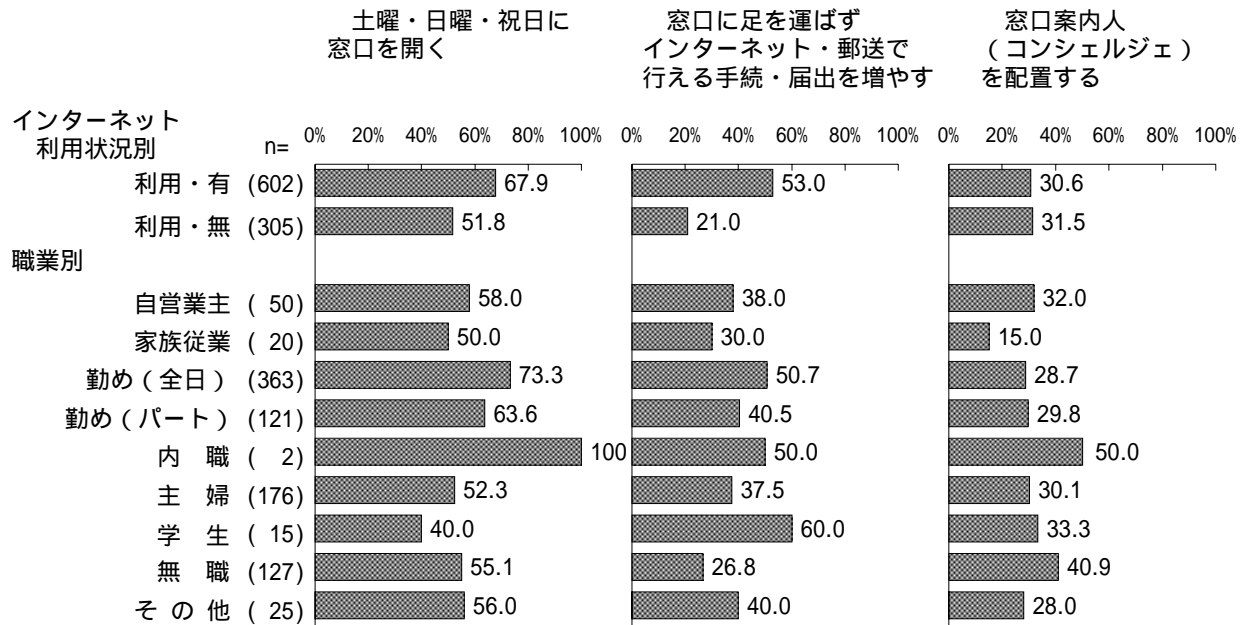
「窓口に足を運ばずインターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」では、男性の『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』が50%を超えて高く、なかでも『40歳代』が59.5%と最も高くなっている。女性では『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』、『50歳代』で40%を超えて高く、なかでも『30歳代』が55.0%と高くなっている。

「窓口の案内表示を分かりやすくする」では、『女性』の方が『男性』よりも5.6ポイント高く、女性の『60歳以上』が40.4%と最も高くなっている。男性は、年代が上がるにつれて割合も高くなる傾向があり、『60歳以上』が36.3%と高くなっている。

「職員の窓口対応を区民が評価する」では、男性の『20歳代』が40.5%と他の年代と比較して高くなっている。

「申請書の書き方を分かりやすくする」では、女性の『60歳以上』が33.8%と最も高く、女性は年代が上がるにつれて割合も高くなる傾向がある。

図 17 - 3 インターネット利用状況別 / 職業別 (上位6項目)



インターネット利用状況別をみると、「窓口に足を運ばずインターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」では32.0ポイント、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」で16.1ポイント『利用・有』の方が『利用・無』よりも高くなっている。一方、「窓口の案内表示を分かりやすくする」では16.7ポイント、「申請書の書き方を分かりやすくする」では12.5ポイント、「職員の窓口対応を区民が評価する」では6.6ポイント『利用・無』の方が『利用・有』よりも高くなっている。

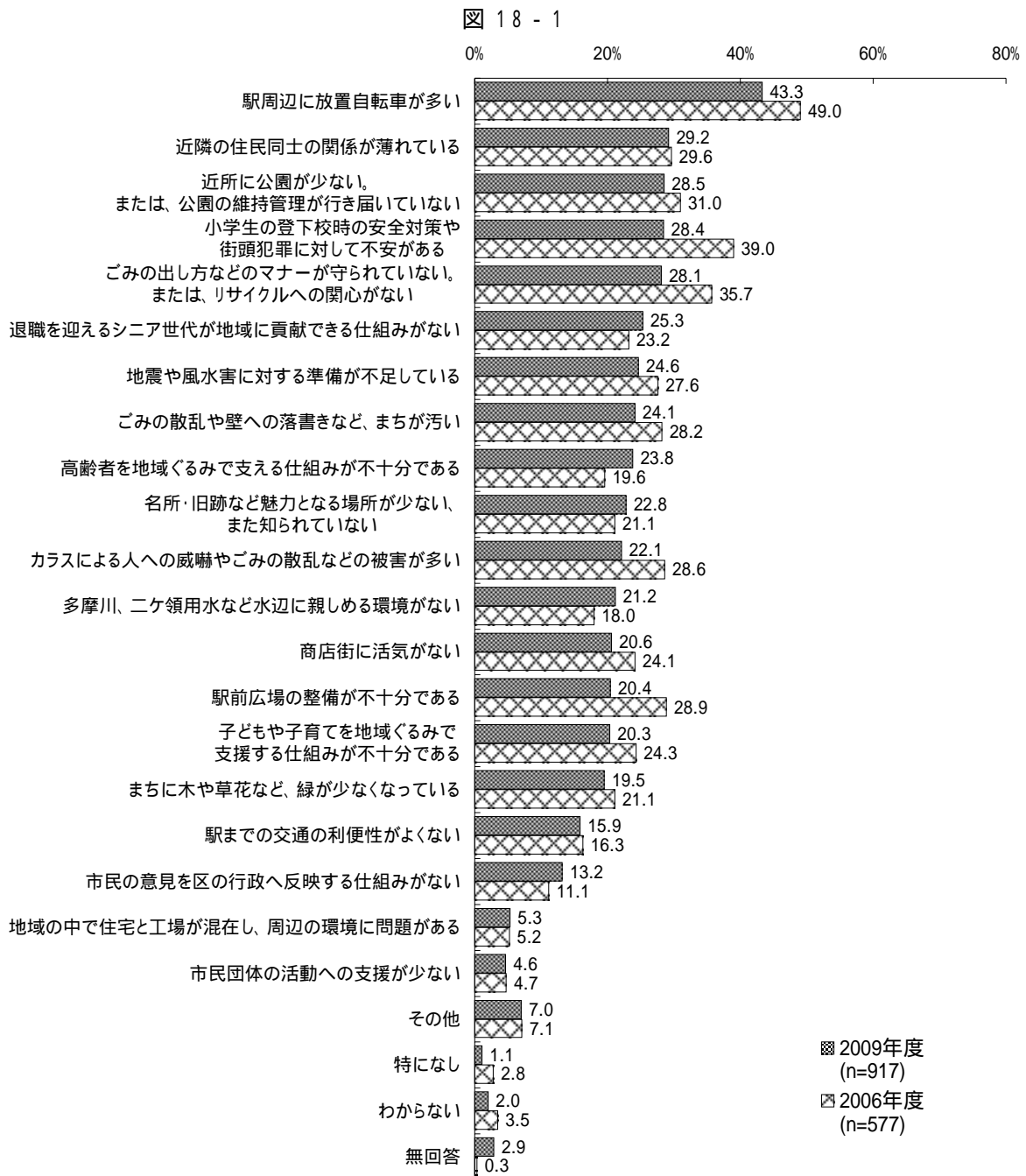
職業別をみると、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」では、『勤め(全日)』が73.3%と他の職業と比較して高く、『勤め(パート)』が63.6%と続いている。

「窓口に足を運ばずインターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」では、『勤め(全日)』が50.7%と他の職業と比較して高くなっている。

「窓口の案内表示を分かりやすくする」では、『家族従業』(40.0%)、『無職』(37.8%)、『勤め(パート)』(36.4%)、『主婦』(35.8%)が35%を超えて高くなっている。

(18) まちの課題・問題点

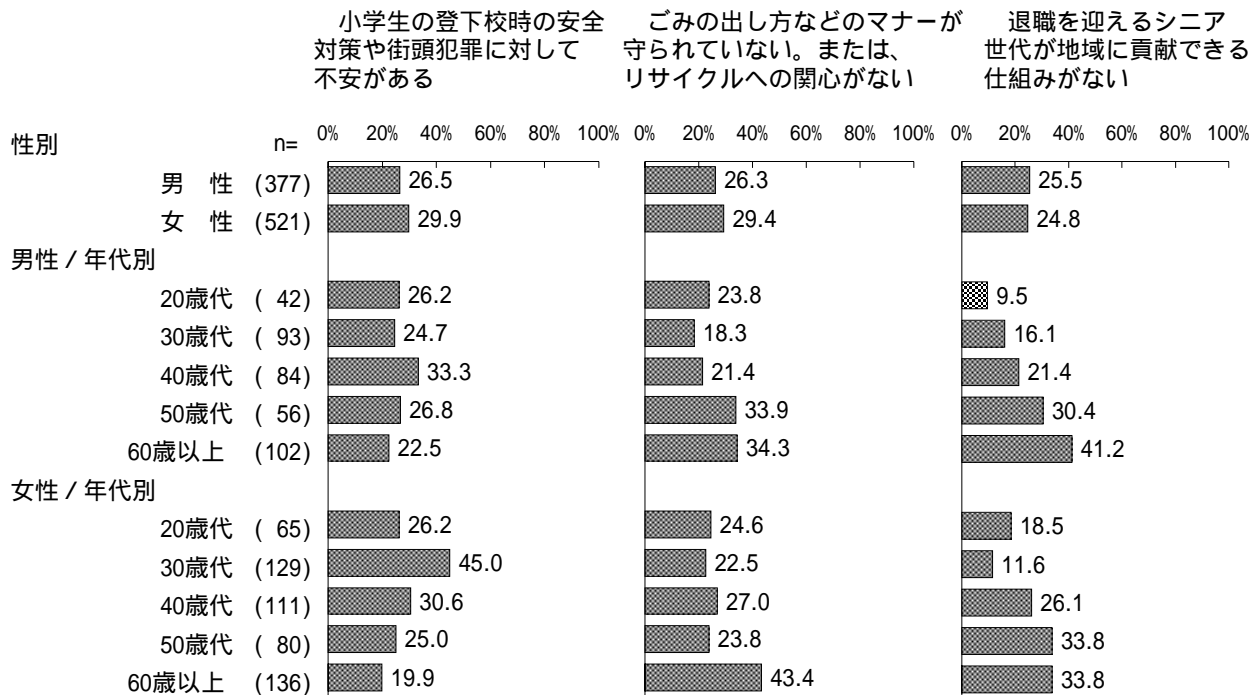
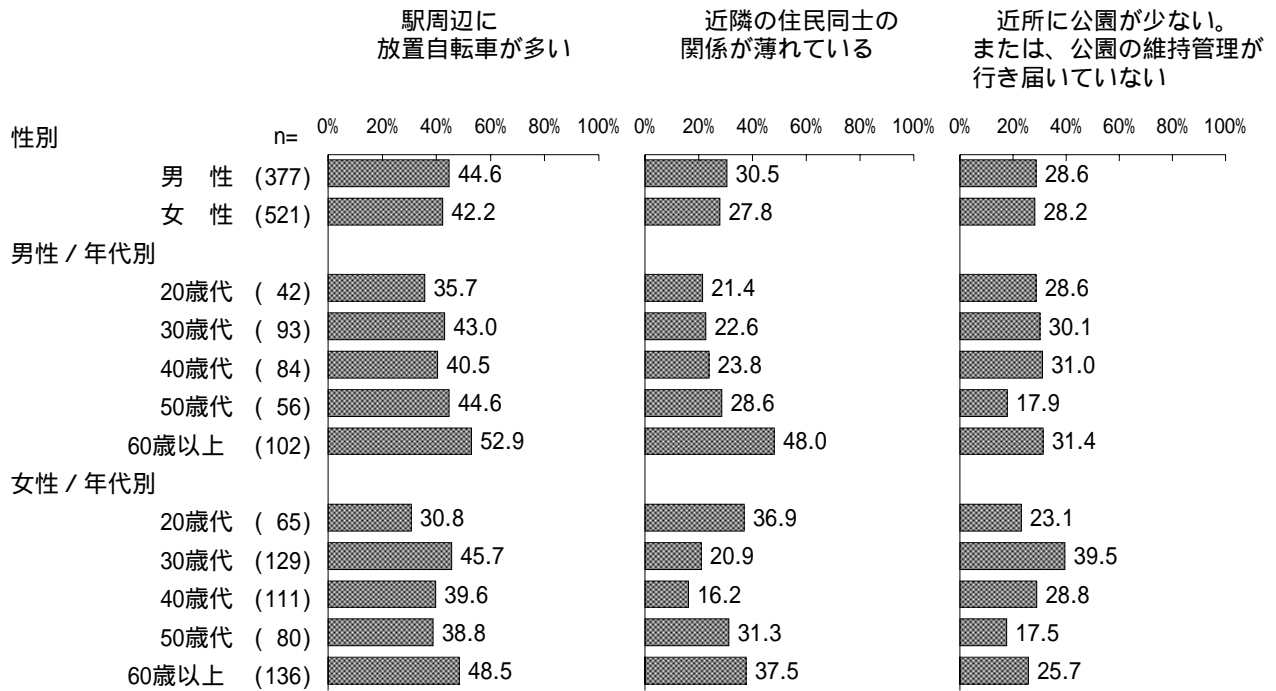
問18 あなたのまちの課題・問題点と思うものは何ですか。(いくつでも)



まちの課題・問題点については、「駅周辺に放置自転車がが多い」が43.3%と最も高く、次いで、「近隣の住民同士の関係が薄れている」(29.2%)、「近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない」(28.5%)の順で続いている。

2006年度と比較すると、「駅周辺に放置自転車がが多い」で5.7ポイント、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」で10.6ポイント、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」で7.6ポイント、「カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い」で6.5ポイント、「駅前広場の整備が不十分である」で8.5ポイント減少している。

図 18 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)



性・年代別をみると、「駅周辺に放置自転車がが多い」では、男性の『60歳以上』が52.9%と最も高く、女性では『60歳以上』と『30歳代』がそれぞれ48.5%と45.7%で他の年代と比較して高くなっている。

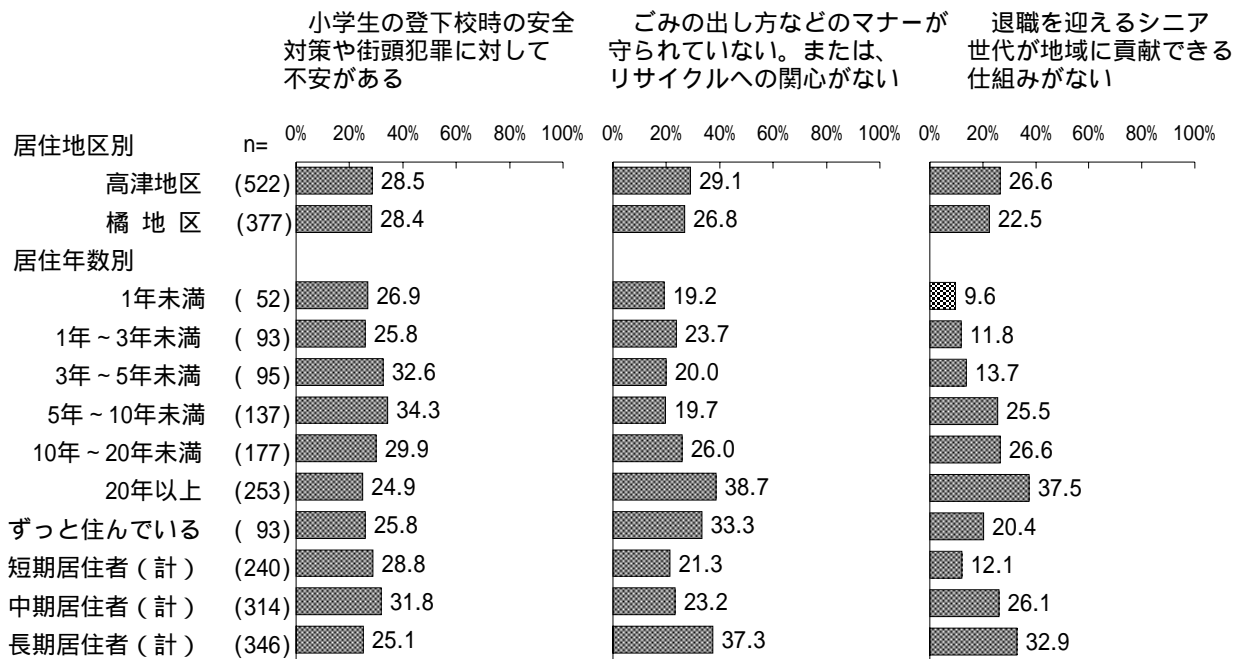
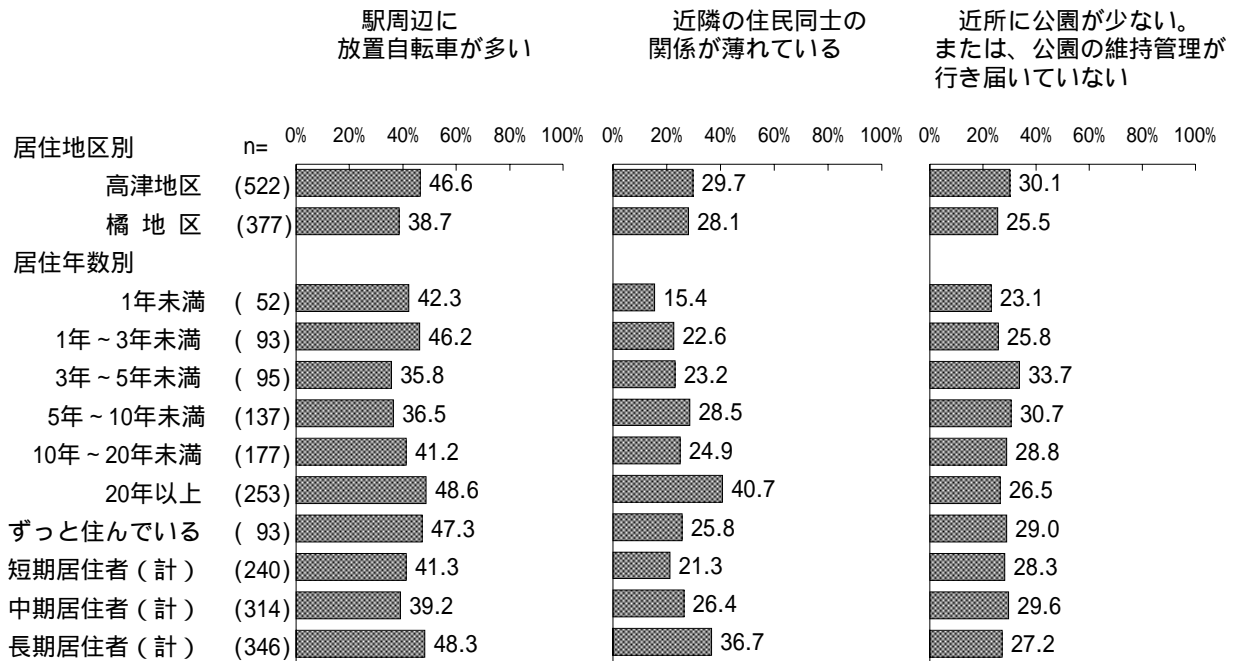
近隣の住民同士の関係が薄れている」では、男性の『60歳以上』が48.0%と最も高く、女性の『60歳以上』（37.5%）と『20歳代』（36.9%）が続いている。

「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」では、男性は『40歳代』から、女性に『30歳代』から年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、女性の『30歳代』が45.0%と最も高くなっている。

「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」では、女性の『60歳以上』が43.4%と最も高く、男性の『60歳以上』（34.3%）と『50歳代』（33.9%）が続いている。

「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では、男性は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、『60歳以上』では41.2%と最も高くなっている。

図 18 - 3 居住地区別 / 居住年数別 (上位6項目)



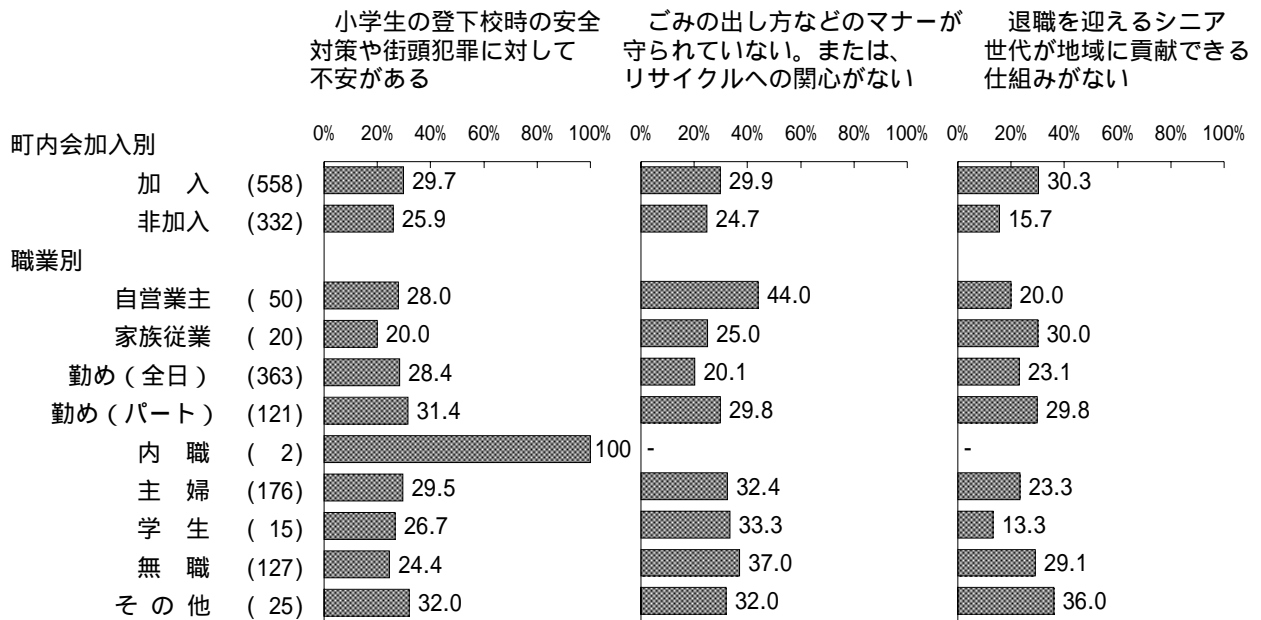
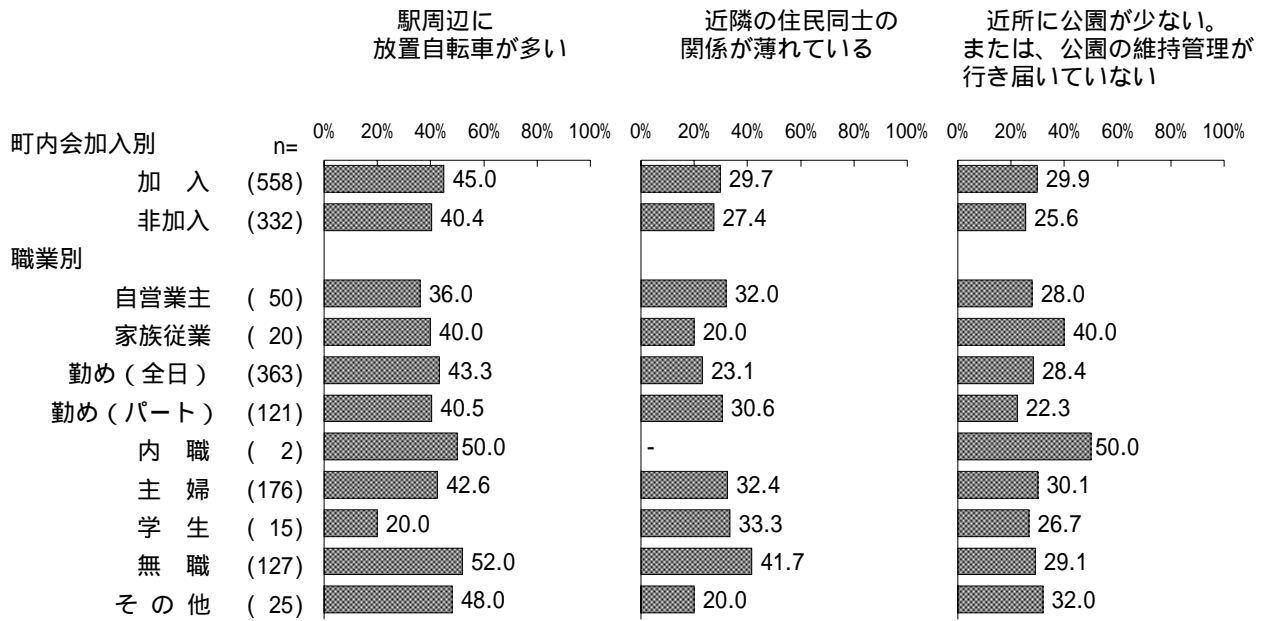
居住地区別をみると、「駅周辺に放置自転車が多い」では7.9ポイント、「近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない」では4.6ポイント、「職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では4.1ポイント『高津地区』の方が『橘地区』よりも高くなっている。

居住年数別をみると、「近隣の住民同士の関係が薄れている」では『20年以上』が**40.7%**と最も高く、居住年数上がるにつれて高くなっている。

「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」では、『20年以上』が**38.7%**と最も高くなっている。

「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では居住年数上がるにつれて高くなる向があり、『20年以上』で**37.5%**と最も高くなっている。

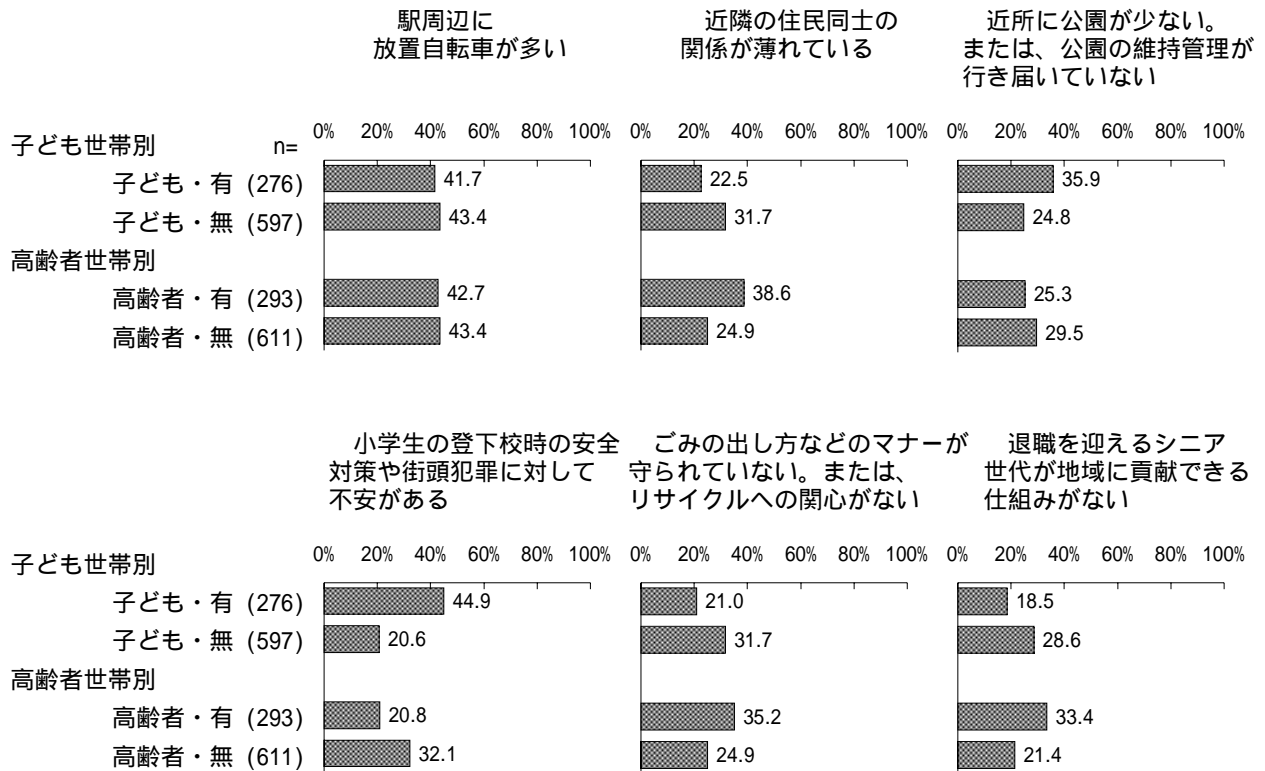
図 18 - 4 町内会加入別 / 職業別 (上位6項目)



町内会加入別をみると、上位6項目全てにおいて『加入』が『非加入』を上回っており、なかでも「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では14.6ポイント、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」では5.2ポイント高くなっている。

職業別でみると、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」では『自営業主』が44.0%と他の職業と比較して高くなっている。

図 18 - 5 子ども世帯別 / 高齢者世帯別 (上位6項目)

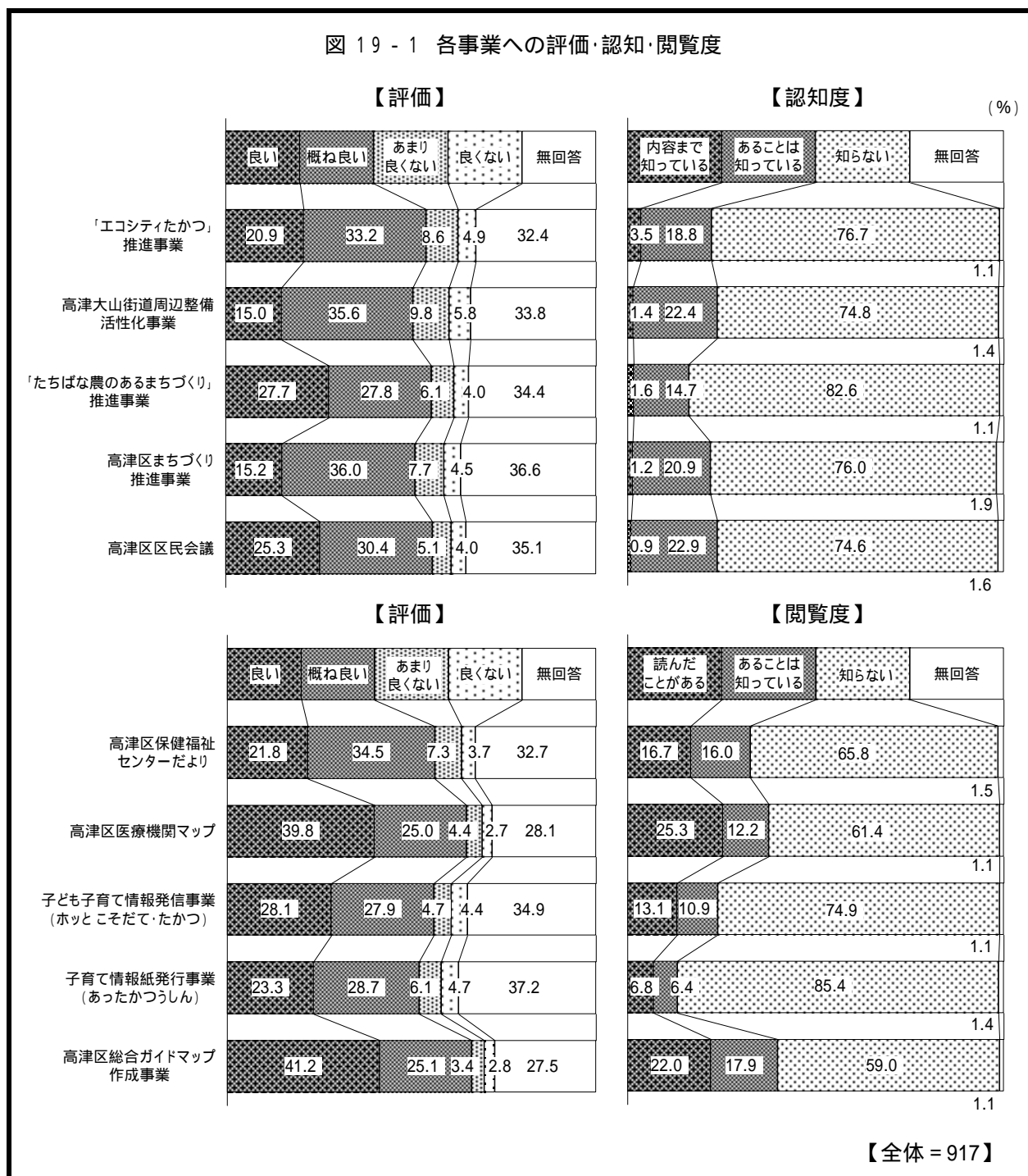


子ども世帯別をみると、「小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある」で24.3ポイント、「近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない」で11.1ポイント『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも高くなっている。対して、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」で10.7ポイント、「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」で10.1ポイント、「近隣の住民同士の関係が薄れている」で9.2ポイント『子ども・無』の方が『子ども・有』よりも高くなっている。

高齢者世帯別をみると、「近隣の住民同士の関係が薄れている」で13.7ポイント、「退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない」では12.0ポイント、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心がない」では10.3ポイント『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

2. 区の事業について

(1) 各事業への評価・認知・閲覧度



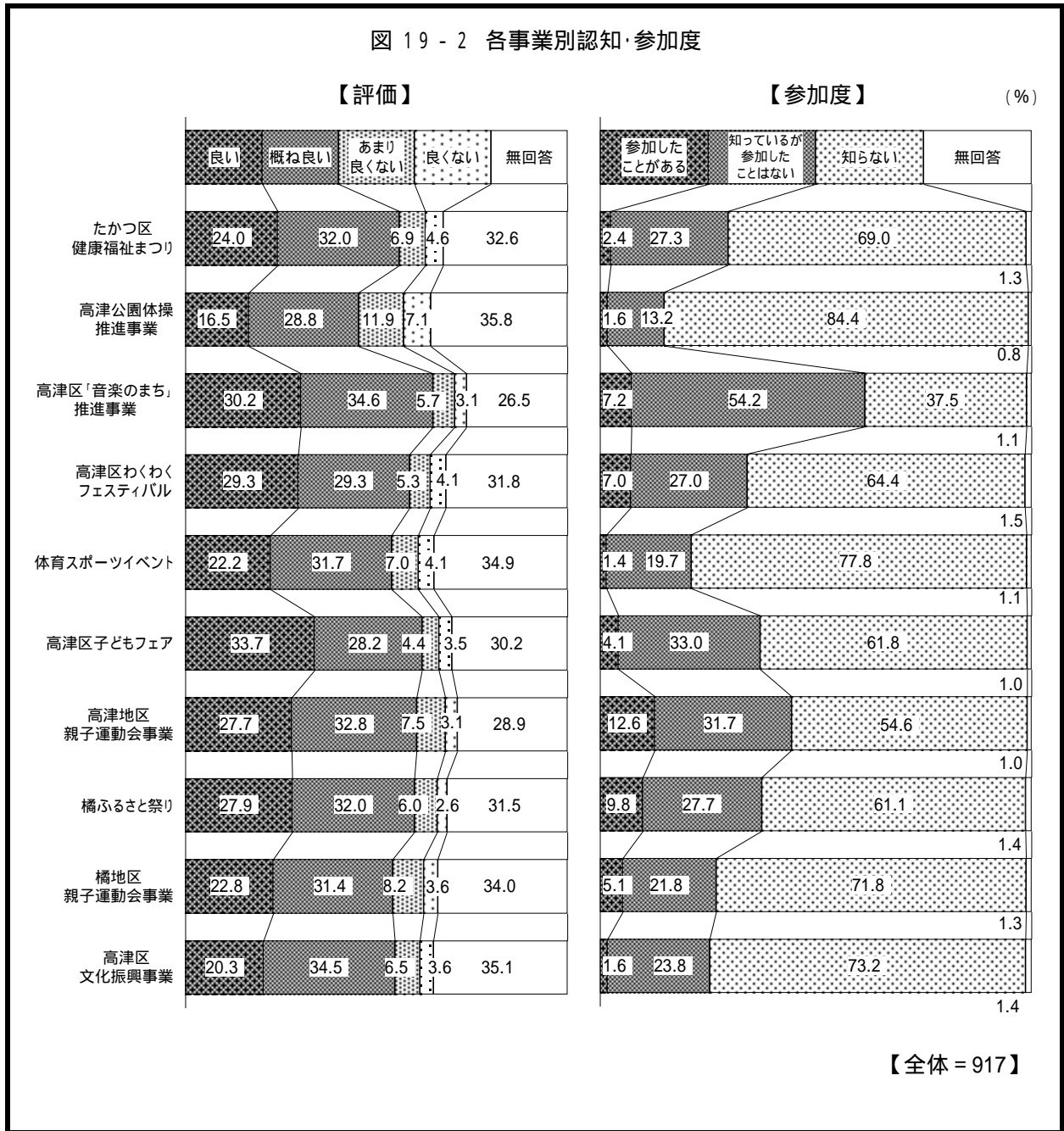
事業の評価・認知度別の「認知度」をみると、「内容まで知っている」と「あることは知っている」を合わせた『知っている(計)』では、「高津大山街道周辺整備活性化事業」と「高津区区民会議」が同率で23.8%と最も高くなっている。

事業の評価・認知度別の「評価」をみると、「良い」では、「『たちばな農のあるまちづくり』推進事業」が27.7%と最も高く、「高津区区民会議」が25.3%と続いている。

事業の評価・閲覧度別の「閲覧度」をみると、「読んだことがある」では「高津区医療機関マップ」が25.3%と最も高く、「高津区総合ガイドマップ作成事業」が22.0%と続いている。

事業の評価・認知度別の「評価」をみると、「良い」では、「高津区総合ガイドマップ作成事業」が41.2%と最も高く、次いで「高津区医療機関マップ」が39.8%、「子ども子育て情報発信事業(ホッとこそだて・たかつ)」が28.1%と続いている。

(2) 各事業への評価・参加度



事業の評価・参加度別の「参加度」をみると、「参加したことがある」では「高津地区親子運動会事業」が12.6%と最も高くなっている。「知っているが参加したことはない」では「高津区『音楽のまち』推進事業」が54.2%と最も高く、「高津区子どもフェア」が33.0%、「高津地区親子運動会事業」が31.7%と続いている。

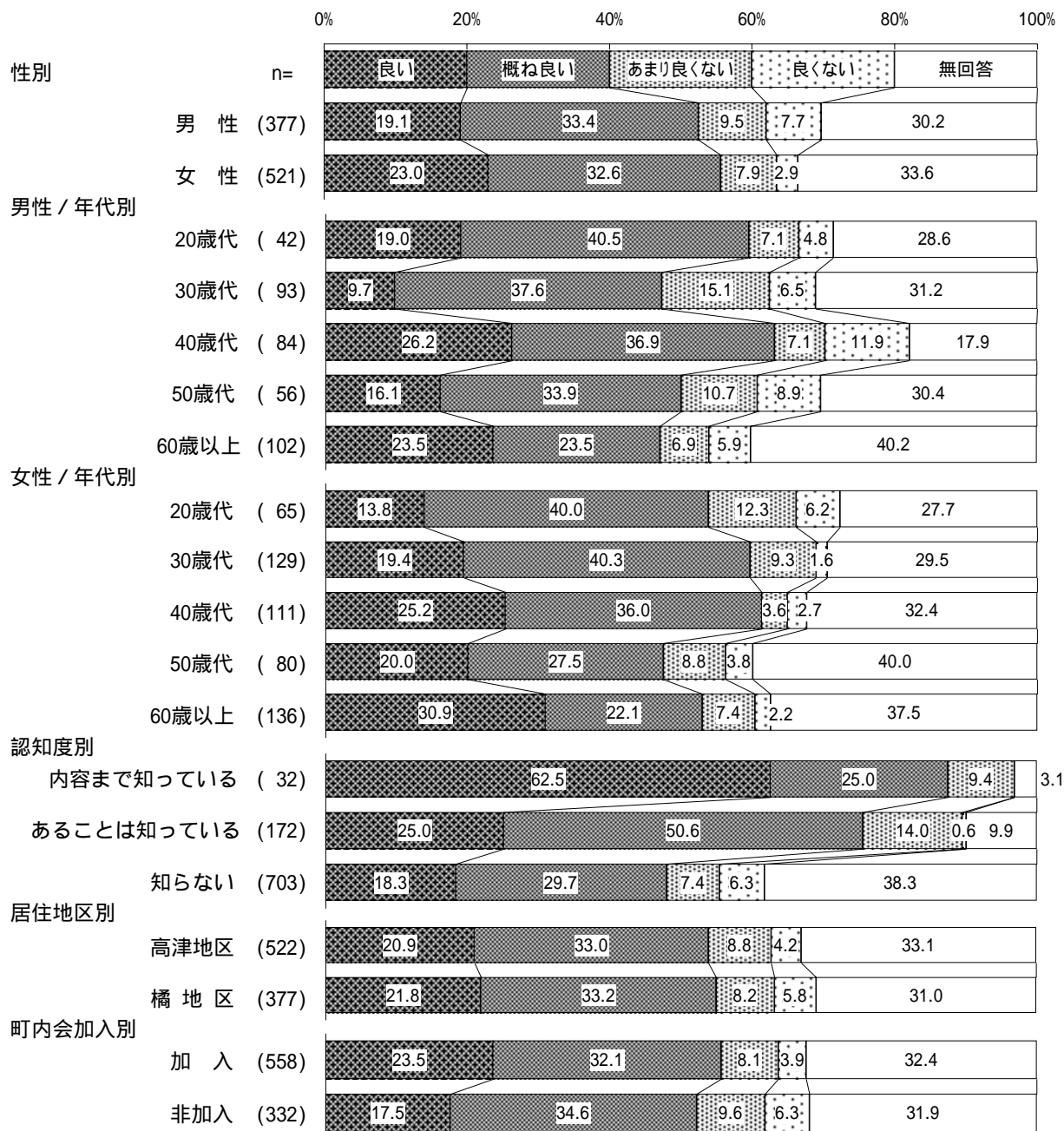
事業の評価・参加度別の「評価」をみると、「良い」では、「高津区子どもフェア」が33.7%と最も高く、「高津区『音楽まち』推進事業」が30.2%、「高津区わくわくフェスティバル」が29.3%との順で続いている。

(3) 各事業の評価

問20 「エコシティたかつ」推進事業

事業内容：地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化防止対策などの環境問題に取り組む方針。この方針に沿って、ゴーヤーなどによる高津区「緑のカーテン」大作戦、「たかつエコ・エネライフコンクール」、ピオトープを活用した環境教育の推進など様々なプロジェクトを実施している。

図 20 - 1 性別 / 性年代別 / 認知度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価

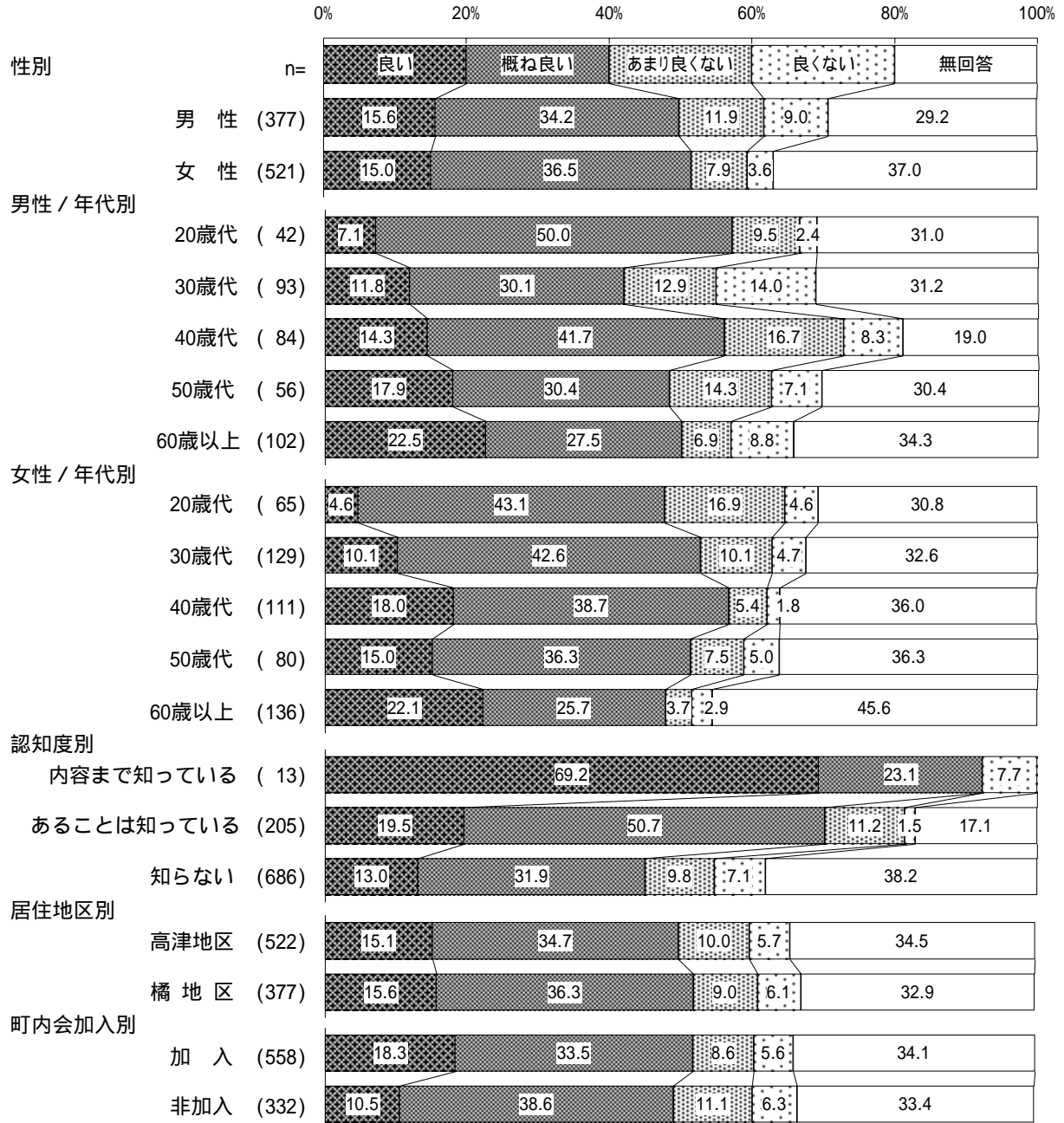


性・年代別をみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも3.9ポイント高く、男女ともに『40歳代』と『60歳以上』で高くなっている。なかでも女性の『60歳以上』が30.9%と最も高い。認知度別でみると、「良い」では『内容まで知っている』が62.5%と最も高くなっている。「概ね良い」では『あることは知っている』が50.6%と半数に達し高くなっている。町内会加入別では『加入』の方が6.0ポイント『非加入』よりも高くなっている。

問21 高津大山街道周辺整備活性化事業

事業内容： 地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。今後は10年間かけて、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組を進めていく。プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

図 21 - 1 性別 / 性年代別 / 認知度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別をみると、男性は年代が上がるにつれて「良い」の割合が上がっており、『60歳以上』が22.5%と最も高くなっている。「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では、男性の『20歳代』、『40歳代』、『60歳以上』と女性の『30歳代』、『40歳代』、『50歳代』が50%に達している。

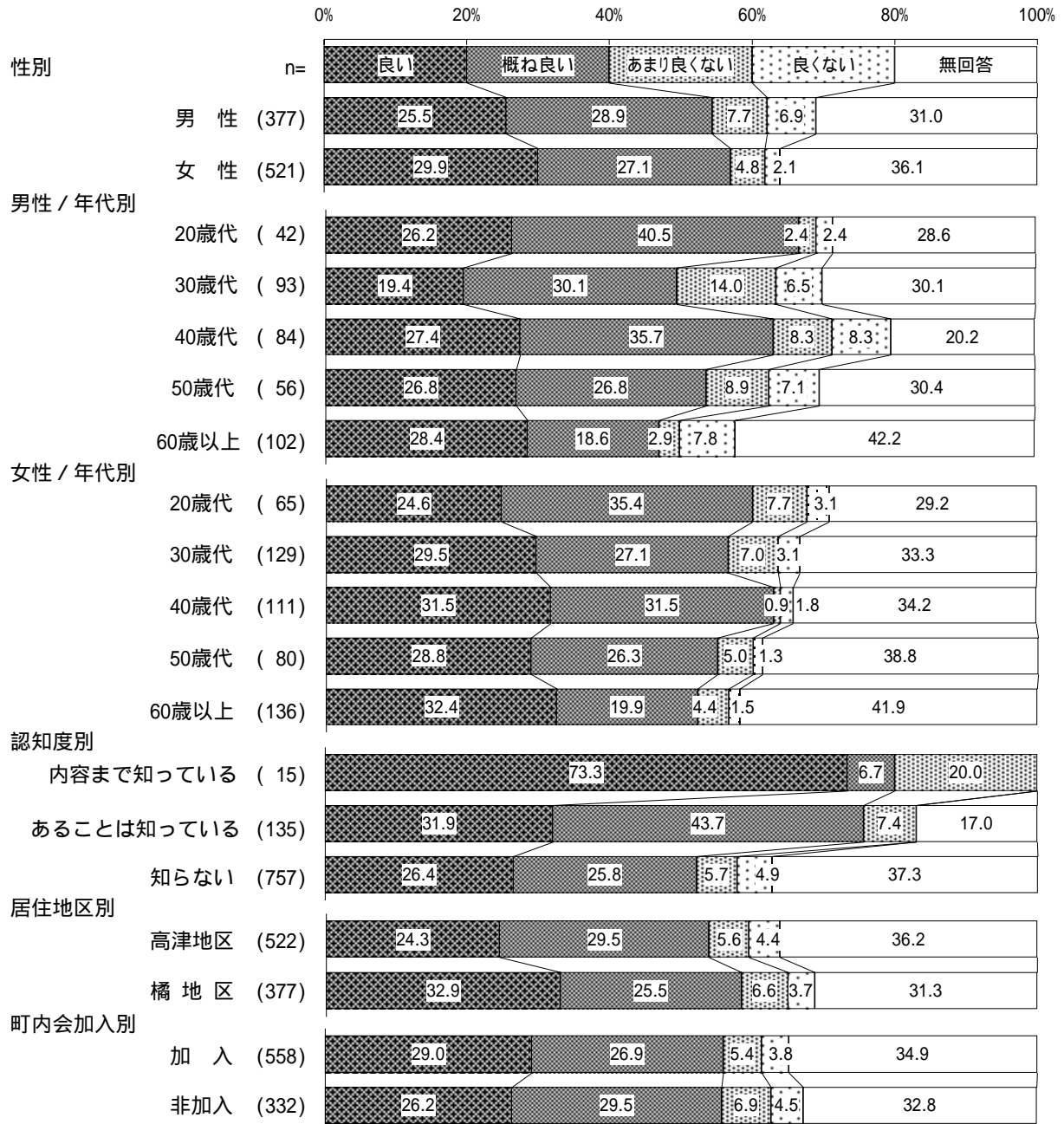
認知度別でみると、『あることは知っている』では「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」が70.2%と高くなっている。

町内会加入別の「良い」では、『加入』の方が『非加入』よりも7.8ポイント高くなっている。

問22 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

事業内容： 橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取り組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取り組みを行っている。

図 2.2 - 1 性別 / 性年代別 / 認知度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別をみると、「良い」では『女性』の方が『男性』よりも4.4ポイント高くなっており、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では男女ともに『20歳代』と『40歳代』が他の年代よりも高くなっている。なかでも男性の『20歳代』が66.7%と最も高くなっている。

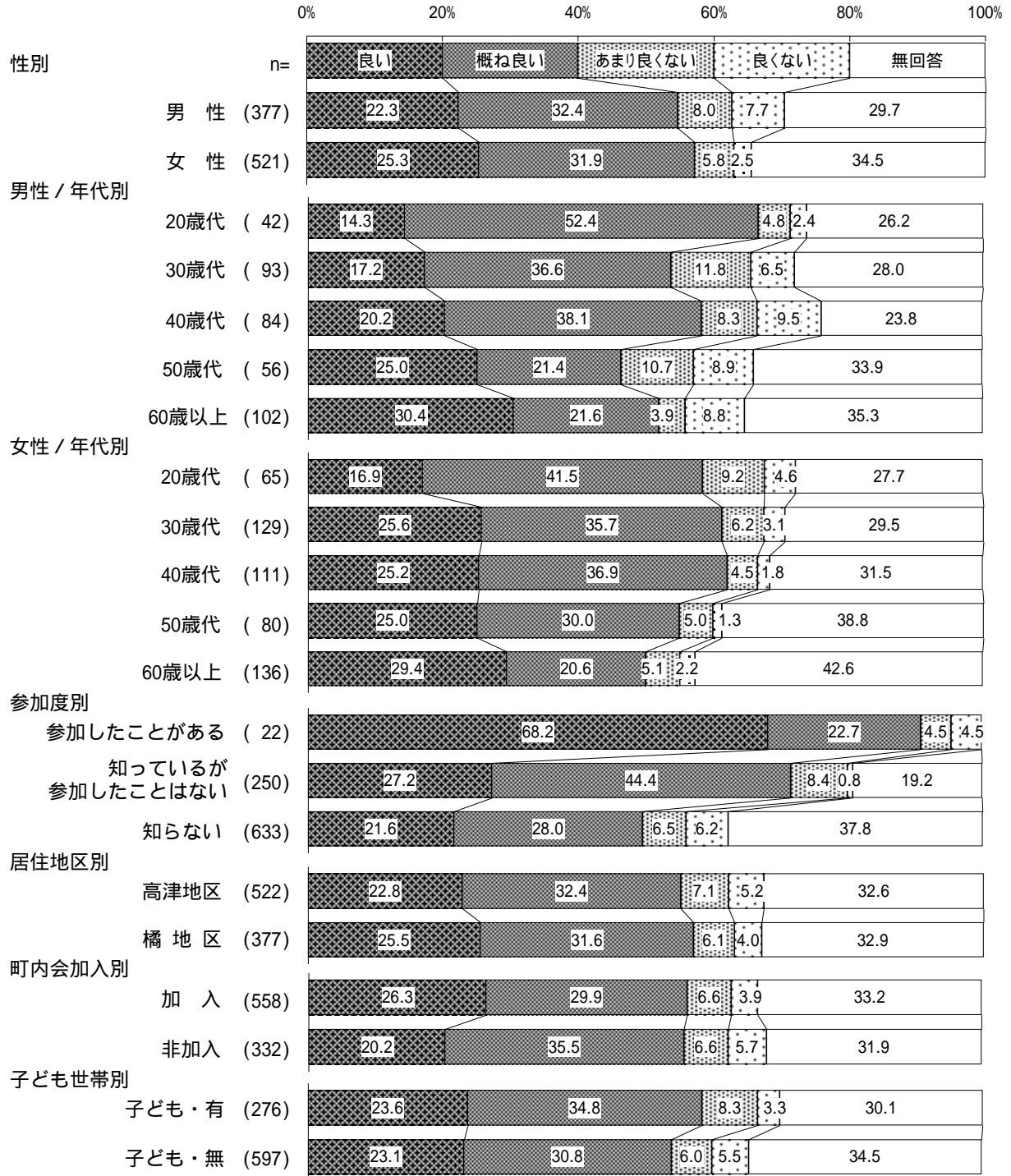
認知度別でみると、『あることは知っている』では「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」が75.6%と高くなっている。

居住地区別の「良い」では、『橘地区』の方が『高津地区』よりも8.6ポイント高くなっている。

問23 たかつ区健康福祉まつり

事業内容： 区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

図 23 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 / 子ども世帯別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、『女性』の方が『男性』よりも3.0ポイント高く、男性においては年代が上がるにつれて割合が上がっている。なかでも男性の『60歳以上』が30.4%と最も高い。

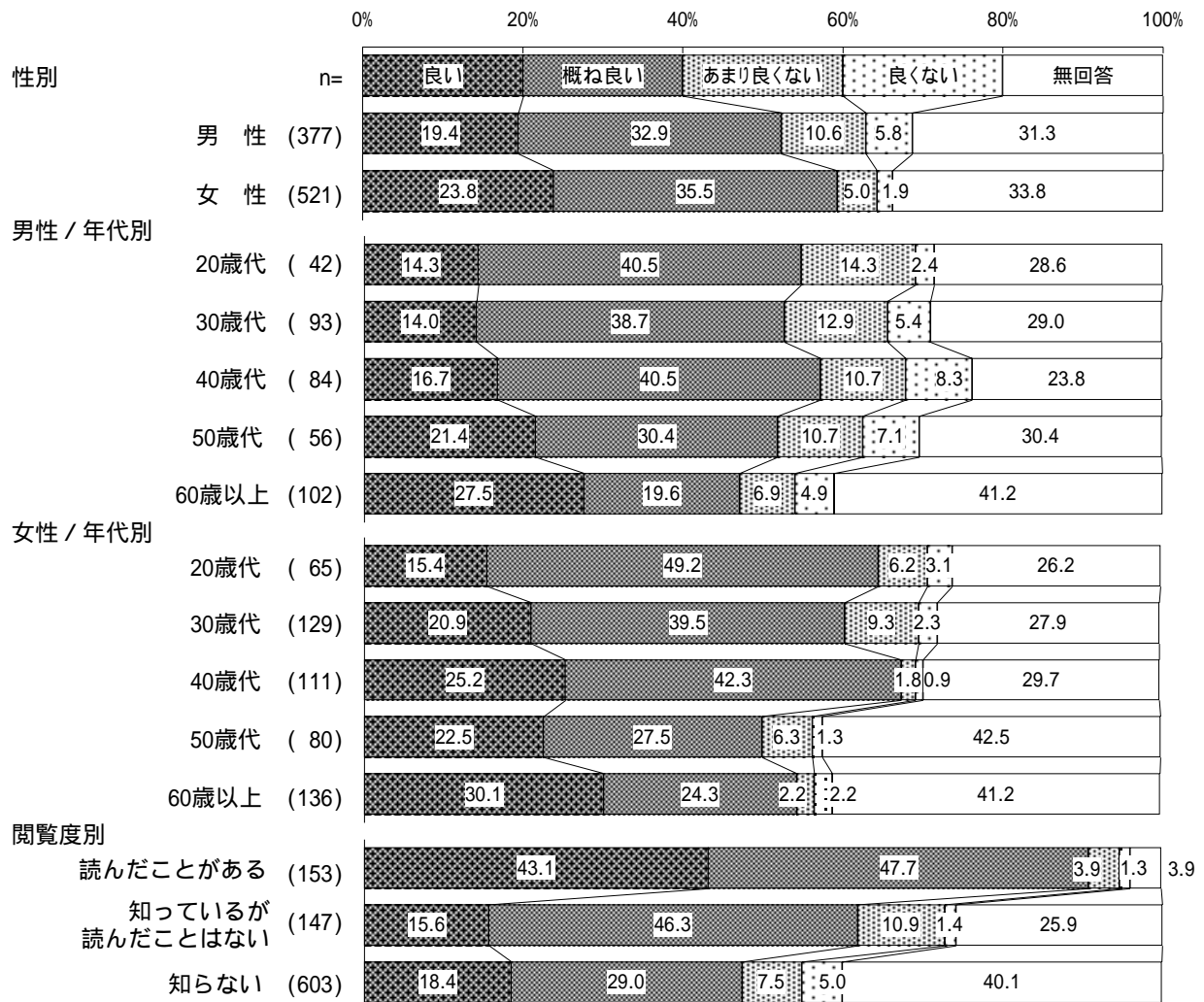
町内会加入別の「良い」では、『加入』の方が『非加入』よりも6.1ポイント高くなっている。

子ども世帯別の「概ね良い」では、『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも4.0ポイント高い。

問24 高津区保健福祉センターだより

事業内容：保健福祉センターで行っている健康や福祉に関する情報や健康生活に役立つアドバイスを発信するため、保健福祉センターだよりを発行している。

図 24 - 1 性別 / 性年代別 / 閲覧度別 事業評価



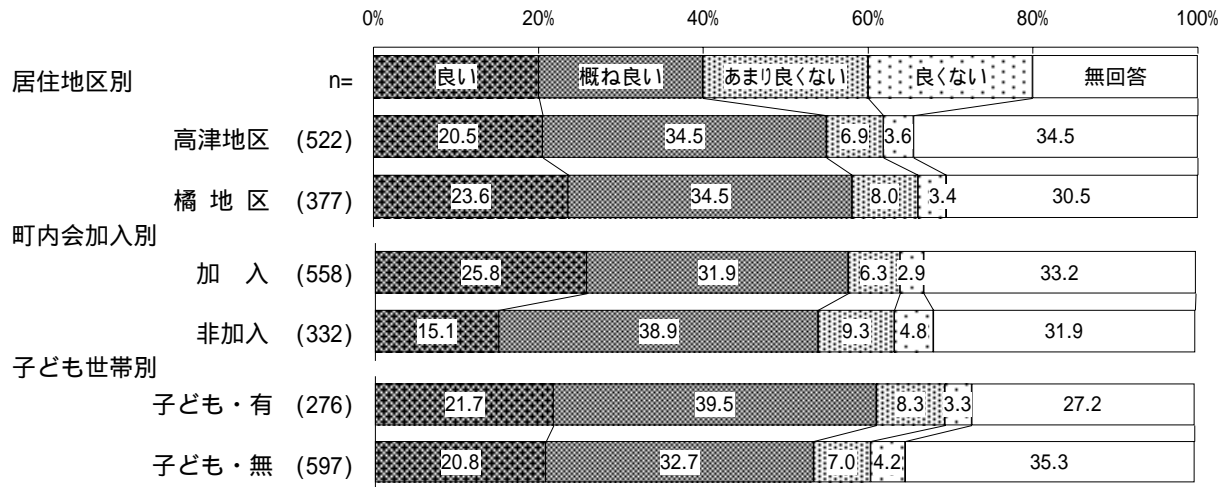
性・年代別の「良い」をみると、『女性』の方が『男性』よりも4.4ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が上がる傾向がある。

閲覧度別では、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」が『読んだことがある』で90%に達し、高くなっている。

問24 高津区保健福祉センターだより

事業内容：保健福祉センターで行っている健康や福祉に関する情報や健康生活に役立つアドバイスを発信するため、保健福祉センターだよりを発行している。

図 24 - 2 居住地区別 / 町内会加入別 / 子ども世帯別 事業評価

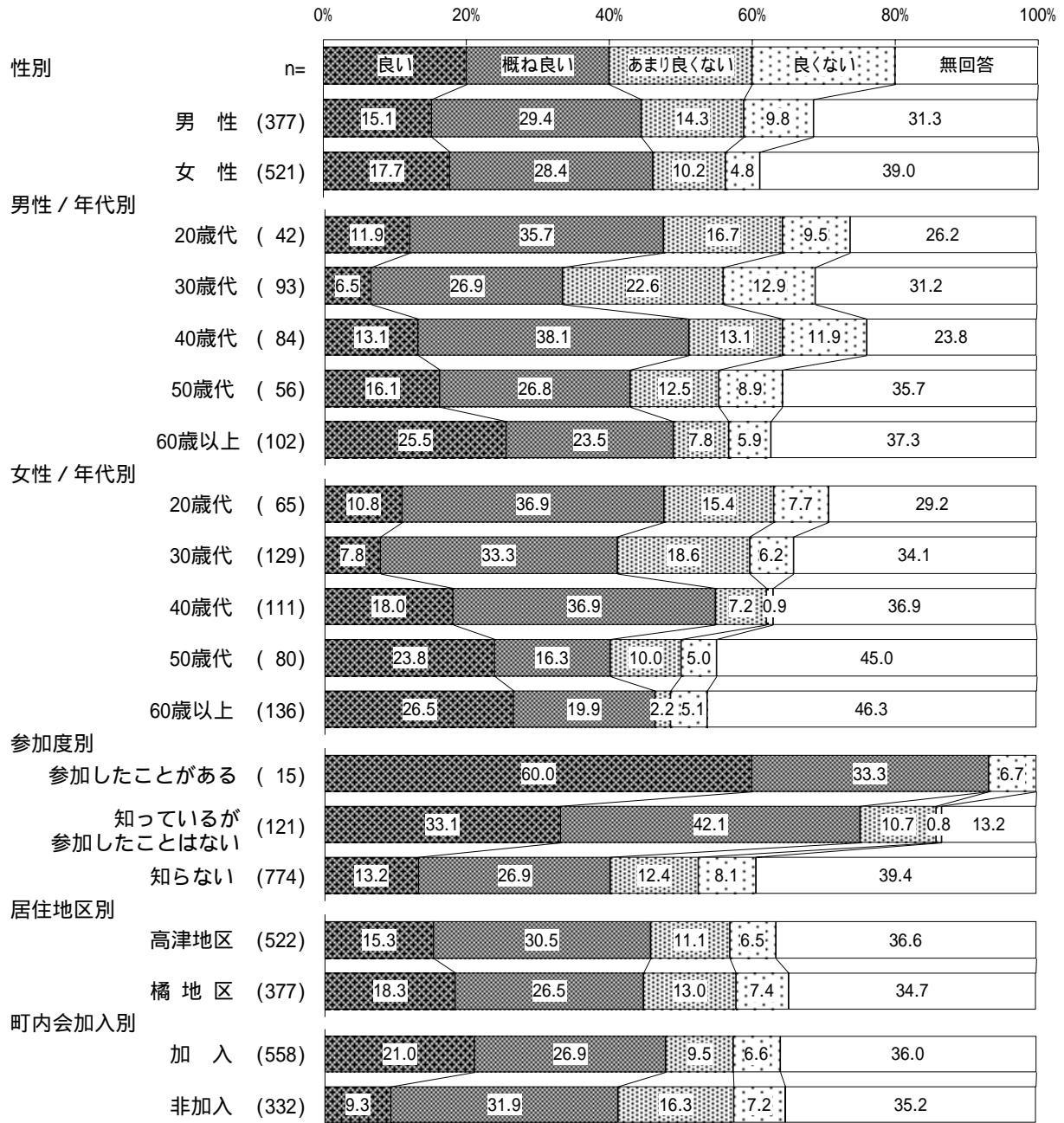


町内会加入別の「良い」をみると、『加入』の方が『非加入』よりも10.7ポイント高くなっている。
 子ども世帯別をみると、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では『子ども・有』の方が『子ども・無』よりも7.7ポイント高くなっている。

問25 高津公園体操推進事業

事業内容： 区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとに研修会を実施している。また、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施し、啓発し普及するためのリーフレット、DVDの作成を行っている。

図 25 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別をみると、男女ともに『30歳代』から年代が上がるにつれて割合も上がっており、女性の『60歳以上』が26.5%と最も高く、男性の『60歳以上』が25.5%と続いている。

参加度別にみると、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では、『知っているが参加したことはない』で75.2%と高くなっている。

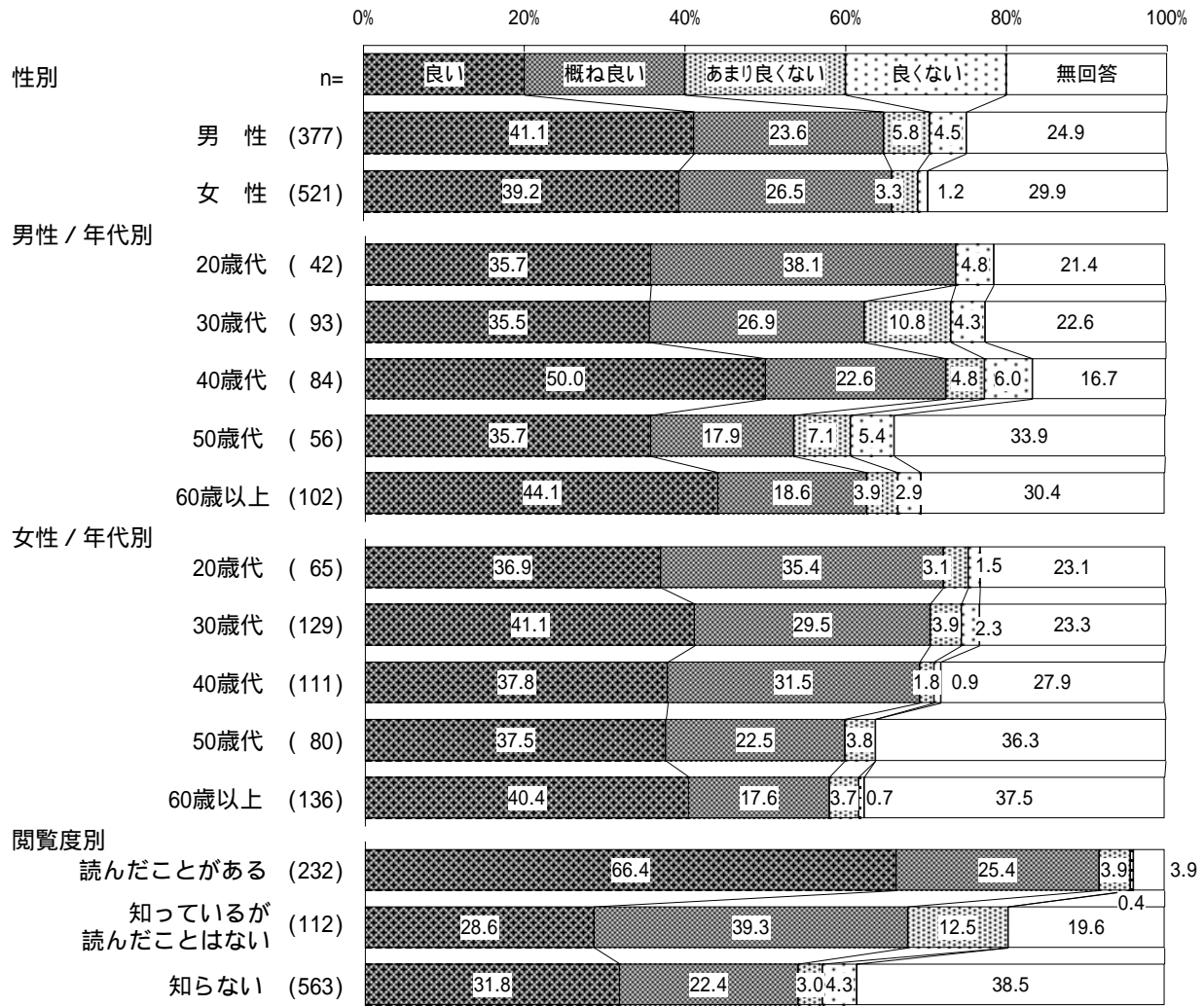
居住地区別では、『橘地区』の方が『高津地区』よりも「良い」の割合が3.0ポイント高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも11.7ポイント高くなっている。

問26 高津区医療機関マップ

事業内容： 区民の利便性を高めるため、区内医療機関のマップを作成し、区内公共施設等で配布を行っている。

図 26 - 1 性別 / 性年代別 / 閲覧度別 事業評価



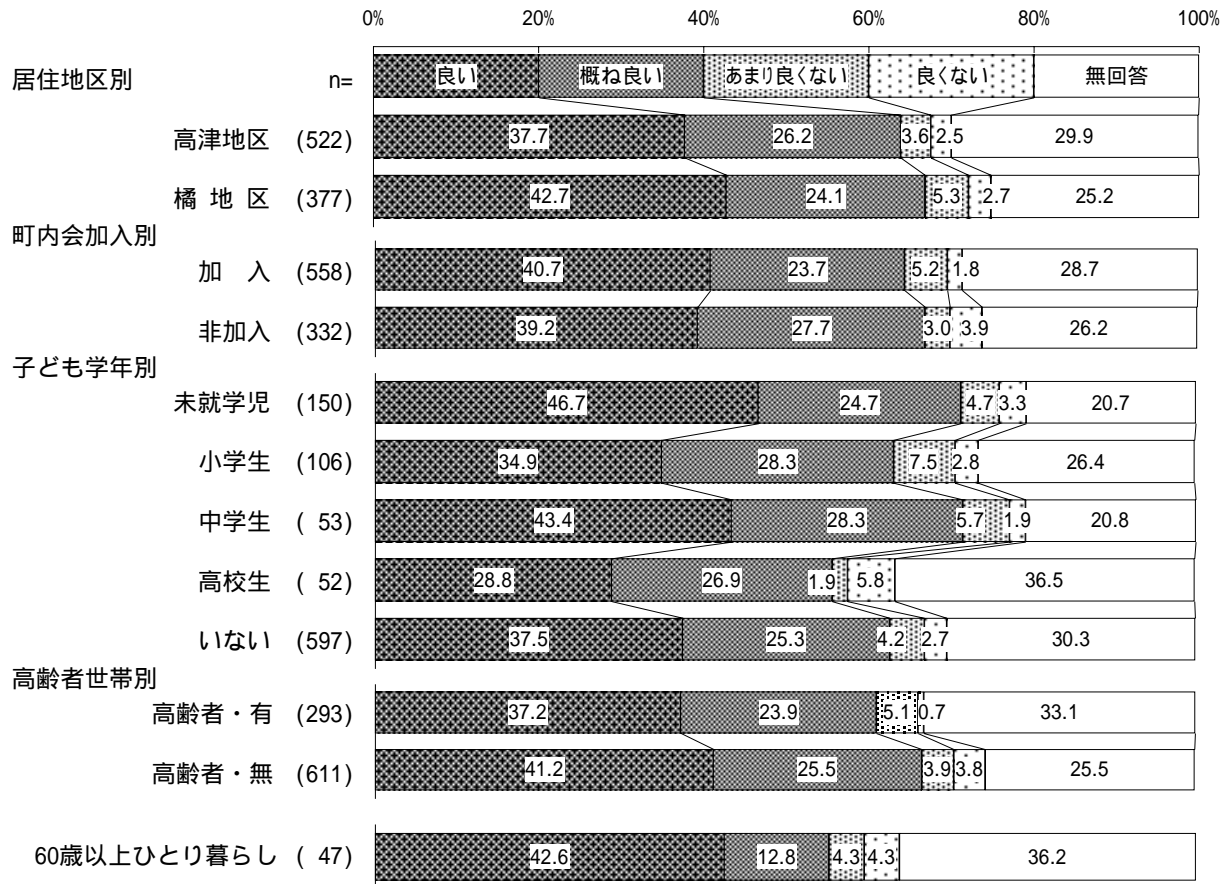
性・年代別の「良い」をみると、男性の『40歳代』が50.0%と最も高く、『60歳以上』が44.1%と続いている。「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」をみると、女性は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がある。

閲覧度別の「良い」をみると、『読んだことがある』が66.4%と65%を超えて高くなっている。

問26 高津区医療機関マップ

事業内容： 区民の利便性を高めるため、区内医療機関のマップを作成し、区内公共施設等で配布を行っている。

図 26 - 2 居住地区別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 / 高齢者世帯別 事業評価



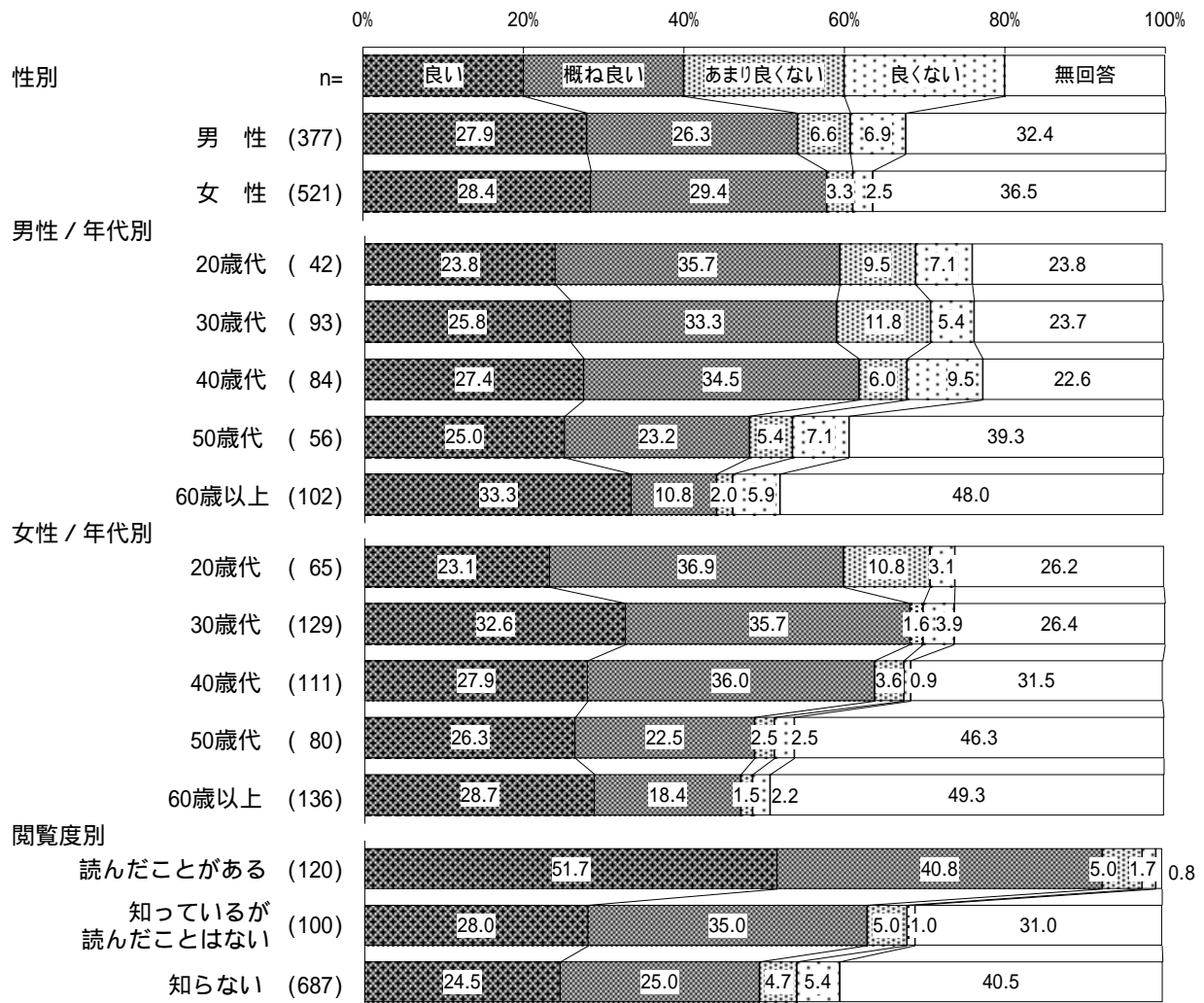
居住地区別の「良い」をみると、『橘地区』の方が『高津地区』よりも5.0ポイント高くなっている。子どもの学年別の「良い」をみると『未就学児』が46.7%と最も高く、次いで『中学生』(43.4%)、『いない』(37.5%)、『小学生』(34.9%)、『高校生』(28.8%)の順となっている。

高齢者世帯別の「良い」では『高齢者・無』の方が『高齢者・有』よりも4.0ポイント高くなっており、『60歳以上ひとり暮らし』は42.6%となっている。

問27 子ども子育て情報発信事業

事業内容： 地域における子ども・子育て支援のより一層充実を図ることを目的に、「ホッとこそだてたかつ」の情報ガイドブックやホームページを活用し、情報発信を行っている。

図 27 - 1 性別 / 性年代別 / 閲覧度別 事業評価



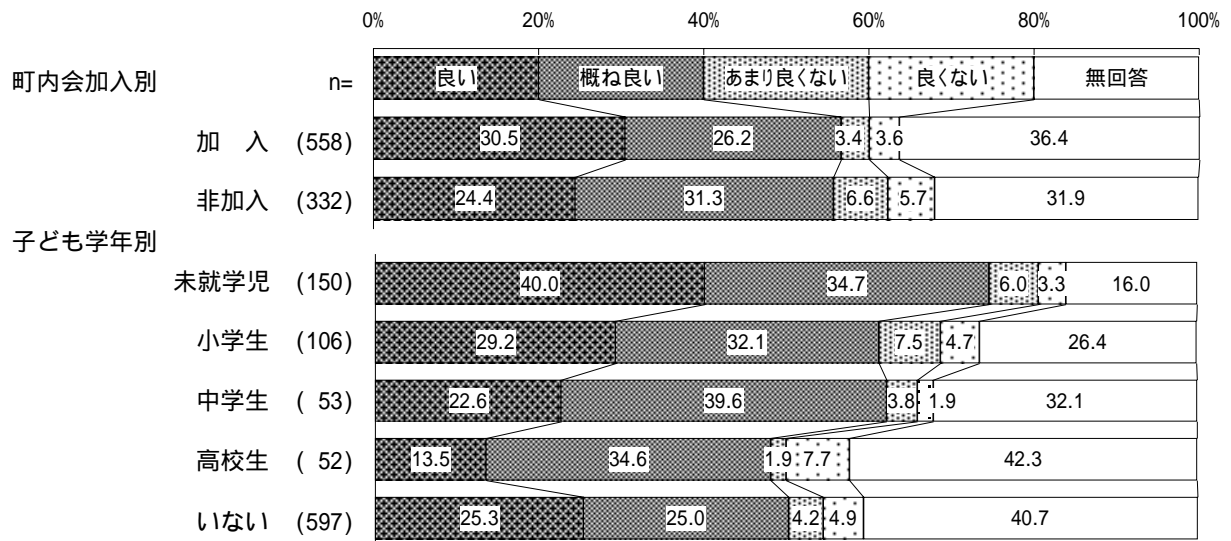
年代別の「良い」をみると、男性の『60歳以上』が33.3%と最も高く、女性の『30歳代』が32.6%とそれに続いている。

閲覧度別の「良い」では、『読んだことがある』が51.7%と半数を超えて高くなっている。

問27 子ども子育て情報発信事業

事業内容： 地域における子ども・子育て支援のより一層充実を図ることを目的に、「ホッとこそだてたかつ」の情報ガイドブックやホームページを活用し、情報発信を行っている。

図 27 - 2 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



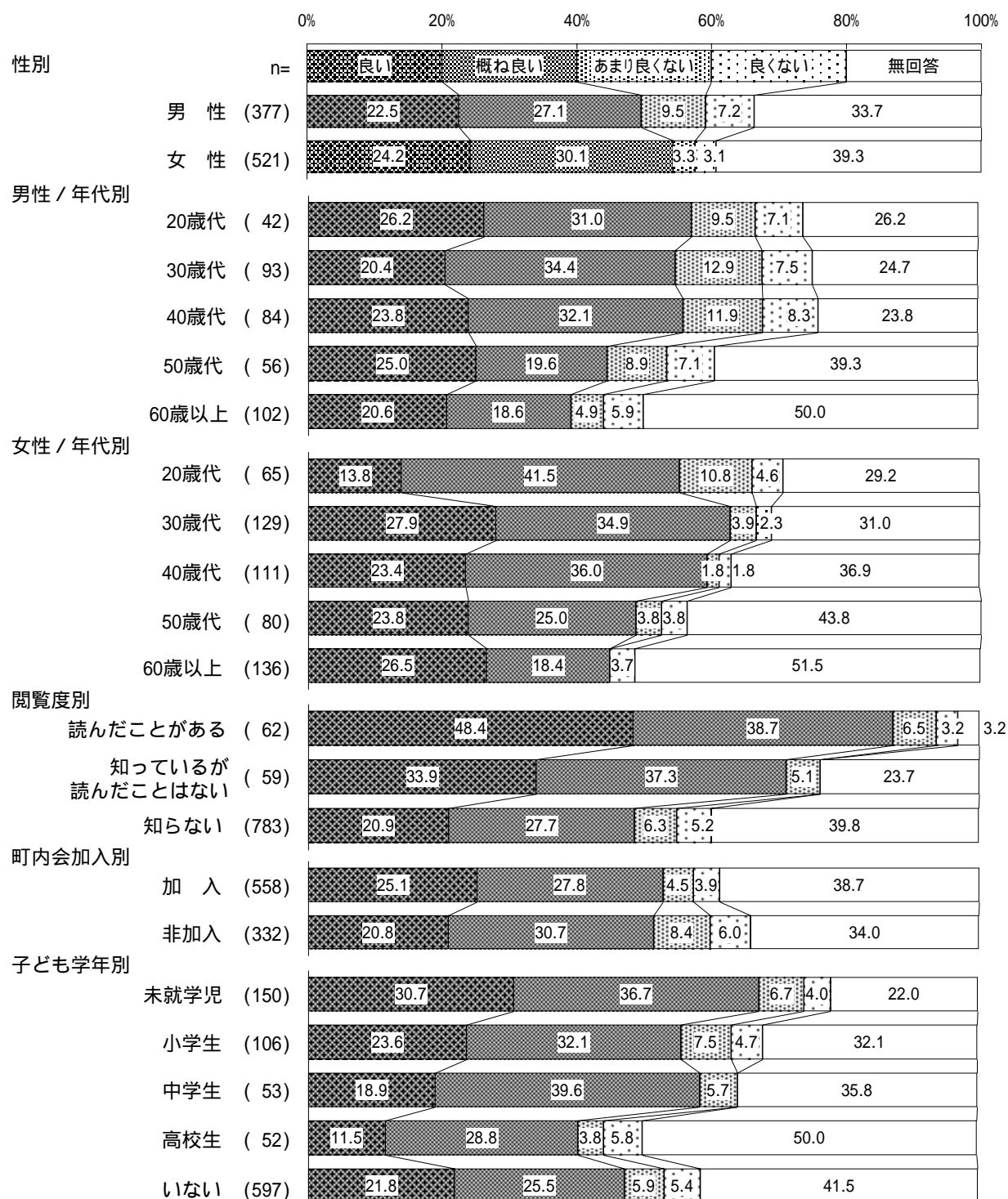
町内会加入別の「良い」では、『加入』の方が『非加入』よりも6.1ポイント高くなっている。

子ども学年別の「良い」では、『未就学児』が40.0%と最も高く、子どもの学年が上がるにつれて割合が低くなっている。

問28 子育て情報紙発行事業

事業内容： 子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報紙「あったかつしん」の発行を行っている。

図 28 - 1 性別 / 性年代別 / 閲覧度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、女性の『30歳代』が27.9%と他の年代と比較して高く、次いで女性の『60歳以上』が26.5%と続いている。

閲覧度別の「良い」をみると、『読んだことがある』が48.4%と高くなっている。

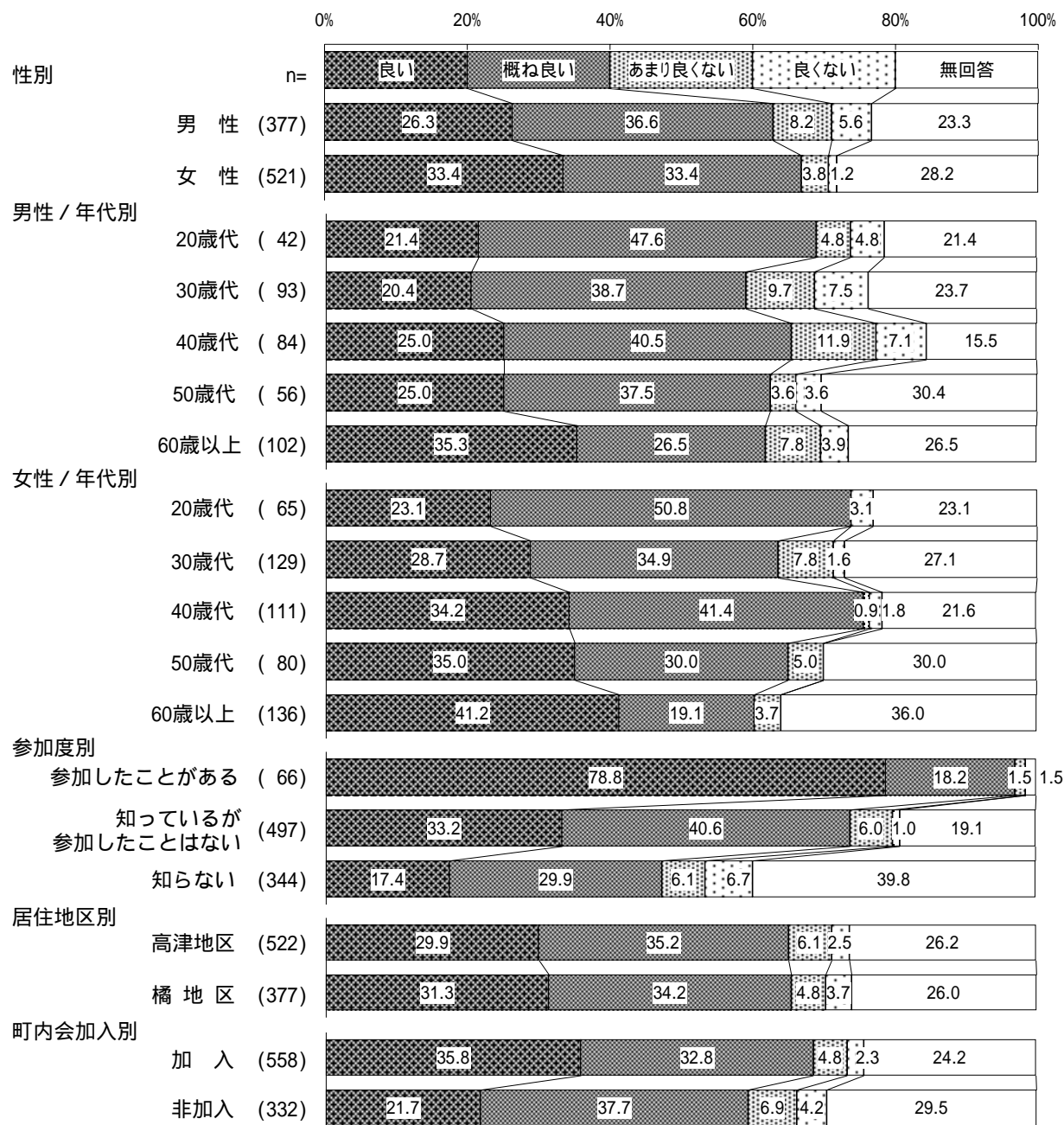
町内会加入別の「良い」をみると、『加入』の方が『非加入』よりも4.3ポイント高くなっている。

子どもの学年別では、子どもの学年が上がるにつれて、「良い」の割合が低くなる傾向がある。

問29 高津区「音楽のまち」推進事業

事業内容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花・コンサート」、区民祭に合わせて「たかつサマー・コンサート」、「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

図 29 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別をみると、『女性』の方が『男性』よりも「良い」の割合が7.1ポイント高くなっており、女性は年代が上がるにつれて割合も高くなっている。なかでも女性の『60歳以上』は41.2%と最も高い。

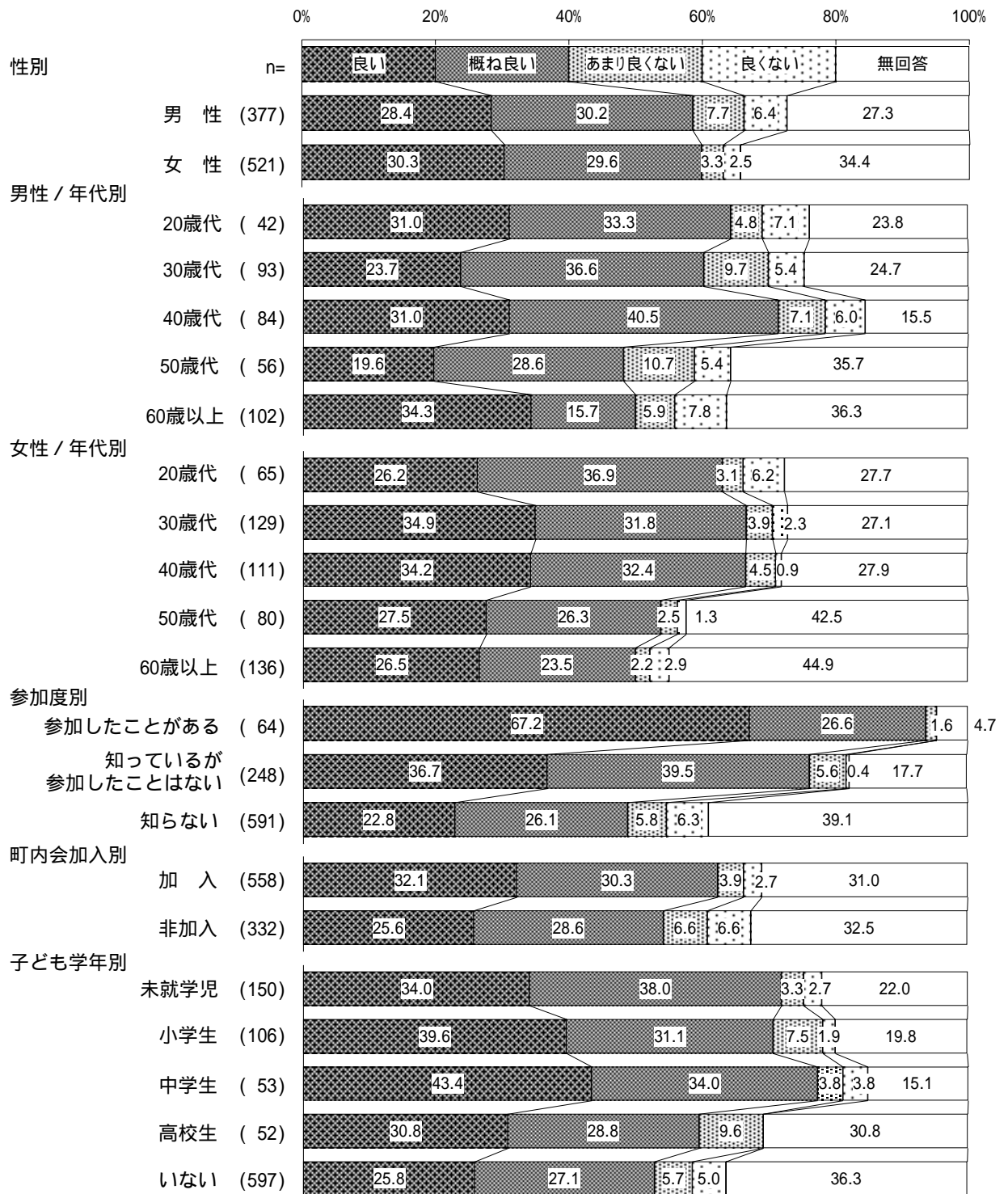
参加度別に「良い」をみると、『参加したことがある』が78.8%と高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が14.1ポイント高くなっている。

問30 高津区わくわくフェスティバル

事業内容：地域の活性化と子ども達のふれあいを図る目的で、毎年7月下旬に実施される高津区民祭の関連事業として高津小学校で行っている。昨年は「炎神戦隊ゴーオンジャー」、「人工降雪機による雪遊び広場」など、様々な子ども向けのイベントを実施した。

図 30 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、男性の『60歳以上』（34.3%）と女性の『30歳代』（34.9%）、『40歳代』（34.2%）が他の年代と比較して高くなっている。

参加度別の「良い」では、『参加したことがある』が67.2%と65%を超えて高くなっている。

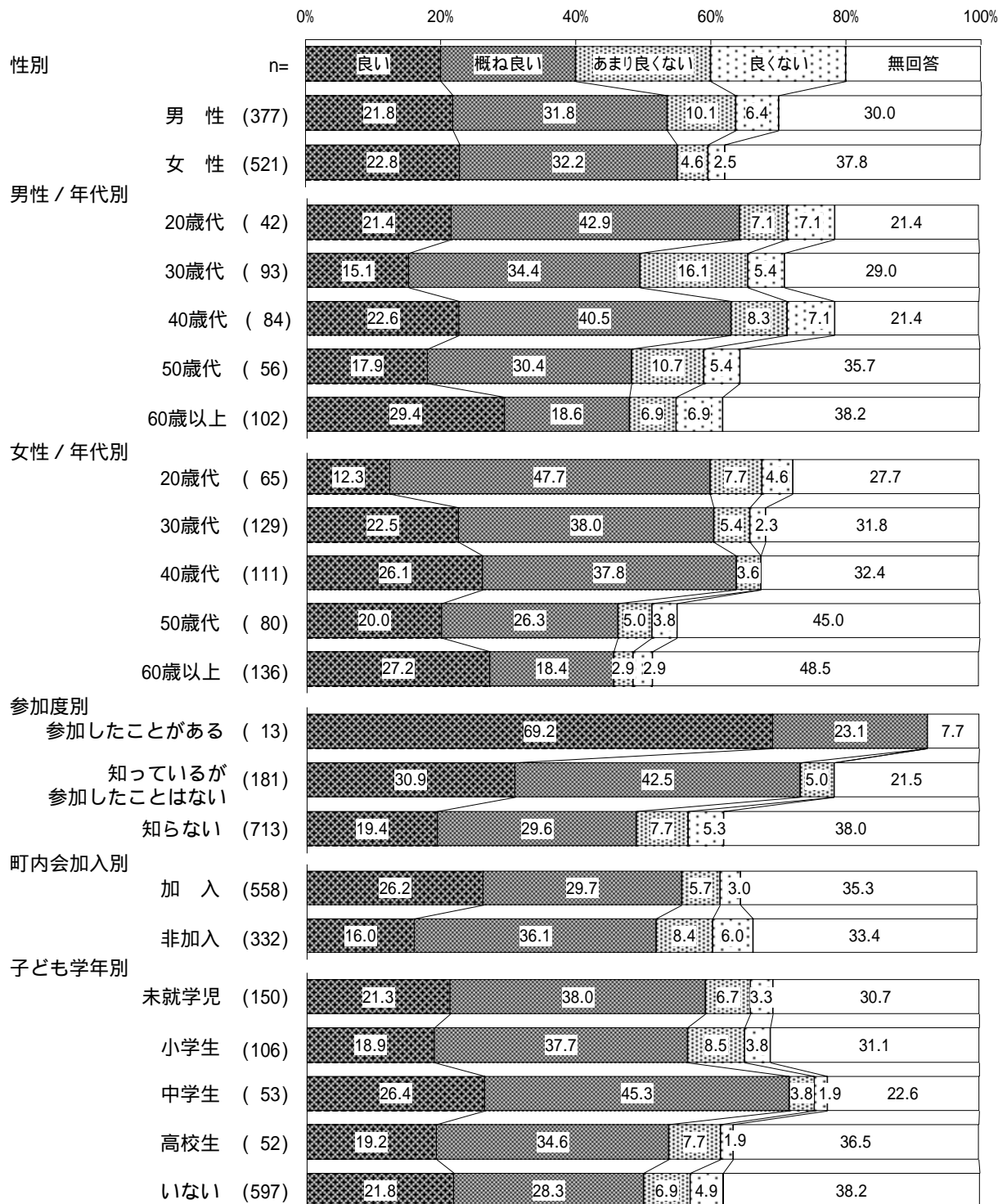
町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が6.5ポイント高い。

子どもの学年別では、『未就学』から『中学生』までは子どもの学年が上がるにつれて割合が高くなっている。

問31 体育・スポーツイベント

事業内容：高津区民祭のスポーツイベントとして区民の健全な心身づくりと地域の交流・親睦を深めることを目的に、高津スポーツセンターにおいて、ゲートボールの未経験者が体験できる「ゲートボール教室」や綱引き大会を開催している。

図 31 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、男女ともに『60歳以上』と『40歳代』が他の年代と比較して高くなっており、男性の『60歳以上』が29.4%と最も高く、次いで女性の『60歳以上』が27.2%と続いている。

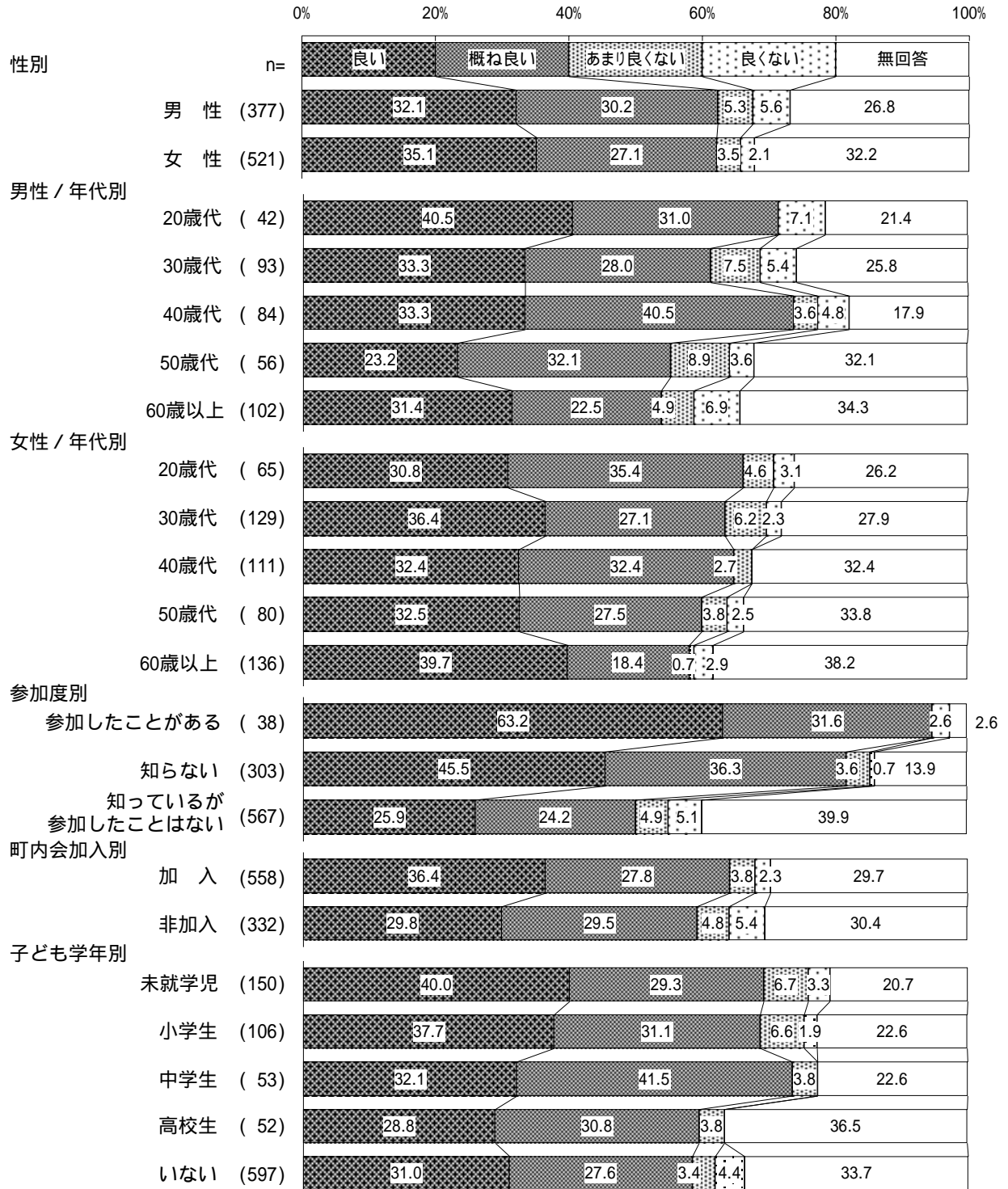
町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が10.2ポイント高くなっている。

子どもの学年別では、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」で『中学生』が71.7%と高くなっている。

問32 高津区子どもフェア

事業内容：子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょうの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

図 32 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別をみると、『女性』の方が『男性』よりも3.0ポイント高く、男性の『20歳代』が40.5%と最も高くなっている。

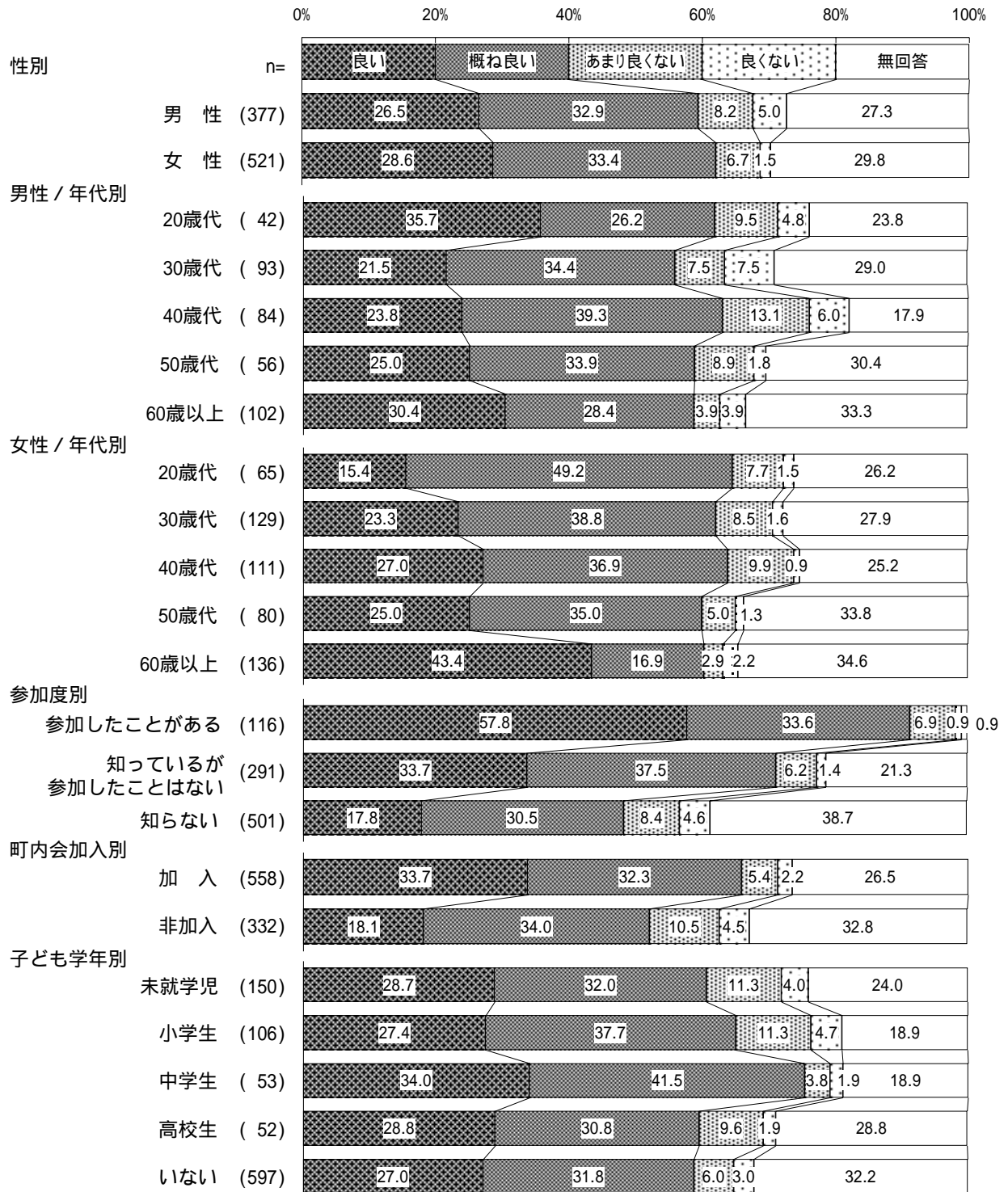
参加度別では、『参加したことがある』の「良い」が63.2%と高くなっている。

子どもの学年別では、子どもの学年が上がるにつれて「良い」の割合が低くなっている。

問33 高津地区親子運動会事業

事業内容： 毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子を対象に運動会を行っている。
 昨年は、町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施した。

図 33 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、女性の『60歳以上』が43.4%と他の年代と比較して高く、男性の『20歳代』（35.7%）と『60歳以上』（30.4%）がそれに続いている。

参加度別では、『参加したことがある』の「良い」の割合が57.8%と半数を超えて高くなっている。

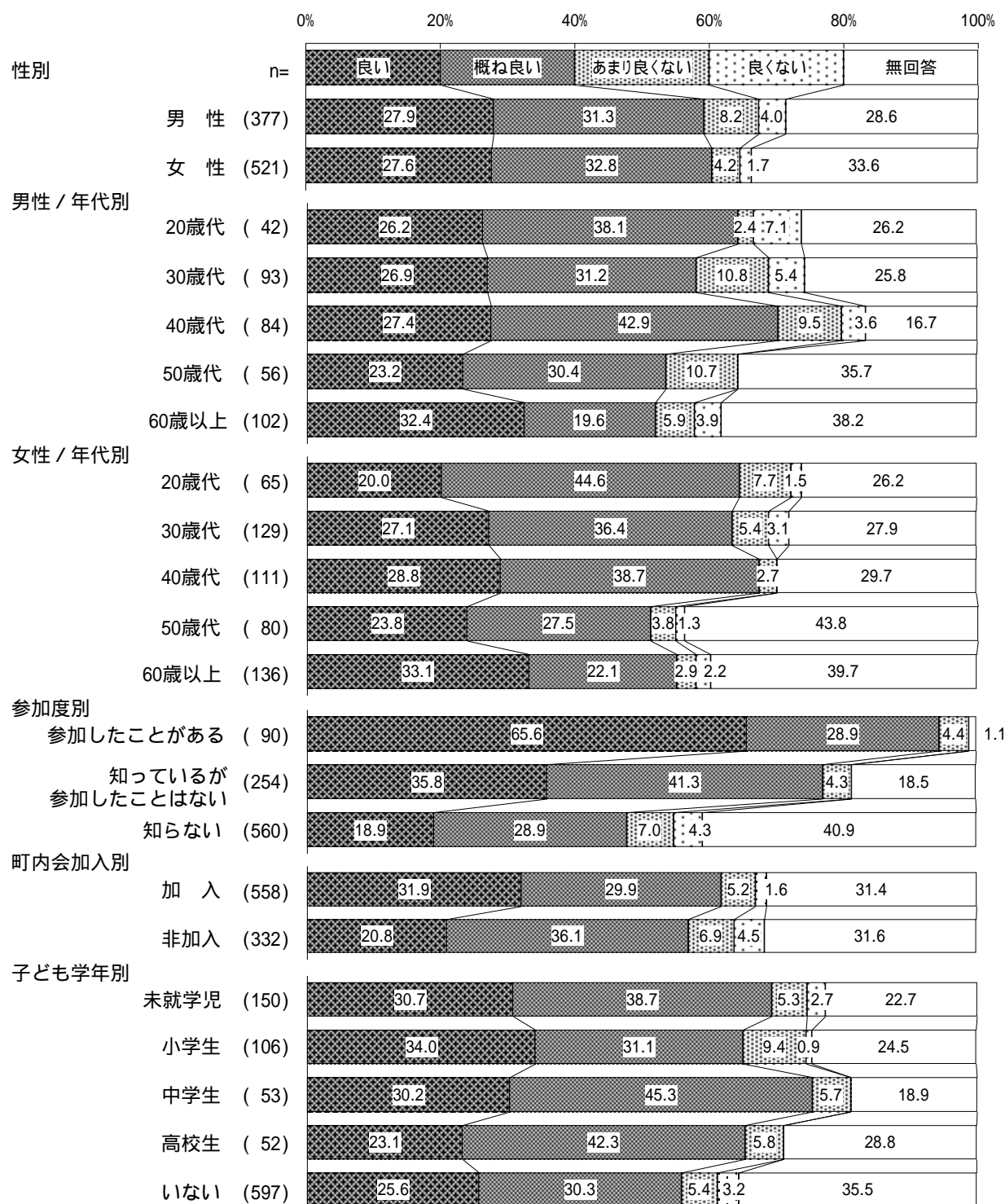
町内会加入別の「良い」をみると、『加入』の方が『非加入』よりも15.6ポイント高くなっている。

子どもの学年別の「良い」をみると、『中学生』が34.0%と最も高く、他の学年も25%以上となっている。

問34 橘ふるさと祭り 子どもイベント

事業内容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橘ふるさと祭り(8月上旬の日曜日)において、移動動物園、ストラックアウト、釣り堀、ポスター展など子どもを対象としたイベントを実施している。

図 34 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、男女ともに『60歳以上』が高く、女性が33.1%、男性が32.4%となっている。

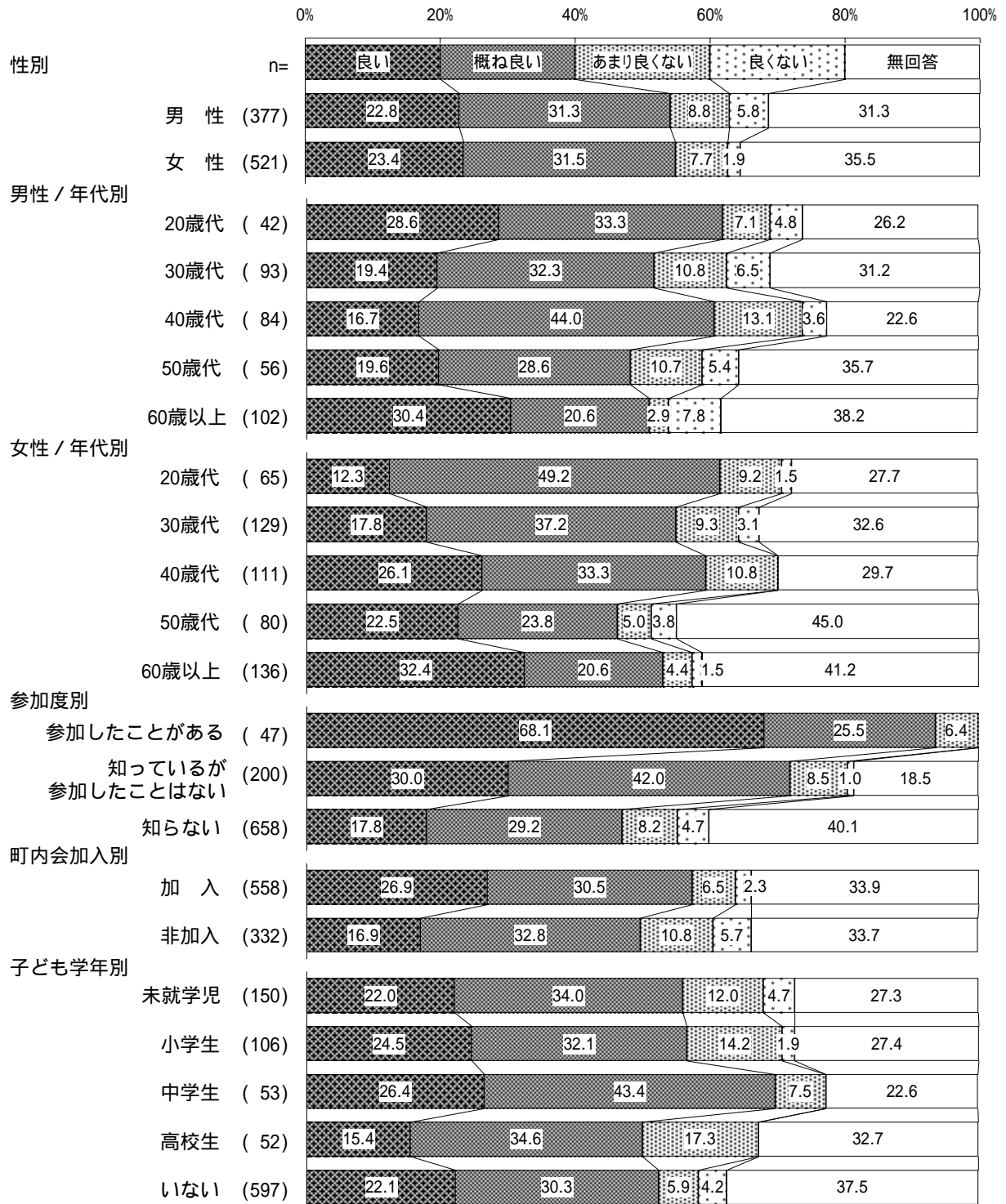
町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が11.1ポイント高くなっている。

子どもの学年別では、『小学生』から『高校生』の間で子どもの学年が上がるにつれて「良い」の割合が低くなっている。

問35 橘地区親子運動会事業

事業内容： 毎年10月の第3日曜日に、橘中学校で橘地区の親子を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

図 35 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 町内会加入別 / 子ども学年別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向があり、女性の『60歳以上』が32.4%と他の年代と比較して高くなっている。

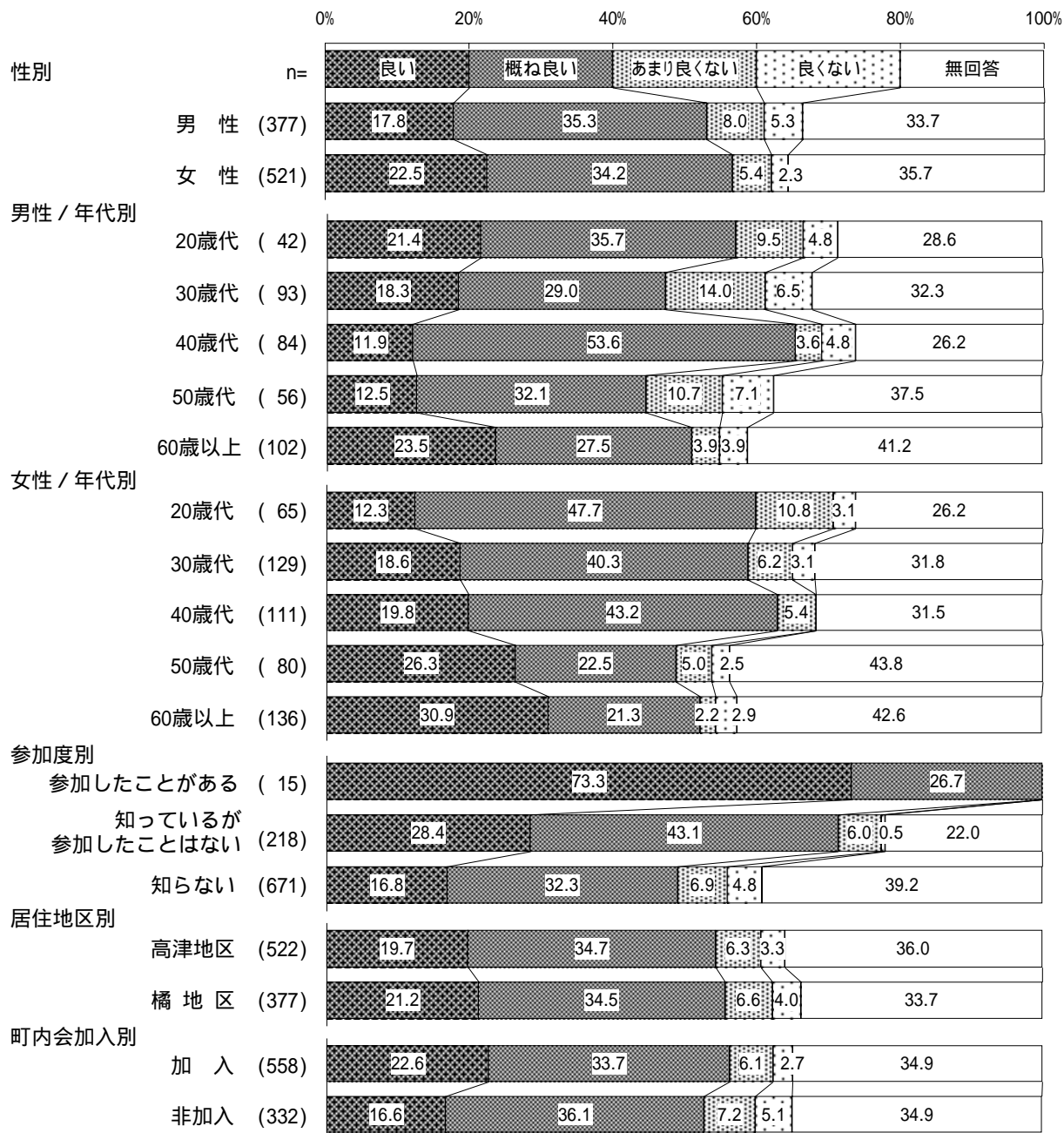
町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が10.0ポイント高くなっている。

子どもの学年別では、『未就学』から『中学生』までの間で、子どもの学年が上がるにつれて「良い」の割合が高くなっている。

問36 高津区文化振興事業

事業内容： 区の文化の振興を図るため、10月に高津市民館で開催された高津区文化祭にあわせて、区や市にゆかりのある著名な文化人を招き文化講演会やコンサートを行っている。また、昨年、地域の身近な文化遺産である大山街道周辺の文化財や久本薬医門公園などを巡り、その文化価値を学ぶ高津区文化探訪講座を2回開催した。

図 36 - 1 性別 / 性年代別 / 参加度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、『女性』の方が『男性』よりも4.7ポイント高く、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

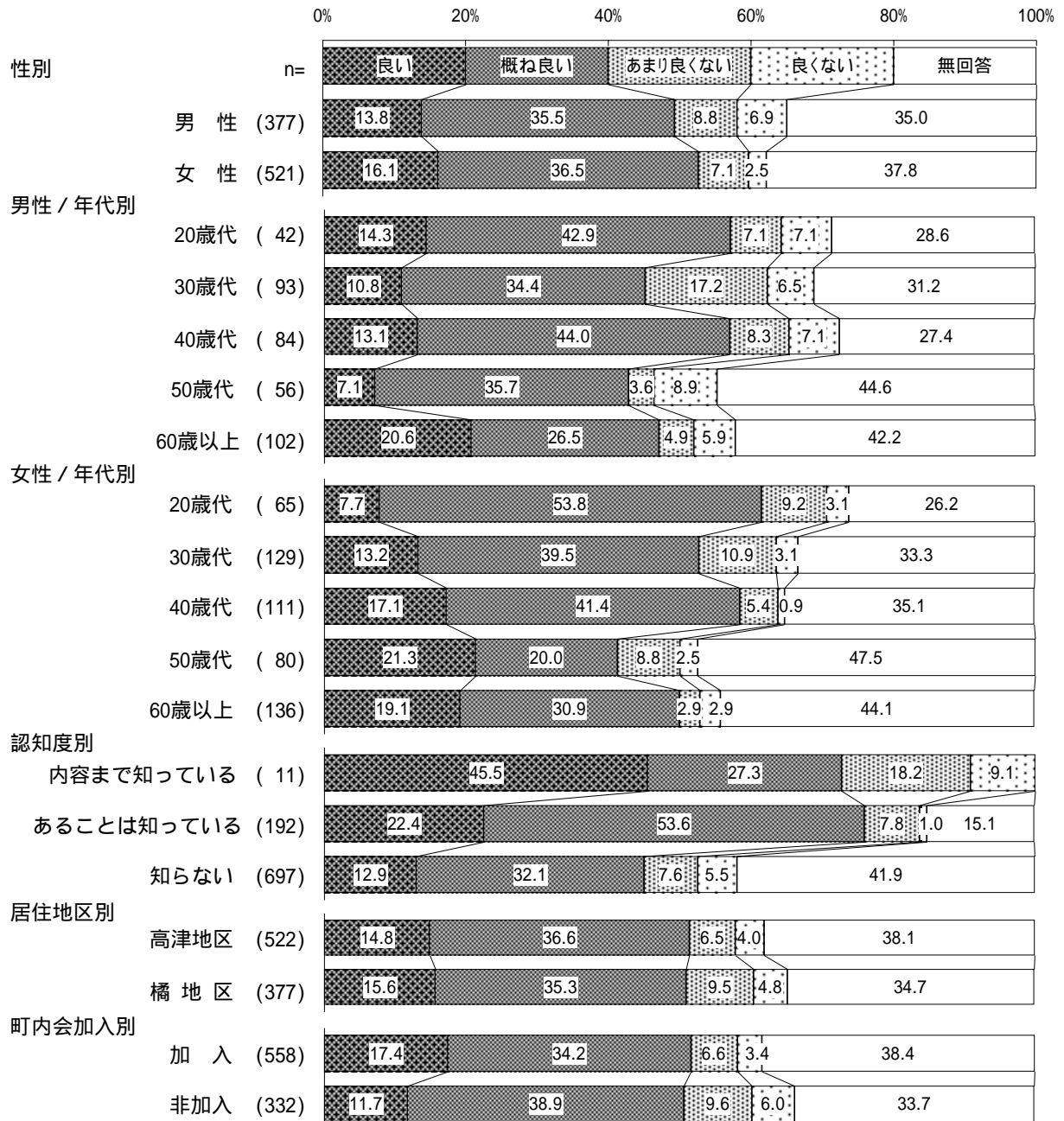
参加度別をみると、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では、『知っているが参加したことはない』が71.5%と70%を超えて高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が6.0ポイント高くなっている。

問37 高津区まちづくり推進事業

事業内容： 区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取り組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまねっ」との運営を行っている。

図 37 - 1 性別 / 性年代別 / 認知度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



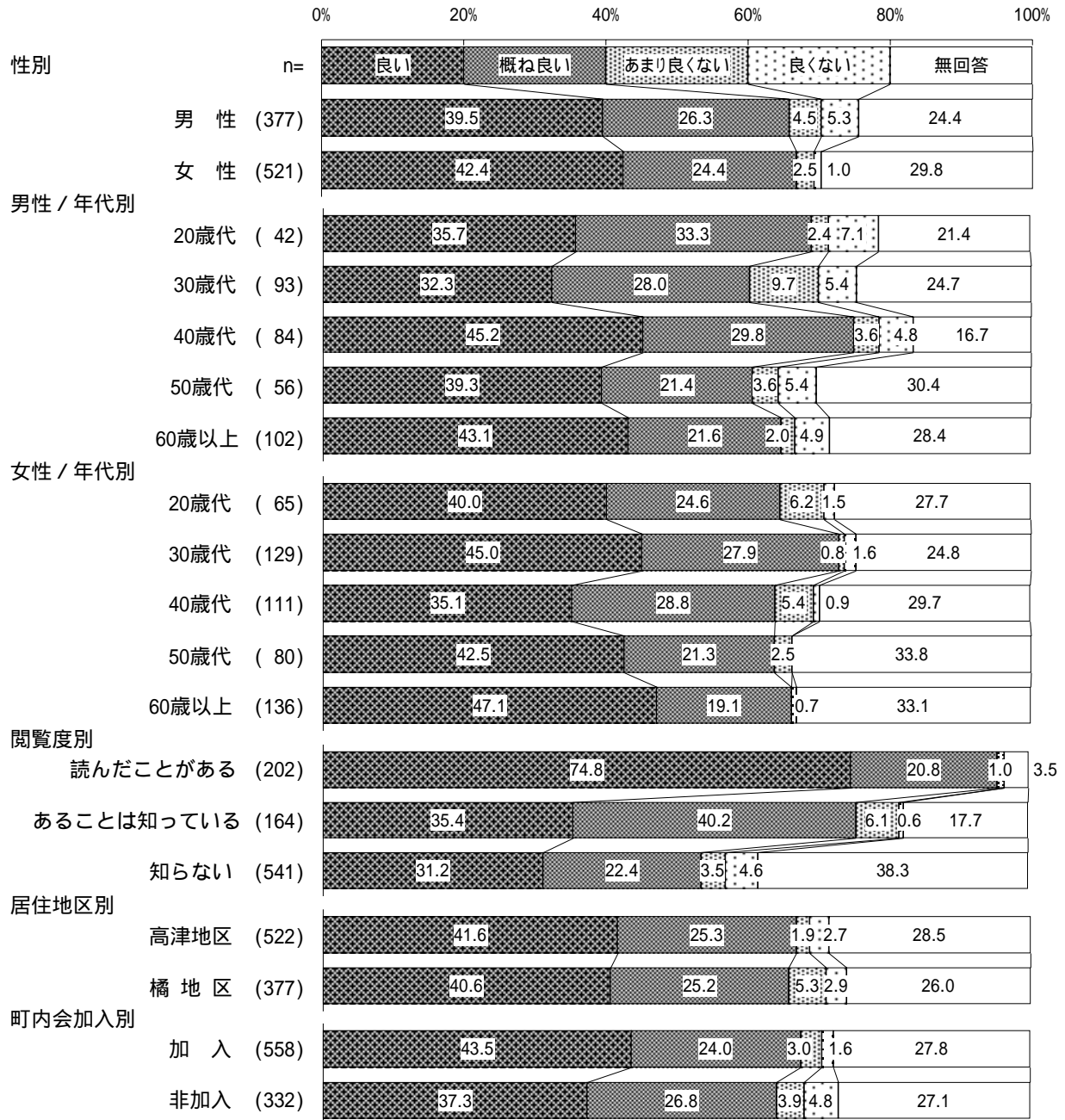
性・年代別の「良い」をみると、女性は年代が上がるにつれて割合が上がる傾向があり、女性の『50歳代』が21.3%と最も高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が5.7ポイント高くなっている。

問38 高津区総合ガイドマップ作成事業

事業内容：区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、緊急時の連絡先、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

図 38 - 1 性別 / 性年代別 / 閲覧度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



性・年代別の「良い」をみると、女性の『60歳以上』が47.1%と最も高く、次いで男性の『40歳代』（45.2%）、女性の『30歳代』（45.0%）が45%以上で続いている。

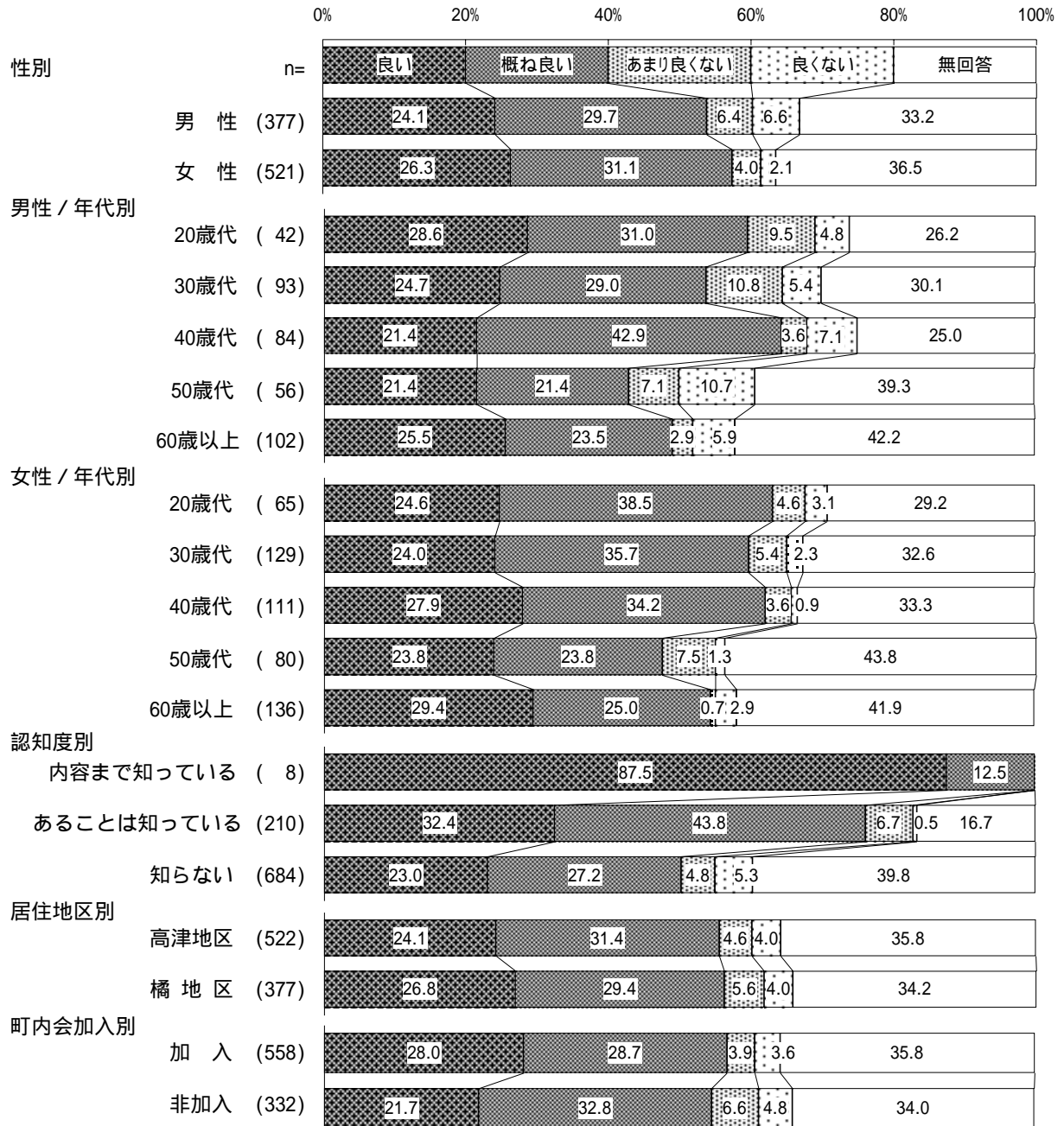
閲覧度別の「良い」では、『読んだことがある』が74.8%と高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が6.2ポイント高くなっている。

問39 高津区区民会議

事業内容： 区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第1期区民会議では、「子ども・子育て支援」「放置自転車」「安全・安心のまちづくり」などを取り上げ、現在第2期区民会議では「環境まちづくり」「地域防災とコミュニティ」をテーマに調査審議を進めている。

図 39 - 1 性別 / 性年代別 / 認知度別 / 居住地区別 / 町内会加入別 事業評価



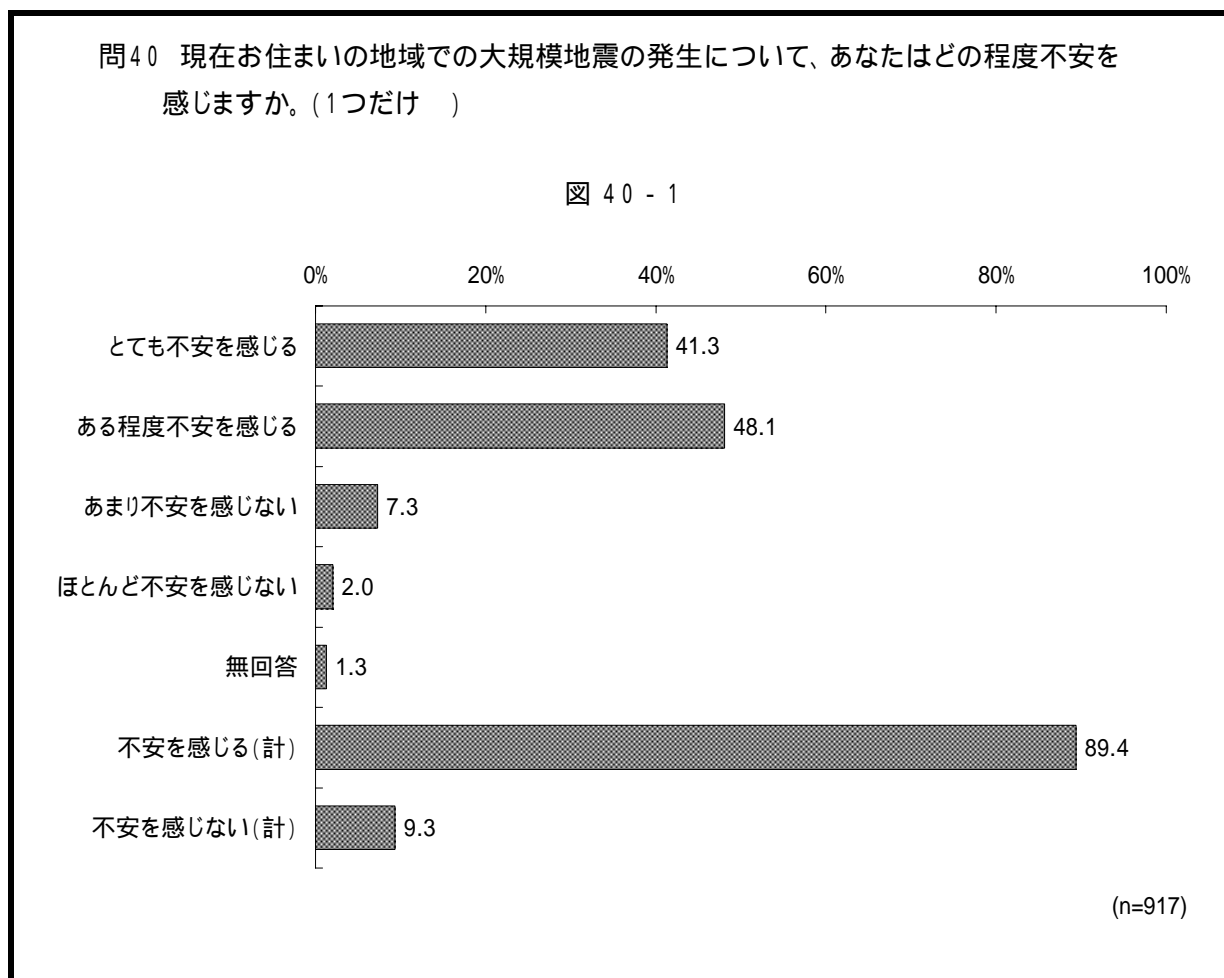
性・年代別の「良い」をみると、女性の『60歳以上』が29.4%と最も高く、男性の『20歳以上』(28.6%)、女性の『40歳代』(27.9%)の順で続いている。

認知度別をみると、「良い」と「概ね良い」を合わせた「良い(計)」では、『あることは知っている』で76.2%と高くなっている。

町内会加入別では、『加入』の方が『非加入』よりも「良い」の割合が6.3ポイント高くなっている。

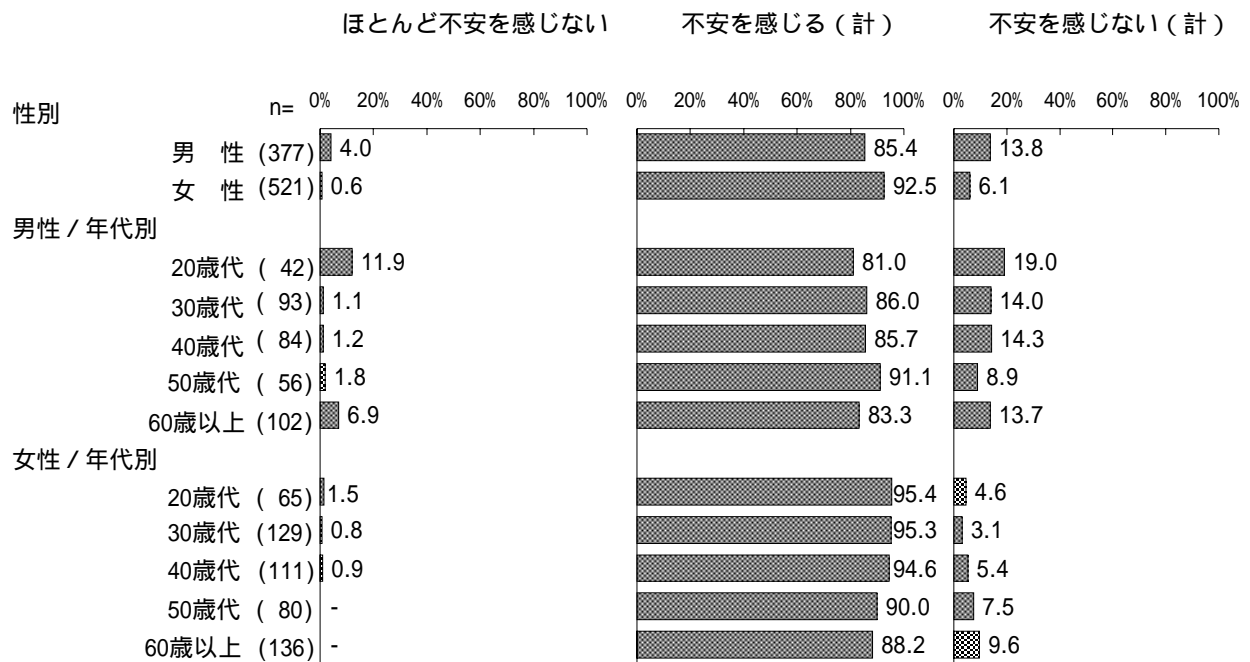
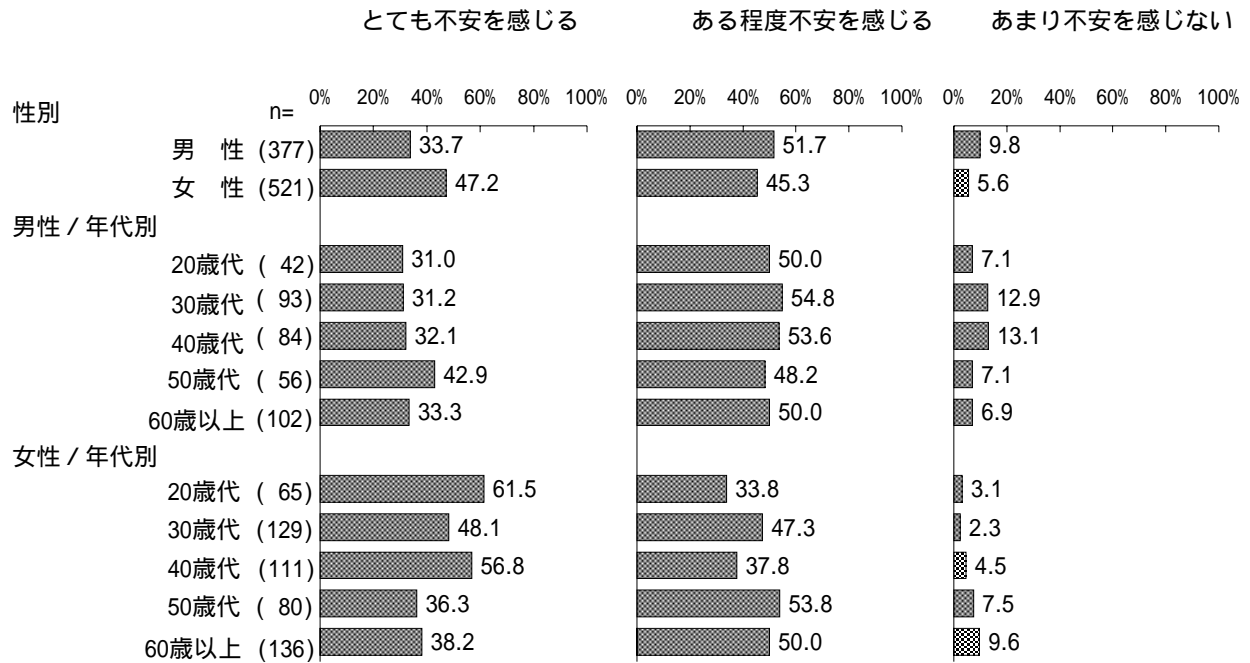
3. 地域防災について

(1) 大規模地震発生時の「不安度」



地域の防災について尋ねたところ、「とても不安を感じる」が41.3%、「ある程度不安を感じる」が48.1%、「あまり不安を感じない」が7.3%、「ほとんど不安を感じない」が2.0%となっている。また、「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた『不安を感じる(計)』は89.4%、「あまり不安を感じない」と「ほとんど不安を感じない」を合わせた『不安を感じない(計)』は9.3%となっている。

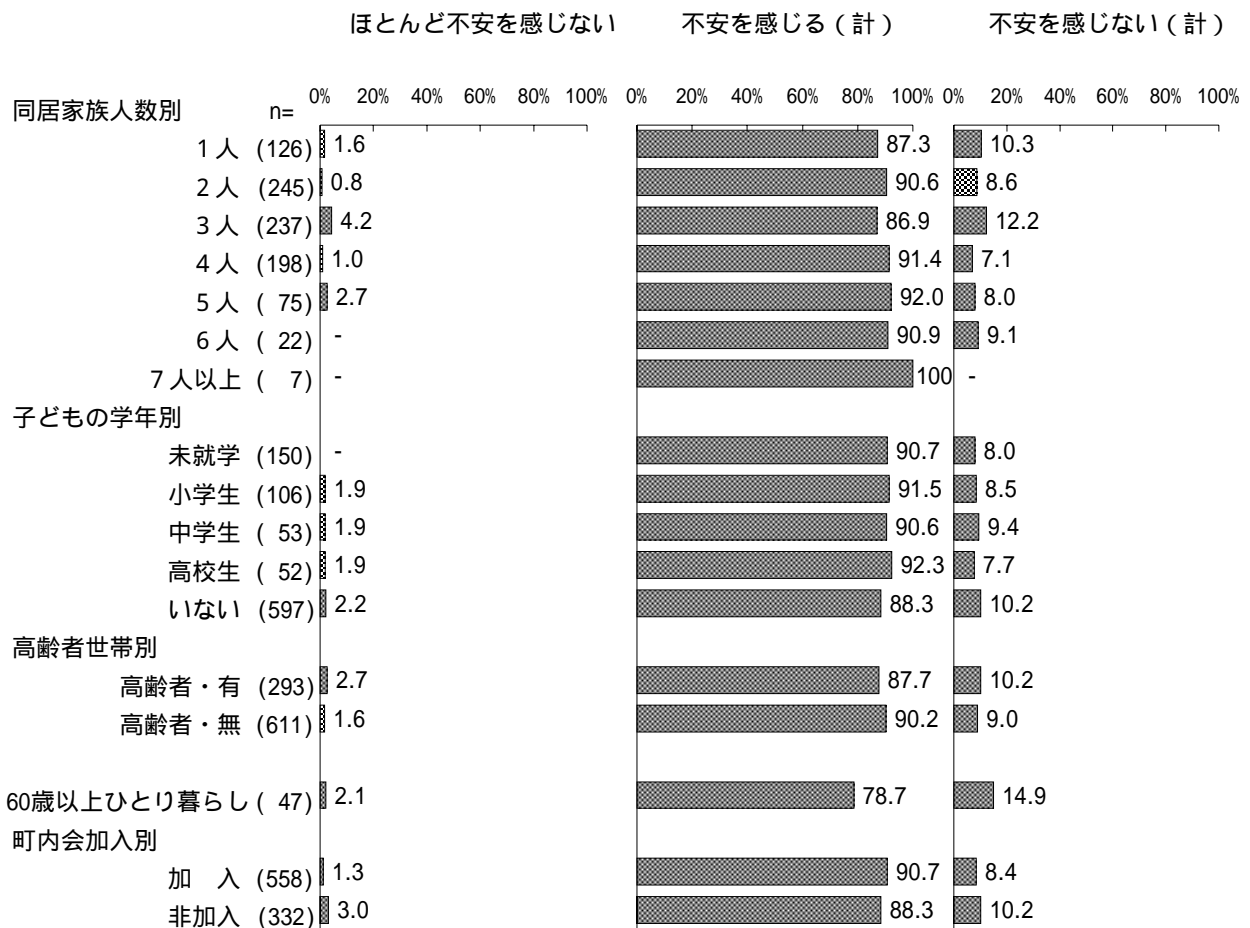
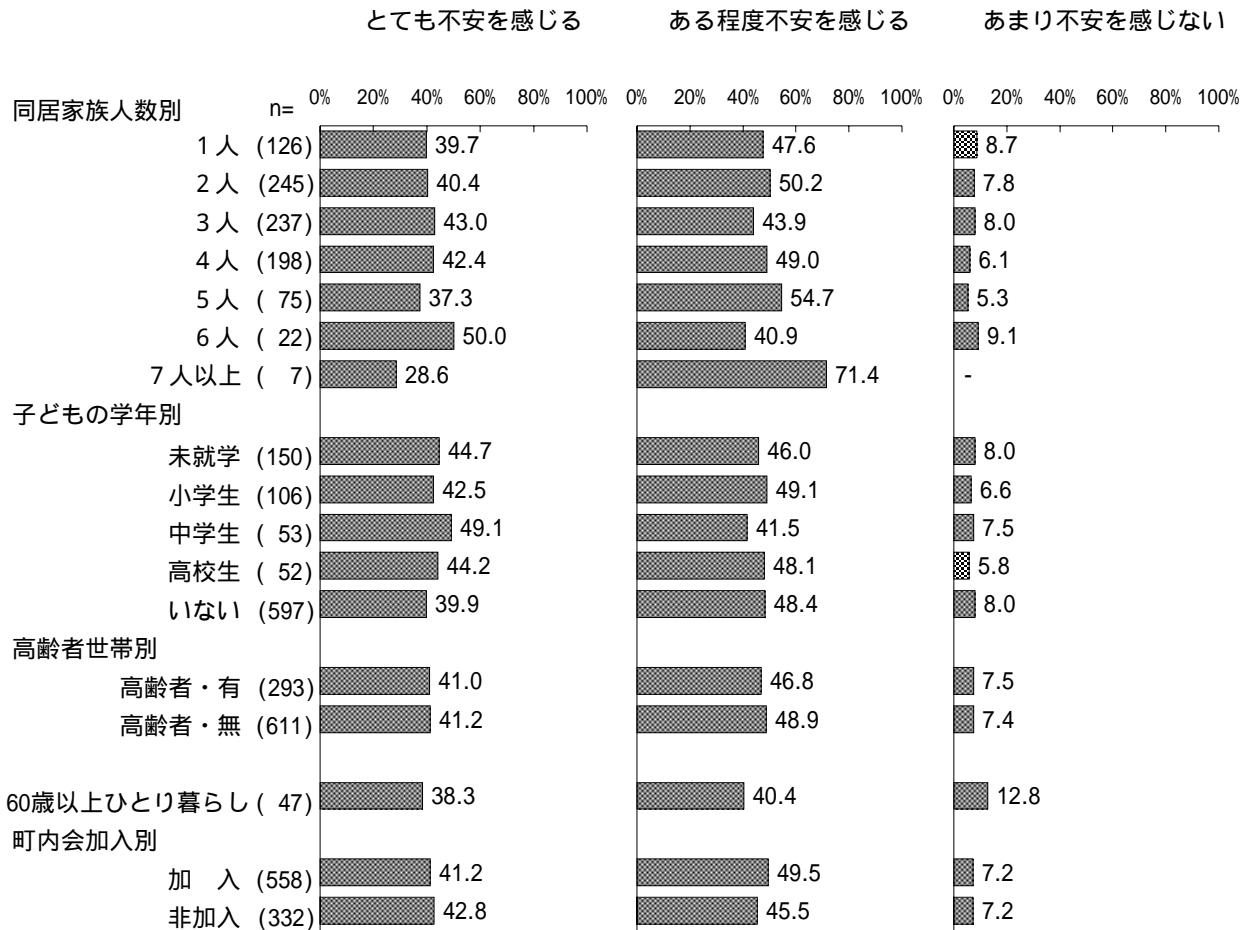
図 40 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「とても不安を感じる」では『女性』の方が『男性』よりも13.5ポイント高く、女性の『20歳代』が61.5%と最も高い。次いで『40歳代』が56.8%と続いている。

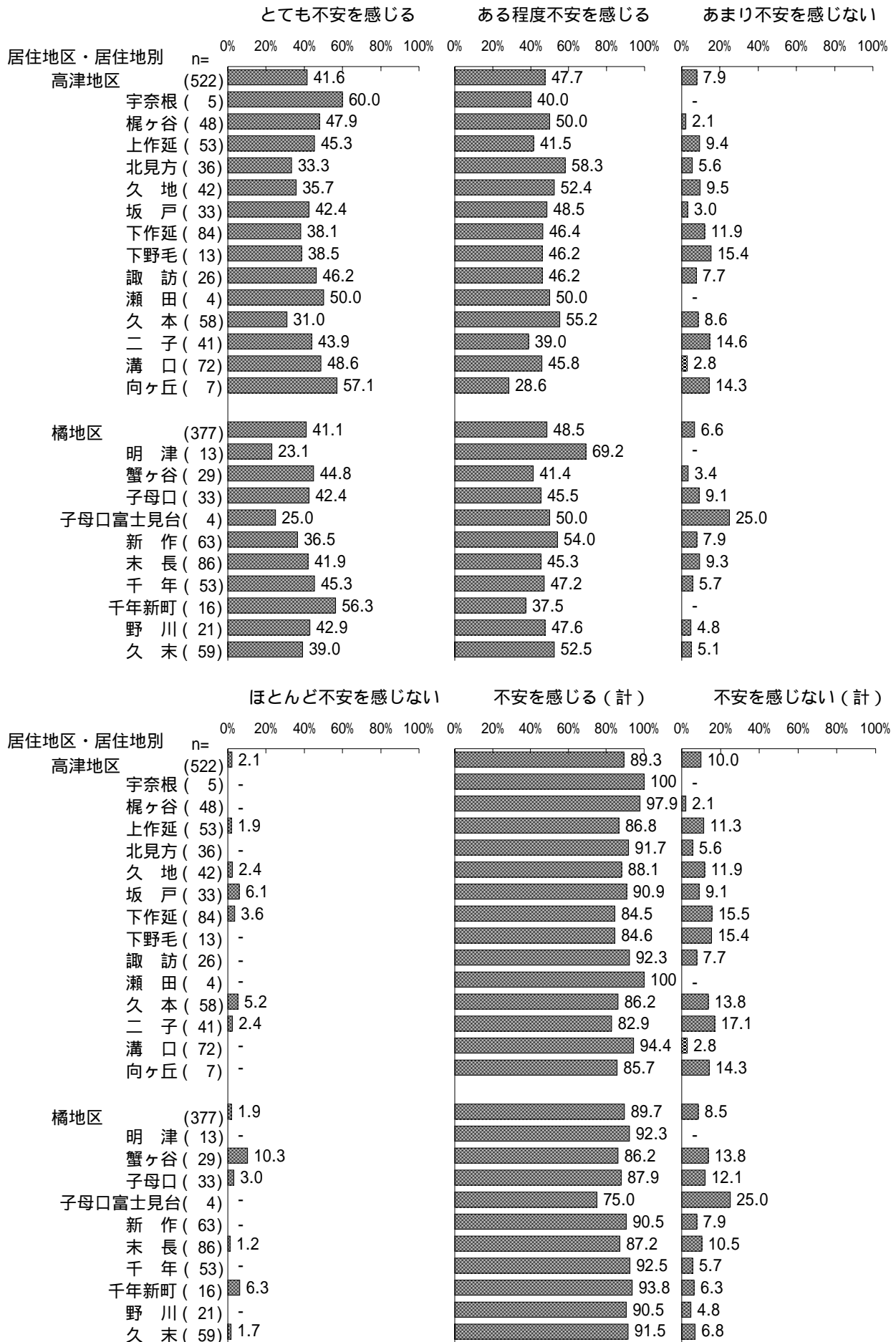
「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた「不安を感じる(計)」では、『女性』の方が『男性』よりも7.1ポイント高くなっている。

図 40 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別



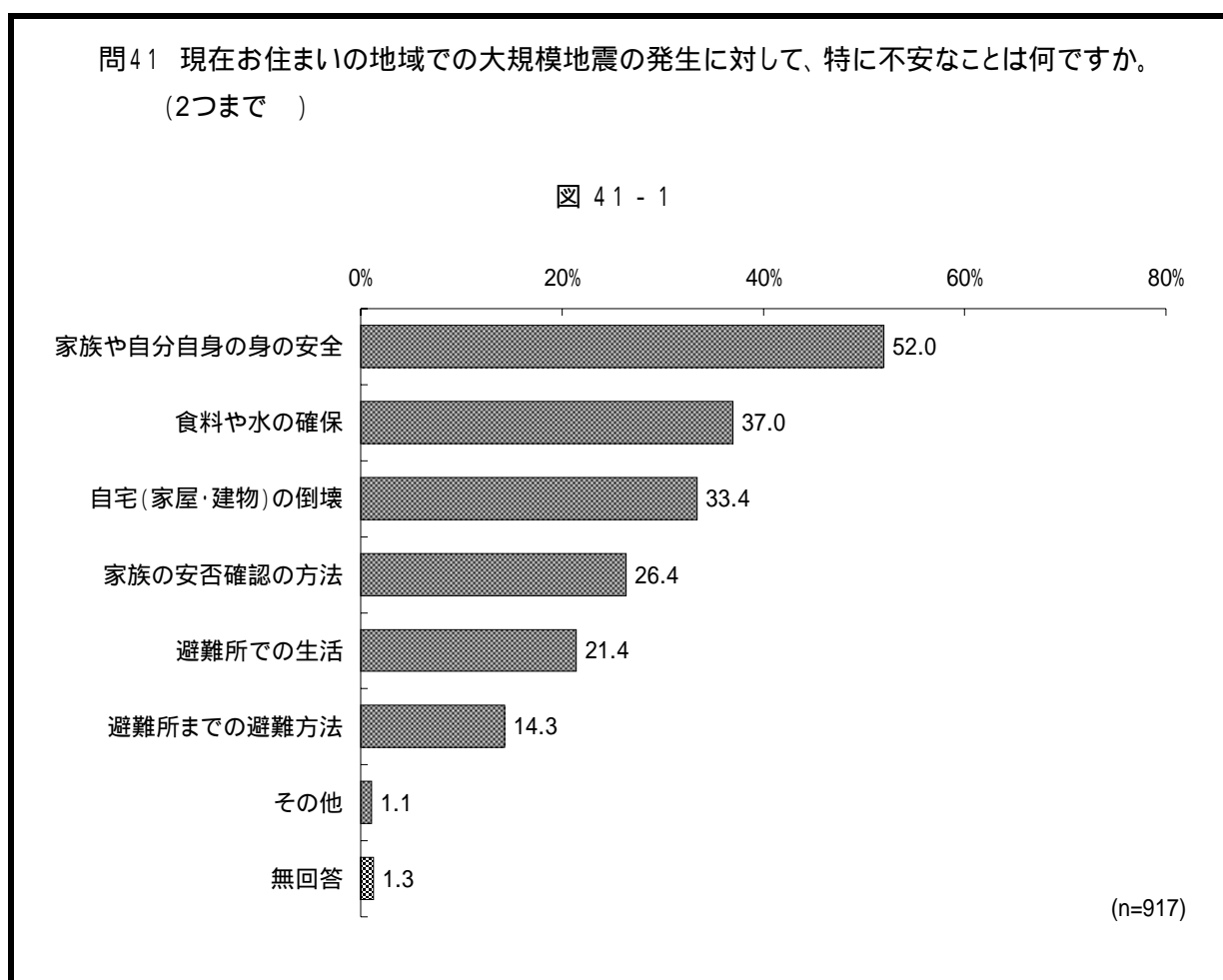
「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」を合わせた「不安を感じる(計)」は、全ての項目で75%を超えて高くなっている。

図 40 - 4 居住地区・居住地別



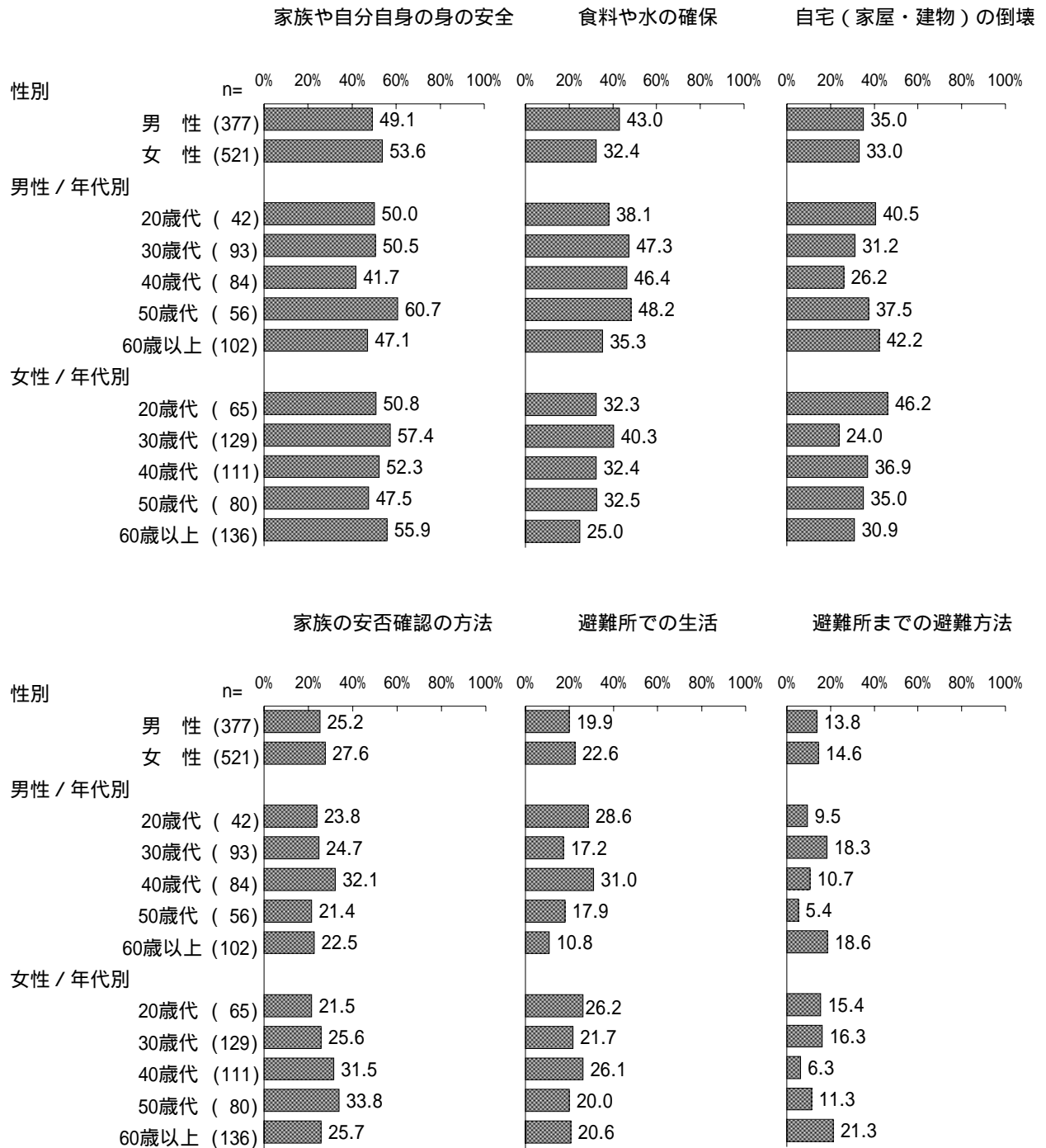
居住地区別をみると、『高津地区』と『橘地区』で特に大きな差はない。

(2) 大規模地震発生時の「不安内容」



大規模地震発生時の「不安内容」については、「家族や自分自身の身の安全」が52.0%で最も高く、「食料や水の確保」(37.0%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(33.4%)、「家族の安否確認の方法」(26.4%)、「避難所での生活」(21.4%)、「避難所までの避難方法」(14.3%)の順となっている。

図 41 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「家族や自分自身の身の安全」では、『女性』の方が『男性』よりも4.5ポイント高く、男性の『50歳代』が60.7%と最も高くなっている。

「食料や水の確保」では、『男性』の方が『女性』よりも10.6ポイント高く、男性の『50歳代』（48.2%）、『30歳代』（47.3%）、『40歳代』（46.4%）が45%を超えて高くなっている。

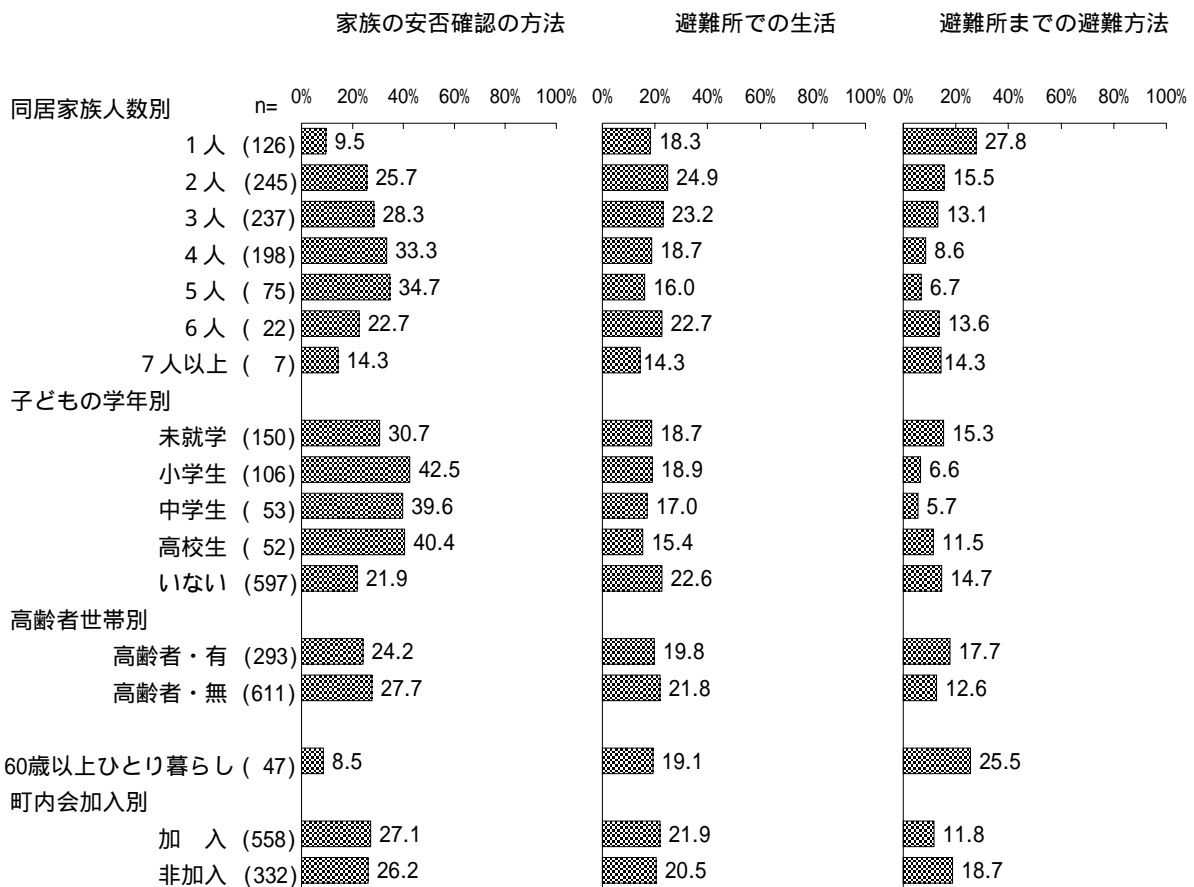
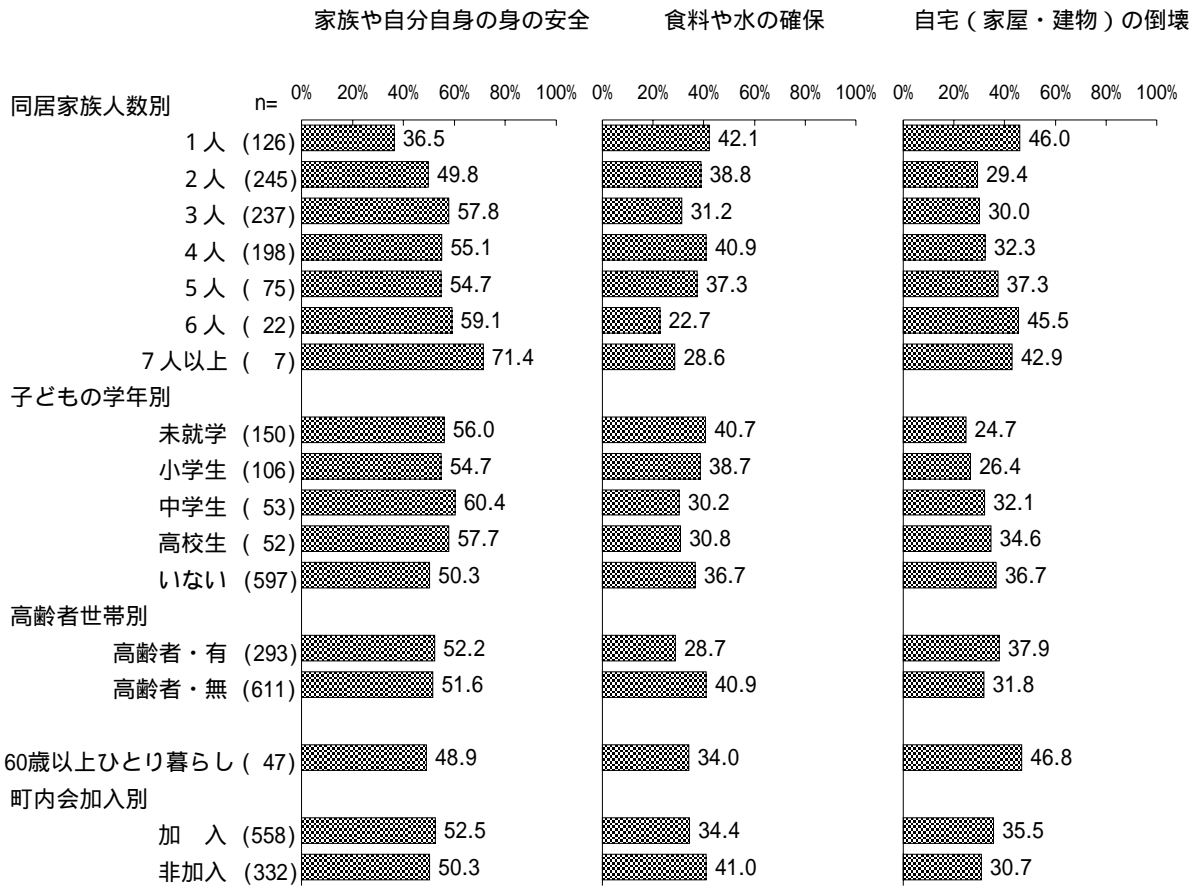
「自宅（家屋・建物）の倒壊」では、男女ともに『20歳代』が高く、女性の『20歳代』が46.2%と最も高く、男性の『20歳代』が40.5%と続いている。

「家族の安否確認の方法」では、女性は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がある。

「避難所での生活」では男性の『40歳代』が31.0%と最も高く、男性の『20歳代』が28.6%と続いている。

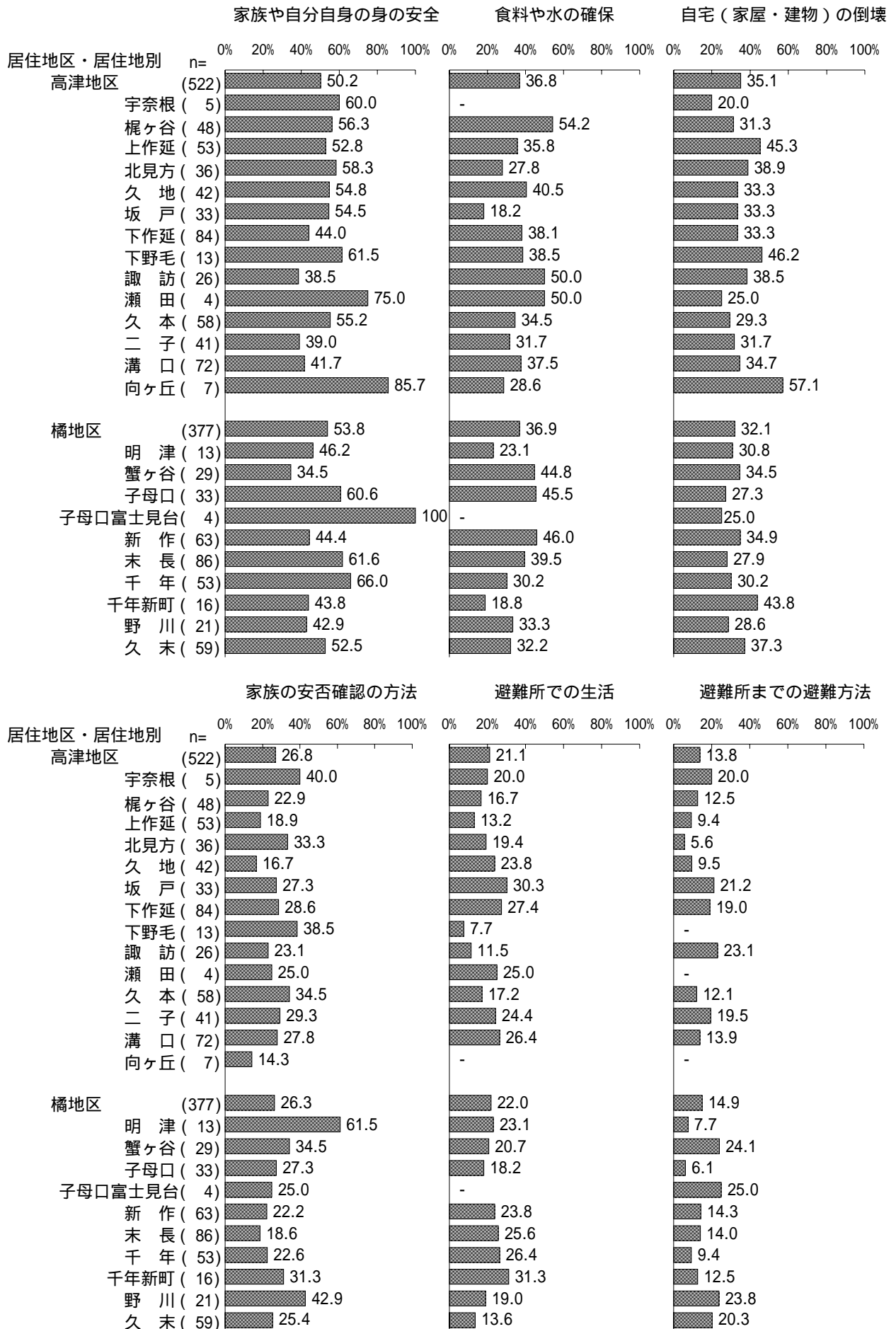
「避難所までの避難方法」では、女性の『60歳以上』が21.3%と最も高くなっている。

図 41 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別



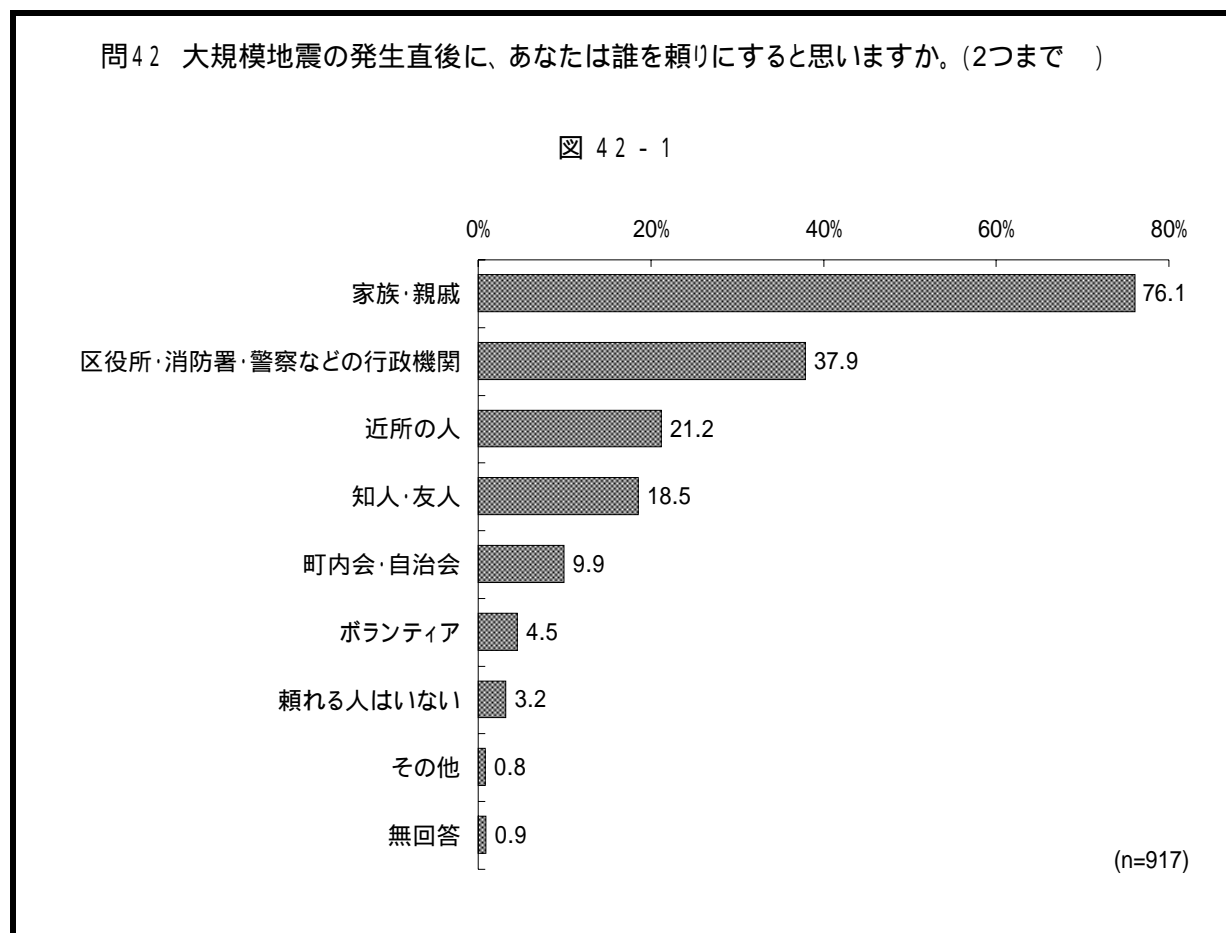
同居家族人数別をみると、「家族や自分自身の身の安全」では、同居家族の人数が増えるにつれて割合が高くなる傾向がある。「避難所までの避難方法」では、同居家族の人数が増えるにつれて割合が低くなる傾向がある。

図 41 - 4 居住地区・居住地別



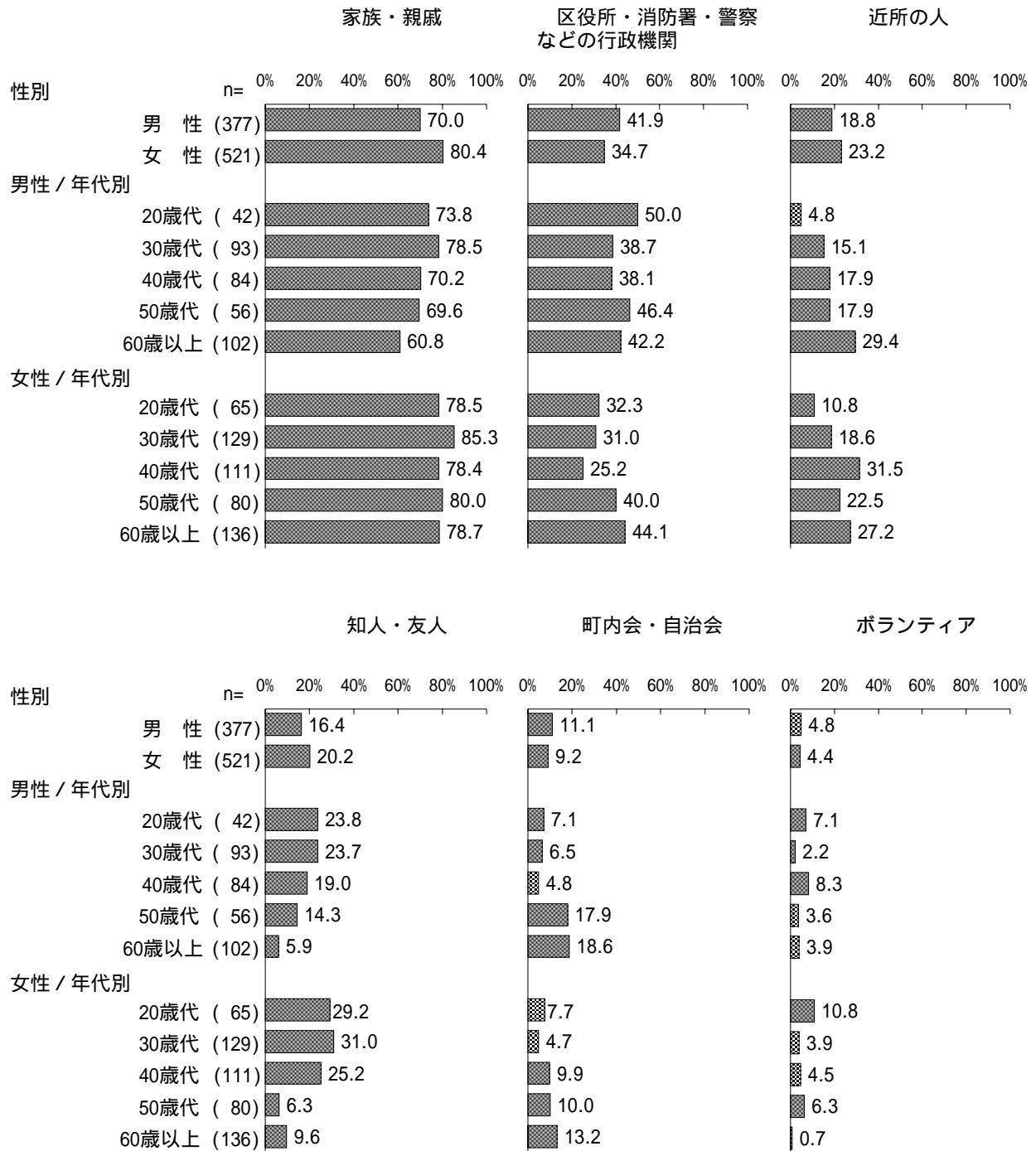
居住地区別をみると、「家族や自分自身の身の安全」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.6ポイント高くなっている。

(3) 大規模地震発生後に「頼る人」



大規模地震発生後に「頼る人」については、「家族・親戚」が76.1%で最も高くなっている。次いで、「区役所・消防署・警察などの行政機関」(37.9%)、「近所の人」(21.2%)、「知人・友人」(18.5%)、「町内会・自治会」(9.9%)、「ボランティア」(4.5%)、「頼れる人はいない」(3.2%)の順となっている。

図 4 2 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)



性・年代別をみると、「家族・親戚」では『女性』の方が『男性』よりも10.4ポイント高く、女性の『30歳代』が85.3%と最も高くなっている。

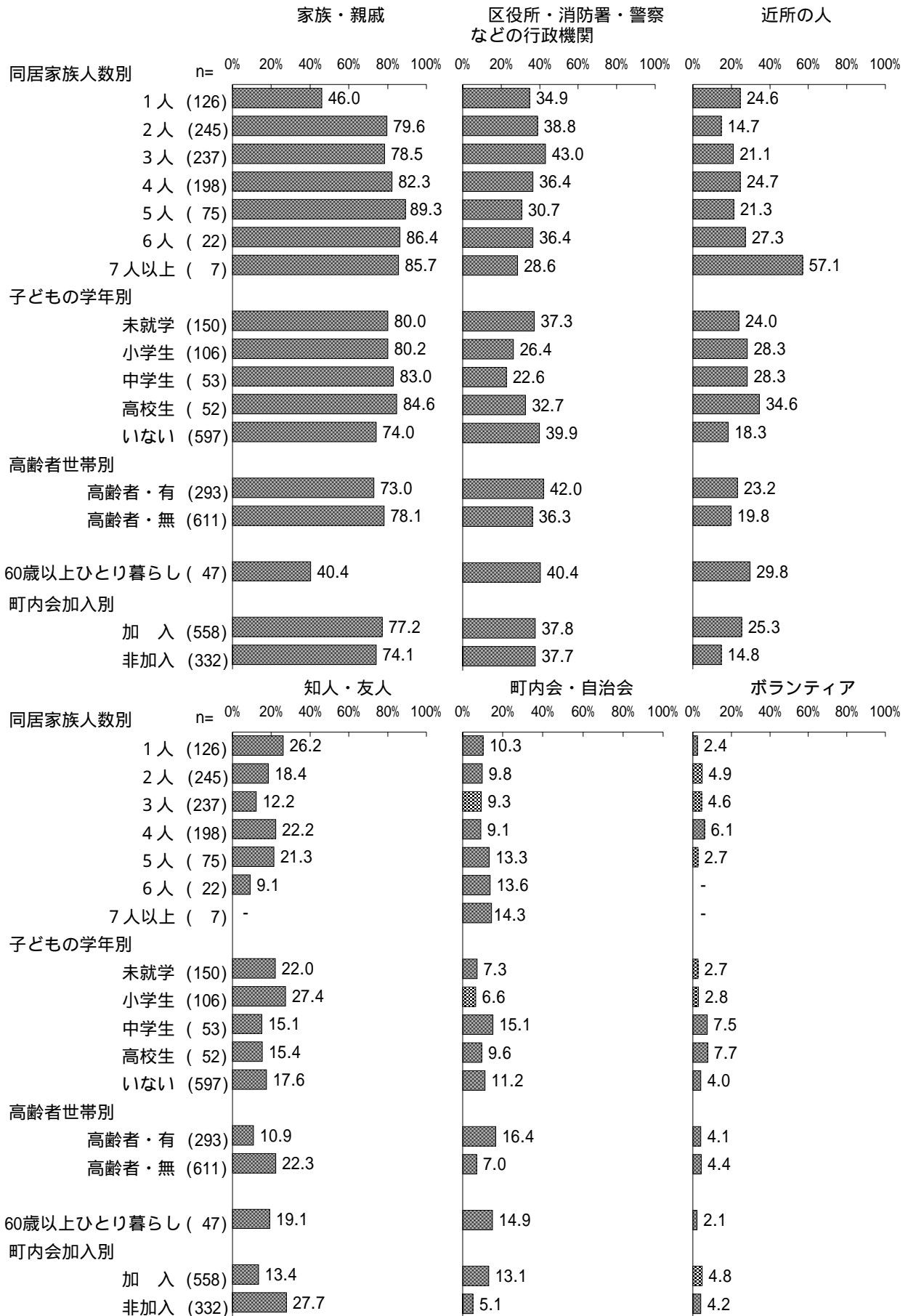
「区役所・消防署・警察などの行政機関」では、『男性』の方が『女性』よりも7.2ポイント高く、男性の『20歳代』が50.0%と最も高い。

「近所の人」では、『女性』の方が『男性』よりも4.4ポイント高く、女性の『40歳代』が31.5%と最も高くなっている。男性は、年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がある。

「知人・友人」では、『女性』の方が『男性』よりも3.8ポイント高く、男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向があり、女性の『30歳代』が31.0%と最も高い。

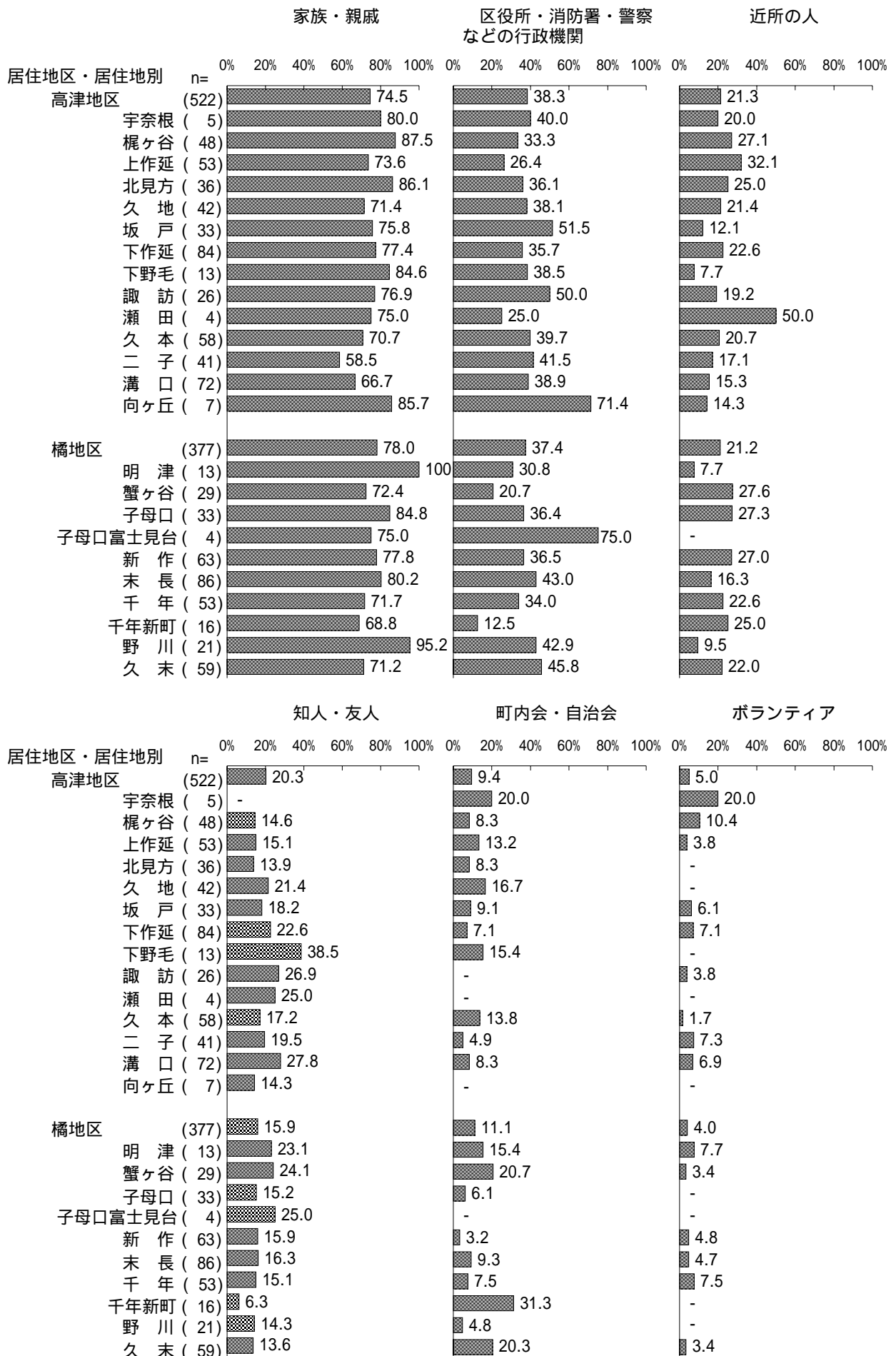
「町内会・自治会」では、男性の『60歳以上』と『50歳代』がそれぞれ18.6%と17.9%で他の年代と比較して高くなっている。

図 42 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別 (上位6項目)



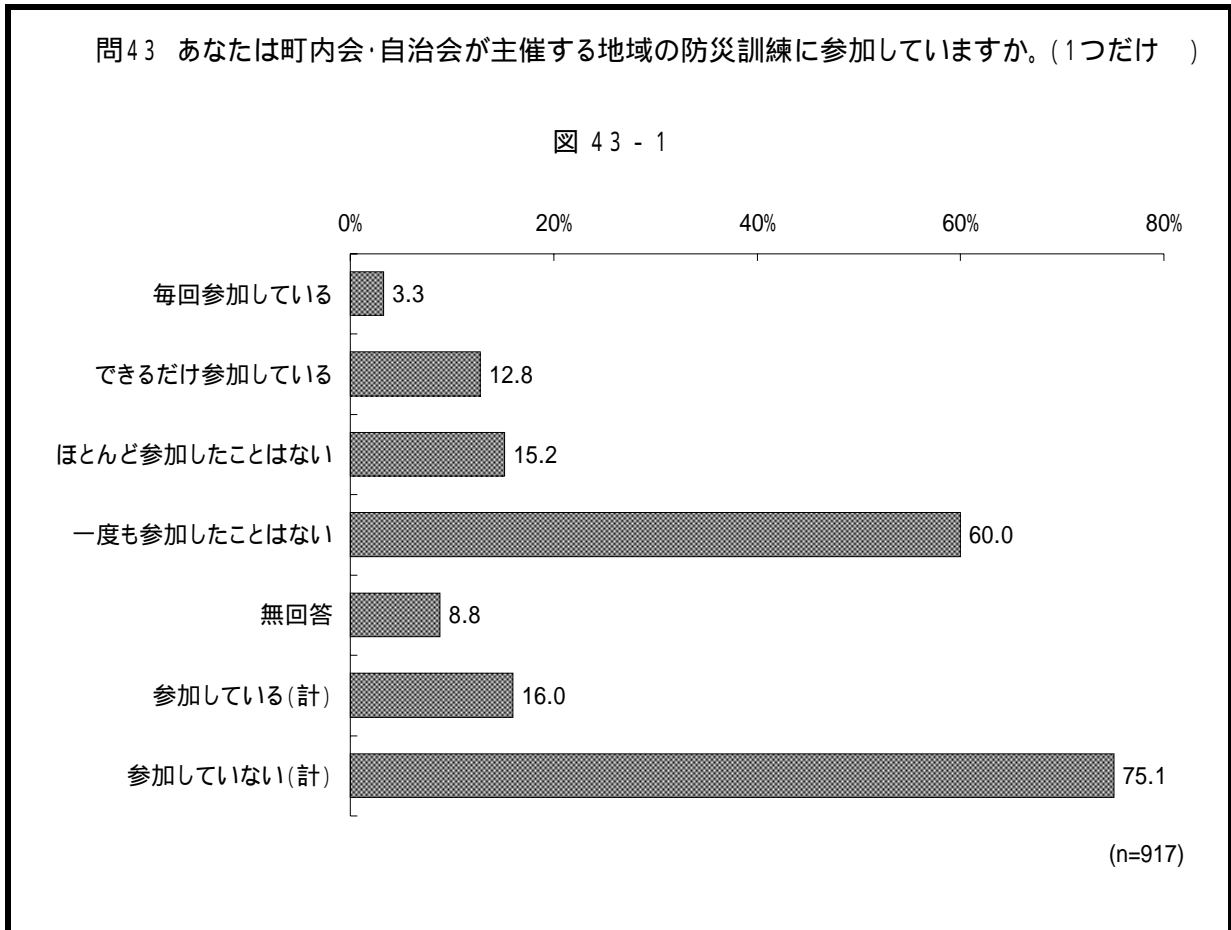
子どもの学年別をみると、「近所の人」では、子どもの学年が上がるにつれて割合が高くなっている。町内会加入別の「知人・友人」では『非加入』の方が『加入』よりも14.3ポイント高く、「近所の人」「町内会・自治会」「家族・親戚」ではそれぞれ10.5ポイント、8.0ポイント、3.1ポイント『加入』の方が『非加入』よりも高くなっている。

図 42 - 4 居住地区・居住地別 (上位6項目)



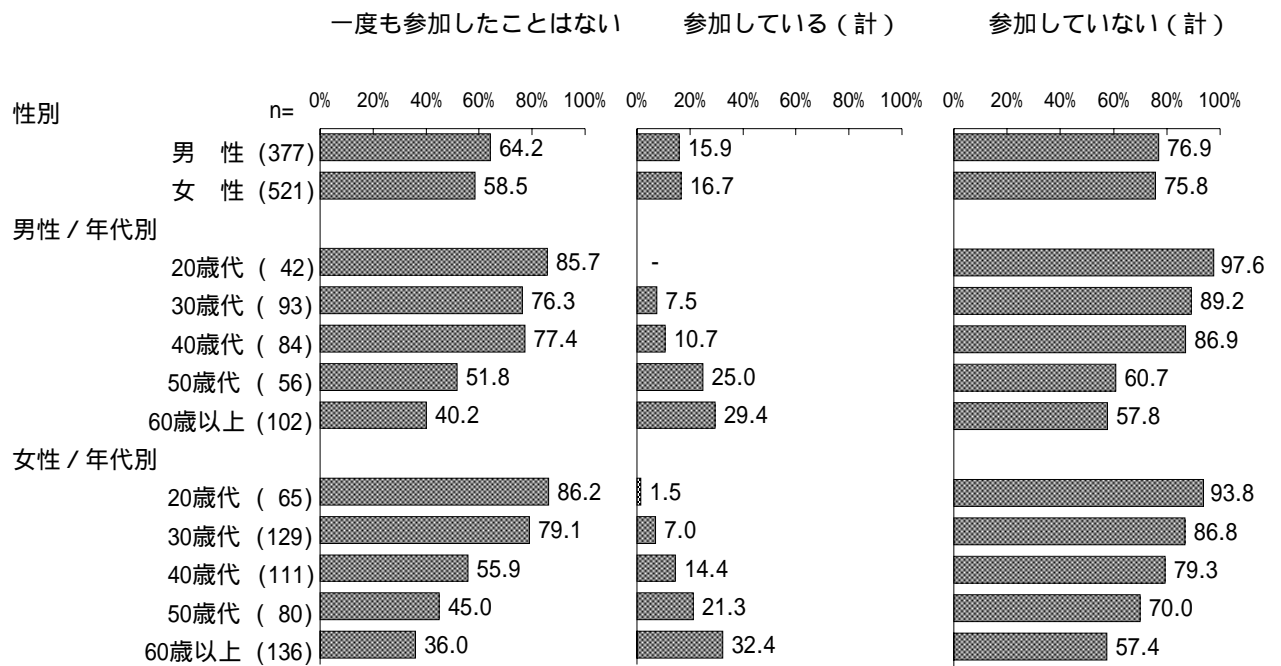
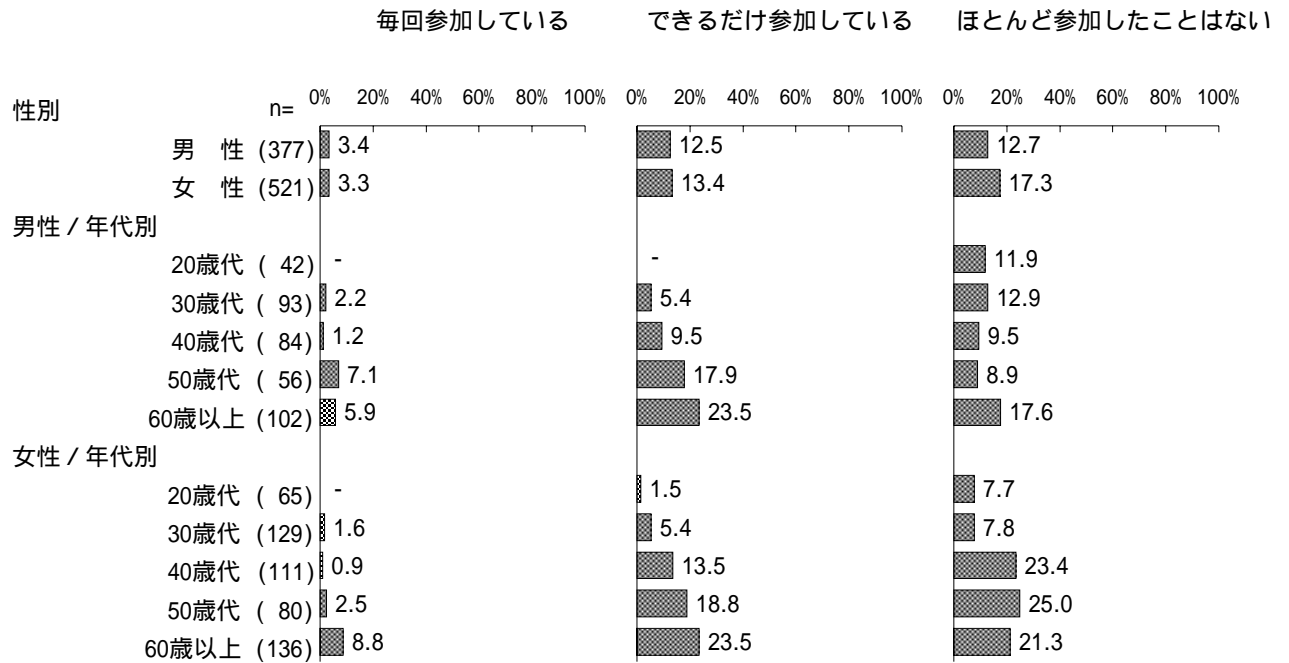
居住地区別をみると、「知人・友人」では『高津地区』の方が『橘地区』よりも4.4ポイント高く、「家族・親戚」では『橘地区』の方が『高津地区』よりも3.5ポイント高くなっている。

(4) 町内会・自治会主催の防災訓練参加有無



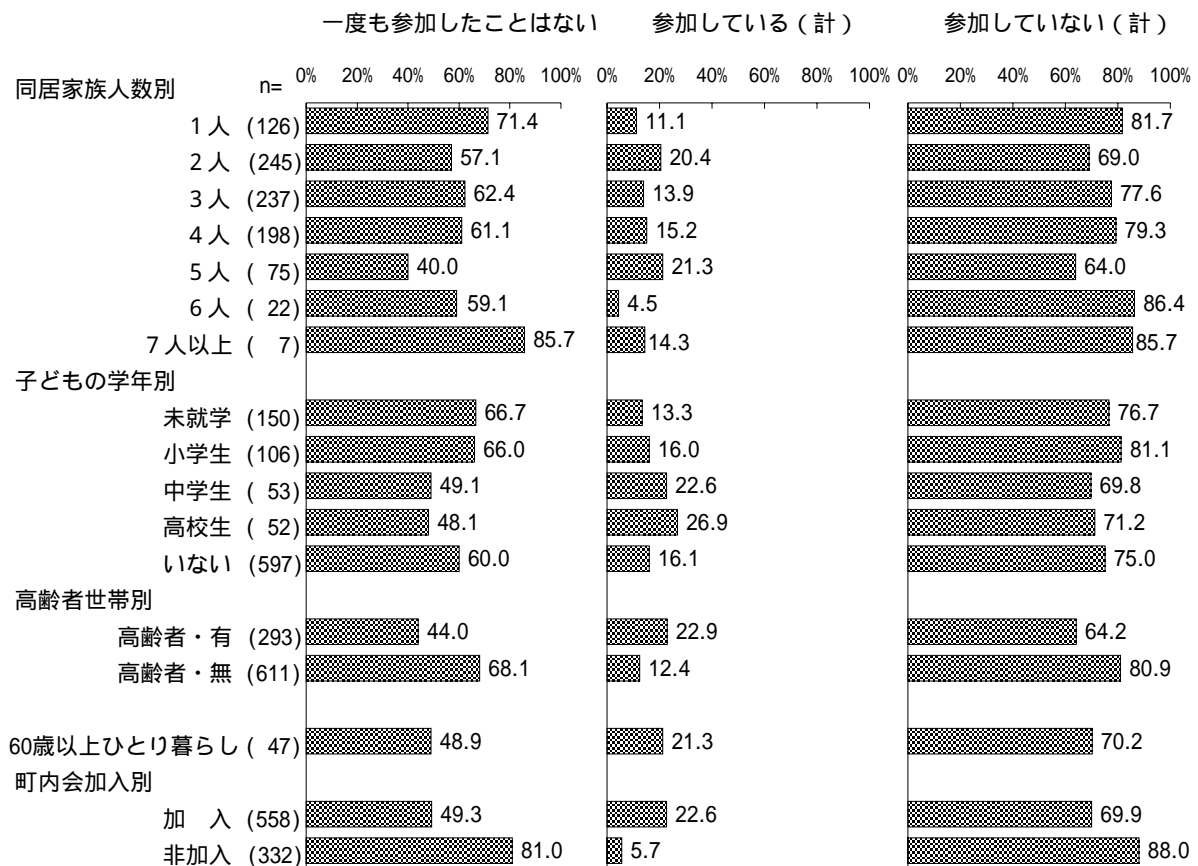
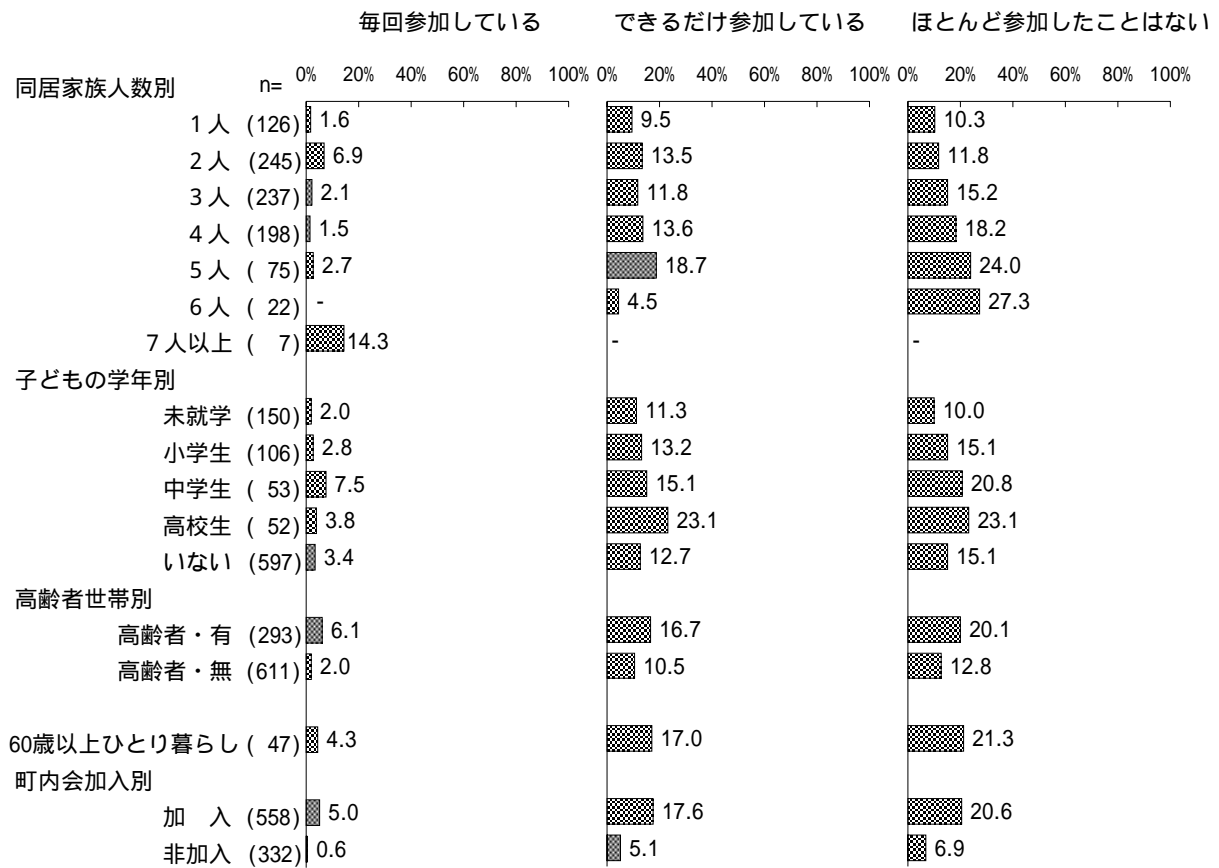
町内会・自治会主催の防災訓練に参加しているかどうかを尋ねたところ、「毎回参加している」が3.3%、「できるだけ参加している」が12.8%、「ほとんど参加したことはない」が15.2%、「一度も参加したことはない」が60.0%となっている。また、「毎回参加している」と「できるだけ参加している」を合わせた『参加している(計)』は16.0%、「ほとんど参加したことはない」と「一度も参加したことはない」を合わせた『参加していない(計)』は75.1%となっている。

図 43 - 2 性別 / 性年代別



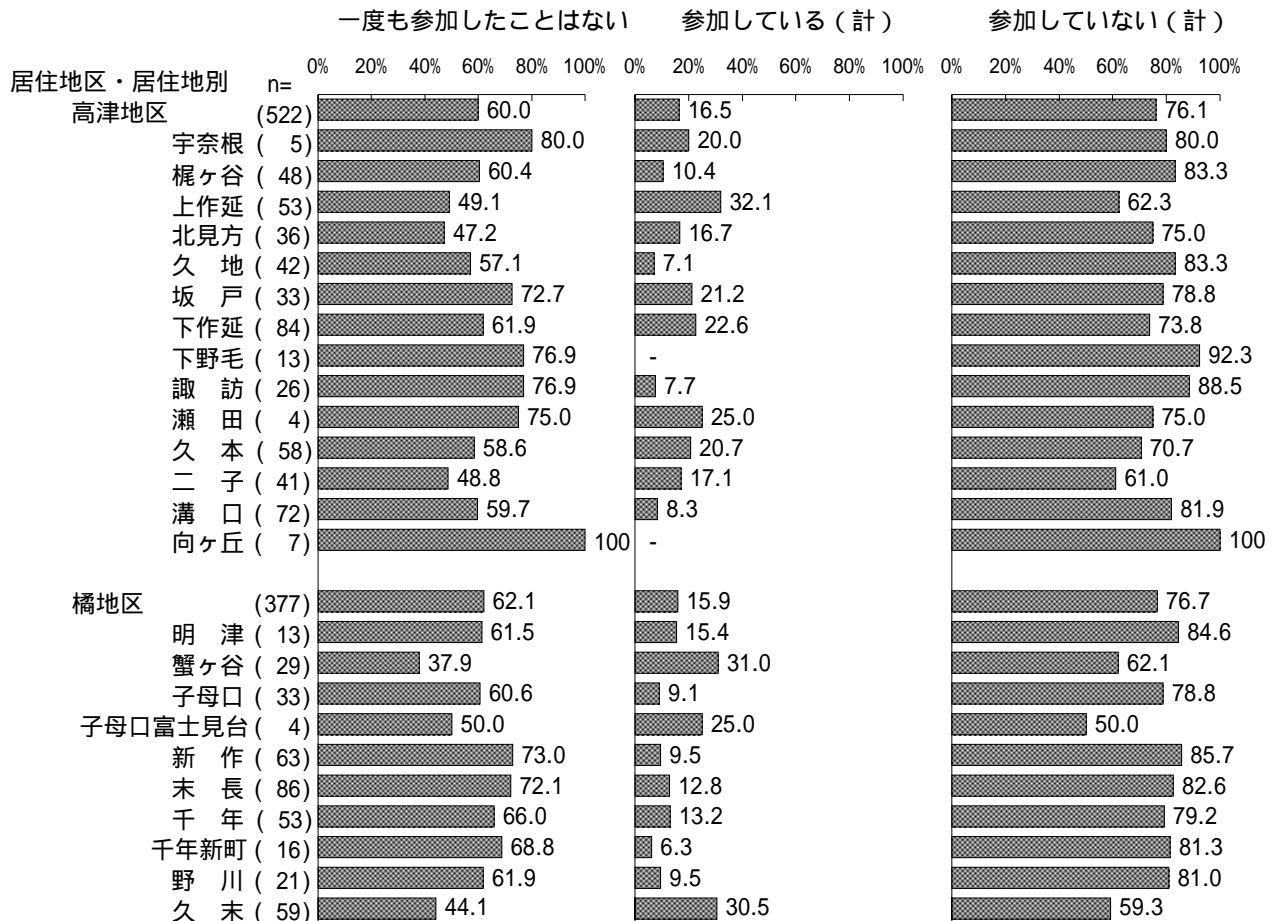
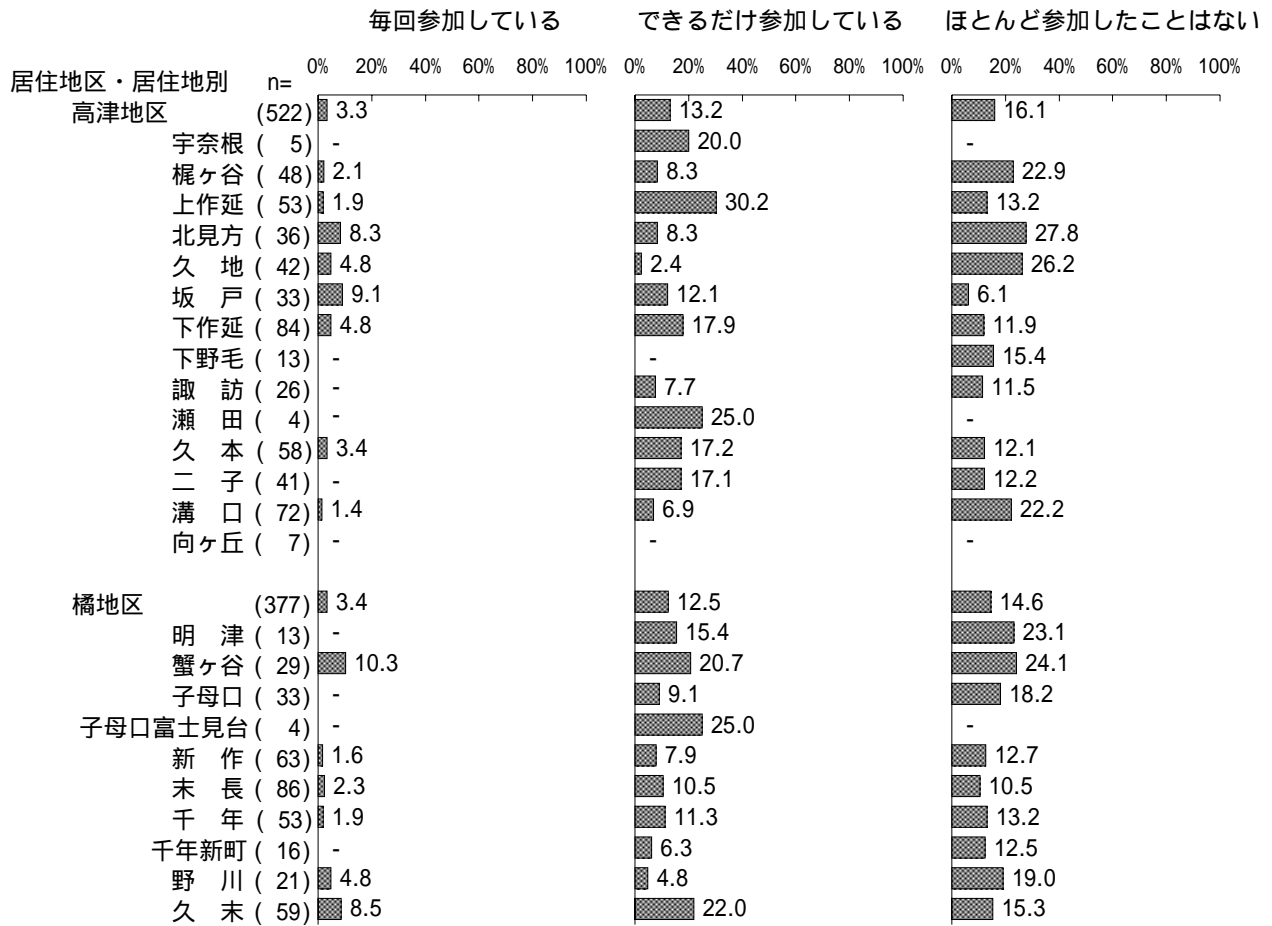
性・年代別をみると、「参加している(計)」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が大きくなっており、女性の『60歳以上』が32.4%と最も高くなっている。

図 43 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別



子ども学年別をみると、「参加している(計)」では子どもの学年が上がるにつれて割合が高くなっている。高齢者世帯別をみると、『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも10.5ポイント高くなっている。町内会加入別でみると、『加入』の方が『非加入』よりも16.9ポイント高くなっている。

図 43 - 4 居住地区・居住地別

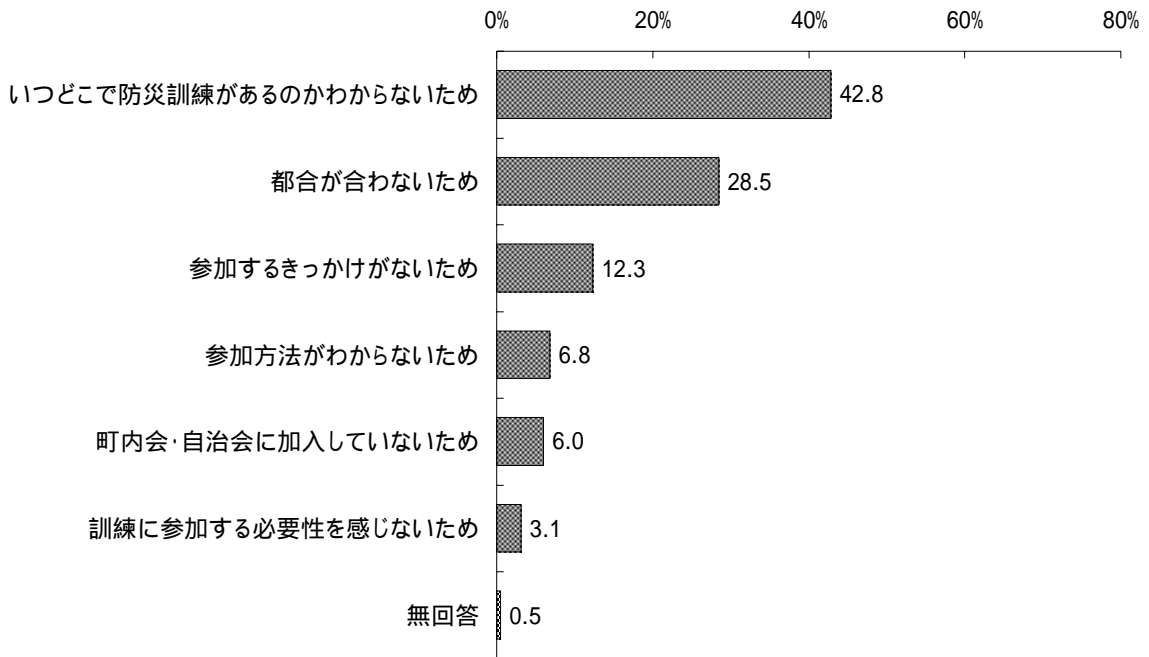


居住地別の「参加している(計)」をみると、『上作延』(32.1%)、『蟹ヶ谷』(31.0%)、『久末』(30.5%)が30%を超えて、他の居住地と比較して高くなっている。

(5) 町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由

問43で「3.ほとんど参加したことはない」「4.一度も参加したことはない」を選択した方にうかがいます
問44 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。(1つだけ)

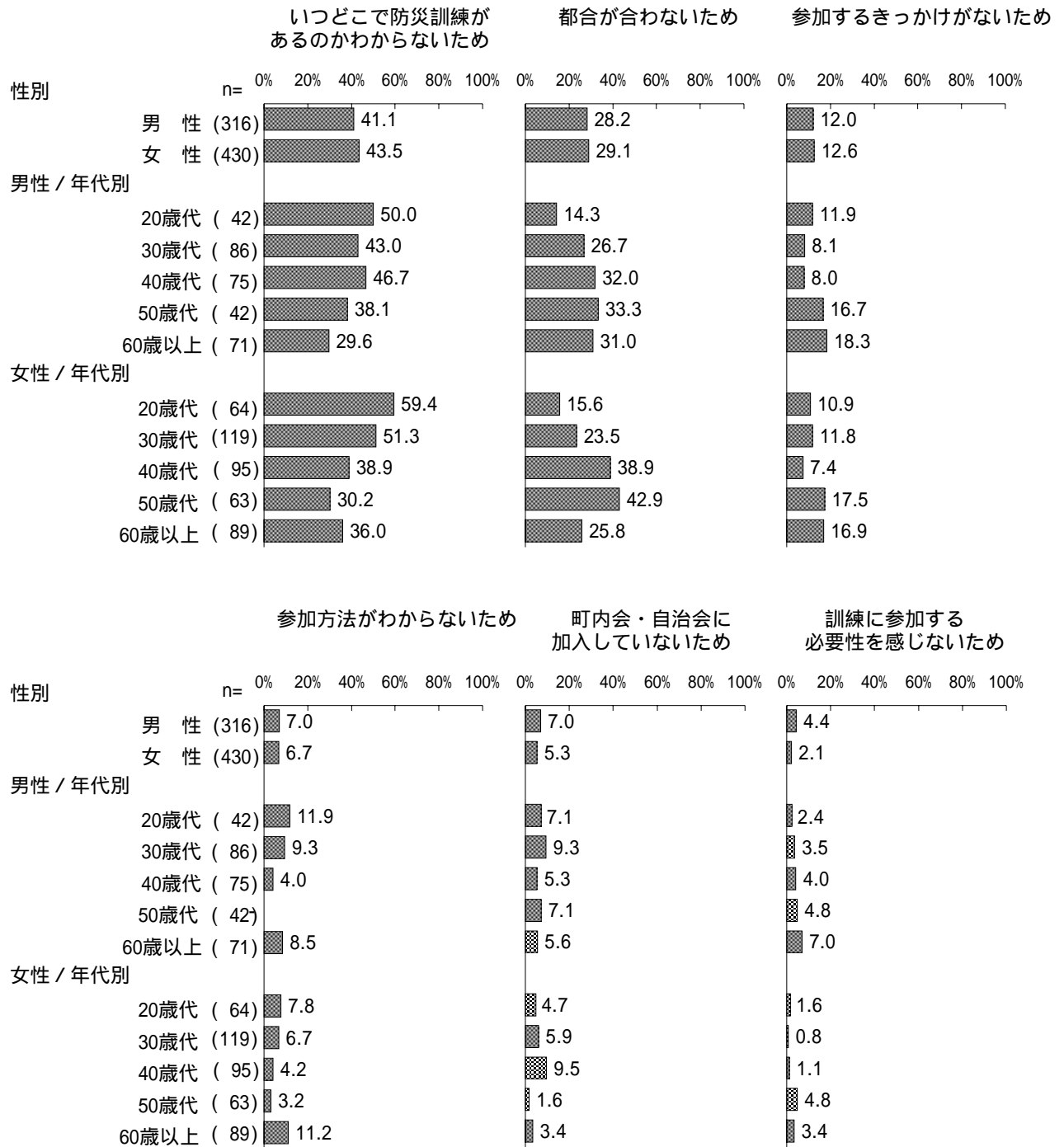
図 44 - 1



町内会・自治会主催の防災訓練に参加していない人(n=750)

町内会・自治会主催の防災訓練に参加しない理由を尋ねたところ、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」が42.8%と最も高く、次いで、「都合が合わないため」(28.5%)、「参加するきっかけがないため」(12.3%)、「参加方法がわからないため」(6.8%)、「町内会・自治会に加入していないため」(6.0%)、「訓練に参加する必要性を感じないため」(3.1%)の順となっている。

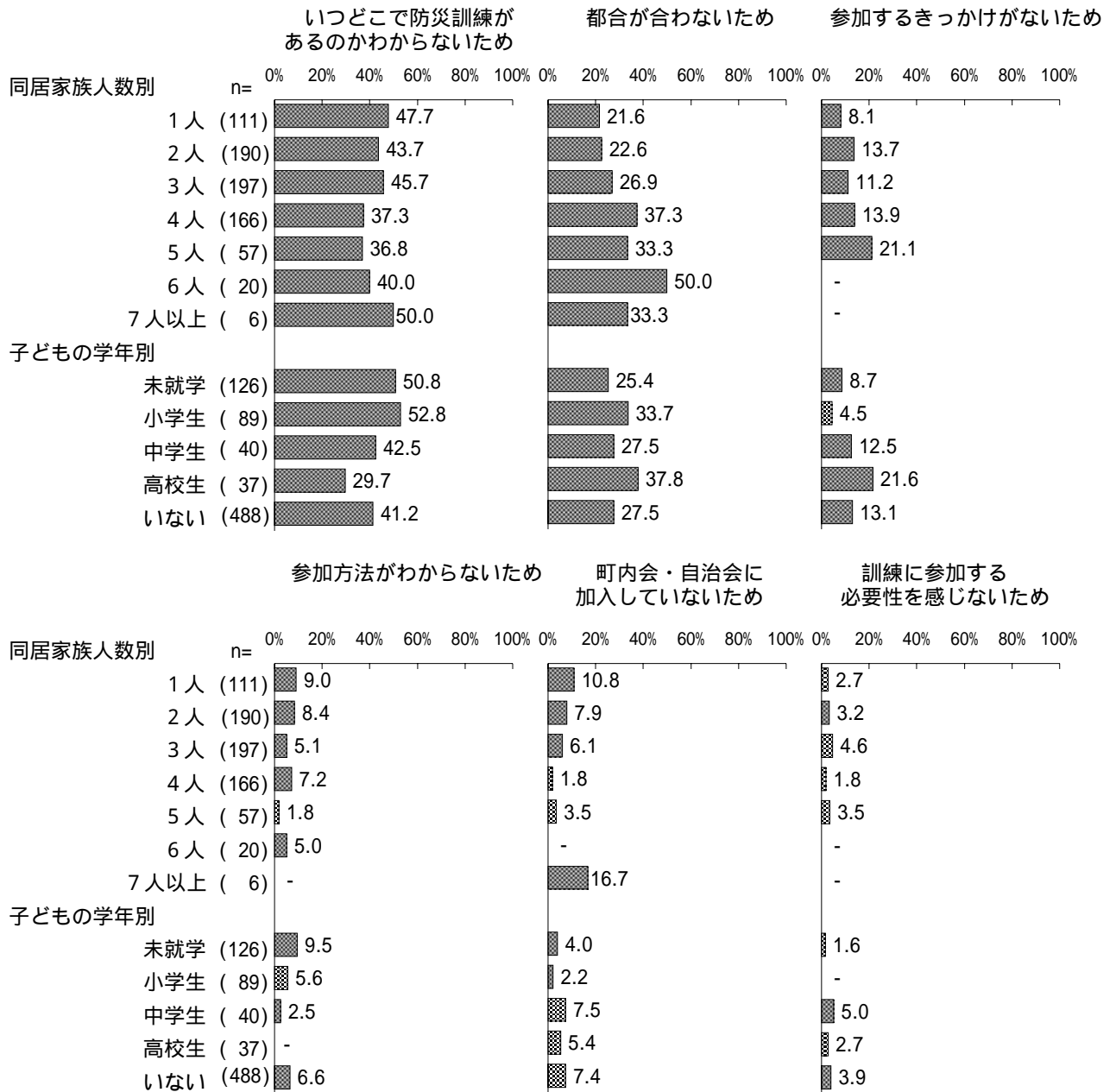
図 44 - 2 性別 / 性年代別



性・年代別をみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」では、男女ともに年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向があり、女性の『20歳代』が59.4%と最も高くなっている。

「都合が合わないため」では女性の『50歳代』が42.9%と最も高く、『40歳代』が38.9%と続いている。

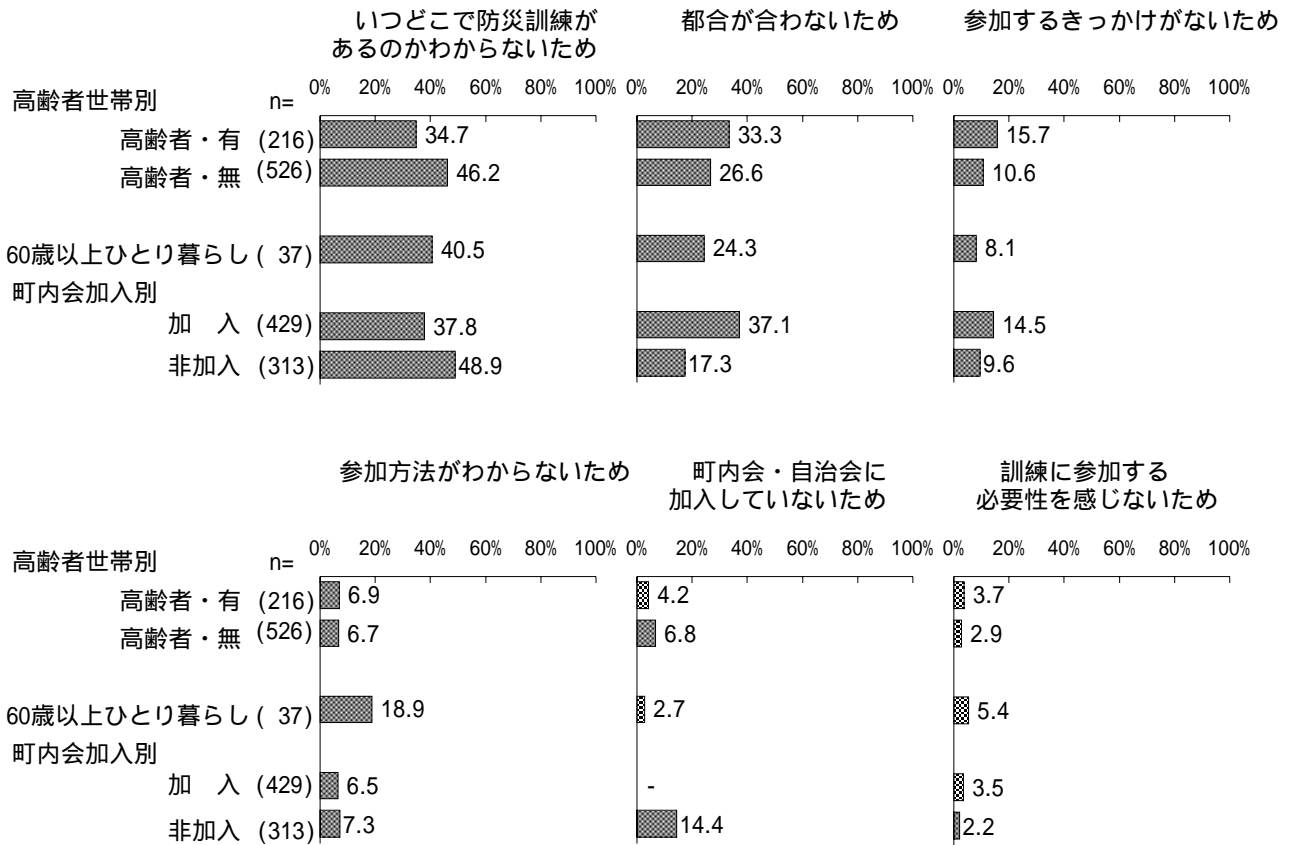
図 44 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別



同居家族人数別をみると、「都合が合わないため」では同居家族の人数が増えるにつれて、割合が高くなる傾向がある。

子どもの学年別をみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」では子どもの学年が上がるとともに割合が小さくなる傾向がある。

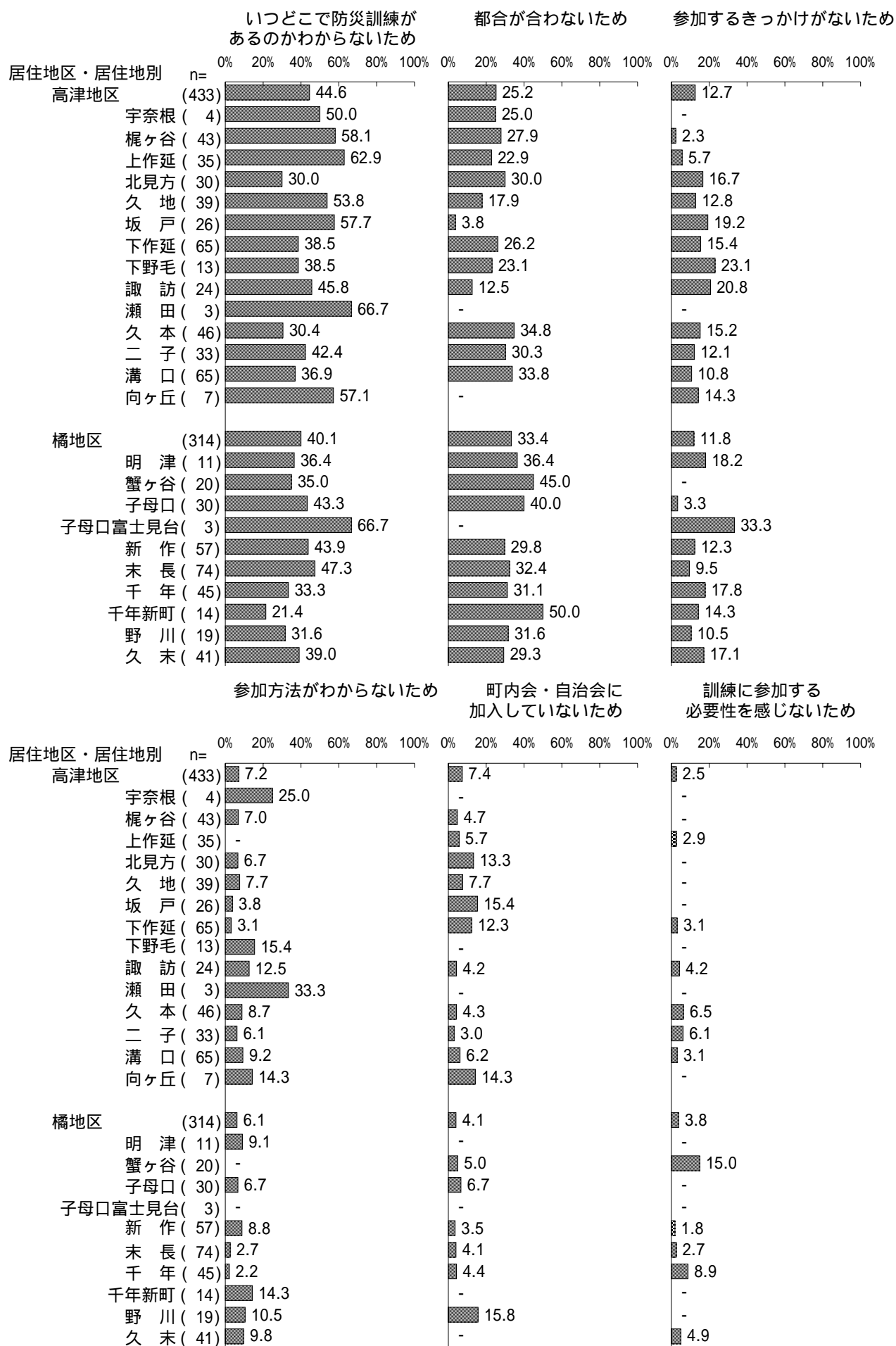
図 4 4 - 4 高齢者世帯別 / 町内会加入別



高齢者世帯別をみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」では『高齢者・無』の方が『高齢者・有』よりも11.5ポイント高く、「都合が合わないため」「参加するきっかけがないため」ではそれぞれ6.7ポイント、5.1ポイント『高齢者・有』の方が『高齢者・無』よりも高くなっている。

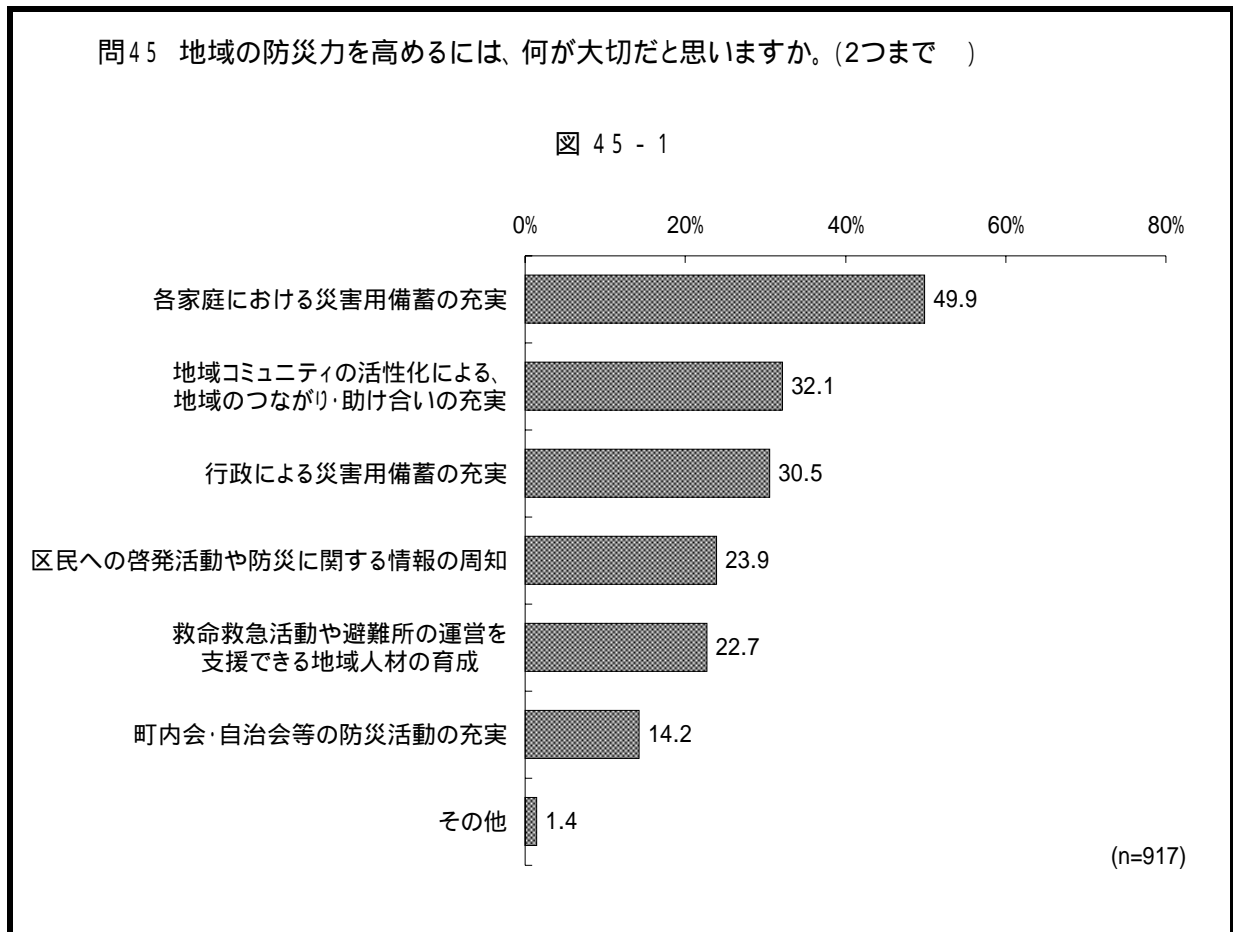
町内会加入別をみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」では『非加入』の方が『加入』よりも11.1ポイント上回っている。「都合が合わないため」では19.8ポイント、「参加するきっかけがないため」では4.9ポイント『加入』が『非加入』よりも高くなっている。

図 44 - 5 居住地区・居住地別



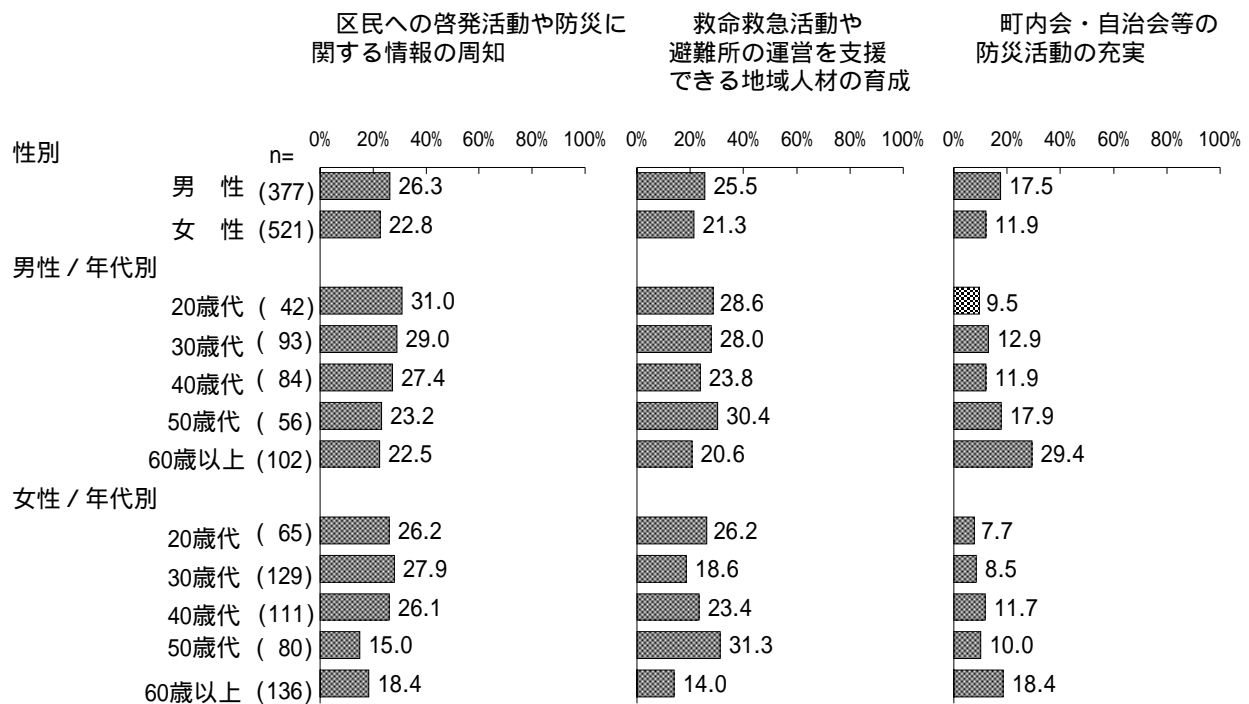
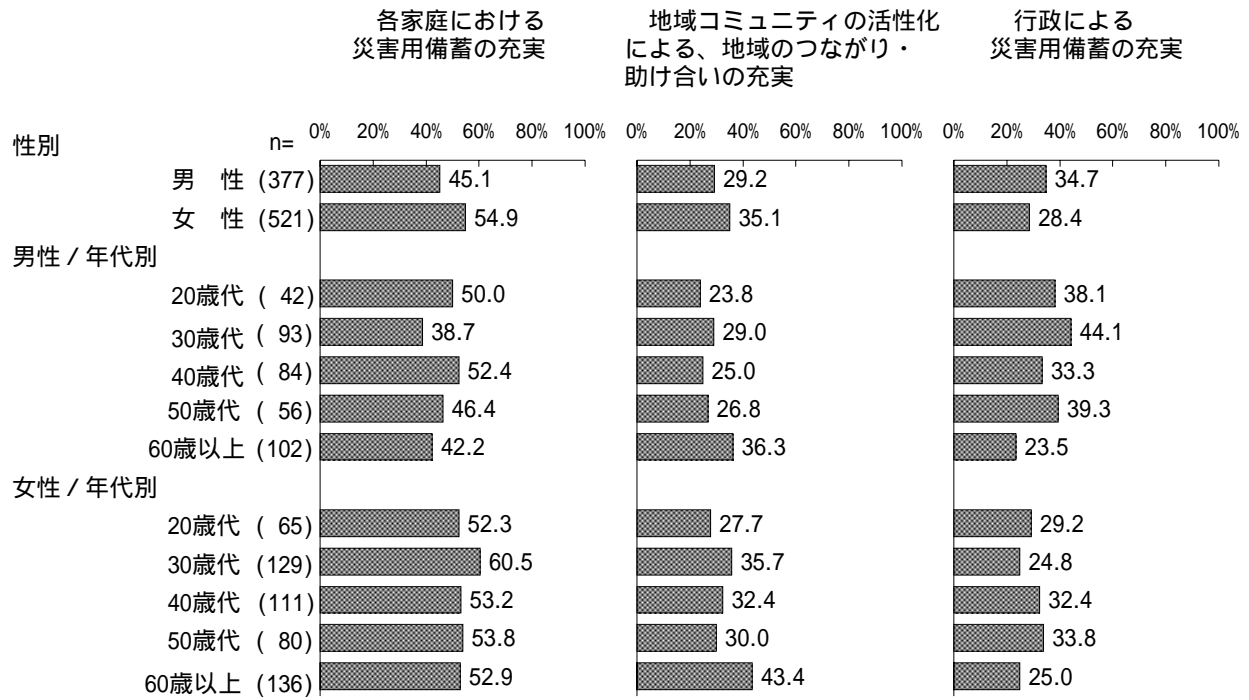
居住地区別をみると、「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」では『高津地区』の方が『橋地区』よりも4.5ポイント高くなっている。

(6) 防災力を高めるために必要なこと



防災力を高めるために必要なことについては、「各家庭における災害用備蓄の充実」が49.9%と最も高くなっている。次いで、「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」(32.1%)、「行政による災害用備蓄の充実」(30.5%)、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」(23.9%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(22.7%)、「町内会・自治会等の防災活動の充実」(14.2%)の順となっている。

図 45 - 2 性別 / 性年代別

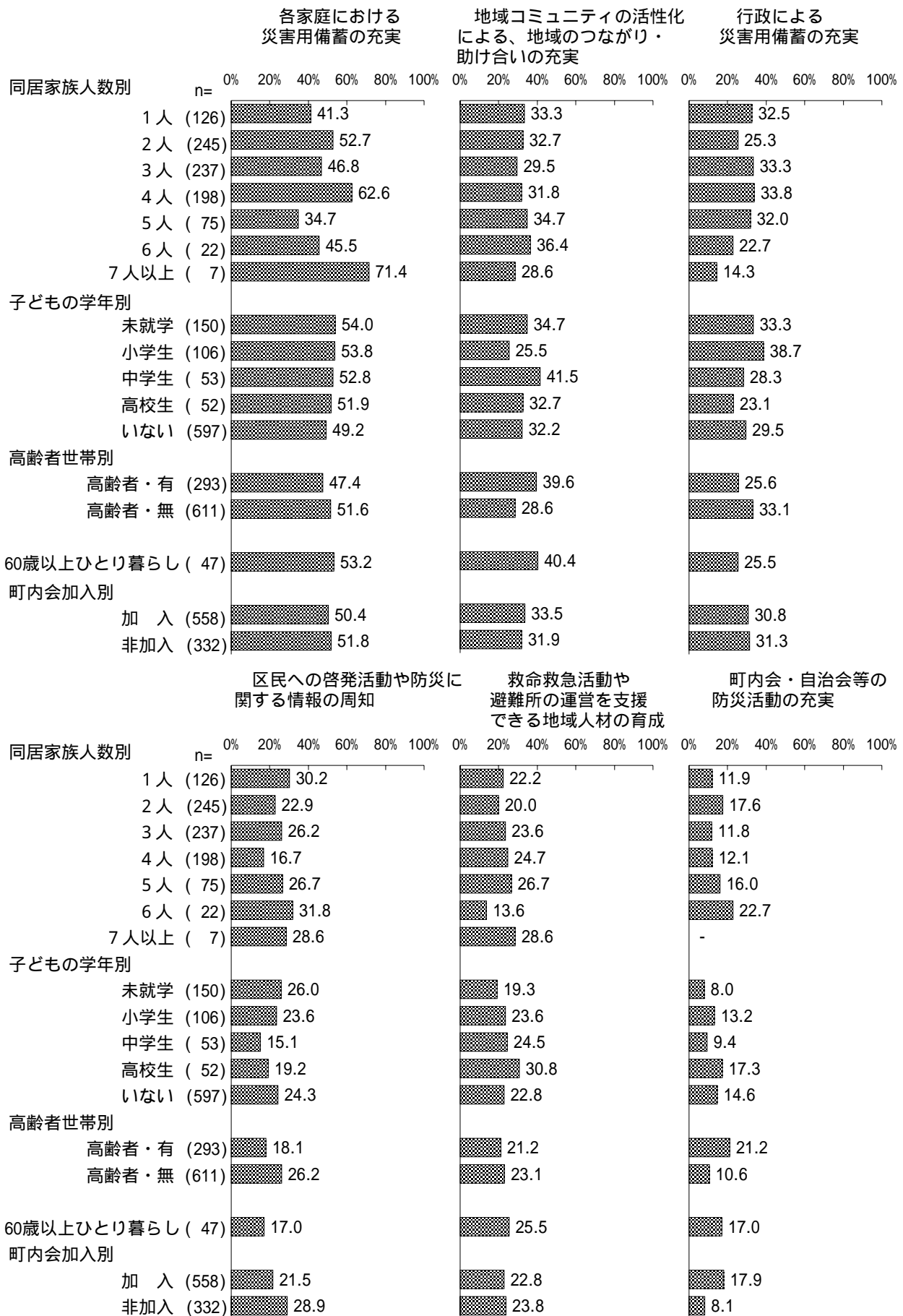


性別をみると、「各家庭における災害用備蓄の充実」では9.8ポイント、「地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実」では5.9ポイント『女性』の方が『男性』よりも高くなっている。一方、「行政による災害用備蓄の充実」では6.3ポイント、「町内会・自治会等の防災活動の充実」では5.6ポイント、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」では4.2ポイント、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」では3.5ポイント『男性』の方が『女性』よりも高くなっている。

性・年代別にみると、「各家庭における災害用備蓄の充実」では女性の『30歳代』が60.5%と最も高くなっている。

「町内会・自治会等の防災活動の充実」では、男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、男性の『60歳以上』が29.4%と最も高くなっている。

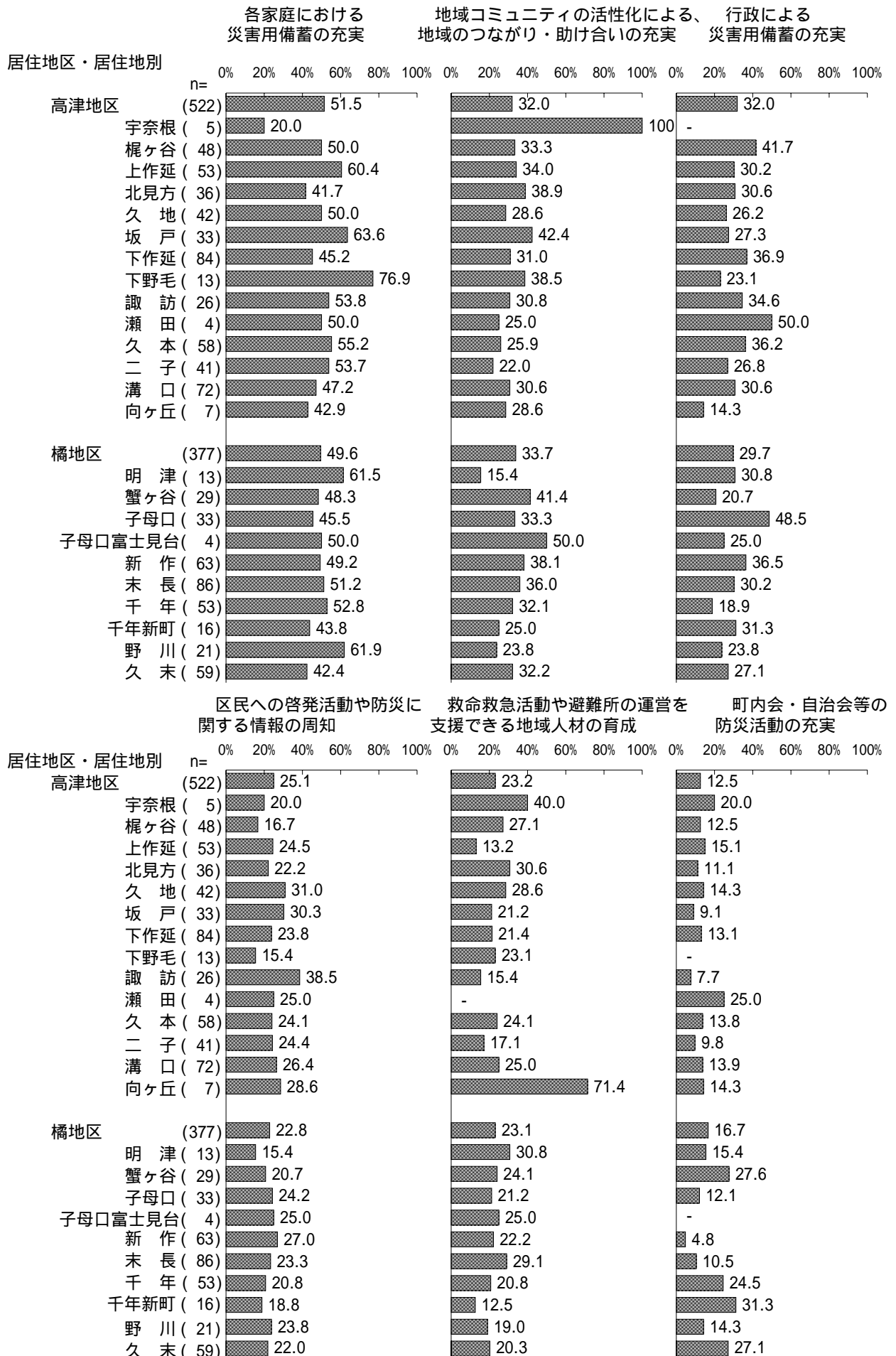
図 45 - 3 同居家族人数別 / 子どもの学年別 / 高齢者世帯別 / 町内会加入別



子どもの学年別をみると、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」では子どもの学年が上がるにつれて割合が大きくなっている。

町内会加入別をみると、「区民への啓発活動や防災に関する情報の周知」では『非加入』の方が『加入』よりも7.4ポイント高く、「町内会・自治会等の防災活動の充実」では『加入』の方が『非加入』よりも9.8ポイント高い。

図 45 - 4 居住地区・居住地別



居住地区別をみると、「町内会・自治会等の防災活動の充実」では、『橘地区』の方が『高津地区』よりも4.2ポイント高くなっている。

. 使用した調査票

高津区区民生活に関わるニーズ調査

2009年9月

高津区では、区政を進める上での参考資料を得ることを目的として、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施いたします。

今年度の実施に当たり、全区民の方々を対象に、偏ることのないよう統計的な方法（住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出）で選ばせていただきましたところ、あなた様にご意見をお伺いすることになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

調査の結果は、「こういう方々のご意見が何パーセント」というように数表としてまとめますので、あなた様のお名前が外部に洩れたり、ご意見をお聞きしたことでご迷惑をおかけするようなことは絶対にございませぬ。ご安心ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに、9月18日（金）までにご投函ください。

なお、調査結果の内容につきましては、2010年3月頃に、市・区役所に閲覧用の調査結果報告書をご用意いたしますので、そちらをご参照ください。

ご記入に際してのお願い

- 1 アンケートのご回答は、必ずご本人が行ってください。
- 2 ご回答は、次の要領で行ってください。

各項目について、お気軽に感じたままをお答えください。
回答項目のうち、あてはまると思われる番号に をつけてください。

の数は、（3つまで）（いくつでも）といった（ ）内の指示に合わせてつけてください。

「その他」の（ ）内や 内には、ご意見を具体的にお書きください。

- 3 質問内容など不明な点がございましたら、下記の調査実施機関の担当までご連絡ください。

川崎市高津区役所企画課

TEL 044-861-3131

調査実施機関 株式会社 総合企画（ソウゴウキカク）

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 2-9-3 かすがビル4F

TEL 03-3262-8274

（受付時間 / 平日9:30～18:30）担当 杉本 / 江藤

第1部
通常アンケート

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。
次の1～24のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。
次の1～24のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)
この問いでは、区役所に対応できる施策を中心に質問項目を設定しています。

	問1	問2
	とよ 思 く う や も っ て い る	れ 今 て 後 ほ 特 し に い 力 も の 入
1 放置自転車対策	1	1
2 街頭犯罪の防止	2	2
3 地震や風水害への対策	3	3
4 駅周辺の環境整備	4	4
5 道路、歩道の整備	5	5
6 緑地や水辺の整備	6	6
7 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	7	7
8 健康づくりに関する事業	8	8
9 高齢者関係の事業	9	9
10 区民の子ども・子育ての支援	10	10
11 心身の不自由な人の支援	11	11
12 地域の住民同士のつながりを深める事業	12	12
13 市民活動の支援	13	13
14 区の広報・広聴の充実	14	14
15 花と緑のまちづくりの推進	15	15
16 文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催	16	16
17 区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる事業	17	17
18 区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり	18	18
19 区役所の窓口サービスの向上	19	19
20 地球温暖化対策に関する事業	20	20
21 区内在住の外国人に対する支援	21	21
22 特になし	22	22
23 わからない	23	23
24 その他()	24	24

問3から問17の問いにつきましては、区役所（行政）だけでなく、企業、市民などと協力して取り組み、解決していくことができる事項を中心に質問項目を設定しています。

問3 放置自転車対策として、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 駅周辺に駐輪場を整備・増設する
- 2 誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する
- 3 自転車利用者へマナーを啓発し普及させる
- 4 自転車共用システム()を導入する
- 5 バス・電車など公共交通機関の利用を促す
- 6 駅まで歩くように啓発する
- 7 その他()

自転車共用システム・・・共用の自転車を用意し、システムに登録した人がその自転車を利用できるようにする。自宅からの利用者は、共用の自転車に乗り、駅前の駐輪場に止める。駅から駅周辺の会社・学校に通う者がその自転車を利用することにより、駐輪場に止めておく自転車を減少させるというもの。

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 住民が自分たちで地域をパトロールする
- 2 区内で発生する犯罪情報を発信する
- 3 防犯教室を開催する
- 4 防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする
- 5 地域の危険箇所を記した安全マップを作成する
- 6 広報物などにより防犯の啓発活動をする
- 7 防犯灯を増設する
- 8 その他()

問5 地震や風水害への対策として、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 防災訓練を充実させる
- 2 被災時に必要な物資を充実させる
- 3 消火や救命活動のできる人材を育成する
- 4 地域のつながりの充実を図る
- 5 防災に関する啓発活動や情報(避難場所・避難経路など)の発信を行う
- 6 耐震診断を充実させる
- 7 地域の防災組織の活性化を図る
- 8 その他()

問6 区民の健康づくりを推進していくためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 健康づくりに関する情報を提供する
- 2 健康づくりに関する講座・イベントを開催する
- 3 市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する
- 4 タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする
- 5 レストランや食品の栄養表示を充実させる
- 6 その他()

問7 高齢者を支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 高齢者が集まれる場所をつくる
- 2 高齢者の支援などに関する情報を提供する
- 3 ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する
- 4 悩みなどの相談を受け付ける場を設ける
- 5 送迎サービス・ボランティアの拡充を図る
- 6 配食サービスを充実させる
- 7 高齢者世帯を訪問し、生活状況を確認する
- 8 その他()

問8 子どもや子育てを支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 子どもや子育てに関する情報を発信する
- 2 子どもの遊び場を提供する
- 3 子育て中の親が交流できる場を提供する
- 4 家事を補助する仕組みを作る
- 5 区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る
- 6 幼稚園・保育園等の施設を増設する
- 7 子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する
- 8 その他()

問9 地域のつながりを深めるためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する
- 2 地域通貨()の制度を導入する
- 3 身近に集い、憩える場所を作る
- 4 「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する
- 5 地域の活動(清掃、花壇の管理など)を通して、地域の連帯感を深める
- 6 町内会、自治会の活動を行政が支援する
- 7 その他()

地域通貨 …… 参加者が自分の「してほしいこと」、「できること」を示して、その作業の対価として、独自の通貨を払うもの。地域のつながりを強めるため行われるケースが多い。

問10 市民活動の支援としてはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 活動資金を助成する
- 2 団体同士の交流する機会を設ける
- 3 市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける
- 4 市民活動の情報を共有し、発信する
- 5 区内で活動する人材バンクをつくる
- 6 有益な活動をしている団体を表彰する
- 7 その他()

問11 区の情報を提供するためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 市政だより区版を拡充する
- 2 区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる
- 3 ホームページを充実させる
- 4 携帯電話からも情報を得られるようにする
- 5 ポスターなどを掲示板に貼る
- 6 チラシを様々な施設におく
- 7 メールマガジンを発行する
- 8 タウン誌を活用する
- 9 町内会で回覧する
- 10 その他()

問12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う
- 2 公開の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く
- 3 「市長への手紙」だけでなく、「区長への手紙」の制度を設ける
- 4 地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する
- 5 ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する
- 6 その他()

問13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 街路樹による緑化を推進する
- 2 シンボルとなる魅力ある公園づくりをする
- 3 公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする
- 4 公園緑地や学校での環境教育・学習をする
- 5 ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する
- 6 その他()

問14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 音楽会、コンサートを開く
- 2 映画鑑賞会を開く
- 3 伝統芸能に触れる機会を作る
- 4 「文化」をテーマとした講演会、シンポジウムを開く
- 5 区内の文化財・史跡を巡る催しを開く
- 6 区の文化に関する冊子などを作成する
- 7 その他()

問15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 区役所などの公共施設でコンサートを開催する
- 2 市民の音楽活動の発表の場を設ける
- 3 路上で歌うミュージシャンを支援する
- 4 小学生、中学生に音楽教育をする
- 5 区のイメージソングを作成する
- 6 区民の音楽団体の活動を支援する
- 7 良質な音楽イベントを誘致する
- 8 その他()

問16 区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

- 1 区を紹介するグラフ誌を発行する
- 2 高津区を特徴づけるイベントを開催する
- 3 駅前など人が多く集まるところをきれいにする
- 4 区内に花や緑を増やす
- 5 名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する
- 6 その他()

問17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

- 1 窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する
- 2 窓口の案内表示を分かりやすくする
- 3 申請書の書き方を分かりやすくする
- 4 土曜・日曜・祝日に窓口を開く
- 5 職員の窓口対応を区民が評価する
- 6 職員に接遇方法の研修を受けさせる
- 7 区役所の窓口に通わずに、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす
- 8 その他()

問18 あなたのまちの課題・問題点と思うものは何ですか。(いくつでも)
この問いでは、区民会議で審議する地域課題()として、取り上げることができるものを
中心に質問項目を設定しています。

- 1 地震や風水害に対する準備が不足している
- 2 小学生の登下校時の安全対策や街頭犯罪に対して不安がある
- 3 駅周辺に放置自転車が多い
- 4 駅前広場の整備が不十分である
- 5 駅までの交通の利便性がよくない
- 6 高齢者を地域ぐるみで支える仕組みが不十分である
- 7 近所に公園が少ない。または、公園の維持管理が行き届いていない
- 8 子どもや子育てを地域ぐるみで支援する仕組みが不十分である
- 9 まちに木や草花など、緑が少なくなっている
- 10 多摩川、二ヶ領用水などの水辺に親しめる環境がない
- 11 ごみの散乱や壁への落書きなど、まちが汚い
- 12 ごみの出し方などのマナーが守られていない。または、リサイクルへの関心が少ない
- 13 カラスによる人への威嚇やごみの散乱などの被害が多い
- 14 商店街に活気がない
- 15 地域の中で住宅と工場が混在し、周辺の環境に問題がある
- 16 名所・旧跡など魅力となる場所が少ない、また知られていない
- 17 近隣の住民同士の関係が薄れている
- 18 市民団体の活動への支援が少ない
- 19 市民の意見を区の行政へ反映する仕組みがない
- 20 退職を迎えるシニア世代が地域に貢献できる仕組みがない
- 21 その他()
- 22 特になし
- 23 わからない

地域課題 …… 区民や地域が抱える一定の共通性を持った問題やテーマであって、特定の個人やグループの要望ではなく、公共性があり、かつ区民会議で審議することにより具体的解決が見出せるもの

問19 区役所に希望すること、期待することをご自由に記入してください。

第2部 事業に対する認知度と事業に対して点数をつけて評価するアンケート

あなたは高津区の行っている事業についてご存知でしょうか。事業の認知度およびその事業の評価について該当するものにつけてください。(は各1つだけ)

問20 「エコシティたかつ」推進事業

内 容 : 地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に地球温暖化対策などの環境問題に取り組む方針。この方針に沿って、ゴーヤーなどによる高津区「緑のカーテン」大作戦、「たかつエコ・エネライフ コンクール」、学校ビオトープの推進など様々なプロジェクトを実施している。

認知度 (は1つだけ)	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
評 価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問21 高津大山街道周辺整備活性化事業

内 容 : 地域と連携して取り組む大山街道周辺のまちづくりの目標や方向性をまとめた「高津大山街道マスタープラン」を平成21年3月に策定した。今後は10年間かけて、地域の皆さんと一緒にプランの実現に向けた具体的な取組を進めていく。プロジェクトの情報を「大山街道アクションフォーラム」、ホームページ、チラシなどで広く受発信している。

認知度 (は1つだけ)	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
評 価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問22 「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

内 容 : 橘地区にある豊かな自然や農地、多くの歴史的資源を活かして、地域への愛着やふるさと意識の高まりなどから地域の活性化につなげる取り組みを推進する。平成21年3月に「たちばな農のあるまちづくり」推進方針を策定し、区内産野菜の地産地消推進などの取り組みを行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 知っている	2 聞いたことはある	3 知らない
評 価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問23 たかつ区健康福祉まつり

内 容 : 区民の健康・福祉に対する意識を向上させるため、毎年7月に「てくのかわさき」で開催している。福祉施設自主製品販売、健康・福祉関連グループの活動紹介、体脂肪率測定、健康相談、育児交流会などの催し物が行われる。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評 価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問24 高津区保健福祉センターだより

内 容：保健福祉センターで行っている健康や福祉に関する情報や健康生活に役立つアドバイスを発信するため、保健福祉センターだよりを発行している。

認知度 (は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問25 高津公園体操推進事業

内 容：区内の関係機関やヘルスパートナー高津、町内会などの住民組織と連携し、住民が身近な公園などで「高津公園体操」を実施できるよう、地域ごとに研修会を実施している。また、地域住民や関係機関を対象に講演会などを実施し、啓発し普及するためのリーフレット、DVDの作成を行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問26 高津区医療機関マップ

内 容：区民の利便性を高めるため、区内医療機関のマップを作成し、区内公共施設等で配布を行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問27 子ども・子育て情報発信事業(ホッとこそだて・たかつ)

内 容：地域における子ども・子育て支援のより一層充実を図ることを目的に、「ホッとこそだてたかつ」の情報ガイドブックやホームページを活用し、情報発信を行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問28 子育て情報紙発行事業(あったかつうしん)

内 容：子育て中の親の視点からニーズにあった情報発信を目的とし、区民と行政が協働で情報紙「あったかつうしん」の発行を行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 読んだことがある	2 知っているが読んだことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問29 高津区「音楽のまち」推進事業

内 容：音楽を通じて区民にゆとりとやすらぎを提供するとともに、地域の音楽文化の振興を図ることを目的とし、区役所ロビーで行う「花・コンサート」、区民祭に合わせて「たかつサマー・コンサート」、「高津区民音楽祭」など様々なコンサートを開催している。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問30 高津わくわくフェスティバル

内 容：地域の活性化と子ども達のふれあいを図る目的で、毎年7月下旬に実施される高津区民祭の関連事業として高津小学校で行っている。昨年は「炎神戦隊ゴーオンジャー」、「人工降雪機による雪遊び広場」など、様々な子ども向けのイベントを実施した。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問31 体育・スポーツイベント

内 容：高津区民祭のスポーツイベントとして区民の健全な心身づくりと地域の交流・親睦を深めることを目的に、高津スポーツセンターにおいて、ゲートボールの未経験者が体験できる「ゲートボール教室」や綱引き大会を開催している。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問32 高津区子どもフェア

内 容：子どもの健全育成を図るため、夏休み最後の日曜日に、新二子橋下の多摩川河川敷で、ダンボール舟のレース、うなぎ・どじょうの掴み捕り、移動動物園、紙飛行機遊びなどの各種イベントを実施している。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問33 高津地区親子運動会事業

内 容：毎年10月の第3日曜日に、高津中学校で高津地区の親子を対象に運動会を行っている。昨年は、町会対抗リレーやむかで競争などの地域住民が参加できる様々な競技を実施した。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問34 橋ふるさと祭り 子どもイベント

内 容：「地域の活性化」と「ふるさと意識の醸成」を図るため、毎年、川崎市民プラザで開催される橋ふるさと祭り（8月上旬の日曜日）において、移動動物園、ストラックアウト、釣り堀、ポスター展など子どもを対象としたイベントを実施している。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問35 橋地区親子運動会事業

内 容：毎年10月の第3日曜日に、橋中学校で橋地区の親子を対象に運動会を行っている。100m競争、町会対抗リレーなどの地域住民が参加できる様々な競技を実施している。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問36 高津区文化振興事業

内 容：区の文化の振興を図るため、10月に高津市民館で開催された高津区文化祭にあわせて、区や市にゆかりのある著名な文化人を招き文化講演会やコンサートを行っている。また、昨年は、地域の身近な文化遺産である大山街道周辺の文化財や久本薬門公園などを巡り、その文化価値を学ぶ高津区文化探訪講座を2回開催した。

認知度 (は1つだけ)	1 参加したことがある	2 知っているが参加したことはない	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問37 高津区まちづくり推進事業

内 容 : 区民の参加と協働によるまちづくりの様々な取り組みや活動団体のPRなどを目的に、キラリたかつニュースの発行、区内市民活動のポータルサイト「たかつまちなっと」の運営を行っている。

認知度 (は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問38 高津区総合ガイドマップ作成事業

内 容 : 区内への転入者と在住の希望者を対象に、高津区の地図や公共施設の一覧、バス路線図、緊急時の連絡先、区役所の電話番号案内などの区の基礎的な情報が入った総合ガイドマップを作成し配布している。

認知度 (は1つだけ)	1 読んだことがある	2 あることは知っている	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

問39 高津区区民会議

内 容 : 区民の参加と協働による地域課題の解決に向けた調査審議を行うために、平成18年度から実施している。第1期区民会議では、「子ども・子育て支援」「放置自転車」「安全・安心のまちづくり」などを取り上げ、現在第2期区民会議では「環境まちづくり」「地域防災とコミュニティ」をテーマに調査審議を進めている。

認知度 (は1つだけ)	1 内容まで知っている	2 あることは知っている	3 知らない
評価 (は1つだけ)	1 良い	2 概ね良い	3 あまり良くない 4 良くない

第3部 区民意識アンケート

特定のテーマについて、区民意識を把握するためのアンケート調査です。

地域防災について

第2期高津区区民会議では「地域防災とコミュニティ」を調査審議課題の一つとしています。今後の調査審議の基礎資料とするため、以下の設問にお答えください。

問38 現在お住まいの地域での大規模地震の発生について、あなたはどの程度不安を感じますか。(1つだけ)

- 1 とても不安を感じる
- 2 ある程度不安を感じる
- 3 あまり不安を感じない
- 4 ほとんど不安を感じない

問39 現在お住まいの地域での大規模地震の発生に対して、特に不安なことは何ですか。(2つまで)

- 1 家族や自分自身の身の安全
- 2 家族の安否確認の方法
- 3 避難所までの避難方法
- 4 自宅(家屋・建物)の倒壊
- 5 食料や水の確保
- 6 避難所での生活
- 7 その他()

問40 大規模地震の発生直後に、あなたは誰を頼りにすると思いますか。(2つまで)

- 1 家族・親戚
- 2 知人・友人
- 3 近所の人
- 4 町内会・自治会
- 5 区役所・消防署・警察などの行政機関
- 6 ボランティア
- 7 頼れる人はいない
- 8 その他()

問41 あなたは町内会・自治会等が主催する地域の防災訓練に参加していますか。
(1つだけ)

- 1 毎回参加している
- 2 できるだけ参加している
- 3 ほとんど参加したことはない
- 4 一度も参加したことはない

《問41で「3. ほとんど参加したことはない」「4. 一度も参加したことはない」を選択した方へうかがいます》

問42 地域の防災訓練に参加しない主な理由は何ですか。
(1つだけ)

- 1 都合が合わないため
- 2 いつどこで防災訓練があるのかわからないため
- 3 参加方法がわからないため
- 4 参加するきっかけがないため
- 5 町内会・自治会に加入していないため
- 6 訓練に参加する必要性を感じないため

《全員の方へうかがいます》

問43 地域の防災力を高めるには、何が大切だと思いますか。
(2つまで)

- 1 各家庭における災害用備蓄の充実
- 2 行政による災害用備蓄の充実
- 3 区民への啓発活動や防災に関する情報の周知
- 4 救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成
- 5 地域コミュニティの活性化による、地域のつながり・助け合いの充実
- 6 町内会・自治会等の防災活動の充実
- 7 その他()

ここからの質問は、あなたご自身とご家族のことについてお伺いします。
この数字は統計的に処理されるため、個人にご迷惑をおかけすることは一切ありません。

F1 あなたの性別を伺わせてください。(1つだけ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F2 あなたのご年齢を伺わせてください。(1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1 20～24歳 | 6 45～49歳 |
| 2 25～29歳 | 7 50～54歳 |
| 3 30～34歳 | 8 55～59歳 |
| 4 35～39歳 | 9 60～64歳 |
| 5 40～44歳 | 10 65歳以上 |

F3 あなたのお住まいを伺わせてください。(1つだけ)

- | | | | | |
|-------|-------|--------|------------|---------|
| 1 宇奈根 | 6 坂戸 | 11 久本 | 16 蟹ヶ谷 | 21 千年 |
| 2 梶ヶ谷 | 7 下作延 | 12 二子 | 17 子母口 | 22 千年新町 |
| 3 上作延 | 8 下野毛 | 13 溝口 | 18 子母口富士見台 | 23 野川 |
| 4 北見方 | 9 諏訪 | 14 向ヶ丘 | 19 新作 | 24 久未 |
| 5 久地 | 10 瀬田 | 15 明津 | 20 未長 | |

F4 高津区にお住まいになって、何年になりますか。(1つだけ)

- | | |
|------------|------------------|
| 1 1年未満 | 5 10年～20年未満 |
| 2 1年～3年未満 | 6 20年以上 |
| 3 3年～5年未満 | 7 生まれてからずっと住んでいる |
| 4 5年～10年未満 | |

F5 あなたの現在のご職業を伺わせてください。(1つだけ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 自営業主 | 6 主婦(仕事はしていない) |
| 2 家族従業(家業手伝い) | 7 学生 |
| 3 勤め(全日) | 8 無職 |
| 4 勤め(パートタイム) | 9 その他() |
| 5 内職 | |

F6 あなたは町内会・自治会に加入していますか。(1つだけ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

F7 あなたはインターネットを利用していますか。(1つだけ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

F8 現在、一緒にお住まいのご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。
(1つだけ)

1 1人	5 5人
2 2人	6 6人
3 3人	7 7人以上
4 4人	

F8-1 また、ご家族の中に、未就学児(0歳~小学校入学前まで)、小学生、中学生、高校生は何人いらっしゃいますか。(該当する年代に を付け、人数をお書きください)

1 未就学児	2 小学生	3 中学生	4 高校生	5 いない
↓	↓	↓	↓	
()人	()人	()人	()人	

F9 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(ご自分が65歳以上の方は1に をつけてください。)(1つだけ)

1 いる	2 いない
------	-------

以上でアンケートは終了です。
同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、9月18日(金)までにご投函ください。
ご協力誠にありがとうございました。

高津区区民生活に関わるニーズ調査 報告書

2010（平成22）年3月

調査主体 高津区役所企画課
〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1
電話：044-861-3131

調査実施 株式会社 総合企画
東京都台東区浅草橋1丁目7番地2号 岩崎ビル4F
電話：03-5829-6203



高津区